

1875迄 (3195件)

- 1871年-13:00|トケラウ| |||<就任>ファカオファ統治者「Longotahi」
- 1871年-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル| |||<就任>ティモール知事「マヌエル・デ・カストロ・サン・イオ」(~18730830)
- 1871年-08:00|マレーシア| |||<就任>レンパウ統治者(ウンダ・ン・ルアク・レンパウ)「ダ・トゥク・レラ・マハラジャ・サヒル」(~1883年)
- 1871年-08:00|インドネシア| |||<即位>チルボン・カマン君主「Pangeran Raja Kaprabon」(摂政~1879年)
- 1871年-07:00|タイ| |||<就任>ラムプーン国主(チャオ)「ダラ・テ・イルクラタ」(~1888年)
- 1871年-07:00|タイ| |||<就任>ランナー国主(チャオ)「インヒ・チャヤノン」(~18971123)
- 1871年-05:30|インド| |||<就任>カターナ国統治者(タール)「ハルハ・ツインジ」(~1889年没)
- 1871年-05:30|インド| |||<就任>キリム統治者(シム)「クルル・シン」(~1903年没)
- 1871年-05:30|インド| |||<就任>サリ国ラジャ「カラク・シン」(~1882年没)
- 1871年-05:30|インド| |||<就任>タック国摂政「カンワル・ティカム・シン」(~1889年)
- 1871年-05:30|インド| |||<就任>ハンサ・ハリ国統治者(テ・イワン)「ヒ・ヤリジ・ユ・シン」(~1887年没)
- 1871年-05:30|インド| |||<就任>ホルン国摂政「シュリマント・マイサハブ」(~1873年没)
- 1871年-04:00|オマーン| |||<就任>アルサイト王朝首相(ワズール)「トウワニ・ヒン・ムハンマド・アル・フ・サイテ・イ」(~18730813)
- 1871年-04:00|UAE| |||<就任>カハバ統治者(ハキム)「Sheik Majid ibn Sultan al-Qasimi」(~1900年)
- 1871年-04:00|UAE| |||<就任>タバ統治者(ハキム)「Sheikh Ahmad ibn Sultan al-Qasimi」(~1883年)
- 1871年-04:00|UAE| |||カハバは実質シャルジャから独立
- 1871年-03:00|エリトリア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国マッサラ総督「アラ・アルテ・イン・ハ・シャ・シテ・イク」(1回目)⇒「ヨハン・アルベルト・ヴェルナー・ミュンツィンガー・ハ・シャ」(~1873年紅海沿岸総督)
- 1871年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>ハスラのワス「サイド・エフェンデ・イ」(~1873年)
- 1871年-03:00|ウガンダ| |||<即位>トロ王国国王「Rukidi1世 Kato」(~同年死去)⇒「Kyebambe1世 Nyaika」(2期目~1872年死去)
- 1871年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>デリザール地区総督「Omar Pash」(~1874年)
- 1871年-01:00|スペイン| |||<就任>アストurias公(スペイン国王の推定相続人)「マヌエル・フィリベルト」スペイン王アマデオ1世の長男。カルス4世の姉マリア・ルドヴィカの玄孫(~1873年~19310704死去)
- 1871年-01:00|ガボン/フランス| |||<就任>ガボン・ギニア湾入植地司令官「ギユスターヴ・アリストイド・レホルト・ガロー」(~1873年)
- 1871年-01:00|オーストリア| |||<就任>テック公「フランツ・フォン・テック」(~19000121死去)
- 1871年-01:00|ナイジェリア/イギリス| |||<就任>ラゴス植民地管理者代理「Josiah Gerard」(~同年)⇒管理者「ジョン・Hawley Glover」(3期目~1872.6)
- 1871年-01:00|チャド| |||<復位>バギルミ王国スルタン「アフ・セキン・モハンマド4世」(2期目~1884年)
- 1871年-01:00|コソボ| |||コソボはプリズリン・グイライエティの一部(プリズレン、テグ・ラ、ウスキュブ、ニシュのサンジャクで構成~1877年)
- 1871年 00:00|モリタニア| |||<就任>アトラル連合エミール「シテ・イ・アハマト・ウルト・ムハンマド・ウルト・アィダ」(~1891年)
- 1871年 00:00|コートジボワール/フランス| |||<就任>コートジボワール領駐在員「フランソワ・アルチュール・ヴェルデ・イエ」(1878年までフランスの監視員~1885年)
- 1871年 00:00|セネガル| |||<就任>サルム統治者(フル・サルム)「ニヤウット・ムボジ」(~1876年)
- 1871年 00:00|セネガル| |||<就任>シン統治者(フル・シン)「ヌ・モン・フェイ」(~1878年)
- 1871年 00:00|セネガル| |||<就任>ハワール統治者(ティン)「セ・ヤン・シヨ・ガロ・ガナ・フォル」(1回目~1873年)
- 1871年 00:00|フェロ諸島/デンマーク| |||<就任>フェロ諸島知事(ト・スワン)「Hannes Kristjan Steingrimur Finsen」(~1885年)
- 1871年 04:00|アンティグア・バ・ブー・ター| |||<就任>アンティグア総督代行「ロバート卿ミラー・マンデ・イ」⇒「エドウィン・ドナルド・ベインズ」⇒総督「リワード」諸島総督(~1936年)
- 1871年 04:00|アンティグア・バ・ブー・ター| |||<就任>アンティグア大統領「エドウィン・ドナルド・ベインズ」(~1883年)
- 1871年 04:00|トミニカ国/イギリス| |||<就任>イギリス領トミニカ副総督代行「エドウィン・ドナルド・ベインズ」
- 1871年 04:00|プエルトリコ/スペイン| |||<就任>ビエクス島知事「Tomas Font」⇒暫定知事「Juan Campos」⇒暫定知事「Federico Maranges y Chavar」(~1872年)
- 1871年 04:00|サン・マルタン| |||<就任>フランス領サンマルタン島市長「Victor Foulquier」(~1874年死去)
- 1871年1月-09:30|オーストラリア| |||<市制>ハースが西オーストラリアの最初のシティとして布告
- 1871年1月-05:30|インド| |||<即位>カラウリ国マハラジャ「シ・ジャイン・パール」(~18751117没)
- 1871年1月-03:00|コモロ| |||<就任>ムワリ・スルタン国摂政「ジュンベ・ファティマ・ヒント・アブ・テ・レマネ」(2回目~1874年)
- 1871年1月 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>ビサウ総督代行「ホセ・ザビエル・ト・クラ」(~6月)
- 1871年1月1日-11:30|ノーフォーク島/オーストラリア| |||<就任>ノーフォーク島主任判事「David Buffett」(~12.31)
- 1871年1月1日-01:00|スイス| |||<就任>スイス連邦大統領「ヨハン・カール・エマニュエル・シェンク」Rad(2期目~12.31)
- 1871年1月1日-01:00|ドイツ| |||プロイセンを中核とする連邦国家の「ドイツ帝国」が成立
- 1871年1月1日 00:00|アイルランド| |||アイルランド国教会が廃止される
- 1871年1月1日 06:00|アメリカ| |||<就役>アメリカ海軍カニコス級モーター「マヤンク」(2100t, Snowden & Mason)
- 1871年1月1日-09:00|日本| 静岡県下田市| 明治3年11月11日| 神子元島灯台点灯(静岡県下田市、プラントンが建設、初期のものが現存の石造灯台、国指定史跡)
- 1871年1月2日-09:00|日本| || 明治3年11月12日| 1円本位貨の銀本位制を定める
- 1871年1月3日-09:00|日本| || 明治3年11月13日| 新政府が府藩県に1万石につき5人の徴兵規則を通達
- 1871年1月3日-09:00|日本| 山口大学| 明治3年11月13日| <改称>山口明倫館⇒山口中学校
- 1871年1月4日-01:00|オランダ| |||<就任>オランダ王国首相「ヨハン・ルドルフ・トルヘック」(3回目~18720604)
- 1871年1月4日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国閣僚評議会議長Francisco Serrano[自由党] (~18710724)
- 1871年1月4日-09:00|日本| || 明治3年11月14日| 太政官布告: 百姓町人襦袢袴割羽織ヲ着シ若カ長脇差ヲ帯ルヲ禁ス

1875迄 (3195件)

- 1871年1月4日-09:00|日本|東京都墨田区|明治3年11月14日|<大相撲>明治3年11月場所[東京本所回向院](~10日間)幕内優勝:(東前頭5)兜山,6勝0敗1分3休
- 1871年1月5日-09:00|日本| ||明治3年11月15日|太政官布告:駅法規則/内改正
- 1871年1月5日-09:00|日本|京都府|明治3年11月15日|<開設>京都府「窮民授産所」
- 1871年1月7日-09:00|日本|大分県|明治3年11月17日|大分の日田県で農民1万人が貢租減免を要求し暴動
- 1871年1月9日-09:00|日本| ||明治3年11月19日|太政官布告:馬車騎馬等夜中無灯ヲ禁ス;太政官布告:(国名並旧官名ヲ通称ニ用ルヲ停ムル件)旧官人元諸大夫侍並元中大夫等ノ位階ヲ廢シ国名並旧官名ヲ以テ通称ト為スヲ禁ス
- 1871年1月9日-08:00|中国| ||清・同治9年11月19日|道員劉錦棠が、金積堡を奪回
- 1871年1月10日-09:00|日本|香川県高松市|明治3年11月20日|高松藩が鶴林寺内に医学所を開設
- 1871年1月12日 00:00|セガル/フランス| ||セガルのカール王ト・テ・イールが、フランスと保護条約を結ぶ
- 1871年1月12日-09:00|日本| ||明治3年11月22日|金地に桜と錨のホトンの海軍の軍服が定められた
- 1871年1月13日-09:00|日本|兵庫県|明治3年11月23日|<廃藩>播磨福本藩10573石「池田徳潤」⇒宗藩(鳥取藩)に統合
- 1871年1月15日 04:00|ホリビア| ||<就任>ホリビア共和国大統領「ペドロ・アグスティン・モリス・エルナンデス」(21日まで革命最高責任者、18720825まで暫定~18721127没)
- 1871年1月15日-09:00|日本|長野県長野市|明治3年11月25日|松代藩で7万人の農民蜂起
- 1871年1月17日-09:00|日本|大阪府大阪市|明治3年11月27日|大蔵省造幣寮本局、銀貨の製造を開始
- 1871年1月18日-01:00|ドイツ| ||<即位>ドイツ帝国皇帝「ヴィルヘルム1世」(~18880309没)
- 1871年1月18日-01:00|ドイツ/フランス| ||ドイツ帝国がフランスからアルプス・ローヌを併合(~19181111)
- 1871年1月18日-09:00|日本| ||明治3年11月28日|太政官布告:大舎人以下相当ヲ改メ雅楽局ニ中伶人ヲ置キ伶生ヲ廢ス
- 1871年1月18日-09:00|日本| ||明治3年11月28日|太政官布告:府藩県交渉訴訟准判規程
- 1871年1月18日-09:00|日本|新潟県上越市|明治3年11月28日|高田藩政庁(高田城)焼失
- 1871年1月21日 00:00|カリヤ諸島/スペイン| ||<就任>スペイン王領カリヤ諸島市民知事「Jose Alvarez de Sotomayor」(~6.9)
- 1871年1月21日-09:00|日本| ||明治3年12月|<刊行開始>仮名垣魯文「西洋道中膝栗毛」(~1876年)
- 1871年1月21日-09:00|日本| ||明治3年12月|<売却>土佐藩「カリヤ」(1865年, British India Line, London「Orissa」William Denny & Bros., Dumbarton, Scotland建造進水→1865年, J. Kerr, Londonと共有→1869年, Adrian&Co.により上海/日本間に就航→1870年、土佐藩(高知)に売却)⇒紀伊藩(和歌山)(1871年、「快順丸」と改名→1872年、三川商会(大阪)に→1873年、三菱商会(大阪)に移籍→1875年、三菱汽船会社(東京)に移籍)
- 1871年1月21日-09:00|日本|京都府|明治3年12月|<開局>京都府「舎密局」[河原町二条下る旧長州藩邸]/理化学や化学工業技術の研究・普及を目的
- 1871年1月21日-09:00|日本|北海道函館市|明治3年12月|<改称>海官所→海関所(現存税関最古)
- 1871年1月22日-01:00|フランス| ||フランス国防政府が、フランスを中心とするパリの民衆蜂起を鎮圧
- 1871年1月26日-01:00|コロチア| ||<就任>コロチア・スガ・オニア・タルマチア王国ハン「コマン・ベテ・コビッチ」(~18720212)
- 1871年1月26日-09:00|日本|神奈川県横浜市|明治3年12月6日|<完成>ノルトワーク・ヘフト「ゲート座」(本町通り居留地68番、→1885年山手に新築移転)
- 1871年1月28日-01:00|フランス/ドイツ| ||ドイツ、フランス間の3週間の休戦協定が結ばれ、パリがドイツ軍に降伏
- 1871年1月28日-09:00|日本|神奈川県横浜市|明治3年12月8日|子安峻ら活版社を創業、横浜毎日新聞を創刊/日本で初めての日刊新聞
- 1871年1月30日-04:00|マーン| ||<死去>アルサイト王朝スルタン「アッザン・ビン・ケイス」殺害された
- 1871年1月31日-02:00|ウクライナ/ロシア| ||<就任>ウクライナのロシア総督「Aleksandr Gerardovich Reytern」(~18730707)
- 1871年2月1日-04:00|マーン| ||<即位>アルサイト王朝スルタン「トルヒン・サイト」(~18880604死去)
- 1871年2月5日-03:00|スーダン/エジプト| ||<就任>エジプト領スーダン総督「アフド・ムタズ・パシャ」(~1872年10月)
- 1871年2月5日-09:00|日本|宮城県大崎市|明治3年12月16日|宮城県栗原郡宮沢村ほか村々で一揆
- 1871年2月6日-01:00|オーストリア| ||<就任>オーストリア首相代行「カール・ジークムント・グラフ・ホエンヴァルト」(~10.30)
- 1871年2月6日-09:00|日本|山口県|明治3年12月17日|長州奇兵隊脱走兵・原熊、植堀克三郎ら8名を斬罪梟首
- 1871年2月8日-01:00|アルジェリア/フランス| ||<就任>フランス領アルジェリア臨時委員(オラン知事)「アレクサン・ランペール」(~3.29)
- 1871年2月8日-01:00|フランス| ||フランスで「講和条約」締結のためには「国会」の開催が必要であったため、「国民議会」選挙が実施され、「王党派」勢力が圧勝
- 1871年2月8日 04:00|アンティグア・バ・ブーダ| ||<就任>バ・ブーダ治安判事「ジョセフ・ベリ・ウルクソソ」(12.28まで代行)
- 1871年2月8日 10:00|ホリネア| ||<就任>ライアアとカア統治者「Tahi toe2世」(~1881.4死去)
- 1871年2月8日-09:00|日本|長野県|明治3年12月19日|中野県で農民が暴動を起こし、県庁を焼き討ちにする
- 1871年2月9日-09:00|日本| ||明治3年12月20日|明治政府制定の初の刑法典「新律綱領」で身分によって刑罰に差がでる事が謳われる
- 1871年2月10日-01:00|オーストリア| ||<初演>ヨハン・シュトラウス2世《喜歌劇「千夜一夜物語(インテ・ゴと40人の盗賊)」》
- 1871年2月11日-09:00|日本|福井県|明治3年12月22日|<新設>越前国幕府領や福井藩預かり領に本保県設置、本保陣屋の位置に県庁が置かれ一部敷地を拡張したり建物を新設して庁舎が整備された(越前国敦賀郡のうち12村、丹生郡のうち50村、今立郡のうち46村、大野郡の一部29村、坂井郡のうち42村、南条郡のうち12村を管轄)
- 1871年2月11日 12:00|日本|東京都中央区|明治3年12月22日|<東京日本橋明治3年の大火>21時ごろ、日本橋浪花町の搗き米屋のわら灰から出火し同町を全焼/住吉町、芳町など近隣15か町に延焼/15か町1180戸全焼,57戸半焼
- 1871年2月11日-09:00|日本| ||明治3年12月22日|海外留学生規則を定める

1875迄 (3195件)

- 1871年2月11日-09:00|日本| ||明治3年12月22日|陸海軍の洋式服制定められる
- 1871年2月12日-05:30|インド| ||<就任>ポル国統治者(ハント・サフ)「ジャンク・ラオ2世・ナム・ラオ・サヒブ」(~19220717没)
- 1871年2月12日-01:00|フランス/ドイツ| ||フランス、国土の半分をドイツに占領された状態での総選挙後、ポルトに国民議会議が成立
- 1871年2月12日 00:00|セネガル| ||<就任>セネガル統治者(タンメル)「ラト・ジョーン・コン・ラティール・ジョフ」(2回目~1882年)
- 1871年2月12日-09:00|日本|岐阜県海津市|明治3年12月23日|<編入>美濃高須藩⇒名古屋藩
- 1871年2月12日-09:00|日本| ||明治3年12月23日|売薬取締規則公布。勅許、御免、神仏夢想、家伝秘方などの字句の使用が禁止され、東校の審査が通ったもの限り「官許」の字の使用が認められる
- 1871年2月13日-09:00|日本| ||明治3年12月24日|士族といえども特定以外の帯刀を禁ず
- 1871年2月13日-09:00|日本|茨城県東茨城郡大洗町|明治3年12月24日|<移転>磐城守山藩(松平頼之)⇒常陸松川藩2万石(鹿島郡に藩庁を移転)
- 1871年2月13日-09:00|日本|兵庫県神戸市|明治3年12月24日|KRAC(Kobe Regatta & Athletic Club)がクラブハウスの落成を記念し、第一回カッタ競技を開催
- 1871年2月14日-01:00|赤道ギニア/スペイン| ||<就任>フェルナンド・ポ-総督「フェデリコ・アンリッヒ・イ・サンタマリア」(~4.28)
- 1871年2月16日-09:00|日本| ||明治3年12月27日|新律綱領(刑法)諸藩も含めて全国的に施行
- 1871年2月17日-01:00|フランス| ||<就任>フランス共和国第三共和政行政長官「アトル・ティエール」元オムニスト元中道右派穏健共和派(~18710830,大統領に移行)
- 1871年2月17日-09:00|日本|東京都荒川区|明治3年12月28日|謀反の罪により小伝馬町牢獄で雲井竜雄ら12人処刑
- 1871年2月19日-09:00|日本|大阪府大阪市西区|明治4年|<開業>自由亭軒(大阪府梅本町)
- 1871年2月19日-09:00|日本|神奈川県横浜市|明治4年|英国カノ-商會が「猫印ウイスキー」を輸入<日本初の洋酒販売>神奈川県横浜市
- 1871年2月19日-09:00|日本|神奈川県横浜市|明治4年|関内居留地内全域に下水管(陶管)を埋設(日本初の近代的下水道)神奈川県
- 1871年2月19日-09:00|日本|長崎県壱岐市|明治4年|住吉神社境内の神池から神鏡17面が見つかる
- 1871年2月19日-09:00|日本|北海道札幌市|明治4年|<設置>借樂園(初の公園、北海道札幌市)
- 1871年2月19日-09:00|日本|三越伊勢丹ホールディングス|明治4年|「越後屋」、三井大元方から分離、三越家名義で経営、店章を丸越と改める
- 1871年2月19日-01:00|フランス| ||<就任>フランス第三共和政初代首相「ジュール・フェール」無所属(王党派)(第1次~18730514)
- 1871年2月19日-01:00|フランス| ||フランス国民議會議が、ポルト-協約を承認
- 1871年2月19日-09:00|日本| ||明治4年1月|<移籍>廻漕会社「黄龍丸」(1868年, E. M. De Bussche, London「Colombine」C. Connell & Co., Glasgow建造進水→1870年,廻漕会社(東京)に売却、「黄龍丸」と改名)⇒廻漕取扱所(東京)
- 1871年2月19日-09:00|日本| ||明治4年1月|<刊行>初代三遊亭圓朝「菊模様皿山奇談」
- 1871年2月19日-09:00|日本| ||明治4年1月|廻漕取扱所を設立し廻漕会社の業務を継承
- 1871年2月19日-09:00|日本|静岡県|明治4年1月|大井川に渡し舟開始
- 1871年2月19日-09:00|日本|丸善CHIホールディングス|明治4年1月|南久宝寺町堺筋に大阪支店開設(丸屋善蔵店)
- 1871年2月19日-09:00|日本| ||明治4年1月1日|郵便規則制定
- 1871年2月20日-09:00|日本|東京都|明治4年1月2日|<死去>伊東玄朴/72歳(誕生:寛政12(1800)年12月28日)蘭方医で種痘の普及に努めた
- 1871年2月21日-04:00|モリシャス/イギリス| ||<就任>イギリス植民地モリシャス総督・最高司令官「アーサー・チャールズ・ハミルトン・ゴートン」(~18741121)
- 1871年2月21日 00:00|カナダ/イギリス| ||オランダ領ゴールド=コスト入植地が英国に売却される
- 1871年2月23日-09:00|日本|京都府宮津市|明治4年1月5日|文殊智恩寺の飛地境内「天橋立」没収、官林となる
- 1871年2月24日-09:00|日本|長野県|明治4年1月6日|<中野騒動(信濃国中野県)>明治政府軍(佐賀藩兵を主力とする)によって一揆の参加者の探索が進められ、約600名が逮捕された
- 1871年2月25日 04:00|米領ガージン諸島/デンマーク| ||<死去>セントクロア総督「Wilhelm Ludvig Birch」
- 1871年2月26日-01:00|フランス/ドイツ| ||ドイツとフランスがヴェルサイユで仮講和条約が結ばれ、50億フランの賠償、アルガス-ローヌ地方の割譲、ドイツ軍のハリ入城などがとりきめられる
- 1871年2月26日 04:00|米領ガージン諸島/デンマーク| ||<就任>セントクロア総督「John Christmas」(~6.30)
- 1871年2月26日-09:00|日本|東京都千代田区|明治4年1月8日|<開場>陸軍練兵場(日比谷練兵場)
- 1871年2月27日 06:00|アメリカ| ||<就役>アメリカ海軍カッター級スループ「ウスター」(3300t, チャールズ・タウン海軍工廠)
- 1871年2月27日-09:00|日本|栃木県日光市|明治4年1月9日|神仏分離政策により日光二社一寺に分離(東照宮、輪王寺、二荒山神社)
- 1871年2月27日 14:00|日本|東京都千代田区|明治4年1月9日|参議「広沢真臣」が東京府麴町富士見町私邸での宴会後の深夜就寝中に襲われ、殺害される/39歳(誕生:天保4(1833)年12月29日)長州出身
- 1871年2月28日 06:00|アメリカ| ||アメリカ議會議、人口2万人以上の町の選挙を連邦が監視する連邦選挙法案可決
- 1871年2月28日-09:00|日本| ||明治4年1月10日|太政官布告:海軍兵学寮規則;太政官布告:諸御門警戒兵規律増補
- 1871年3月-01:00|アルジェリア| ||アルジェリアの北リイ地方で武装蜂起
- 1871年3月 04:00|ケレタ/イギリス| ||<就任>ケレタ 副総督代行「エドワード・ホルト」(1回目~5月)

1875迄 (3195件)

- 1871年3月1日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<就任>クリプトリフ共和国イギリス特別治安判事代行「マクミリアン・ジェームズ・ジャクソン」(~10.27)
- 1871年3月1日-01:00|フランス/ドイツ| |||ドイツ軍がパリに入城
- 1871年3月1日 06:00|ニカラガア| |||<就任>ニカラガア共和国大統領「セルヒセ・テ・ラ・クアドラ・イル・ルゴ」(~18750301)
- 1871年3月1日-09:00|日本|神奈川県三浦市|明治4年1月11日|<初点灯>釧崎灯台(神奈川県三浦市)<設計>プラントン
- 1871年3月2日-09:00|日本|岡山県|明治4年1月12日|<改称>岡山新田藩(備中国)→生坂藩
- 1871年3月2日-08:00|中国| ||清・同治10年1月12日|イスラム教徒の馬化竜、馬成竜、譚生成らが処刑され、金積堡のイスラム教徒の乱が平定される
- 1871年3月3日-01:00|フランス| |||<結成>パリで国民軍共和主義連合
- 1871年3月3日-01:00|ドイツ| |||初のドイツ帝国議会選挙が実施
- 1871年3月3日 06:00|アメリカ| |||アメリカ、インディアン領有法が制定され、すべてのネイティブ・アメリカ人を国の被後見人に
- 1871年3月3日-09:00|日本| ||明治4年1月13日|出版条例制定
- 1871年3月3日-09:00|日本|秋田県|明治4年1月13日|<改称>羽後久保田藩⇒秋田藩(城下町である久保田町を秋田町と改称)
- 1871年3月3日-09:00|日本|千葉県|明治4年1月13日|<改称>上総柴山藩5万石(藩主:太田資美)⇒松尾藩
- 1871年3月4日-08:00|マレーシア/シンガポール/イギリス| |||<就任>イギリス王領海峡植民地総督代行「エドワード・アーチボルド・ハーバート・アソン」(1回目~18720322)
- 1871年3月4日-03:00|マヨット/フランス| |||<就任>フランス保護領マヨット総監「パトリス・ル・ジュール・ヴァントル・ラ・トゥール・ブル」(1回目、12.19まで代行~18750301)
- 1871年3月7日 03:00|ブラジル| |||<就任>ブラジル帝国閣僚評議会議長(首相)「リオ・ブランコ子爵セル・マリア・ダ・シルバ・パラーニョス」(~18750625)
- 1871年3月12日-09:00|日本| ||明治4年1月22日|太政官布告:県官定員中ニ権大参事ヲ置ク
- 1871年3月14日-09:00|日本|日本郵政|明治4年1月24日|英国方式を参考に郵便制度制定(3月1日実施、東京・京都・大阪に郵便役所開設)
- 1871年3月18日-01:00|フランス| |||パリの民衆が武器をとり蜂起→28日に革命政府「パリ・コミューン」樹立
- 1871年3月18日 00:00|イギリス| |||<死去>イギリスの数学者・論理学者ド・モルガン/64歳(誕生18060627)
- 1871年3月18日 06:00|アメリカ| |||<設立>全米フットボール選手協会
- 1871年3月21日-01:00|ドイツ| |||<就任>ドイツ帝国首相「オットー・エドゥアルト・レホルト・フュルスト・フォン・ビスマルク・シエンハウゼン」(~18900320皇帝により解任)
- 1871年3月21日-09:00|日本|大阪府大阪市北区|明治4年2月|<完成>泉布観(大阪府.造幣局に付属する応接所)<設計>T・J・ウォートルス>
- 1871年3月21日-09:00|日本|長崎県長崎市|明治4年2月1日|<開業>オクシデンタル・ホテル(長崎大浦バント7番館)
- 1871年3月22日-09:00|日本|東京都|明治4年2月2日|<設置>外務省「洋語学所」
- 1871年3月22日-09:00|日本|山口県岩国市|明治4年2月2日|<開校>岩国学校(岩国藩学校条例に基づく公学校(岩国藩の庇護下にある学校)として)
- 1871年3月24日-02:00|ルーマニア| |||<就任>ルーマニア閣僚会議議長(首相)「ラスカル・コンスタンティン・カトルギ」(2回目~18760417)
- 1871年3月25日-09:00|日本|香川県|明治4年2月5日|<編入>讃岐多度津藩(廃藩)領地⇒倉敷県の管轄となる
- 1871年3月28日-04:00|ロシア| |||<初演>ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー《弦楽四重奏曲第1番ニ長調Op.11“アンダンテ・カンターレ”》
- 1871年3月28日-01:00|フランス| |||パリ・コミューン政権が樹立/世界初の労働者政権(5月20日までパリを統治)
- 1871年3月28日-09:00|日本|茨城県|明治4年2月8日|<移転>常陸谷田部藩が藩庁を移転して下野茂木藩となる。筑波郡の飛地領は存続
- 1871年3月28日-09:00|日本|神奈川県横須賀市|明治4年2月8日|横須賀製鉄所(工部省所管)、第一期工事竣工(製鋼・錬鉄・鑄造・製罐の各工場および修理用ドックを設置)
- 1871年3月28日-09:00|日本|東京都|明治4年2月8日|<設置>外務省「漢語学所」
- 1871年3月28日-09:00|日本|東京都台東区|明治4年2月8日|浅草で大火があり初めて消防ポンプが使用される
- 1871年3月28日-09:00|日本|栃木県芳賀郡茂木町|明治4年2月8日|<藩庁移転再立藩>常陸谷田部「細川興貫」⇒下野茂木16300石(⇒明治4(1871)年2月8日版籍奉還)
- 1871年3月29日-01:00|アルジェリア/フランス| |||<就任>フランス領アルジェリア総督「ケトン伯爵ルイ・アンリ」(~18730610)
- 1871年3月29日 00:00|イギリス| |||<開場>ロイヤル・アルバート・ホール[ロンドン中部のサウス・ケンジントン近隣、シティ・オブ・ウェストミンスター]
- 1871年3月31日-09:00|日本|福島県伊達郡川俣町|明治4年2月11日|福島県伊達郡川俣近傍村で一揆
- 1871年4月 06:00|アメリカ| |||ニューメキシコでアパッチ族の反乱開始
- 1871年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ガエターノ・シモンチニ」[ピエトロ・ウーリーニ]
- 1871年4月2日-01:00|フランス/ドイツ| |||ヴェルサイユ軍と国民軍の間の戦闘がパリ西郊のクルブヴァア附近で行われ、国民軍の悲惨な結果に終わる
- 1871年4月2日-09:00|日本| ||明治4年2月13日|太政官布告:海軍兵学寮生徒入学規則
- 1871年4月4日-08:00|フィリピン/スペイン| |||<就任>スペイン領フィピン総督「ラファエル・デ・イスキェルト」(~18730108)
- 1871年4月4日-09:00|日本|茨城県|明治4年2月15日|<藩庁移転>大網藩(知藩事:米津政敏)⇒龍ヶ崎藩
- 1871年4月4日-09:00|日本|大阪府大阪市北区|明治4年2月15日|<創業>大蔵省造幣寮(一桜ノ宮公会堂)<設計>T・J・ウォートルス>
- 1871年4月5日 05:00|ハマ/イギリス| |||<就任>ハマ植民地総督代行「ジョージ・クニーストラハン」(~18730527)
- 1871年4月5日-08:00|中国| ||清・同治10年2月16日|寧夏のイスラム教徒馬万選らが捕らえられ、寧夏のイスラム教徒の

1875迄 (3195件)

反乱が平定される

- 1871年4月6日-09:00|日本|茨城県|明治4年2月17日|<改称>上総大網藩1万1千石(知藩事:米津政敏)⇒常陸龍崎藩(常陸国河内郡に藩庁を移転.上総国飛地領として存続)(~明治4年)
- 1871年4月7日 06:00|アメリカ| |||アメリカのイリノイ州議会が鉄道法を制定され、鉄道と倉庫の料金の上限が定められる
- 1871年4月8日 00:00|イギリス| |||<死去>5代ミルトン伯「ジョセフ・ヘンリー・リーソン」
- 1871年4月8日 00:00|イギリス| |||<就任>6代ミルトン伯「エドワード・ニュージエント・リーソン」(~18900530死去)
- 1871年4月9日-09:00|日本|兵庫県美方郡香美町|明治4年2月20日|<死去>山名義濟(36歳)前但馬村岡藩知藩事
- 1871年4月10日-03:00|サウジアラビア| |||<就任>シャリフ・アブドゥルアズィズ(1度目~同年)⇒「アブドゥルアズィズ3世イブン・ファイサル」(2度目~1873年)
- 1871年4月11日-09:00|日本| ||明治4年2月22日|鹿児島藩歩兵四大隊、砲兵四隊、山口藩歩兵三大隊、高知藩歩兵二大隊、騎兵二小隊、砲兵二隊を御親兵として招徴し、兵部省の隷下に置く(2月28日編成)
- 1871年4月11日-09:00|日本| ||明治4年2月22日|太政官布告:治水条目ヲ定ム/全国河川の堤上・堤外の竹木の存続・伐払の一般則
- 1871年4月15日 06:00|エルサルバドル| |||<就任>エルサルバドル共和国大統領「ジェームズ・ゴンサレス・ポルティージョ」(18720201まで暫定~18760201)自由党による革命
- 1871年4月16日-01:00|ドイツ| |||ドイツ帝国憲法が公布される(ユダヤ人が公民権を得る)
- 1871年4月16日-09:00|日本|長野県|明治4年2月27日|<中野騒動(信濃国中野県)>斬首刑6名、絞首刑22名、徒刑十年124名、その他処罰数百名などが刑に処された
- 1871年4月18日-06:30|ミャンマー/イギリス| |||<就任>英領下ビルマ主席弁務官「アシュリー・エトン」(~18750414)
- 1871年4月18日-08:00|中国| ||清・同治10年2月29日|上海と香港の間に海底ケーブルが開通
- 1871年4月20日 06:00|アメリカ| |||アメリカで、ケー・クラックス・クラン法が制定され、ケー・クラックス・クラン一時消滅へ
- 1871年4月20日-09:00|日本|愛媛県|明治4年3月|<合併>宇和島藩内海浦ノ内須ノ川村⇒柏村
- 1871年4月20日-09:00|日本|香川県|明治4年3月|丸亀藩庁を那珂郡丸亀二番町の家老岡元旧邸内に新築
- 1871年4月20日-09:00|日本|東京都墨田区|明治4年3月|<大相撲>明治4年3月場所[東京本所回向院](~10日間)幕内優勝:(東小結)綾瀬川,8勝0敗1分1休
- 1871年4月20日-09:00|日本|慶應義塾|明治4年3月1日|<移転>福沢諭吉「慶應義塾」⇒三田島原藩邸跡
- 1871年4月20日-09:00|日本|日本郵政|明治4年3月1日|<発行>日本で初めての切手(手彫)竜切手(1871年)額面:48文、100文、200文、500文
- 1871年4月20日-09:00|日本|日本郵政|明治4年3月1日|郵便創業/東京日本橋に郵便局(→郵政省)と郵便役所(→中央郵便局)を設置<郵便発祥の地>/東京・京都・大阪間の郵便が開始される/日本最初の郵便ポスト登場
- 1871年4月22日 04:00|バミューダ/イギリス| |||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ総督代理「アーサー・アコト・フィッシャー」(~5.9)
- 1871年4月26日-01:00|フランス| |||ヴェルサイユ政府軍が、イッシー城塞を占領
- 1871年4月26日 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領マルティニーク知事代理「Octave Bernard Gilbert-Pierre」(~8月)
- 1871年4月26日-09:00|日本|高知県高知市|明治4年3月7日|<創建>山内神社(初代土佐藩知事「山内豊範」)
- 1871年4月27日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア・ヘルツェゴビナ総督「アーノルト・メフメト・アキフ・パシャ」(1回目~9.10)
- 1871年4月27日-09:00|日本|千葉県市原市|明治4年3月8日|菊間藩碧海・幡豆郡農民と一向宗徒の宗教政策反対一揆
- 1871年4月28日-01:00|赤道ギニア/スペイン| |||<就任>フェルナンド・ホセ・総督代行「フェリペ・カンガ・アルケリス」(2回目~10.1)
- 1871年4月29日 06:00|アメリカ| |||アリゾナ・キャンパグメントでインディアン多数虐殺される
- 1871年4月29日-09:00|韓国/朝鮮| ||清・同治10年3月10日|李弼濟の乱(東学教徒で教祖の恨みを晴らすため慶尚道・寧海の官衙を襲撃)
- 1871年4月30日-09:00|日本| ||明治4年3月11日|神武天皇祭の始(後に4月3日に改める)
- 1871年5月-03:00|イェメン/トルコ| |||<就任>オスマン帝国イェメン・ウリス(総督)「Topal Bursali Mehmed Redif Pasha」(~8月)
- 1871年5月-01:00|アルジェリア| |||アルジェリアで民政移管
- 1871年5月 04:00|グレタ/イギリス| |||<就任>グレタ 副総督代行「ウィリアム・マッキューエン」(~6月)
- 1871年5月1日-01:00|フランス| |||パリ・コミューンに公安委員会が設置される
- 1871年5月4日 06:00|アメリカ| |||米国でプロ野球リーグ 最初の試合開催
- 1871年5月6日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領メヨ総督「Bernardo Alemany y Perote」(~1873年)
- 1871年5月8日-01:00|フランス| |||頂上にナポレオンの銅像を置く、パリの「ヴァンドーム広場」(1区)の「円柱」が引き倒される/ナポレオン崇拝の象徴だとして、フランス「写実主義」の画家ギュスターヴ・クールベ(クレーヴ)の主張を入れて
- 1871年5月8日 00:00|イギリス/アメリカ| |||アメリカとイギリスの間で、ワシントン条約が調印される
- 1871年5月8日-09:00|日本|千葉県千葉市中央区|明治4年3月19日|<藩庁移転>下野高德藩(知藩事:戸田忠綱)⇒曾我野藩(藩庁:下総曾我野陣屋)千葉郡の一部を管轄
- 1871年5月9日 04:00|バミューダ/イギリス| |||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ総督「ジョン・ヘンリー・レフロイ卿」(~18740602)
- 1871年5月10日-01:00|フランス/ドイツ| |||ドイツとフランスがフランクフルトで正式の講和条約に調印/フランスはアルプス・ローヌの2州を割譲し、50億フランの賠償金を支払う
- 1871年5月11日 00:00|イギリス| |||<死去>イギリスの天文学者ジョン・ハーシェル/79歳(誕生17920307)二重星を発見した/天王星のウィリアム・ハーシェルの息子
- 1871年5月13日-01:00|バチカン/イタリア| |||イタリアで、教皇の不可侵性とヴァチカンの領有権を認めた教皇保障法が成立/ビュクス9世はこれを拒否

1875迄 (3195件)

- 1871年5月13日-01:00|アルジェリア/フランス| ||トウガルトでフランスの植民地支配に対する反乱(~12. 12)
- 1871年5月14日-09:00|韓国/朝鮮| ||清・同治10年3月25日|戸布制を実施(軍役制の弊害を防止するため、両班と常民を問わず軍布を徴収)
- 1871年5月15日-01:00|バチカン/イタリア| ||イタリアで教皇保障法が公布される
- 1871年5月17日-09:00|日本|山口県山口市|明治4年3月28日|<死去>毛利敬親(53歳)前長州藩知藩事
- 1871年5月19日-09:00|日本| ||明治4年4月|<出版>仮名垣魯文「安愚楽鍋」
- 1871年5月19日-09:00|日本|熊本県|明治4年4月|D. Hunter, Ayr「Migoto」(1870年, W. Simons&Co., Renfrew建造進水)肥後藩に売却
- 1871年5月19日-09:00|日本|長野県長野市|明治4年4月|<松代騒動、牛乳騒動(信濃国松代藩)>真田桜山、高野広馬は閉門、真田幸民を謹慎とし、松代商法社は解散
- 1871年5月21日-01:00|フランス| ||ウエルサレム軍がパリの誘導のもと、サン・クルー門からパリの城内に突入。(~28)血の週間(死者5万人パリ・コミューンの最後)
- 1871年5月21日-01:00|スイス| ||スイスツェルン州とシュヴィツ州にまたがるヨーロッパ初の登山鉄道「フィツナウ・リキ 鉄道」開業
- 1871年5月22日-01:00|ドイツ| ||<死去>アンハルト公「レオポルト4世」
- 1871年5月22日-01:00|ドイツ| ||<即位>アンハルト公「フリードリヒ1世」(~19040124死去)
- 1871年5月22日-09:00|日本| ||明治4年4月4日|旧藩札発行の禁令
- 1871年5月22日-09:00|日本|大阪府大阪市北区|明治4年4月4日|造幣局、大阪で創業開始
- 1871年5月23日-01:00|フランス| ||パリの「チュイルリー宮殿」(1区)が放火され、3日間燃え続け、廃墟となる
- 1871年5月24日-01:00|フランス| ||旧「パリ市庁舎」(4区)がコミューン参加者による放火で焼失
- 1871年5月24日-01:00|フランス| ||パリ、市街の過半がウエルサレム軍の手に帰す/コミューン戦士が捕虜虐殺に対する報復としてパリ大司教を含む人質の処刑を行う
- 1871年5月25日 03:00|ブラジル| ||<就任>ブラジル帝国摂政「イザベル王女」(1回目~18720330)
- 1871年5月25日-09:00|日本| ||明治4年4月7日|発明者に一定期間専売権を与える専売略規則公布(施行されず翌年廃止)
- 1871年5月26日-08:00|マレーシア| ||<死去>ペラ・スルタン「アリ・アルムカンマル・イヤット・シャー・イブ・ニ・アル＝マルフム・スルタン・シャハブ・デイン・リアヤット・シャー」
- 1871年5月26日-08:00|マレーシア| ||<即位>ペラ・スルタン「イスマイル・ムアヒド・デイン・リアヤット・シャー・イブ・ニ・アル＝マルフム・サイード・シャイク・アル＝カイヤート」(~18740120)
- 1871年5月26日-03:00|スーダン/エジプト| ||エカトリアがエジプトのスーダンに併合
- 1871年5月27日-09:00|日本| ||明治4年4月9日|工部省、横須賀製鉄所を横須賀造船所、長崎製鉄所を長崎造船所、横浜製鉄所を横浜製作所と改称
- 1871年5月28日-01:00|フランス| ||パリ・コミューン最後のバリエードが陥落/パリの「ペール＝ラシェズ 墓地」(20区)に立てこもったコミューン側市民147人が虐殺され、パリは鎮圧される
- 1871年5月28日-09:00|日本| ||明治4年4月10日|売春業者の新規開業が禁止され、また検診の実施が命ぜられる
- 1871年5月28日-09:00|日本|香川県|明治4年4月10日|<改称>讃岐丸亀藩廃藩、丸亀県を設置、近江国内の飛地領は大津県に編入
- 1871年5月30日-09:00|韓国/朝鮮/アメリカ| ||清・同治10年4月12日|アメリカ艦隊が朝鮮半島の江華島に侵入し、戦闘が始まる
- 1871年5月31日-05:30|インド| ||<就任>ナバ 国ラジャ「ヒラ・シン」(~19111212没)
- 1871年5月31日-09:00|日本|大阪府大阪市北区|明治4年4月13日|<再開>「堂島米会所」
- 1871年6月-01:00|スロベニア/オーストリア| ||<就任>オーストリア領スロベニア大統領「カール・グユルツバツァ・フォン・ツェンベルク」(~18720710)
- 1871年6月 07:00|メキシコ| ||メキシコ大統領選、ディアスがフランスの対立候補として立憲党から立起するも敗北
- 1871年6月1日 04:00|BES諸島| ||<就任>ボネール副知事代理「Jan Helenus Ferguson」(~18730220)
- 1871年6月2日-05:30|インド/フランス| ||<就任>フランス領インド 総督「アントワーヌ・レオンセ・ミショー」(~11. 13)
- 1871年6月2日-09:00|日本| ||明治4年4月15日|政府、大井川など3河川の渡制を定める
- 1871年6月2日-09:00|日本|神奈川県横浜市西区|明治4年4月15日|戸部村東部の伊勢山にあった大神宮を遷して伊勢山皇大神宮創建(神奈川県横浜市)
- 1871年6月3日-02:00|モルドバ/ロシア| ||<就任>ロシア領ベッサラビア州総督「ニコライ・イグナチエウイッチ・シェベコ」(~18790227)
- 1871年6月3日 04:00|セント・ビンセント/イギリス| ||<就任>イギリス領セント・ビンセント副総督「ウィリアム・ヘップバーン・レニー」(~18740918没)
- 1871年6月3日 04:00|ケレタダ/イギリス| ||<就任>ケレタダ 副総督「サフォード・フリーリング」(~18750609)
- 1871年6月3日-08:00|中国| ||清・同治10年4月16日|上海と香港の間に海底ケーブルが開通
- 1871年6月5日-12:00|フィジー| ||<就任>グティ王国(フィジー) 総理大臣「シドニー・チャールズ・ハート」(~18720518)
- 1871年6月5日-12:00|フィジー| ||<即位>グティ王国(フィジー) 王「セル・エペニサ・カコバウ」建国(~18741010)
- 1871年6月5日-09:00|日本| ||明治4年4月18日|太政官布告:平民の乗馬が許可される;太政官布告:御城内諸御門警戒兵規律
- 1871年6月7日-01:00|スロベニア/ドイツ| ||<就任>ドイツ軍スロベニア地方長官代行「ヨハン・ブラウイス」(1度目~9. 14)
- 1871年6月8日-06:30|ココス諸島/イギリス| ||<就任>ココス(キリング) 諸島統治者「George Clunies-Ross」(~19100707死去)
- 1871年6月8日 00:00|カナダ/オランダ| ||<就任>オランダ 領ゴールド・コースト総督「ヤン・アルバート・ヘンドリック・フーゲンボルト(政府長官)」(~9. 17)
- 1871年6月9日 00:00|カリヤ諸島/スペイン| ||<就任>スペイン王領カリヤ諸島市民知事「Rafael Bethencourt y Mendoza

1875迄 (3195件)

」(1期目~9.21)

- 1871年6月9日-09:00|日本| ||明治4年4月22日|太政官布告:外国船漂着/節取扱方規則再定
- 1871年6月10日-09:00|日本| ||明治4年4月23日|初めて鎮台を設置(東山道本営を陸前石巻、西海道本営を豊前小倉に設ける)
- 1871年6月10日-09:00|日本| ||明治4年4月23日|太政官布告:脱籍無産/者復籍規則更定
- 1871年6月10日-09:00|韓国/朝鮮/アメリカ| ||清・同治10年4月23日|米軍644人、江華・草芝鎮・徳津鎮を占領
- 1871年6月11日-09:00|韓国/朝鮮/アメリカ| ||清・同治10年4月24日|アメリカの軍艦が朝鮮の大同江に進み、広城鎮を占領/朝鮮軍は鎮撫使中軍魚在淵・その弟魚在淳・哨官柳豊魯を初め、53名の戦死
- 1871年6月11日-09:00|日本|北海道|明治4年4月24日|<改称>函館裁判所→函館府
- 1871年6月11日-09:00|日本|北海道札幌市|明治4年4月24日|開拓使本庁を函館から「札幌」に移す
- 1871年6月13日-02:00|フィンランド/ロシア| ||<就任>ロシア領フィンランド 総督代行「ヘルハルト・パロン・イント・レウス」(4回目~9.13)
- 1871年6月14日-09:00|日本|兵庫県淡路市|明治4年4月27日|江崎灯台初点灯(淡路島/兵庫県)<設計フランドン>
- 1871年6月15日-09:00|日本|広島県|明治4年4月28日|軍務官所管「撰津丸」広島藩から返還
- 1871年6月17日-09:00|日本|愛媛県|明治4年4月30日|<合併>宇和島藩内海浦に須ノ川村・成川坊城村・平山浦・深泥浦を合併
- 1871年6月18日-09:00|日本| ||明治4年5月|<設置>兵部省「軍楽隊」
- 1871年6月18日-09:00|日本|神奈川県横浜市|明治4年5月|<創建>横浜海岸教会(日本の最初のプロテスタント教会)神奈川県
- 1871年6月18日-09:00|日本|長野県長野市|明治4年5月2日|<松代騒動、牛乳騒動(信濃国松代藩)>620名余りが検挙され、400名余が入牢し、甚右衛門らは斬罪に処されたほか、9名に徒刑10年、1名に徒刑5年、2人に徒刑3年などが下された
- 1871年6月18日-09:00|日本|名古屋大学|明治4年5月|<設置>名古屋県仮医学校[元町役所]
- 1871年6月18日-09:00|日本| ||明治4年5月1日|<創刊>日新堂「新聞雑誌」(木戸孝允)
- 1871年6月18日-09:00|日本|静岡県|明治4年5月1日|大井川の輦台渡、廃止
- 1871年6月18日-04:00|ロシア/中国| ||清・同治10年5月1日;ロシア暦6月6日|ロシア軍が、イリに侵攻
- 1871年6月19日-09:30|オーストラリア| ||<就任>ビクトリア植民地政府首相「チャールズ・キャヴァンダイフ」(~18720610)
- 1871年6月19日-09:00|日本| ||明治4年5月2日|太政官布告:海軍服制中夏季略帽服ヲ定ム
- 1871年6月21日 00:00|イギリス| ||<死去>7代キングストン伯「ロバート・エドワード・キング」
- 1871年6月21日 00:00|イギリス| ||<就任>8代キングストン伯「ヘンリー・アーネスト・ニューコム・キング」=テニソン 先代の弟(~18960113死去)
- 1871年6月22日 06:00|ペリズ/イギリス| ||<就任>イギリス領ホンジュラス副総督(シヤマカ総督に従属)代行「ロバート・ウィリアム・ハーレー」(1回目~18720610)
- 1871年6月23日 00:00|イギリス| ||<昇格>2代ロンドン伯「ジョージ・フレデリック・サミュエル・ロビンソン」3代ト・グレイ伯⇒初代ロンドン侯(~19090709死去)
- 1871年6月25日-09:00|日本|大阪府|明治4年5月8日|<開設>大阪府「大貧院」
- 1871年6月26日-09:00|日本|兵庫県|明治4年5月9日|<移転>徳島藩から稲田氏領津名郡43ヶ村浦が兵庫県に移管
- 1871年6月26日-09:00|日本|山形県天童市|明治4年5月9日|<死去>織田寿重丸(6歳)前出羽天童藩知藩事
- 1871年6月27日-09:00|日本| ||明治4年5月10日|新貨条例が制定され、従来の両は円に改められ、その100分の1を銭、銭の10分の1を厘とする10進法の貨幣単位が定められる
- 1871年6月28日-09:00|日本|兵庫県神戸市|明治4年5月11日|<明治4年兵庫、神戸両港暴風雨>夜中の0時になると風雨は一層激しさを増し、7、8隻の汽船が陸地に吹き上げられた/神戸外人居留地以西の海岸一帯のほとんどの建物が倒壊するなど、兵庫港と隣接の神戸港では24人が死亡し家屋倒壊23戸、荷番所(倉庫警備所)倒壊3棟のほか運上所(税関)の建物も倒壊/一方、船舶の被害はもっとひどく、和船の破壊500余隻、西洋型船では汽船及び帆船の被害が12隻、貨物運搬用の小舟の被害数知れず/そのほか、築造中の海岸波止場や外人居留地の波よけの石垣が90%近く破壊され、諸倉庫の波よけ石垣のほとんどすべてと荷揚げ棧橋の石垣が大破損するなど、港湾機能は大きく損なわれた
- 1871年6月29日 06:00|グアテマラ| ||<就任>グアテマラ共和国暫定大統領「ミゲル・ガルシア・グラナドス・サグア」(~18730604)
- 1871年6月29日-09:00|日本|徳島県美馬市|明治4年5月12日|<庚午事変、稲田騒動(淡路国徳島藩)>徳島で一部過激派武士らが稲田屋敷を焼き討ちし、脇町(現在の美馬市)周辺にある稲田家の配地に進軍
- 1871年6月29日 00:00|イギリス| ||イギリス、グランドストーン内閣が、世界初の労働組合法を制定
- 1871年6月30日 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| ||<就任>ビサウ総督「ホアキン・アルベルト・マルケス」(2回目)⇒「ジョアキン・セルロ・ト・デ・ファリア」(~1877年没)
- 1871年6月30日 04:00|米領ガージン諸島/デンマーク| ||<就任>セントクリスチアン総督代理「Frantz Ernst Bille」(~18720701)
- 1871年6月30日-09:00|日本|徳島県美馬市|明治4年5月13日|<庚午事変、稲田騒動(淡路国徳島藩)>稲田家側の一連の行動に怒った徳島藩側の一部過激派武士らが、洲本城下の稲田家とその家臣らの屋敷を襲撃/稲田家側の被害は、自決2人、即死15人、重傷6人、軽傷14人、他に投獄監禁された者は300人余り、焼き払われた屋敷が25棟であった(終結後、政府からの処分は、徳島藩側の主謀者小倉富三郎・新居水竹ら10人が斬首(後に藩主蜂須賀茂韶の嘆願陳情により切腹になった)、首謀者数名が徳島県徳島市住吉の蓮花寺(1丁目)にて切腹、八丈島への終身流刑は27人、81人が禁固、謹慎など多数に至るに及んだ
- 1871年6月30日-09:00|日本|栃木県日光市|明治4年5月13日|日光輪王寺の本坊が焼失
- 1871年7月-01:00|スペイン/キューバ| ||コムス、政府軍の拠点だったグアンタモ地区へ進出、マサはインド 砦のサン・キンティン大隊と衝突、突破に成功

1875迄 (3195件)

- 1871年7月 00:00|モリタニア| |||<就任>トマルザ 連邦エミール「アフマド・サルム・ウルト・ウマル」(~1873年没)
- 1871年7月 04:00|サン・マルタン| |||<就任>フランス領サンマルタン島市長「Charles Claude Sainte-Helene Telephe」(~11月死去)
- 1871年7月1日 06:00|カタガ | |||カタガで統一通貨法が制定される
- 1871年7月1日-09:00|日本| ||明治4年5月14日|太政官布告:神官職員規則
- 1871年7月2日-01:00|イタリア| |||ヴェットリオ・エマヌエーレ2世が、イタリア王国の首都をローマに移す
- 1871年7月3日-09:00|韓国/朝鮮/アメリカ| ||清・同治10年5月16日|アメリカ太平洋艦隊、江華島から撤退/二十数日間の攻防戦で、官軍の戦死者は53名
- 1871年7月4日-09:00|日本| ||明治4年5月17日|<明治4年西日本風水害>四国や近畿地方を中心に中国、北陸地方などが暴風雨に見舞われ各地で洪水/大阪では高潮により100人が死亡、兵庫県では尼崎の140人余を始め600人が死亡、岡山、愛媛、和歌山各県で多数の人が死亡など、港湾機能は大きく損なわれた
- 1871年7月4日-08:00|中国/ロシア| ||清の同治10年5月17日|ロシア暦6月22日|ロシアがイスラム教徒の反乱を利用して新疆の伊犁を占領、アブール・カランの政権倒れる
- 1871年7月5日-09:00|日本|山口県|明治4年5月18日|<献納>長州藩の砲艦「鳳翔丸」(1868年イギリスで建造)⇒明治政府、兵部省所管「鳳翔艦」と改名;長州藩砲艦「雲揚丸」⇒明治政府
- 1871年7月9日-09:00|日本|佐賀県|明治4年5月22日|<献納>佐賀藩砲艦「孟春丸」⇒政府兵部省所管「孟春」と命名
- 1871年7月11日-03:00|エチオピア| |||<退位>エチオピア帝国皇帝「テケレギヨルクス2世」
- 1871年7月11日-09:00|日本| ||明治4年5月24日|一般農民の米販売を許可
- 1871年7月12日-09:00|韓国/朝鮮| ||清・同治10年5月25日|沁都砲量米を新規に徴収(結当たり1枡、江華島常備軍維持費に充当)
- 1871年7月15日-09:00|日本| ||明治4年5月28日|洋服屋開店広告初めて現われる(横浜五十二番街及び東京茅場町に各一軒洋服屋開店)
- 1871年7月16日-05:30|イノト | |||<就任>マルコト国支配者(ナワブ)「モハマト・エフ・ラヒム・アリ・カン」(~19080823没)
- 1871年7月17日-09:00|日本|大分県別府市|明治4年5月30日|<完成>別府築港/東西100間、南北80間の大きさ
- 1871年7月18日 00:00|カナダ/イギリス| |||<就任>イギリス領西アフリカ植民地「ゴルト」=コスト管理責任者代行「チャールズ・スポンサー・サモン」(1回目~18720303)
- 1871年7月18日-09:00|日本| ||明治4年6月|<開設>為換座三井組/わが国最初の円単位紙幣を発行
- 1871年7月18日-09:00|日本| ||明治4年6月|日本政府「電流丸」老朽艦のため伊万里で売却解体
- 1871年7月18日-09:00|日本|愛媛県|明治4年6月|宇和島藩、医学修業道場日新館を創設、付属施設宇和島病院(日新館)を設置(愛媛県最初の病院)
- 1871年7月20日 06:00|カタガ | |||ブリティッシュコロンビアが自治領カタガに加盟
- 1871年7月20日-09:00|日本|長野県|明治4年6月3日|<編入>信濃龍岡藩廃藩,三河国の領地を伊那県に、信濃国内の領地を中野県に編入
- 1871年7月24日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国閣僚評議会議長Manuel Ruiz Zorrilla[急進党](~18711005)
- 1871年7月25日-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>ロシア知事「Agenor Romuald Onufry Graf Goluchowski z Goluchowa」(3期目~18750803)
- 1871年7月25日-09:00|日本|山口県|明治4年6月8日|<領収>長州藩「雲揚丸」⇒明治政府兵部省所管「雲揚艦」と改名
- 1871年7月29日 04:00|アルバ/オランダ | |||<就任>アルバ 島副知事「Willem Melanchton Bennebroek Gravenhorst」(~1876.3)
- 1871年7月30日-09:00|日本|東京都|明治4年6月13日|東京府朱引内44区、朱引外25区とする
- 1871年7月31日-09:00|日本|北海道札幌市|明治4年6月14日|<命名>北海道一宮(北海道石狩国札幌郡)⇒札幌神社
- 1871年8月-02:00|レイト/イギリス| |||<就任>ケープ 植民地政府「ストラント」代理人「チャールズ・ダンカン・グリフィス」(1回目~1877年)
- 1871年8月 07:00|メキシコ | |||ティアス・ラ・ノリア宣言を発し武装反乱を起こすが敗北、逮捕される。各地で解雇された革命軍軍人を中心とする反フランス派の反乱
- 1871年8月2日 05:00|ベルギー | |||<就任>ベルギー共和国閣僚評議会議長(首相)「ル・アジエンテ」(2回目~12.7)
- 1871年8月2日-09:00|日本|愛媛県南宇和郡愛南町|明治4年6月16日|<合併>宇和島藩庁が郷中改正で須ノ川浦を柏村に合併
- 1871年8月3日-09:00|日本| ||明治4年6月17日|太政官布告:皇族家紋ヲ定ム;太政官布告:皇族ノ外菊御紋ヲ禁止シ紛敷品ハ改メム;太政官布告:行旅病人取扱規則ヲ定ム;太政官布告:諸寺院禄制ヲ定ム
- 1871年8月4日-09:00|日本/中国| ||明治4年6月18日|長崎-上海間の海底電線が開通
- 1871年8月5日-09:00|日本|山口県|明治4年6月19日|<編入>周防徳山藩(廃藩)⇒山口藩
- 1871年8月7日 00:00|カナダ/イギリス | |||<就任>イギリス領西アフリカ植民地「ゴルト」管理者「ジェレマイア・トマス・フィッツ・エラルド・キャラン」(~18720421)
- 1871年8月8日-09:00|日本| ||明治4年6月22日|太政官布告:府藩県交渉訴訟准判規程改正
- 1871年8月8日-09:00|日本|長野県|明治4年6月22日|<改称>中野県(善光寺領を編入。県庁が中野から長野に移転)⇒長野県
- 1871年8月9日-09:00|日本|滋賀県|明治4年6月23日|<編入>近江大溝藩(廃止)⇒大津県
- 1871年8月11日-02:00|レイト/南アフリカ | |||イギリス保護領「ストラント」をケープ 植民地に併合(~18840318)
- 1871年8月11日-09:00|日本|島根県|明治4年6月25日|<編入>石見津和野藩(廃藩)⇒浜田県
- 1871年8月12日-09:30|オーストラリア/イギリス | |||<就任>ケイプ 植民地総督「ジョージ・フィッツ・ス」(~18741112)

1875迄 (3195件)

- 1871年8月12日-09:00 | 日本 | ||明治4年6月26日|民部省、対海外電信を開始
- 1871年8月13日 00:00 | ｲｷﾞﾘｽ/日本 | ||明治4年6月27日|元ﾌﾟﾛｼｱ帆船「ユラー」(885t;ｶﾀﾞで建造) ｲｷﾞﾘｽ人から購入し兵部省所管、御召船「春風丸」と改称
- 1871年8月14日-01:00 | ｽﾎﾟｰﾝ/ﾄﾞｲﾂ | ||<就任>ﾄﾞｲﾂ軍ｽﾎﾟｰﾝ地方長官「ﾌﾞﾗｽﾌﾞﾗｽﾞﾗｸ」(~12. 18)
- 1871年8月15日 00:00 | ﾚｼﾞｵ/ｲﾀﾘｱ | ||<就任>ｼﾞｵﾝ ﾖｰｼﾞ・ｽﾃｰﾌﾞﾝ・ｶｰｶｰ2世」(~1881年没)
- 1871年8月16日 05:00 | ﾊﾟﾅﾏ | ||<就任>ﾊﾟﾅﾏ大統領代行「ｼﾞｬﾝ・ﾓﾝﾄﾞｰサ」(~9. 30)
- 1871年8月16日-09:00 | 日本 | ||明治4年7月|<出版>中村正直訳「西国立志編」(サムエル=スマイルズの自助論)
- 1871年8月16日-09:00 | 日本 | 鹿児島大学 | 明治4年7月 | <廃止>薩摩藩校造士館
- 1871年8月16日-09:00 | 日本 | 熊本大学 | 明治4年7月 | <改称>再春館⇒官立医学所兼病院
- 1871年8月17日-10:00 | ﾗｼﾞｱ/北ｱｼﾞｱ諸島/ｽﾍﾟｲﾝ | ||<就任>ｱｼﾞｱ諸島知事「Luis de Ibanez y Garcia」(~18730324)
- 1871年8月17日-09:00 | 日本 | 沖縄県 | 明治4年7月2日 | <死去>野村安趙 (67歳) 琉球の音楽家
- 1871年8月19日-04:00 | ﾓｰﾘｯｼﾞｱ/ｲｷﾞﾘｽ | ||<就任>ｲｷﾞﾘｽ植民地ﾓｰﾘｯｼﾞｱ総督・最高司令官代行「ｲﾄﾞﾜｰﾄﾞ・ﾙﾋﾞｰ・ｽﾐｽ」(~9. 29)
- 1871年8月20日-09:00 | 日本 | ||明治4年7月5日|通商司制度が廃止、貿易事務を大蔵省直轄に改編;兵部省軍医寮創設、軍医頭は兵部卿に隷属するものの、軍医に関する一切の権限を委譲され、部外の干渉から隔離された
- 1871年8月23日-09:00 | 日本 | 愛媛県 | 明治4年 | 新谷藩、医療館建設、医療定則を制定
- 1871年8月23日-09:00 | 日本 | 京都大学 | 明治4年7月8日 | 開成所、理学所敷地内に新営した校舎にて開校
- 1871年8月23日-09:00 | 日本 | 東京都千代田区 | 明治4年7月8日 | 民部省を廃し大蔵省を設置、神祇官を神祇省に格下げ
- 1871年8月24日-09:00 | 日本 | 京都府京都市右京区 | 明治4年7月9日 | 妙光寺住職「天章慈英」反政府派に暗殺される
- 1871年8月24日-09:00 | 日本 | 東京都千代田区 | 明治4年7月9日 | 刑部省・弾正台が廃止され、司法省が設置される
- 1871年8月27日-09:00 | 日本 | ||明治4年7月12日|<死去>賀集珉平 (76歳) 陶工
- 1871年8月27日 00:00 | ｲｷﾞﾘｽ/日本 | ||明治4年7月12日|日本海軍運輸船「行速丸」「飛隼丸」「飛竜丸」 ｲｷﾞﾘｽ人に交付
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | ||明治4年7月14日|明治天皇が56藩知事を召集し、廃藩置県の詔書を出す/261藩は1使3府302県となる
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 愛知県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 尾張名古屋藩、尾張犬山藩、三河岡崎藩、三河刈谷藩、三河挙母藩、三河重原藩、三河田原藩、三河豊橋藩、三河西尾藩、三河西大平藩、三河西端藩、三河半原藩→名古屋県、犬山県、岡崎県、刈谷県、挙母県、重原県、田原県、豊橋県、西尾県、西大平県、西端県、半原県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 青森県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 陸奥弘前藩、陸奥黒石藩、陸奥斗南藩、陸奥七戸藩、陸奥八戸藩→弘前県、黒石県、斗南県、七戸県、八戸県 (第2次)
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 秋田県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 羽後秋田藩、羽後岩崎藩、羽後亀田藩、羽後本荘藩、羽後矢島藩→秋田県、岩崎県、亀田県、本庄県、矢島県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 石川県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 加賀金沢藩、加賀大聖寺藩→金沢県 (富山県 (第1次) の管轄)、大聖寺県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 茨城県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 常陸麻生藩、常陸石岡藩、常陸牛久藩、常陸志筑藩、常陸松川藩、常陸土浦藩、常陸龍ヶ崎藩、常陸笠間藩、常陸宍戸藩、常陸下館藩、常陸下妻藩、常陸松岡藩、常陸水戸藩→麻生県、石岡県、牛久県、志筑県、松川県、土浦県、龍崎県、笠間県、宍戸県、下館県、下妻県、松岡県、水戸県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 岩手県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 陸中一関藩→一関県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 愛媛県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 伊予松山藩、伊予今治藩、伊予小松藩、伊予西条藩、伊予宇和島藩、伊予大洲藩、伊予新谷藩、伊予吉田藩→松山県、今治県、小松県、西条県、宇和島県、大洲県、新谷県、吉田県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 大分県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 豊前中津藩、豊後臼杵藩、豊後岡藩、豊後杵築藩、豊後佐伯藩、豊後日出藩、豊後府内藩、豊後森藩→中津県、臼杵県、岡県、杵築県、佐伯県、日出県、府内県、森県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 大阪府 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 摂津麻田藩、摂津高槻藩、和泉岸和田藩、和泉伯太藩、和泉吉見藩、河内丹南藩→麻田県、高槻県、岸和田県、伯太県、吉見県、丹南県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 岡山県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 備前岡山藩、備中浅尾藩、備中足守藩、備中生坂藩、備中岡田藩、備中鴨方藩、備中高梁藩、備中成羽藩、備中新見藩、備中庭瀬藩、美作鶴田藩、美作津山藩、美作真島藩→岡山県、浅尾県、足守県、生坂県、岡田県、鴨方県、高梁県、成羽県、新見県、庭瀬県、鶴田県、津山県、真島県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 香川県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 讃岐高松藩→高松県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 鹿児島県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 薩摩鹿児島藩→鹿児島県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 神奈川県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 武蔵六浦藩、相模荻野山中藩、相模小田原藩→六浦県、荻野山中県、小田原県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 岐阜県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 美濃今尾藩、美濃岩村藩、美濃大垣藩、美濃加納藩、美濃郡上藩、美濃高富藩、美濃苗木藩、美濃野村藩→今尾県、岩村県、大垣県、加納県、郡上県、高富県、苗木県、野村県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 京都府 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 丹波綾部藩、丹波亀岡藩、丹波園部藩、丹波山家藩、丹波福知山藩、丹後舞鶴藩、丹後峰山藩、丹後宮津藩、山城淀藩→綾部県、亀岡県、園部県、山家県、福知

1875迄 (3195件)

山県, 舞鶴県, 峯山県, 宮津県, 淀県

- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 熊本県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 肥後熊本藩、肥後人吉藩→熊本県 (第1次)、人吉県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 群馬県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 上野安中藩、上野伊勢崎藩、上野小幡藩、上野高崎藩、上野七日市藩、上野沼田藩、上野前橋藩、上野館林藩→安中県、伊勢崎県、小幡県、高崎県、七日市県、沼田県、前橋県、館林県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 高知県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 土佐高知藩→高知県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 埼玉県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 武蔵川越藩、武蔵忍藩、武蔵岩槻藩→川越県、忍県、岩槻県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 佐賀県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 肥前佐賀藩、肥前小城藩、肥前鹿島藩、肥前唐津藩、肥前蓮池藩→佐賀県 (第1次)、小城県、鹿島県、唐津県、蓮池県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 滋賀県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 近江朝日山藩、近江宮川藩、近江彦根藩、近江膳所藩、近江西大路藩、近江水口藩、近江山上藩→朝日山県、宮川県、彦根県、膳所県、西大路県、水口県、山上県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 静岡県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 駿河静岡藩、遠江堀江藩→静岡県、堀江県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 島根県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 出雲広瀬藩、出雲松江藩、出雲母里藩→広瀬県、松江県、母里県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 千葉県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 上総飯野藩、上総一宮藩、上総大多喜藩、上総菊間藩、上総久留里藩、上総小久保藩、上総桜井藩、上総佐貫藩、上総鶴舞藩、上総鶴牧藩、上総松尾藩、下総小見川藩、下総高岡藩、下総多胡藩、下総生実藩、下総古河藩、下総佐倉藩、下総関宿藩、下総曾我野藩、下総結城藩、安房加知山藩、安房館山藩、安房長尾藩、安房花房藩→飯野県、一宮県、大多喜県、菊間県、久留里県、小久保県、桜井県、佐貫県、鶴舞県、鶴牧県、松尾県、小見川県、高岡県、多古県、生実県、古河県、佐倉県、関宿県、曾我野県、結城県、加知山県、館山県、長尾県、花房県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 徳島県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 阿波徳島藩→徳島県 (第1次)
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 栃木県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 下野足利藩、下野宇都宮藩、下野佐野藩、下野壬生藩、下野大田原藩、下野烏山藩、下野黒羽藩、下野茂木藩、下野吹上藩→足利県、宇都宮県、佐野県、壬生県、大田原県、烏山県、黒羽県、茂木県、吹上県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 鳥取県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 因幡鳥取藩→鳥取県 (第1次)
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 富山県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 越中富山藩→富山県 (第1次)
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 長崎県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 対馬厳原藩、肥前大村藩、肥前島原藩、肥前平戸藩、肥前福江藩→厳原県、大村県、島原県、平戸県、福江県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 長野県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 信濃飯田藩、信濃高島藩、信濃高遠藩、信濃松本藩、信濃飯山藩、信濃岩村田藩、信濃上田藩、信濃小諸藩、信濃須坂藩、信濃松代藩→飯田県、高島県、高遠県、松本県、飯山県、岩村田県、上田県、小諸県、須坂県、松代県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 奈良県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 大和櫛羅藩、大和小泉藩、大和郡山藩、大和芝村藩、大和高取藩、大和田原本藩、大和柳生藩、大和柳本藩→櫛羅県、小泉県、郡山県、芝村県、高取県、田原本県、柳生県、柳本県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 新潟県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 越後清崎藩、越後椎谷藩、越後高田藩、越後与板藩、越後黒川藩、越後新発田藩、越後三日市藩、越後峰岡藩、越後村上藩、越後村松藩→清崎県、椎谷県、高田県、与板県、黒川県、新発田県、三日市県、峰岡県、村上県、村松県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 兵庫県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 播磨明石藩、播磨赤穂藩、播磨安志藩、播磨小野藩、播磨龍野藩、播磨林田藩、播磨姫路藩、播磨三日月藩、播磨三草藩、播磨山崎藩、摂津尼崎藩、摂津三田藩、丹波柏原藩、丹波篠山藩、但馬豊岡藩、但馬村岡藩、但馬出石藩→明石県、赤穂県、安志県、小野県、龍野県、林田県、姫路県、三日月県、三草県、山崎県、尼崎県、三田県、柏原県、篠山県、豊岡県、村岡県、出石県:三原郡は徳島県に編入
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 広島県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 安芸広島藩、備後福山藩→広島県、福山県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 福井県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 越前福井藩、越前大野藩、越前勝山藩、越前鯖江藩、越前丸岡藩、若狭小浜藩→福井県 (第1次)、大野県、勝山県、鯖江県、丸岡県、小浜県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 福岡県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 筑前福岡藩、筑前秋月藩、筑後久留米藩、筑後三池藩、筑後柳河藩、豊前豊津藩、豊前千束藩→福岡県、秋月県、久留米県、三池県、柳川県、豊津県、千束県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 福島県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 岩代二本松藩、磐城泉藩、磐城平藩、磐城棚倉藩、磐城中村藩、磐城三春藩、磐城湯長谷藩→二本松県、泉県、磐城平県、棚倉県、中村県、三春県、湯長谷県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 北海道 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 渡島館藩の旧領 (爾志郡・檜山郡・津軽郡・福島郡) に館県設置 (上磯郡・茅部郡・亀田郡の三郡は北海道開拓使の所管)
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 三重県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 伊勢亀山藩、伊勢神戸藩、伊勢桑名藩、伊勢菟野藩、伊勢長島藩、伊勢津藩、伊勢久居藩、志摩鳥羽藩→亀山県、神戸県、桑名県、菟野県、長島県、津県、久居県、鳥羽県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 宮城県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 陸前仙台藩→仙台県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 宮崎県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 日向飫肥藩、日向佐土原藩、日向高鍋藩、日向延岡藩→飫肥県、佐土原県、高鍋県、延岡県
- 1871年8月29日-09:00 | 日本 | 山形県 | 明治4年7月14日 | <改称> (廃藩置県) 羽前大泉藩、羽前米沢藩、羽前天童藩、羽前上山藩、羽前新庄藩、羽後松嶺藩→大泉県、米沢県、天童県、上山県、新庄県、松嶺県

1875迄 (3195件)

- 1871年8月29日-09:00|日本|山口県|明治4年7月14日|<改称>(廃藩置県)周防山口藩、周防岩国藩、長門清末藩、長門豊浦藩→山口県、岩国県、清末県、豊浦県
- 1871年8月29日-09:00|日本|和歌山県|明治4年7月14日|<改称>(廃藩置県)紀伊和歌山藩、紀伊新宮藩、紀伊田辺藩→和歌山県、新宮県、田辺県
- 1871年8月30日-01:00|アンドラ| ||<就任>アンドラ公国共同大公「フランス第三共和政大統領アドルフ・ティエル」(~18730524)
- 1871年8月30日-01:00|フランス| ||<就任>フランス共和国第三共和政2代大統領「アドルフ・ティエル」元オリエント元中道右派穂健共和派(~18730524, 国民議会の議決により辞任)
- 1871年8月30日 04:00|マルティニーク/フランス| ||<就任>フランス領マルティニーク知事「Georges Charles Cloue」(~1874. 3)
- 1871年8月30日-09:00|日本| ||明治4年7月15日|<死去>中島来章(76歳) 画家
- 1871年9月-03:30|イラン/イギリス| ||ハルフスタンは正式に2つの地域に分割/東ハルフスタンはイギリス領ハルフスタン、西ハルフスタンはペルシャの一部
- 1871年9月-03:00|イェメン/トルコ| ||<就任>オスマン帝国イェメン・ウオリス(総督)「Katircioglu Ahmed Muhtar Pasha」(~1873. 5)
- 1871年9月-03:00|エチオピア| ||<即位>エチオピア帝国皇帝「ヨハネス4世」(~18890310没)
- 1871年9月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| ||<就任>ダマスカス・ウリス「Abdullatif Subhi Pasha」(~1872. 9)
- 1871年9月-01:00|アルバニア/トルコ| ||<就任>イェニコラのウリス「キリトリムスタファ・アム・ハシャ」(1回目~1872年1月)
- 1871年9月-01:00|リビア/トルコ| ||<就任>オスマン帝国トリポリタニア・ウリス(総督)「ホスタンハビザ・デ・メフメト・ラシッド・ハシャ」(~1872年4月)
- 1871年9月 00:00|イギリス| ||M. Bowes, London「Crusader」Scott & Co., Greenock, Scotlandで建造進水
- 1871年9月1日-09:00|日本| ||明治4年7月17日|新聞紙条例制定
- 1871年9月1日-09:00|日本|東京都足立区|明治4年7月17日|<開院>梅毒院[東京、千住]/宿場の遊女に検徴(梅毒検査)を実施
- 1871年9月2日-09:00|日本|東京大学|明治4年7月18日|<廃止>大学:<改称>大学南校⇒南校/大学東校⇒東校
- 1871年9月2日-09:00|日本|東京都文京区|明治4年7月18日|<設置>学術・教育を担当する官庁「文部省」東京神田の湯島聖堂内(昌平坂学問所跡)
- 1871年9月3日-09:00|日本| ||明治4年7月19日|貿易銀一円、五十銭、二十銭、十銭、五銭発行開始
- 1871年9月4日-09:00|日本| ||明治4年7月20日|<設置>大蔵省内に紙幣局
- 1871年9月5日-09:00|日本|神奈川県横須賀市|明治4年7月21日|<改称>横須賀製鉄所⇒造船所/1号トック完成(→横須賀海軍工廠/神奈川県)
- 1871年9月6日-09:00|日本| ||明治4年7月22日|寄留・旅行者の鑑札制の廃止(旅行の自由が許可される)
- 1871年9月7日-02:00|トルコ| ||<就任>オスマン帝国大宰相「マムト・ネイム・ハシャ」(1期目~18720731)
- 1871年9月7日-09:00|日本|東京都|明治4年7月23日|<死去>鬼面山谷五郎・鬼面山親方(相撲)13代横綱[1826年生~](享年45)
- 1871年9月8日-09:00|日本|香川県|明治4年7月24日|<開庁>高松県庁[高松内町士族松平操旧邸]. 讃岐国9郡237村62市坊を管轄
- 1871年9月9日-09:00|日本| ||明治4年7月25日|太政官布告:諸御門警戒兵規則第一則改正
- 1871年9月10日-01:00|ポスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| ||<就任>ポスニア・ヘルツェゴビナ総督「メフメト・アム・ハシャ」(~18720823)
- 1871年9月10日-09:00|日本|岡山県津山市|明治4年7月26日|<死去>松平慶倫(45歳)元美作津山藩知藩事
- 1871年9月11日-09:00|日本| ||明治4年7月27日|民部省を廃止し大蔵省の機能を拡大、大蔵省紙幣司創設(→大蔵省印刷局→国立印刷局)、地理司は大蔵省租税寮へ管轄が移った;大蔵省改正掛廃止
- 1871年9月12日 06:00|アメリカ| ||<就役>アメリカ海軍アルマ級スloop「オマハ」(2400t, フライデー海軍工廠)
- 1871年9月12日-09:00|日本| ||明治4年7月28日|<改称>石川島造船所(兵部省海軍部造船局の管下におく)⇒石川島造兵所
- 1871年9月12日-09:00|日本| ||明治4年7月28日|兵部省に陸軍部・海軍部設置、それぞれ軍務局が設置されその下に人事担当の人別掛と総務担当の規定掛が置かれた;陸軍参謀局が設けられ間諜隊が置かれた
- 1871年9月12日-09:00|日本| ||明治4年7月28日|陸軍条例制定
- 1871年9月13日 00:00|ポルトガル| ||<就任>ポルトガル王国第32代首相「アントニオ・マリア・デ・フォンテス・ペレイラ・デ・メロ」(2期目~18770305)
- 1871年9月13日-09:00|日本| ||明治4年7月29日|<就任>太政大臣「三条実美」
- 1871年9月13日-09:00|日本| ||明治4年7月29日|職員令廃止、太官制を改正:太政官を正院、左院、右院の三つに分け、左右両院の上に立つ。政務を執る正院は従来の太政官に相当し天皇を輔弼し庶政を総裁、太政大臣・納言・参議で構成される/左院は議事機関で官選の議員をもって組織し法制のことを議決する/右院は各省の長官及び次官をもって組織し行政上の利害を評議
- 1871年9月13日-09:00|日本/中国| ||明治4年;清・同治10年7月29日|日清修好条約が調印される/外交使節の交換および双方に領事を駐在させる(第4条、第8条)/制限的な領事裁判権をお互いに認める(第8条、第9条、第13条)/通商関係については欧米列強に準ずる待遇(最恵国待遇・協定関税率)をお互いに認め合う
- 1871年9月14日-09:00|日本|長崎県長崎市|明治4年7月30日|伊王島灯台初点灯<日本初の鉄製洋式灯台、設計フランク>
- 1871年9月15日-09:00|日本| ||明治4年8月|<開業>小野組築地製糸場
- 1871年9月15日-09:00|日本|ENEOSホールディングス|明治4年8月|<設立>石坂周三「長野石炭油会社」[東京](1873年に長野石油会社と改称)(資本金3万円、日本で初登録の会社)
- 1871年9月15日-09:00|日本|山形銀行|明治4年8月1日|<開業>米沢義社[山形]

1875迄 (3195件)

- 1871年9月17日-01:00|スイ/フランス| |||<開通>アルプス山脈西部のモン・ニ鉄道トンネル
1871年9月17日 00:00|カナ/オランダ| |||<就任>オランダ領ゴールト=コスト総督代行「ヨハネス・マリヌス・ルトウ・イクス・アドリアヌス・ペトルス・ウィリックス」(~10.2)
- 1871年9月18日 04:00|刊| |||<就任>刊共和国大統領「フェデリコ・マルコス・テル・ロサリオ・エラス・リス・ザニャルトウ」(~18760918)
1871年9月18日-09:00|日本| ||明治4年8月4日|太政官布告:神祇官中諸陵寮ヲ廃ス
1871年9月18日-09:00|日本|広島県|明治4年8月4日|<武一騒動>前藩主一行は東京移住のため海船に乗るべく竹の丸の屋敷を出発しようとした/かねて上京阻止のため山県郡その他から広島に出ていた数千名の農民によって、道が塞がれて出発は不能となった/出発は延期となり、当局では出立した農民の帰村を説得したため、一部は帰村したものの大部分はこれを聞き入れず、かえって郡部から広島へ入り込む人数は増加
1871年9月21日 00:00|カナ/諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王領カナリア諸島市民知事「Emilio Nieto y Perez」(~10.21)
- 1871年9月21日-09:00|日本/ロシア| ||明治4年8月7日|<再統合>「樺太開拓使」「北海道開拓使」⇒「開拓使」
1871年9月21日-09:00|日本|広島県|明治4年8月7日|<武一騒動>長勲の説諭書を携えて、各郡に説諭使が入りこんだ。高田・高宮両郡へは掘少属、村上権少属、松尾権少属が来て、割庄屋、庄屋を集めて農民たちを押えようと試みたが、事態は好転せず説諭使は引き上げた/広島でのすわり込みは、やがて郡部へも波及/事態は急速に悪化し、藩主の江戸への出発引き止め運動は一転して、新政府反対の方向に変化し、郷村の支配層に対する攻撃が急速に転換していった
- 1871年9月22日-09:00|日本| ||明治4年8月8日|<改組>神祇官⇒神祇省/降格し、太政官の下とされた
1871年9月23日-09:00|日本| ||明治4年8月9日|<廃止>「米麦輸出禁令」
1871年9月23日-09:00|日本| ||明治4年8月9日|新政府が散髪と廃刀の自由を認める(このため帽子が流行)
1871年9月23日-09:00|日本|愛媛県|明治4年8月9日|愛媛県喜多郡平成村ほか数十村で一揆
1871年9月24日-09:00|日本| ||明治4年8月10日|<改称>大蔵省紙幣司⇒紙幣寮
1871年9月26日-09:00|日本|広島県|明治4年8月12日|<武一騒動>騒ぎはさらに新庄・大朝に飛び火し、有間、寺原、本地、南方、さらに西部地域の中心地加計村に波及し、山県地方全域に及んだ/郡部の百姓たちは、誘い合わせてぞくぞくと広島市内に入った。勝木村でも表勝木、行森、川筋から大勢が参加/共同行動についての不統一もあった上、きびしい当局の達しがある
- 1871年9月27日 04:00|プエルトリコ/スペイン| |||<就任>プエルトリコ総司令官兼上席市民知事「Ramon Gomez Pulido」(~1872.6)
- 1871年9月27日-09:00|日本|広島県|明治4年8月13日|<武一騒動>朝から空砲を発射して部隊の進撃をはじめた/各所で竹槍、などの凶器で武装した農民と衝突し、双方に多数の死傷者を出したが、遂に一揆の群集は追い払われ広島では一応平静を取りもどした/これに参加した農民はやがて帰村の途中、各地の庄屋をはじめ富豪の家を襲い、打ちこわしを行ない、又帰村してからもそれぞれ地元で騒動をつづけた
- 1871年9月28日 03:00|ブラジル| |||ブラジルで、新生児自由法が公布される
1871年9月28日-09:00|日本| ||明治4年8月14日|<設置>工部省工学寮・鉄道寮(鉄道掛改組)、測量司
1871年9月28日-09:00|日本|愛媛県|明治4年8月14日|<久万山・久米騒動>松山県久万山・久米地方農民、旧藩主留任などを要求して暴起(~8月20日、松山県兵により鎮圧)
1871年9月28日-09:00|日本|広島県|明治4年8月14日|<武一騒動>恵蘇郡で39戸が打ちこわしと全県的にひろがる(23日頃までに173戸が打ちこわしの被害を受ける)
- 1871年9月28日-09:00|日本|広島県|明治4年8月14日|<武一騒動>三次郡で20戸が打ちこわし
1871年9月30日-09:00|日本|愛媛県|明治4年8月16日|<郡中騒動>大洲県郡中農民暴起(~翌日)
- 1871年10月-02:00|キプロス/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領キプロス地区総督「アジズ・ハシヤ」(1回目~1872年)
1871年10月-02:00|ブルガリア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国ツァ(ドナウ)・ウリス(総督)「アフメド・ラシム・ハシヤ」(~1872年6月)
1871年10月 00:00|セネガル| |||<就任>フタト=ロ統治者統治者(アルマニ)「サド・イブラ・タフシル・ハバ・ワーン」(3回目~1872年5月)
- 1871年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「パラメデ・マルベリ」「ルイジ・パスカリ」
1871年10月1日-01:00|赤道ギニア/スペイン| |||<就任>フェルナンド・ホー総督代行「アントニオ・テ・ビバル」(~18720623)
- 1871年10月1日-09:00|日本| ||明治4年8月17日|明治政府が武士の「切捨て御免」を禁止
1871年10月2日 00:00|カナ/オランダ| |||<就任>オランダ領ゴールト=コスト総督代行「ウィレム・ピーター・アントニール・ジューン」(~11.15)
- 1871年10月2日-09:00|日本| ||明治4年8月18日|<死去>初代中村雀右衛門(本名・中村源次、歌舞伎役者、代中村芝雀→儀左衛門→現名/66歳)
- 1871年10月2日-09:00|日本| ||明治4年8月18日|東京、大阪に鎮台を設ける
1871年10月2日-09:00|日本| ||明治4年8月18日|平民にも羽織・袴の着用を許す;典薬寮丹波家門人/帯刀ヲ禁ス
1871年10月2日-09:00|日本|広島県|明治4年8月18日|<武一騒動>村内の状静は次第に平穏に向い、激昂した百姓たちの村役人に対する不信もやわらぎすべて平静にもどった/暴動側の死者25名、傷者6人
- 1871年10月3日 04:00|トミカ国/イギリス| |||<就任>イギリス領トミカ副総督代行「ニール・ポーター」(~18720331)
1871年10月3日-09:00|日本|東京都|明治4年8月23日|東京府朱引外区称改正、朱引内44区に続けて45区より69区とす
- 1871年10月4日-09:00|日本| ||明治4年8月20日|四鎮台八分營を設置し藩兵解体し鎮台常備兵に再編/集議院が左院に属する
1871年10月4日-09:00|日本| ||明治4年8月20日|政府は軍制改革を実施して東京・大阪・鎮西(熊本)・東北(仙台)に本営を置く「四鎮台」を設置

1875迄 (3195件)

- 1871年10月5日-01:00|スเปน| |||<就任>スเปน王国閣僚評議会議長「Jose Malcampo」立憲党(~18711221)
- 1871年10月5日-09:00|日本|愛媛県今治市|明治4年8月21日|今治城兵器櫓焼失(死傷者7名)
- 1871年10月5日-09:00|日本|京都府京都市|明治4年8月21日|<死去>九条尚忠(74歳)元閣白・左大臣
- 1871年10月5日-09:00|日本|静岡県賀茂郡南伊豆町|明治4年8月21日|伊豆の石室埼燈台初点灯
- 1871年10月7日-09:00|日本| ||明治4年8月23日|階級間の結婚が自由化される
- 1871年10月7日-09:00|日本| ||明治4年8月23日|京都留守官制が廃止され、事実上東京が首都となる;大蔵省中勸業寮ヲ勸農寮ト改ム
- 1871年10月8日-01:00|カオチア| |||オイゲン・クガアテルニクがいたコウイツァでの反乱(~18711011)
- 1871年10月8日 06:00|アメリカ| |||アメリカ、シカゴで大火が起こり、300人以上が死亡、1万8000棟が焼失
- 1871年10月11日-01:00|ドイツ/トルコ| |||ドイツの考古学者ハインリッヒ・シュリーマンが、トロイの叙事詩を信じてトロイの発掘を開始
- 1871年10月12日-05:30|インド| |||<就任>コルハープル国統治者(ラジヤ・チャトラティ)「シヴァージー-5世チャトラティ・ナラヤ・ラオ」(~18831225没)
- 1871年10月12日-09:00|日本| ||明治4年8月28日|(解放令、身分解放令)えた・非人の称が廃止され、身分は平民と同じ扱いとなる
- 1871年10月12日-09:00|日本| ||明治4年8月28日|<移管>大阪運上所⇒大蔵省
- 1871年10月13日-09:00|日本|山形県|明治4年8月29日|<合併>山形県、天童県合併⇒山形県
- 1871年10月14日-09:00|日本|大阪府|明治4年9月|<編入>摂津国住吉郡のうち大和川以南地域を和泉国大鳥郡へ編入
- 1871年10月14日-09:00|日本|長野県|明治4年9月|<編入>名古屋県(旧名古屋藩領)のうち木曾郡(13,000石)と旧領(15,000石)を伊那県に編入
- 1871年10月14日-09:00|日本|三越伊勢丹ホールディングス|明治4年9月|<創業>田中屋(→静岡伊勢丹)
- 1871年10月14日-09:00|日本|熊本県熊本市|明治4年9月1日|<開校>熊本洋学校
- 1871年10月14日-09:00|日本|東京都台東区|明治4年9月1日|<開設>梅毒業院[東京千住小塚原]
- 1871年10月15日-09:00|日本| ||明治4年9月2日|官吏月給制が実施される
- 1871年10月17日-09:00|日本|佐賀県|明治4年9月4日|<合併>厳原県、佐賀県(第1次)合併⇒伊万里県
- 1871年10月18日-01:00|ドイツ| |||<初演>ヨハネス・ブラームス《運命の歌》
- 1871年10月18日-09:00|日本|青森県|明治4年9月5日|<統合>弘前県、館県、七戸県、八戸県、黒石県、斗南県⇒弘前県
- 1871年10月18日-09:00|日本|東京都文京区|明治4年9月5日|東京の元聖堂大成殿に文部省直轄の博物館を開設し、物産所蔵の物品を移す
- 1871年10月20日 00:00|イギリス| |||<死去>イギリスの技術者チャールズ・バベッジ/78歳(誕生:17921226)コンピュータの原理を持つ解析エンジンを設計したが製作に失敗した
- 1871年10月20日-09:00|日本| ||明治4年9月7日|田畑で作物を自由に栽培できる田畑勝手作が許される
- 1871年10月21日 00:00|カリヤ諸島/スเปน| |||<就任>スเปน王領カリヤ諸島市民知事「Rafael Bethencourt y Mendoza」(2期目~18720606)
- 1871年10月21日-09:00|日本| ||明治4年9月8日|海軍条例を制定・海軍部設置、水路局を設置(海上水路を測量、航行の安全をはかる)
- 1871年10月22日-09:00|日本|青森県|明治4年9月9日|<合併>黒石県、七戸県、八戸県(第2次)、斗南県、館県合併⇒弘前県
- 1871年10月22日-09:00|日本|東京都千代田区|明治4年9月9日|江戸城より初の午砲、正午を知らせる
- 1871年10月23日-09:00|日本|福島県福島市|明治4年9月10日|<町制>福島村が福島町になる
- 1871年10月24日 06:00|アメリカ| |||ロス・アンゼルスで中国人に対する人種暴動発生
- 1871年10月25日-09:00|日本| ||明治4年9月12日|明治政府の兵部省海軍部内に水路局が造られた
- 1871年10月25日-07:00|日本|北海道函館市|明治4年9月12日|<函館明治4年の大火「切見世火事」>夜中の午前2時、坂町二丁目にあった局店(下級売春宿、切店、切見世とも)から出火、延々31時間も家々を焼いて翌朝9時に鎮火/出火場所の山之上町、茶屋町の遊郭街を初め、天神町二丁目から六丁目、下新町一、二丁目、仲新町二丁目から五丁目あたりが焼失/1074軒が焼失、そのほか土蔵2棟、物置93棟、神社と御堂12棟が焼失
- 1871年10月26日 00:00|リベリア| |||<就任>リベリア共和国大統領「最高経営委員会:チャールズ・ベネディクト・ダンバー/レジナルド・オガスタス・シャーマン/エイモス・ヘリング」(~11.4)
- 1871年10月26日-09:00|日本| ||明治4年9月13日|横浜で初めての野球の試合が9人のアメリカ人居留民とアメリカ軍艦「コロド号」から選ばれた9人との間で行われた
- 1871年10月27日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ケリクアランド西州酋長(カプティン)「ジヨセフ・ミラード・オーペン」(~18730110)
- 1871年10月27日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||イギリスが南アフリカのキンバリーとケリクアランドを併合(ケープ植民地下)
- 1871年10月27日-09:00|日本|北海道札幌市|明治4年9月14日|<遷宮>札幌神社(北海道石狩国札幌郡⇒藻岩村大字圓山)
- 1871年10月30日-01:00|オーストリア| |||<就任>オーストリア首相代行「ルートヴィヒ・フライヘル・フォン・ホツゲタン」(~11.25)
- 1871年10月31日-09:00|日本| ||明治4年9月18日|<改名>日本海軍砲艦「摂津丸」⇒「一番貯蓄船」
- 1871年10月31日-09:00|日本| ||明治4年9月18日|<開設>文部省編輯寮
- 1871年11月-08:00|インドネシア/オーストラリア| |||タウインとジャワ島との間の海底ケーブルが完成
- 1871年11月-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バグダットのワリス「ママト・ラウフ・パシャ」(~1873年5月)

1875迄 (3195件)

- 1871年11月 04:00|サン・マルタン| |||<死去>フランス領サンマルタン島市長「Charles Claude Sainte-Helene Telephe」
- 1871年11月2日-09:00|日本| ||明治4年9月20日|太政官布告:貢米扱方条規ヲ定ム
- 1871年11月2日-09:00|日本|北海道|上磯郡木古内町|明治4年9月20日|「咸臨丸」北海道木古内町泉沢沖で暴風雨により遭難しサキ岬で破船沈没
- 1871年11月3日-05:30|インド| |||<就任>アフリカ国統治者(ラオ)「チャトラパティ・シン」(~19220326没)
- 1871年11月4日 00:00|リベリア| |||<就任>リベリア共和国大統領「ジェームス・スキプリング・スミス・シニア」(~18720101)
- 1871年11月5日-09:00|日本| ||明治4年9月23日|散髪・帯刀の自由を認める
- 1871年11月5日-09:00|日本|青森県|明治4年9月23日|<改称>弘前県を改称→青森県
- 1871年11月6日-09:00|日本| ||明治4年9月24日|太政官制改正(納言を廃し左右大臣を置く)
- 1871年11月6日-09:00|日本| ||明治4年9月24日|太政官布告:夫米永銭ヲ廃ス
- 1871年11月9日-02:00|ギリシャ| |||<就任>ギリシャ閣僚評議会議長「トシヴ・ロス・アント・レア・ザ・イム」(2回目~18720106)
- 1871年11月9日-09:00|日本|東京大学|明治4年9月27日|<設立>司法省明法寮
- 1871年11月10日-09:30|オーストリア| |||<就任>南オーストリア植民地政府首相「アサー・ブライス」(2期目~18720122)
- 1871年11月11日 00:00|イギリス/カナダ| |||ケック要塞から最後のイギリス駐屯軍が撤退す
- 1871年11月11日-09:00|日本| ||明治4年9月29日|神祇官中に御巫、権御巫が設置
- 1871年11月12日-09:00|日本| ||明治4年9月30日|太政官布告:旧藩ヲ農商ニ許ス所ノ帯刀扶持米諸役免除等ヲ禁止ス
- 1871年11月13日-05:30|インド/フランス| |||<就任>フランス領インド総督「ピエール・アリスティド・ファロン」(~1875年)
- 1871年11月13日-03:30|イラン| |||<就任>ペルシャ大宰相「ミルザ・ホセイン・カン・モシール・ウッタウラ・セハ・サラル」(~18730914)
- 1871年11月13日-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国首相「メイハルト・グロフ・ロニヤイ・ナギ・ロニヤイ・エス・ヴァーサロスナメー」(~18721205)
- 1871年11月13日 00:00|イギリス| |||<就任>初代ダファリン伯「フレデリック・テンポル・ハミルトン=テンポル=ブラックウット」(⇒18881117初代ダファリン=エウア侯~19020212死去)
- 1871年11月13日-09:00|日本|北海道|明治4年10月|北海道有珠郡の本願寺道路が完成
- 1871年11月13日-09:00|日本|龍谷大学|明治4年10月|学林敷地の土地により本願寺廓内へ移転
- 1871年11月14日-01:00|オーストリア/ハンガリー| |||<就任>オーストリア=ハンガリー帝国帝国・王室・外務大臣「ギユラ・グラーフ・アントラー・フォン・ツイク・シェンキラー・ウント・クラナ=ネーホフ」(~18791002)
- 1871年11月15日 00:00|カナダ/オランダ| |||<就任>オランダ領ゴールト=ニコスト総督「ジョン・ヘレナス・ファーガソン副総督」(~18720406)
- 1871年11月15日-09:00|日本| ||明治4年10月3日|<廃止>宗門人別帳
- 1871年11月16日-09:00|日本|東京都文京区|明治4年10月4日|湯島大成殿を博物館展覧場にする(東京国立博物館・国立科学博物館の前身)
- 1871年11月17日 06:00|アメリカ| |||<設立>全米ライフル協会
- 1871年11月17日-09:00|日本|香川県|明治4年10月5日|<編入>丸亀県、倉敷県内の数村・島を編入
- 1871年11月20日-09:00|日本| ||明治4年10月8日|太政官布告:由来ノ由緒ヲ以テ郷土百姓町人等ノ地子免除ヲ廃ス
- 1871年11月20日-09:00|日本|福島県いわき市|明治4年10月8日|<死去>安藤信正(53歳、文政2(1819)年11月25日生)元陸奥磐城平藩主、寺社奉行・若年寄・老中(公武合体論者)
- 1871年11月21日-02:00|南アフリカ| |||<就任>南アフリカ共和国国家大統領代行「ダニエル・ヤコブス・エラスムス」(~18720701)
- 1871年11月21日-09:00|日本|高知県|明治4年10月9日|岩崎弥太郎、土佐開成商社を設立
- 1871年11月22日-09:00|日本|京都府京都市下京区|明治4年10月10日|「京都博覧会」開催(~11月11日)[会場]西本願寺大書院[主催]京都博覧会社(三井八郎右衛門、小野善助、熊谷直孝)[入場者]11,455人/日本最初の博覧会
- 1871年11月24日-09:00|日本|神奈川県横浜市|明治4年10月12日|クロスビー、横浜にミッションホームを設立
- 1871年11月24日-09:00|日本|鳥取県|明治4年10月12日|鳥取県日野郡多里村ほか村々で一揆
- 1871年11月25日-01:00|オーストリア| |||<就任>オーストリア首相「アドルフ・ヴィルヘルム・ダニエル・フュルスト・アウアースペルグ」(~18790215)
- 1871年11月25日-09:00|日本|兵庫県|明治4年10月13日|<播但一揆>旧生野藩領で住民5000人が穢多解放・地租改正に反対し暴動(~16日)
- 1871年11月26日-09:00|日本| ||明治4年10月14日|<死去>黒駒勝蔵(40歳)侠客、尊王攘夷派志士。明治政府に捕縛され、処刑された
- 1871年11月26日-09:00|日本| ||明治4年10月14日|太政官布告:六十六部(廻国修行)ヲ禁止
- 1871年11月27日-09:00|日本| ||明治4年10月15日|三井組が大蔵省兌換証券(拾円・五円・壹円の3種)発行
- 1871年11月27日-09:00|日本|東京都台東区|明治4年10月15日|鎮火神社を創建、祭神を秋葉大権現と勘違いし地名が秋葉原に
- 1871年11月30日-09:00|日本| ||明治4年10月18日|従来の養老扶持を改め、米寿の祝いを下賜
- 1871年11月30日-09:00|日本|鹿児島県肝属郡南大隅町|明治4年10月18日|佐多岬燈台(鹿児島県肝属郡南大隅町)竣工
- 1871年12月-09:30|オーストリア| |||タスマニアのビショフ山で世界でも有数のスズ鉱が発見される/オーストリアは世界の主要なスズ産地となる
- 1871年12月-05:30|インド| |||<就任>テリガール国ラジャ「ブラタップ・シャー」(~18870206没)
- 1871年12月-01:00|フランス| |||<初演>シャルル・ガミーユ・サンサーンス《英雄的行進曲変奏長調》
- 1871年12月 05:00|エクアドル| |||チンボラソの中部高地地方でFernando Daqui lemaが反乱を起こす
- 1871年12月 06:00|アメリカ| |||アメリカ海軍アメリカ海軍クルーザー「チャタヌーガ」(3043t)リーク・アイトンにてトック内で流氷と衝突し沈没(⇒1872.1,売却)
- 1871年12月4日-01:00|ドイツ| |||帝国金貨の鑄造に関する法律制定/標準鑄貨として「帝国金貨」通用、金1ポンド

1875迄 (3195件)

当たり139.5個の金貨製造/金貨の10分の1が帝国の計算単位となるマルク/1マルクの100倍への細分化

- 1871年12月4日-09:00|日本| ||明治4年10月22日|<死去>壬生水石(82歳)画家、篆刻家
- 1871年12月4日-09:00|日本|東京都|明治4年10月22日|<死去>6代市川團蔵(72歳)歌舞伎役者
- 1871年12月5日-09:00|日本|神奈川県横須賀市|明治4年10月23日|横須賀造船所が工部省の管轄にかわる
- 1871年12月6日-09:00|日本| ||明治4年10月24日|東京・長崎間に電信が架設
- 1871年12月6日-09:00|日本|大分銀行|明治4年10月24日|<設立>(株)天保義社[大分]
- 1871年12月6日-09:00|日本|東京都|明治4年10月24日|<死去>剣術家(神道無念流)「齋藤弥九郎」74歳
- 1871年12月7日-01:00|ベルギー| ||<就任>ベルギー内閣長官「テオドール・マイラント伯爵ハルテルミーンネ」(3回目~18740821)
- 1871年12月7日 05:00|ベルギー| ||<就任>ベルギー共和国閣僚評議会議長(首相)「ドミニク・ド・フレイ」(1回目~18720722)
- 1871年12月8日-09:00|日本|東京都千代田区|明治4年10月26日|東京九段でフランスの「スリイサーカス」による日本初のサーカス興業
- 1871年12月10日-09:00|日本| ||明治4年10月28日|府県官制を制定。府知事・県知事が定められる
- 1871年12月10日-09:00|日本| ||明治4年10月28日|普化宗・虚無僧特権が廃止され、尺八も一般化
- 1871年12月10日-09:00|日本|群馬県|明治4年10月28日|<合併>安中県、伊勢崎県、小幡県、高崎県、七日市県、沼田県、前橋県、岩鼻県を合併、佐野県[勢多郡・緑野郡]、岩槻県[那波郡・勢多郡]、松嶺県勢多郡、泉県勢多郡、淀県勢多郡の各飛地領が編入→群馬県(第1次)(群馬郡高崎町に県庁を設置、上野国のうち利根郡・吾妻郡・勢多郡・群馬郡・碓氷郡・那波郡・甘楽郡・佐佐郡・片岡郡・多胡郡・緑野郡を管轄、一時的に新田郡・山田郡の前橋県の管轄地域も管轄)
- 1871年12月12日-05:30|インド/ポルトガル| ||<就任>ポルトガル領インド総督「ホセ・ド・マテウ・エウート」(~18750510)
- 1871年12月12日-09:00|日本| ||明治4年11月|賤民の裸体御禁止
- 1871年12月12日-09:00|日本|愛知県|明治4年11月|<発行>愛知県初の新聞「名古屋新聞」
- 1871年12月12日-09:00|日本|秋田県|明治4年11月|<返還>秋田藩、運輸船「立象丸」⇒日本政府
- 1871年12月12日-09:00|日本|神奈川県横浜市|明治4年11月|横浜市、市内にはじめて板囲いの共同便所を設置
- 1871年12月12日-09:00|日本|高知県|明治4年11月|<移籍>土佐藩「紅葉ノ賀」(1866年、New York & Philadelphia S. S. Co., 「U. S. Nautilus」Jeremiah Simonson & Co., New York建造進水→1868年、Russell & Co., Shanghaiに売却→1868年、Alt Co., Japanに売却→1870年、土佐藩(高知)に売却、「紅葉ノ賀」と改名)⇒九十九商会(大阪)
- 1871年12月12日-09:00|日本|高知県|明治4年11月|<移籍>土佐藩「鶴」⇒九十九商会(大阪)「千年丸」と改名
- 1871年12月13日-09:00|日本| ||明治4年11月2日|県知事を県令とし、参事を府県に置く
- 1871年12月13日-09:00|日本|青森県|明治4年11月2日|<編入>江刺県の一部を編入→青森県(陸奥国一円、松前[渡島国のうち福島郡・津軽郡・檜山郡・爾志郡]を管轄)
- 1871年12月13日-09:00|日本|秋田県|明治4年11月2日|<合併>秋田県、岩崎県、本荘県、矢島県、亀田県、江刺県鹿角郡が合併→秋田県(陸奥国のうち鹿角郡、羽後国のうち平鹿郡・雄勝郡・仙北郡・由利郡・川辺郡・秋田郡・山本郡を管轄)
- 1871年12月13日-09:00|日本|岩手県|明治4年11月2日|<合併>一関県、胆沢県、登米県登米郡・栗原郡・本吉郡、仙台県玉造郡が合併→一関県(陸奥国のうち本吉郡・登米郡・栗原郡・玉造郡・気仙郡、陸奥国のうち胆沢郡・江刺郡・磐井郡を管轄);盛岡県は陸奥国のうち閉伊郡・和賀郡・稗貫郡・紫波郡・岩手郡・九戸郡を管轄
- 1871年12月13日-09:00|日本|愛媛県宇和島市|明治4年11月2日|宇和上灘騒動おこる(翌日鎮圧)
- 1871年12月13日-09:00|日本|京都府|明治4年11月2日|<合併>久美浜県、福知山県、舞鶴県、峯山県、宮津県他が合併→豊岡県(丹後国一円、但馬国一円、丹波国のうち多紀郡・氷上郡・天田郡を管轄)
- 1871年12月13日-09:00|日本|兵庫県|明治4年11月2日|<合併>明石県、赤穂県、安志県、小野県、龍野県、林田県、三日月県、三草県、山崎県、生野県(加西郡、多可郡、神西郡、宍粟郡)が合併→姫路県(播磨国一円を管轄);出石県、柏原県、篠山県、村岡県、生野県(但馬国の管轄地域)他が合併→豊岡県(丹後国一円、但馬国一円、丹波国のうち多紀郡・氷上郡・天田郡を管轄);生野県廃止
- 1871年12月13日-09:00|日本|福島県|明治4年11月2日|<合併>泉県、磐城平県、棚倉県、中村県、三春県、湯長谷県が合併→平県(磐城国のうち宇多郡(一部)・行方郡・標葉郡・田村郡・磐城郡・石川郡・白川郡・磐前郡を管轄);二本松県、福島県(第1次)、白河県が合併→二本松県(磐城国のうち白河郡、岩代国のうち信夫郡・安達郡・安積郡・岩瀬郡・伊達郡を管轄);若松県は岩代国のうち会津郡・耶麻郡・大沼郡・河沼郡および越後国蒲原郡のうち旧会津藩領の区域を管轄
- 1871年12月13日-09:00|日本|宮城県|明治4年11月2日|<合併>仙台県、角田県、登米県が合併→仙台県(磐城国のうち宇多郡(一部)・亘理郡・伊具郡・苅田郡、陸奥国のうち牡鹿郡・桃生郡・遠田郡・志田郡・賀美郡・黒川郡・宮城郡・名取郡・柴田郡を管轄)
- 1871年12月13日-09:00|日本|山形県|明治4年11月2日|<改称>米沢県が改称→置賜県(羽前国のうち置賜郡(一部)を管轄)
- 1871年12月13日-09:00|日本|山形県|明治4年11月2日|<合併>山形県、上山県、新庄県、松嶺県村山郡、酒田出張所村上・置賜郡が合併→山形県(羽前国のうち村山郡・置賜郡(一部)・最上郡を管轄);松嶺県田川・飽海郡、大泉県、山形県酒田出張所が合併→酒田県(羽前国のうち田川郡、羽後国のうち飽海郡を管轄)
- 1871年12月14日-09:00|日本| ||明治4年11月2日|太政官布告:盲人/官職ヲ廢シ針治按摩等ノ家業随意ヲシム
- 1871年12月16日-09:00|日本|島根県|明治4年11月5日|<合併>広瀬県、松江県、母里県→島根県
- 1871年12月16日-09:00|日本|東京都|明治4年11月5日|<編入>東京府、品川県[荏原郡85カ村、豊島郡のうち26カ村、多摩郡のうち55カ村]を編入
- 1871年12月17日-09:00|日本|佐賀県|明治4年11月6日|伊万里県管下の高島、蔭の尾島、伊王島、神の島、大山、出津

1875迄 (3195件)

、黒崎の村々のキリタン67人が捕縛→12/19投獄

- 1871年12月18日-01:00|スロベニア/ドイツ| ||<就任>ドイツ軍スロベニア地方長官「アレクサンダー・グラーフ・アウアースペルク」(~18720703)
- 1871年12月18日 04:00|パラグアイ| ||<就任>パラグアイ共和国大統領代行「サルバドール・シルベストル・デル・ロサリオン・ラ・ス・グアス」(~18741125)
- 1871年12月19日-08:00|台湾/日本| ||明治4年11月8日|<宮古島島民遭難事件>琉球王国の首里王府に年貢を納めて帰途についた宮古、八重山の船4隻のうち、宮古船の1隻が台湾近海で遭難し、台湾東南海岸に漂着した69人のうち3人が溺死(1名は高齢のため脱落説あり)、台湾山中をさまよった生存者のうち54名が台湾原住民によって殺害された(8日)
- 1871年12月20日-09:00|日本| ||明治4年11月9日|兵部省所管「大坂丸」護送船に定める
- 1871年12月20日-09:00|日本|兵庫県|明治4年11月9日|<改称>姫路県改称→飾磨県
- 1871年12月21日-01:00|スペイン| ||<就任>スペイン王国閣僚評議会議長Praxedes Mateo Sagasta[立憲党](~18720526)
- 1871年12月22日 00:00|イギリス| ||<死去>初代エルンスト・ロー伯「エドワード・ロウ」廃絶
- 1871年12月22日-09:00|日本|東京都千代田区|明治4年11月11日|九段坂上招魂社前に燈台御建立成りて、今夜より燈火を点ぜらる
- 1871年12月23日-03:30|イラン| ||イラン・クワン地震(M7.2)死者2千人
- 1871年12月23日-09:00|日本/アメリカ/ヨーロッパ| ||明治4年11月12日|岩倉使節団/岩倉具視を特命全権大使とする外交使節団がアメリカとヨーロッパ 歴訪の船旅に出発/木戸孝允、大久保利通、伊藤博文、山口尚芳ら46名/その他初の子留学生津田梅子、永井繁子ら5人の少女など/~1873年
- 1871年12月24日-01:00|イタリア| ||<初演>ジュゼッペ・フォルツェーノ・フランチェスコ・ヴェルディ《歌劇「アイダ」》カポのオペラハウス
- 1871年12月25日-09:00|日本| ||明治4年11月14日|兵部省所管「東京丸」護送船(准四等船)と定められる
- 1871年12月25日-09:00|日本|茨城県|明治4年11月14日|<合併>笠間県、宍戸県、下館県、下妻県、松岡県、水戸県が合併、豊岡県管轄の常陸国真壁郡、淀県管轄の常陸国真壁郡の飛地領を編入→茨城県(常陸国のうち多賀郡・久慈郡・那賀郡・茨城郡・真壁郡、河内国古市郡・石川郡の飛地領を管轄);麻生県、石岡県、土浦県、志筑県、牛久県、若森県、松川県、龍崎県、宮谷県常陸国(河内郡・行方郡・鹿島郡)と他下総国3県を統合、群馬県管轄の常陸国河内郡・筑波郡の飛地領を編入→新治県(県庁は新治郡土浦町の土浦城本丸御殿に設置、常陸国のうち新治郡・筑波郡・河内郡・信太郡・行方郡・鹿島郡を管轄)
- 1871年12月25日-09:00|日本|大分県|明治4年11月14日|<合併>臼杵県、岡県、杵築県、佐伯県、日出県、日田県、府内県、森県が合併、熊本県のうち豊後国[大分郡のうち53村、海部郡のうち39村、直入郡のうち6村]を移管→大分県(豊後国一円を管轄)
- 1871年12月25日-09:00|日本|鹿児島県|明治4年11月14日|鹿児島県は大隅国のうち熊本郡・馭謨郡、薩摩国一円、ほか琉球国を管轄
- 1871年12月25日-09:00|日本|神奈川県|明治4年11月14日|<合併>六浦県(相模川以東)、額田県管轄の相模国高座郡の飛地領を編入、入間県(伊奈村・留原村・山田村・小中野村・小和田村・館谷村・高尾村・五日市村、本宿村・府中宿・是政村・常久村・上染屋村・下染屋村・押立村・中河原村・四ツ谷村・小田分村・人見村・車返村、中藤村・横田村・岸村・三ツ木村)、旧前橋県(養沢村)、旧龍ヶ崎県(乙津村)、旧西端県(入野村・深沢村・戸倉村・横沢村・三内村・網代村)を移管→神奈川県(相模国のうち三浦郡・鎌倉郡・高座郡、武蔵国のうち橋樹郡・久良岐郡・都筑郡を管轄);荻野山中県、小田原県、六浦県(相模川以西)、葦山県伊豆国一円[田方郡70村・君沢郡70村・賀茂郡129村・那賀郡18村・伊豆諸島]が合併、額田県管轄の伊豆国田方郡・加茂郡の飛地領を編入→足柄県(相模国のうち足柄上郡・足柄下郡・愛甲郡・淘綾郡・津久井郡、伊豆国一円を管轄)
- 1871年12月25日-09:00|日本|熊本県|明治4年11月14日|<合併>長崎県天草郡91村、人吉県、熊本県[旧高瀬藩・宇土藩]が合併→八代県(肥後国のうち下益城郡・宇土郡・球磨郡・葦北郡・八代郡・天草郡を管轄);熊本県は肥後国のうち玉名郡・山鹿郡・菊池郡・山本郡・阿蘇郡・託摩郡・飽田郡・合志郡・上益城郡を管轄
- 1871年12月25日-09:00|日本|群馬県|明治4年11月14日|<合併>館林県が栃木県に合併
- 1871年12月25日-09:00|日本|埼玉県|明治4年11月14日|<合併>浦和県・岩槻県・忍県を合併、群馬県管轄の武蔵国埼玉郡、泉県管轄の武蔵国埼玉郡の飛地領を編入→埼玉県(武蔵国のうち埼玉郡・葛飾郡(一部)・足立郡(一部)を管轄、伊勢国員弁郡・朝明郡・三重郡の飛地領も当面の間は管轄);川越県・品川県(新座郡・入間郡)・葦山県武蔵国[入間郡のうち108村・高麗郡のうち91村・比企郡のうち82村]を統合、群馬県管轄の武蔵国入間郡・高麗郡・秩父郡・大里郡・比企郡・榛沢郡・那賀郡・児玉郡・多摩郡、賀美郡・幡羅郡、新座郡、額田県管轄の武蔵国多摩郡、榛沢郡の飛地領を編入→入間県(県庁は引き続き入間郡川越町の川越城本丸御殿に設置、武蔵国のうち横見郡・入間郡・秩父郡・男衾郡・大里郡・榛沢郡・賀美郡・幡羅郡・比企郡・新座郡・那賀郡・児玉郡・高麗郡・多摩郡(一部)、元川越県管轄の近江国甲賀郡・蒲生郡・野洲郡・高島郡の飛地領も当面の間は管轄)
- 1871年12月25日-09:00|日本|佐賀県|明治4年11月14日|<合併>小城県、鹿島県、唐津県、蓮池県が合併→伊万里県(肥前国のうち松浦郡(一部)・藤津郡・杵島郡・佐賀郡・神崎郡・三根郡・養父郡・基肄郡、対馬国一円を管轄)
- 1871年12月25日-09:00|日本|千葉県|明治4年11月14日|<合併>佐倉県、古河県、関宿県、結城県、生実県、曾我野県、葛飾県の7県が合併、豊岡県の下総国猿島郡、淀県の下総国相馬郡・印旛郡・埴生郡のうちの各飛地領を編入→印旛県(下総国のうち結城県・猿島郡・葛飾郡・相馬郡・岡田郡・豊田郡・千葉郡・埴生郡・印旛郡、元古河県管轄の美作国久米南条郡、摂津国島下郡・兎原郡・西成郡・住吉郡の飛地領も当面の間は管轄);多古県、小見川県、高岡県と他常陸国8県が統合、群馬県管轄の下総国香取郡・海上郡、額田県管轄の下総国香取郡・匝瑳郡、淀県管轄の下総国香取郡、津県管轄の下総国香取郡の飛地領を編入→新治県(下総国のうち香取郡・匝瑳郡・海上郡を管轄)
- 1871年12月25日-09:00|日本|千葉県|明治4年11月14日|<合併>飯野県、一宮県、大多喜県、加知山県、菊間県、久留

- 里県、小久保県、桜井県、佐貫県、館山県、鶴舞県、鶴牧県、長尾県、花房県、松尾県が合併、額田県管轄の上総国武射郡・望陀郡、吉見県管轄の上総国望陀郡の飛地領を編入→木更津県(群馬県管轄の上野国邑楽郡・新田郡・山田郡、下野国安蘇郡・足利郡、秋田県管轄の下野国那賀郡、額田県管轄の上野国邑楽郡・新田郡、下野国安蘇郡、彦根県管轄の下野国安蘇郡、高富県管轄の下野国足利郡、丹南県管轄の下野国足利郡の飛地領も編入;安房国一円、上総国一円を管轄、元鶴牧県管轄の丹波国船井郡、元加知山県管轄の越前国敦賀郡の飛地領も当面の間は管轄)
- 1871年12月25日-09:00|日本|東京都|明治4年11月14日|<合併>品川県、小菅県、東京府(第1次)を合併、彦根県管轄の武蔵国荏原郡・多摩郡の飛地領を編入→改めて東京府(第2次)発足(武蔵国のうち荏原郡・豊島郡・多摩郡(一部)・足立郡(一部)・葛飾郡(一部)を管轄)
- 1871年12月25日-09:00|日本|栃木県|明治4年11月14日|<合併>足利県、佐野県、壬生県、日光県[都賀郡・安蘇郡・足利郡]、吹上県が合併→栃木県、館林県も併合(下野国のうち足利郡・築田郡・寒川郡・安蘇郡・都賀郡、上野国のうち邑楽郡・新田郡・山田郡を管轄、河内国八上郡・丹南郡・丹北郡、大和国葛下郡、近江国滋賀郡、伊勢国三重郡・河曲郡・多芸郡の飛地領も当面の間は管轄);宇都宮県、大田原県、烏山県、黒羽県、茂木県、日光県[那須郡・塩谷郡・芳賀郡・河内郡]が合併、秋田県管轄の下野国河内郡の飛地領を編入→宇都宮県(県庁は河内郡宇都宮の梅が丘に設置、下野国のうち芳賀郡・塩谷郡・那須郡・河内郡)
- 1871年12月25日-09:00|日本|長崎県|明治4年11月14日|<合併>長崎県、大村県、島原県、平戸県、福江県が合併→長崎県(肥前国のうち彼杵郡・高来郡・松浦郡(一部)、壱岐国一円を管轄)
- 1871年12月25日-09:00|日本|長崎大学|明治4年11月14日|<改称>長崎県病院医学校(文部省の所管となる)⇒長崎県病院・長崎医学校
- 1871年12月25日-09:00|日本|福岡県|明治4年11月14日|<合併>中津県、千束県、豊津県が合併、日田県豊前国[企救郡110村、宇佐郡のうち64村]を移管→小倉県(豊前国一円を管轄);秋月県、福岡県が合併→福岡県(筑前国一円を管轄);久留米県、三池県、柳川県が合併→三潞県(筑後国一円を管轄)
- 1871年12月25日-09:00|日本|福島県|明治4年11月14日|<改称>二本松県→福島県(第2次)
- 1871年12月25日-09:00|日本|宮崎県|明治4年11月14日|<合併>佐土原県・高鍋県・延岡県が合併、日田県日向国[臼杵郡5村、児湯郡24村、那珂郡15村、宮崎郡2村、諸県郡4村]・人吉県臼杵郡椎葉地方4村を移管→美々津県(県庁は児湯郡美々津町に設置、日向国のうち那珂郡(一部)・宮崎郡(一部)・諸県郡(一部)・児湯郡・臼杵郡を管轄);飫肥県、高鍋県那珂郡のうち18村、延岡県宮崎郡のうち12村が合併、鹿児島県の日向と大隅のうち本土部分を分離移管→都城県(県庁は諸県郡都城にある都城領主館跡に設置、日向国のうち那珂郡(一部)・宮崎郡(一部)・諸県郡(一部)、大隅国のうち菱刈郡・桑原郡・始良郡・嶺嶽郡・肝属郡・大隅郡を管轄)
- 1871年12月26日-01:00|イタリア/フランス| |||<開通>イタリア・フランス国境のアルプス山脈を貫く初のトンネル「フレイユ鉄道トンネル」
- 1871年12月26日-09:00|日本|愛知県|明治4年11月15日|<合併>岡崎県、刈谷県、挙母県、重原県、田原県、豊橋県、西尾県、西大平県、西端県、半原県が合併、伊那県の旧三河県域を編入→額田県(三河国一円、尾張国のうち知多郡を管轄、美作国久米北条郡、相摸国高座郡、上総国武射郡、下総国匝瑳郡・香取郡、伊豆国田方郡・加茂郡、上野国新田郡・邑楽郡、下野国安蘇郡、武蔵国多摩郡、越前国丹生郡・南条郡・阪井郡、安房国平郡、武蔵国榛沢郡、摂津国豊島郡・川辺郡・能勢郡・有馬郡、上野国新田郡、丹波国何鹿郡、近江国浅井郡・伊香郡・高島郡、上総国望陀郡の飛地領も当面の間は管轄)
- 1871年12月26日-09:00|日本|愛媛県|明治4年11月15日|<合併>今治県、小松県、西条県が合併、倉敷県の伊予国域を編入→松山県(伊予国のうち宇摩郡・野間郡・新居郡・周布郡・桑村郡・越智郡・風早郡・和気郡・温泉郡・伊予郡を管轄);大洲県、新谷県、吉田県が合併→宇和島県(伊予国のうち宇和郡・喜多郡・浮穴郡・久米郡を管轄)
- 1871年12月26日-09:00|日本|岡山県|明治4年11月15日|<合併>備中国鴨方県、生坂県、庭瀬県、足守県、浅尾県、岡田県、高梁県、成羽県、新見県、倉敷県及び備後国1県が合併→深津県(備中国一円、摂津国豊島郡・八部郡、河内国高安郡・大県郡、美濃国池田郡の飛地領も当面の間は管轄);津山県、鶴田県、真島県が統合、豊岡県美作国を編入→北条県(県庁は西北条郡山下の津山城内に設置、印旛県美作国久米南条郡の飛地領を北条県に移管、美作国一円を管轄、讃岐国小豆島の飛地領も当面の間は管轄);岡山県は備前国一円を管轄)
- 1871年12月26日-09:00|日本|香川県|明治4年11月15日|<合併>高松県、丸亀県が合併→(第1次)香川県(讃岐国一円を管轄)
- 1871年12月26日-09:00|日本|高知県|明治4年11月15日|<発足>高知県は土佐国一円を管轄
- 1871年12月26日-09:00|日本|静岡県|明治4年11月15日|<改称>堀江県、静岡県のうち遠江国を合併→浜松県(県庁は敷知郡浜松に設置、遠江国一円を管轄);静岡県は駿河国一円を管轄
- 1871年12月26日-09:00|日本|島根県|明治4年11月15日|<合併>広瀬県、松江県、母里県が合併、浜田県から隠岐を編入→島根県(出雲国一円、隠岐国一円を管轄)
- 1871年12月26日-09:00|日本|徳島県|明治4年11月15日|<改称>徳島県(第1次)改称、兵庫県より淡路国の一部を編入→名東県(阿波国一円、淡路国一円を管轄)
- 1871年12月26日-09:00|日本|鳥取県|明治4年11月15日|<発足>鳥取県は因幡国一円、伯耆国一円を管轄
- 1871年12月26日-09:00|日本|兵庫県|明治4年11月15日|<移転>兵庫県、淡路島の県域を名東県へ移管;(第1次)鳥取県播磨国域3郡(旧福本藩領)を飾磨県へ移管
- 1871年12月26日-09:00|日本|広島県|明治4年11月15日|<合併>倉敷県備後国甲奴郡を編入→広島県(安芸国一円、備後国のうち御調郡・世羅郡・三谿郡・三上郡・奴可郡・甲怒郡・三次郡・恵蘇郡を管轄);備中国10県、備後国福山県を編入→深津県(備後国のうち沼隈郡・深津郡・安那郡・品治郡・蘆田郡・神石郡を管轄)
- 1871年12月26日-09:00|日本|山口県|明治4年11月15日|<合併>岩国県、清末県、豊浦県が合併→山口県(周防国一円、長門国一円を管轄);浜田県は石見国一円を管轄
- 1871年12月27日-01:00|ドイツ| |||ドイツにて印刷の新紙幣発行
- 1871年12月28日-01:00|イタリア| |||イタリア人アントニオ・メンチェ、電話機を発明し特許をとる(ケラム・ベルの発明より5年前)

1875迄 (3195件)

のこと

- 1871年12月28日-09:00|日本|東京都|明治4年11月17日|<編入>東京府, 浦和県豊島郡中29村を編入
- 1871年12月31日-09:00|日本|愛知県|明治4年11月20日|<開校>名古屋県「英語学校」
- 1871年12月31日-09:00|日本|愛知県|明治4年11月20日|<編入>伊那県のうち足助庁が管轄する三河国内の地域を編入→額田県(三河国一円, 尾張国知多郡を管轄)
- 1871年12月31日-09:00|日本|石川県|明治4年11月20日|<分離編入>大聖寺県を編入→金沢県(加賀国一円を管轄); 金沢県域の越中国射水郡を編入→七尾県(能登国一円, 越中国のうち射水郡を管轄)
- 1871年12月31日-09:00|日本|大阪府|明治4年11月20日|<合併>麻田県, 高槻県, 兵庫県[島上・島下・豊島・能勢4郡]を編入, 印旛県摂津国島下郡・西成郡・住吉郡の飛地領を移管→大阪府(摂津国[島上郡・島下郡・豊島郡・能勢郡・西成郡・東成郡・住吉郡]を管轄, 丹波国桑田郡の飛地領も当面の間は管轄)
- 1871年12月31日-09:00|日本|岐阜県|明治4年11月20日|<合併>高山県は筑摩県へ編入
- 1871年12月31日-09:00|日本|東京都中央区|明治4年11月20日|<休業>築地本願寺(築地船板町; 1872年2月22日[明治5年1月14日]<売却>⇒海軍⇒1872年4月3日[明治5年2月26日]銀座大火で類焼)
- 1871年12月31日-09:00|日本|富山県|明治4年11月20日|<改称>(第1次)富山県を改称→新川県(越中国のうち礪波郡・新川郡・婦負郡を管轄)
- 1871年12月31日-09:00|日本|長野県|明治4年11月20日|<合併>飯山県, 岩村田県, 上田県, 小諸県, 須坂県, 松代県, 椎谷県の信濃国部分を合併→長野県(信濃国のうち埴科郡・高井郡・水内郡・佐久郡・更科郡・小県郡を管轄); 高山県, 伊那県, 飯田県, 高島県, 高遠県, 松本県, 名古屋県の信濃部分を合併→筑摩県(飛騨国一円, 信濃国のうち筑摩郡・伊那郡・諏訪郡・安曇郡を管轄)
- 1871年12月31日-09:00|日本|新潟県|明治4年11月20日|<改称>(第2次)佐渡県を改称→相川県(佐渡国一円を管轄)
- 1871年12月31日-09:00|日本|新潟県|明治4年11月20日|<合併>黒川県, 新発田県, 三日月市, 峯岡県, 村上県, 村松県を合併→(第2次)新潟県(越後国のうち蒲原郡・岩船郡を管轄); 清崎県, 椎谷県, 高田県, 与板県を合併→(第2次)柏崎県(越後国のうち頸城郡・古志郡・魚沼郡・荊羽郡・三島郡を管轄)
- 1871年12月31日-09:00|日本|兵庫県|明治4年11月20日|<編入>尼崎県, 三田県, 名東県津名郡を編入, 印旛県摂津国菟原郡の飛地領を移管→兵庫県(摂津国のうち八部郡・兎原郡・武庫郡・川辺郡・有馬郡を管轄, 淡路国津名郡の飛地領も管轄)
- 1871年12月31日-09:00|日本|福井県|明治4年11月20日|<合併>大野県, 勝山県, 丸岡県, 本保県が合併→(第1次)福井県(越前国のうち足羽郡・吉田郡・丹生郡・阪井郡・大野郡を管轄); 鯖江県, 小浜県が合併→敦賀県(若狭国一円, 越前国のうち今立郡・南条郡・敦賀郡を管轄)
- 1871年12月31日-09:00|日本|山梨県|明治4年11月20日|<改称>甲府県を改称→山梨県(甲斐国一円を管轄)
- 1872年-08:00|マレーシア| |||<死去>ジエラブ 統治者(ヤン・テ・イーペ・ルトゥアン・ムタ・ジエラブ)「テンク・ジヤ・ヒン・サブン」
- 1872年-08:00|マレーシア| |||<就任>ジエラブ 統治者(ヤン・テ・イーペ・ルトゥアン・ムタ・ジエラブ)「テンク・エット・ヒン・ジヤ」(~1875年没)
- 1872年-08:00|マレーシア| |||<就任>タンビ 統治者「サイド・アブドゥル・ハミド・イブニ・サイド・シャバン・アル・カドリ」(~1894年没)
- 1872年-06:00|ブータン| |||<就任>英領インド 保護領ブータン首席大臣「キツェツプ・ドルジナムギャル」(~1873年)
- 1872年-05:30|インド| |||<就任>サラガール国ラジャ「ハワニ・プラタップ・シン」(~1889年9月没)
- 1872年-05:30|インド| |||<就任>タラオン国統治者(ジョーペ)「チャタルプ・ジ」(~1895年没)
- 1872年-05:30|インド| |||<就任>ヒハ国統治者(テイワン)「マフム・シン」(~1908年没)
- 1872年-05:30|インド| |||<就任>ラージガル国統治者(ナワブ)「モハマト・アブドゥル・ワシ・カーン」(~1880年10月)
- 1872年-05:30|インド| |||<就任>ラムドゥルグ 国統治者(ラオ)「ヨーグ・ラオ2世パブ・サフ・ハ・ヘ」(~1878年)
- 1872年-05:30|インド| |||<就任>ルガシ国統治者(ラオ・ハートゥル)「ケット・シン」(~1902年没)
- 1872年-04:00|UAE| |||<死去>アジュマーン統治者(ハキム)「Sheikh Humayd ibn Rashid2世 Al Nuaimi」
- 1872年-03:00|カンタ | |||<死去>トロ王国国王「Kyebambe1世 Nyaika」
- 1872年-03:00|イェメン/イギリス| |||<就任>イギリス領アデン理事官「ジョン・ウィリアム・Schneider」(~1878年)
- 1872年-03:00|サウジアラビア| |||<就任>ジャバル・シャマル首長「ムハンマド1世イブン・アブドゥラー・アル・ラシッド」(~1897/1128)
- 1872年-03:00|カンタ | |||<就任>バィマ統治者(オムカマ)「カブ・ゲテ」
- 1872年-03:00|カンタ | |||<就任>ブガブラ統治者(オムカマ)「キタミリケ2世ムティブワ」(~1894年)
- 1872年-03:00|カンタ | |||<就任>ブクワンガ・キ統治者(オムカマ)「ムウオンワ・ムス」
- 1872年-03:00|カンタ | |||<就任>ブンヤ統治者(オムカマ)「ナゴ」(~1897年)
- 1872年-03:00|カンタ | |||<即位>トロ王国国王「Olimi2世 Mukabirere」(~1875年)⇒「Kyebambe2世 Mukarusa」
- 1872年-03:00|イェメン| |||<即位>ラッサー朝イマム「Muhsin ibn Ahmad」(~1876年)
- 1872年-03:00|エチオピア| |||ムブテはハンバオに従属(~1873年)
- 1872年-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト大宰相「ホコス・ヌバル・ハシヤ」⇒「ムハンマド・タウフィーク・ハシヤ王子」(~1878/0828)
- 1872年-02:00|ザンビア| |||<就任>カゼンベ 統治者(ムワ・カゼンベ)「カゼンベ 9世ルウエサ・ムパンガ・マホテ」(1回目~1883年)
- 1872年-01:00|フランス| |||<死去>キース 公「フランソワ・ルイ」
- 1872年-01:00|ペナン| |||<就任>イルシヤ統治者「ウエネ・アグヒヤル2世イランゴヒ」(~1898年)
- 1872年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領セウタ総督(北アフリカ総司令部総督)「Carlos Saenz y Delcourt」(~1873年)
- 1872年-01:00|中央アフリカ| |||<即位>セミア・スルタン国スルタン「セミア」建国(~1912/1012没)
- 1872年 00:00|シエラレオネ| |||<就任>カハカ統治者「ジヤヤ」
- 1872年 00:00|トーゴ| |||<就任>ココッシ統治者(ソマ)「マルバ」(~1875年)
- 1872年 00:00|シエラレオネ| |||<就任>テムネ王国摂政「アリマニ・ラハイ・ブントウ」

1875迄 (3195件)

- 1872年 04:00|プエルトリコ/スペイン| |||<就任>ピエクス島知事「Cayetano Bola y Carbonell」(~1873年)
- 1872年 05:00|タークス・カイコス諸島/イギリス| |||<就任>タークス・カイコス諸島評議会議長「Daniel Thomas Smith」(~18731231)
- 1872年1月-09:30|オーストラリア| |||チャーターズ・タワーズで金の発見
- 1872年1月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサ・ワリス(総督)「Mustafa Sureyya Pasha」(2期目~6月)
- 1872年1月1日-11:30|ノーフォーク島/オーストラリア| |||<就任>ノーフォーク島主任判事「William Quintal」(2期目~18731231)
- 1872年1月1日-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>オランダ領東インド総督「ジェームズ・ラウドン」(~18750326)
- 1872年1月1日-05:30|インド| |||<就任>キリスト国統治者(ターケル)「ライズンゲジ・ジジバイ」(~1905年)
- 1872年1月1日-01:00|スイス| |||<就任>スイス連邦大統領「フリートリッヒ・エミール・ウェルティ」Lib(2期目~12.31)
- 1872年1月1日 00:00|リベリア| |||<就任>リベリア共和国大統領「ジョセフ・ジェンクス・ロバート」(2回目~18760103)
- 1872年1月1日-09:00|日本| ||明治4年11月21日|<死去>森一鳳(74歳)絵師
- 1872年1月1日-09:00|日本/ロシア/デンマーク| ||明治4年11月21日|デンマークの大北(グレート・ノーザン)電信会社が長崎〜ウラジオストクの通信を開始
- 1872年1月1日-09:00|日本|東京都|明治4年11月21日|<廃止>触頭制度
- 1872年1月2日-09:00|日本| ||明治4年11月22日|太政官布告:宮内省中内豎ヲ置ク
- 1872年1月2日-09:00|日本| ||明治4年11月22日|長崎東浜町326番地に永見松田商社が開業。資本金5万円/為替、貸金を業務とし西日本の近代的金融機関の先駆となる
- 1872年1月2日-09:00|日本|愛知県|明治4年11月22日|<合併>犬山県を合併→名古屋県(尾張国のうち春日井郡・愛知郡・葉栗郡・海東郡・海西郡・丹羽郡・中島郡を管轄,信濃国伊那郡の飛地領も当面の間は管轄)
- 1872年1月2日-09:00|日本|大阪府|明治4年11月22日|<合併>堺県、岸和田県、丹南県、伯太県、吉見県が合併,若松県和泉国南郡の飛地領を編入→堺県(河内国一円、和泉国一円を管轄)
- 1872年1月2日-09:00|日本|岐阜県|明治4年11月22日|<合併>笠松県、今尾県、岩村県、大垣県、加納県、郡上県、高富県、苗木県、野村県が合併→岐阜県(美濃国一円を管轄,越前国南条郡・丹生郡・大野郡の飛地領も当面の間は管轄)
- 1872年1月2日-09:00|日本|京都府|明治4年11月22日|<合併>綾部県、亀岡県、園部県、山家県、淀県を合併→京都府(山城国一円、丹波国のうち船井郡・何鹿郡・桑田郡を管轄)
- 1872年1月2日-09:00|日本|滋賀県|明治4年11月22日|<合併>大津県、西大路県、水口県、膳所県、山上県が合併→大津県(近江国のうち高島郡・滋賀郡・栗田郡・野洲郡・甲賀郡・蒲生郡を管轄);朝日山県、彦根県、宮川県が合併→長浜県(近江国のうち神崎郡・愛知郡・犬上郡・坂田郡・浅井郡・伊香郡を管轄)
- 1872年1月2日-09:00|日本|東京都|明治4年11月22日|<死去>2代片岡我當(33歳/9代片岡仁左衛門)歌舞伎役者
- 1872年1月2日-09:00|日本|東京都墨田区|明治4年11月22日|<大相撲>明治4年11月場所[東京本所回向院](~10日間)幕内優勝:(東大関)境川,6勝0敗1分1預2休
- 1872年1月2日-09:00|日本|東京都中央区|明治4年11月22日|十四代目市川羽左衛門、市村座を村山又三郎に譲る(翌年村山座に)
- 1872年1月2日-09:00|日本|東京都港区|明治4年11月22日|工部省勸工寮,東京赤坂溜池葵町に活字局を開設し,活字製造場を設置,鉛活字の製造販売を開始
- 1872年1月2日-09:00|日本|奈良県|明治4年11月22日|<合併>五條県,橿原県,小泉県,郡山県,芝村県,高取県,田原本県,柳生県,柳本県が合併→(第2次)奈良県(大和国一円を管轄)
- 1872年1月2日-09:00|日本|三重県|明治4年11月22日|<合併>亀山県,神戸県,桑名県,菰野県,鳥羽県,長島県が合併,和歌山県紀伊国牟婁郡の一部を編入→安濃津県(伊賀国一円,伊勢国のうち安濃郡・安芸郡・鈴鹿郡・河曲郡・三重郡・桑名郡・員弁郡・朝明郡を管轄);伊勢国度会県,久居県,志摩国鳥羽県が合併→度会県(県庁を度会郡山田岩淵町箕曲に設置,志摩国一円,伊勢国のうち多気郡・度会郡・飯野郡・飯高郡・一志郡,紀伊国のうち牟婁郡の一部を管轄)
- 1872年1月2日-09:00|日本|和歌山県|明治4年11月22日|<合併>新宮県,田辺県が合併,五條県旧高野山領を編入→和歌山県(紀伊国のうち伊都郡・那賀郡・海部郡・有田郡・日高郡・牟婁郡の一部を管轄)
- 1872年1月3日-09:00|日本|神奈川県|明治4年11月23日|<編入>東京府多摩郡中32村を神奈川県へ移管
- 1872年1月3日-09:00|日本|東京都|明治4年11月23日|<編入>長浜県世田谷飛地(旧・彦根藩飛地領)が廃され,その一部を東京府に併合(残部は神奈川県に併合された)
- 1872年1月3日-09:00|日本|東京都|明治4年11月23日|東京府、邏卒(警察官)制度採用し取締組置く/東京府達「取締組大体規則」によってその組織、編成、職務が定められた/取締組は東京府下を6つの大区にわけ,1大区ごとに取締所(警察署)1か所を設けて総長(署長)1名,差添役4名,大区は16小区に分け,1小区ごとに屯所1か所を設けて組頭1名,組子30名(内3名が小頭)を置いた/全体で第一線の屯所96か所に組頭の下,組子の邏卒2880名が配置された/その勤務は隔日で,各小区ごとに当番の15名が5名づつ3交代で昼夜の別なく屯所において立ち番、見張りを行うほか,犯罪捜査のための密行や検索、警邏取締を行った
- 1872年1月4日-05:30|スリナム/イギリス| |||<就任>イギリス領セイロン総督代行「ヘンリー・ターナー・アウイング」(~3.4)
- 1872年1月4日-09:00|日本|千葉県成田市|明治4年11月24日|<死去>井上正和(39歳)元下総高岡藩主
- 1872年1月5日-09:00|日本| ||明治4年11月25日|学校が,文部省の管轄になる
- 1872年1月5日-09:00|日本|長野県長野市|明治4年11月25日|<松代騒動,牛札騒動(信濃国松代藩)>更級郡山田村(現・千曲市)の名主の弟であった小平甚右衛門は,周辺の農民に対して松代城下(現・長野市)への強訴を呼びかけ,一揆勢は千曲川畔に集結し,羽尾村の大黒屋宅を焼き払った
- 1872年1月6日-03:30|イラン| |||イラン・クチャン地震(M6.3)死者4千人
- 1872年1月6日-02:00|ギリシャ| |||<就任>ギリシャ閣僚評議会議長「テミトリオス・ゲオルギオウ・カウーラリス」(6回目~7.20)
- 1872年1月6日-02:00|日本|長野県長野市|明治4年11月26日|<松代騒動,牛札騒動(信濃国松代藩)>朝には約3000

1875迄 (3195件)

- 人が城下に突入。事態を重く見た知藩事の真田幸民は金10両に対して粃7俵として石代相場を相対的に引き下げること、藩札の額面通用、太政官札との等価兌換を約束し、甚右衛門は一旦帰村したが、一揆は領内全域に波及し、酒屋、米穀商、質屋などが打ちこわしに遭った
- 1872年1月6日 10:00 | 日本 | 長野県長野市 | 明治4年11月26日 | <松代騒動、牛札騒動(信濃国松代藩)>夜、惣一揆となって再び城下に突入し、真田桜山大参事や高野広馬権大参事以下、藩の要人の邸宅がごとごとく焼き討ちされ、隣接する善光寺領でも贖金を流通させた商人が打ちこわされた
- 1872年1月7日-09:00 | 日本 | || 明治4年11月27日 | 政府、県治条例を定め、府県奉職規則を廃止/窮民一時救助規則制定>新政府は全国一律の新しい“被災者救済制度”の一つをスタート、被災者に食料15日分と家屋の再建費を貸与するとした
- 1872年1月7日-09:00 | 日本 | 長野県長野市 | 明治4年11月27日 | <松代騒動、牛札騒動(信濃国松代藩)>一揆は武装した藩兵の大挙出動により鎮圧
- 1872年1月8日-09:00 | 日本 | 岡山県 | 明治4年11月28日 | 岡山県赤坂郡南佐古田村で一揆
- 1872年1月8日-09:00 | 日本 | 東京都 | 明治4年11月28日 | <区制>東京府が大区小区制を施行、市内外を一括、6大区とする
- 1872年1月8日-09:00 | 日本 | 長野県長野市 | 明治4年11月28日 | <松代騒動、牛札騒動(信濃国松代藩)>藩は直ちに実務者を更迭し、新たに河原均大参事と山寺常山権大参事を中心に藩政を進めることとし、領内を廻村させ、知藩事の諭達を伝えるとともに、財政の逼迫を領民に説得し、併せて嘆願事項を書面で提出させるように指示
- 1872年1月9日-01:00 | デンマーク | ||| <設立認可>デンマーク中央銀行
- 1872年1月9日 03:00 | ブラジル/パラグアイ | ||| <パラグアイとの国境条約締結>ブラジルはパラグアイ地方を割譲させる
- 1872年1月9日-09:00 | 日本 | 東京都 | 明治4年11月29日 | 東京府、裸体での労働・通行を禁止
- 1872年1月9日-09:00 | 日本 | 福島県 | 明治4年11月29日 | <改称>平県、改称→磐前県
- 1872年1月10日-09:00 | 日本 | 愛知県 | 明治4年12月 | 岡谷惣助、愛知七宝会社を発足
- 1872年1月10日-09:00 | 日本 | 愛媛県 | 明治4年12月 | <設立>松山に会社病院回春舎(県下の私立病院のはじめ)
- 1872年1月10日-09:00 | 日本 | 佐賀県 | 明治4年12月 | <移籍>佐賀藩「延年丸」⇒日本國郵便蒸汽船会社(東京)
- 1872年1月10日-09:00 | 日本 | 三重県四日市市 | 明治4年12月 | 山中忠左衛門、四日市で万古焼の焼成に成功
- 1872年1月11日-09:00 | 日本 | || 明治4年12月2日 | 太政官布告:水理堤防条目を改定
- 1872年1月12日-09:00 | 日本/オーストリア/ハンガリー | ||| 明治4年12月3日 | <発効>日本とオーストリア/ハンガリーとの日奥修好通商航海条約(明治2年9月14日(18691018)調印)
- 1872年1月12日-09:00 | 日本 | || 明治4年12月3日 | 明治政府の転覆を謀った罪で外山光輔と愛宕通旭、切腹
- 1872年1月12日-09:00 | 日本 | 岡山県 | 明治4年12月3日 | <分離編入>深津県より、旧鴨方・生坂2県域を岡山県に編入
- 1872年1月13日-09:00 | 日本 | 東京都中央区 | 明治4年12月4日 | 河上彦斎(38歳、尊皇攘夷派の熊本藩士で幕末の四大斬りの一人)日本橋小伝馬町にて処刑
- 1872年1月14日-09:00 | 日本 | || 明治4年12月5日 | 東京-長崎間の郵便開設
- 1872年1月15日 00:00 | イギリス | ||| <死去>10代マー伯(テ・ジュリ)・12代ケリー伯「ウォルター・エングスビー・アースキン」
- 1872年1月15日 00:00 | イギリス | ||| <就任>13代ケリー伯「ウォルター・ハンリー・アースキン」(⇒18750225兼11代マー伯~18880916死去)
- 1872年1月16日-09:00 | 日本 | || 明治4年12月7日 | <解明>明治政府軍艦「甲鉄艦」⇒「東艦」
- 1872年1月16日-09:00 | 日本 | || 明治4年12月7日 | <死去>鉄翁祖門(81歳)臨済宗の僧、画家
- 1872年1月17日 00:00 | シェラレネ/イギリス | ||| <就任>イギリス王領シェラレネ植民地総督代行「ジョン・ジェニングス・ケントール」(2度目~2.27)
- 1872年1月20日-01:00 | スペイン/フィリピン | ||| フィリピンの北で弾薬庫で兵士労働者200名が反乱
- 1872年1月22日-09:30 | オーストリア | ||| <就任>南オーストリア植民地政府首相「ハンリー・アースキン」(5期目~18730722)
- 1872年1月22日-09:00 | 日本 | 岩手県 | 明治4年12月13日 | <改称>(第2次)一関県が改称→水沢県
- 1872年1月22日-09:00 | 日本 | 広島県広島市 | 明治4年12月13日 | 広島細工町より出火、鳥屋町・横町まで燃え広がり、焼失家屋細工町32戸、鳥屋町15戸、横町17戸
- 1872年1月23日-09:00 | 日本 | || 明治4年12月14日 | 治水事業・道路補修などが民間に開放
- 1872年1月23日-09:00 | 日本 | 愛媛県大洲市 | 明治4年12月14日 | <死去>加藤泰儔(89歳)元伊予新谷藩主
- 1872年1月24日-09:00 | 日本 | || 明治4年12月15日 | 広島最初の新聞「日注雑記」第1号県庁の新聞局から刊行
- 1872年1月26日-09:00 | 日本 | || 明治4年12月17日 | 官吏、靴履のまま上庁を許される
- 1872年1月26日-09:00 | 日本 | || 明治4年12月17日 | 軍務官所管「快風丸」兵部省(海軍部)所管となり、石炭輸送に従事
- 1872年1月26日-09:00 | 日本 | 島根県 | 明治4年12月17日 | <分離編入>島根県のうち隠岐国を(第1次)鳥取県に編入
- 1872年1月27日-01:00 | スペイン/キューバ | ||| <ゴメスの率いる第一師団、グアンタモ周辺の戦略的拠点インデイヤを確保>
- 1872年1月27日-09:00 | 日本 | || 明治4年12月18日 | 華族・士族の農工商業営業を許可
- 1872年1月28日-09:00 | 日本 | || 明治4年12月19日 | 太政官布告により銅銭の併行通用を認める/天保通寶=8厘、寛永通寶四文銭=2厘、文久永寶=1厘半、寛永通寶=1厘
- 1872年1月28日-09:00 | 日本 | 長野県中野市 | 明治4年12月19日 | <中野騒動(信濃国中野県)>高井郡高井野村(現上高井郡高山村)から発生した一揆勢約2000人が、羽場村(現同郡小布施町)に集結して中野町(現中野市)に向かい、特権的豪農や商家を打ちこわし、中野県庁を焼き討ちし、県吏を殺害した。高石大参事は逃亡し、松代藩に匿われ謹慎となった。これを受けて松代藩ほか各藩兵が鎮圧に向かう
- 1872年1月29日-09:00 | 日本 | || 明治4年12月20日 | 新律綱領(明治初年の刑法)発布
- 1872年1月29日-09:00 | 日本 | 福井県 | 明治4年12月20日 | <改称>(第1次)福井県、改称→足羽県
- 1872年1月30日-09:00 | 日本 | 長野県中野市 | 明治4年12月21日 | <中野騒動(信濃国中野県)>一揆勢は退散

1875迄 (3195件)

- 1872年1月31日-09:00|日本|東京都中央区|明治4年12月22日|<東京日本橋明治3年難波町の大火>対岸の本所でも火災が起き火消衆の疲労その極に達す
- 1872年2月1日-09:00|日本|茨城県|明治4年12月23日|<編入>利根川寄州開墾地を新治県へ移管
- 1872年2月2日-01:00|フランス| ||フランスのアンリ・デュボア・ロムが開発した人力でプロペラを駆動して操縦する気球が初飛行
- 1872年2月2日 00:00|カナダ/イギリス| ||カナダが、アフリカ西岸のゴールド・コーストの通商拠点をイギリスに譲渡
- 1872年2月4日-09:00|日本|東京都|明治4年12月26日|<設置>司法省「東京裁判所」(裁判所設置の初め)
- 1872年2月4日-09:00|日本|山形県米沢市|明治4年12月26日|米沢藩士雲井竜雄ら12人、謀反の罪で処刑
- 1872年2月5日-09:00|日本| ||明治4年12月27日|新紙幣を発行、旧紙幣(太政官札・民部省札・藩札)引替を公布
- 1872年2月5日-09:00|日本|東京都|明治4年12月27日|東京府下市街地に地券を発行、課税を布告/武家地廃止
- 1872年2月7日-09:00|日本|愛知県碧南市|明治4年12月29日|<死去>石川台嶺(29歳)浄土真宗の僧、大浜騒動の指導者として処刑された
- 1872年2月8日-05:30|インド/イギリス| ||<死去>イギリス領インド帝国副王・総督「メイヤー伯爵チャート・サウスウェル・パーク」暗殺される
- 1872年2月8日-01:00|ドイツ| ||プロシヤ議会在、学校管理法を制定
- 1872年2月8日 00:00|イギリス| ||<死去>6代メイヤー「リチャード・サウスウェル・パーク」
- 1872年2月8日 00:00|イギリス| ||<就任>7代メイヤー「ダートモット・ロバート・ウィンダム・パーク」(~19271231死去)
- 1872年2月8日-09:00|日本|高知県|明治4年12月末|高知県で外国人排斥などを要求する一揆(土佐膏取り一揆)が発生(~翌年1月6日)
- 1872年2月9日-09:00|日本|京都府京都市|明治5年|新京極通誕生(京都随一の繁華街)
- 1872年2月9日-09:00|日本|静岡県伊豆市|明治5年|<開業>「養気館新井」(静岡県伊豆市、→新井旅館)
- 1872年2月9日-09:00|日本|東京都台東区|明治5年|浅草花屋敷で珍鳥、猛獣の飼育を行う<日本の動物園のルーツの地>東京都
- 1872年2月9日-09:00|日本|花園大学|明治5年|<設置>「般若林」[京都・妙心寺]
- 1872年2月9日-05:30|インド/イギリス| ||<就任>イギリス領インド帝国副王・総督代行「ジョン・スレイター卿」(~23日)
- 1872年2月9日 05:00|ハワイ| ||ハワイ大統領宮殿が戦火により焼失
- 1872年2月9日-09:00|日本| ||明治5年1月|<刊行>「今朝春三組査」初代三遊亭圓朝、山々亭有人記
- 1872年2月9日-09:00|日本|岡山大学|明治5年1月|<改称>岡山藩医学館→医学所
- 1872年2月9日-09:00|日本|日本郵船|明治5年1月|<改称>九十九商会→三川商会
- 1872年2月9日-09:00|日本|丸紅|明治5年1月|<創業>伊藤長兵衛「伊藤長兵衛商店」
- 1872年2月9日-09:00|日本|三重県|明治5年1月|度会県で伊勢神宮遷座の流言から一揆が発生
- 1872年2月9日-09:00|日本|長崎県|明治5年1月1日|伊万里県に編入されている旧佐賀藩の飛地、深堀領、諫早領、神代領が長崎県に編入
- 1872年2月9日-09:00|日本|山口県下関市|明治5年1月1日|六連島灯台(石造、初期のものが現存する無塗装の灯台)点灯
- 1872年2月12日 00:00|イギリス| ||<死去>13代マリ伯「アーチルド・ジョージ・ステュアート」
- 1872年2月12日 00:00|イギリス| ||<就任>14代マリ伯「ジョージ・フィリップ・ステュアート」先代の弟(~18950316死去)
- 1872年2月12日-09:00|日本| ||明治5年1月4日|軍人勅諭下賜
- 1872年2月12日-09:00|日本|高知県|明治5年1月4日|<死去>山内豊資(79歳)元土佐藩主
- 1872年2月13日-09:00|日本| ||明治5年1月5日|<死去>3代西川伊三郎(62歳)人形遣い
- 1872年2月13日-09:00|日本|丸紅|明治5年1月5日|<出店>伊藤忠兵衛「紅忠」[大阪]
- 1872年2月14日-01:00|イタリア| ||<就任>聖ヨハネ騎士団グランド・マスター副官「キャヴァレ・イン・伯爵ジョヴァンニ・パツィスタ・フェスキア・サンタ・クロチエ」(~18790328)
- 1872年2月14日-09:00|日本|高知県吾川郡仁淀川町|明治5年1月6日|<死去>竹本長十郎(不明)高知県池川郷の農民、膏取一揆の指導者として処刑された
- 1872年2月16日-09:00|日本|岩手県|明治5年1月8日|<改称>(第2次)盛岡県が改称→岩手県
- 1872年2月16日-09:00|日本|東京都|明治5年1月8日|石油ランプによる神田旅籠町の料理店からの出火で90余戸が類焼
- 1872年2月16日-09:00|日本|宮城県|明治5年1月8日|<改称>仙台県が改称→宮城県
- 1872年2月17日-01:00|ロシア| ||<就任>ロシア・スラヴォニア王国バン代行「アントン・ウァノヴィッチ」(~18730920)
- 1872年2月17日-09:00|日本| ||明治5年1月9日|<死去>徳川貞子(23歳)徳川齊昭の娘、有栖川宮熾仁親王の妃、丹毒のため死去
- 1872年2月17日-09:00|日本| ||明治5年1月9日|再び軍制改革が行われ、従来の「四鎮台」を東京・仙台・名古屋・大阪・広島・熊本の「六鎮台」に改めた
- 1872年2月18日-09:00|日本| ||明治5年1月10日|東海道各駅の伝馬所・貫目改所が廃止され、助郷解散令も出される
- 1872年2月20日 06:00|アメリカ| ||<開館>世界最大級の美術館「メトロポリタン美術館」[ニューヨーク市セントラル・パーク東端]
- 1872年2月21日-09:00|日本| ||明治5年1月13日|出版条例を改正(官吏の寄稿禁止)
- 1872年2月21日-09:00|日本|大阪府大阪市西区|明治5年1月13日|<開場>「文楽座」文楽軒人形浄瑠璃
- 1872年2月21日-08:00|中国| ||清の同治11年1月13日|清軍が、雲南の臨安府でイム教徒軍を破り、馬世徳を焼死させる
- 1872年2月22日-09:00|日本|北海道|明治5年1月14日|明治5年太政官布告第6号:開拓使三井組証券十円以下十銭

1875迄 (3195件)

迄/六種発行

- 1872年2月24日-05:30|インド/イギリス| |||<就任>イギリス領インド帝国副王・総督代行「ネヒア卿フランス・ネヒア・マルキストウン」(~5.3)
- 1872年2月27日 00:00|シエラレオネ/イギリス| |||<就任>イギリス王領シエラレオネ植民地総督「ジョン・ポープ・ヘネシー」(~18730217)
- 1872年2月27日-09:00|日本| ||明治5年1月19日|政府、諸道の駅伝馬所・助郷の廃止、陸運会社の設立を令達
- 1872年2月27日-09:00|日本|滋賀県|明治5年1月19日|<改称>大津県が改称→滋賀県
- 1872年2月28日-09:00|日本| ||明治5年1月20日|<刊行>福沢諭吉「学問のすすめ」
- 1872年2月28日-09:00|日本| ||明治5年1月20日|官制改革により、勅任官・判任官・奏任官に新制度定める
- 1872年2月28日-09:00|日本|東京都|明治5年1月20日|東京府、石油ランプによる火災対策として、この日急遽「注意方」を各区の戸長(戸籍法に基づき東京を行政区分した区の責任者)を通じて一般市民へ布告「不良品の油を使用しない」「ランプの掃除は昼間行い夜になって火のそばではない」「ランプや油の壺を火の近くに置かない」「細かい灯心は使わない」「石油を誤って衣服などにかけたり、ランプを落としたり、転んで油で畳や敷物を汚すと火災の危険がある」「もし火が出た場合決して水をかけてはいけない」など
- 1872年3月-09:30|オーストラリア| |||メルボルンのシスター・ロイアルが焼失
- 1872年3月-04:00|ロシア| |||<開設>モスクワの歴史博物館
- 1872年3月-01:00|ナジヴェリア/イギリス| |||<就任>ロス植民地管理者代理「ジョン・Pope Hennessy」(~6月)
- 1872年3月1日 03:00|ウルクアイ| |||<就任>ウルクアイ東方共和国大統領代理「トマス・ゴメンソ」コロラド党(~18730214)
- 1872年3月1日 06:00|アメリカ| |||米国でイエローストーン国立公園が認定(世界初の国立公園)
- 1872年3月1日-09:00|日本|福岡県北九州市|明治5年1月22日|部埼灯台点灯(石造、初期のものが現存)
- 1872年3月3日 00:00|カナダ/イギリス| |||<就任>イギリス領西アフリカ植民地「ゴールド・コースト」管理責任者「ハーバート・テイラー・アッシュャー」(3回目~18720518)
- 1872年3月3日-09:00|日本| ||明治5年1月24日|兵部省所管護送船「東京丸」運輸船と、「大坂丸」輸送船と定められた
- 1872年3月3日-09:00|日本|東京都|明治5年1月24日|<編入>彦根県所轄荏原郡中10村、長浜県のうち宇奈根村・鎌田村・岡本村・八幡山村・大蔵村・横根村→東京府; <移管>長浜県のうち猪方村・岩戸村・和泉村→神奈川県
- 1872年3月4日-05:30|スリランカ/イギリス| |||<就任>イギリス領セイロン第14代総督「ウィリアム・ヘンリー・ゲレゴリー」(~18770904)
- 1872年3月4日 00:00|イギリス| |||<死去>2代ロス・デール伯「ウィリアム・ラザー」
- 1872年3月4日 00:00|イギリス| |||<就任>3代ロス・デール伯「ヘンリー・ラザー」(~18760815死去)
- 1872年3月4日-09:00|日本|香川県|明治5年1月25日|<分離編入>北条県小豆島の飛地(西部)を移管→(第1次)香川県/讃岐国全域が(第1次)香川県の管轄となる
- 1872年3月5日 06:00|アメリカ| |||米国でウェスティングハウスが空気ブレーキの特許を取得
- 1872年3月6日-09:00|日本| ||明治5年1月27日|明治5年太政官布告第22号:左院中正権大中小掌記ヲ置ク
- 1872年3月8日-09:00|日本| ||明治5年1月29日|<移管>日本政府運輸船「立象丸」→兵部省所管
- 1872年3月8日-09:00|日本| ||明治5年1月29日|身分族称、皇族・華族・士族・平民とする、新身分制度が確立
- 1872年3月8日-09:00|日本| ||明治5年1月29日|明治5年太政官布告第27号:廣造二分判断裁地金トシ売買ヲ許ス; 明治5年太政官布告第28号:銃砲取締規則
- 1872年3月8日-09:00|日本| ||明治5年1月29日|明治政府、初めての全国戸籍調査実施。総人口は33110825人
- 1872年3月8日-09:00|日本|東京都|明治5年1月29日|<分離編入>東京府のうち吉祥寺村、西窪村、入間県のうち南秋津村・久米川村・野口村・回り田村、関前村・境村、上布田村・国領宿・上ヶ給村・金子村・北野村・柴崎村・入間村・下仙川村・上石原村・下石原村・布田小島分村・下布田村・深大寺村・大町村・佐須村、平井村の全域、大久野村のうち旧幕府領・旧西端藩領→神奈川県
- 1872年3月9日-09:00|日本| ||明治5年2月|<刊行>福沢諭吉(39歳)、学問のすすめ初篇(明治9.11完結)
- 1872年3月9日-09:00|日本|滋賀県大津市|明治5年2月|<開業>西洋旅館「開化楼」(大津紫屋町)
- 1872年3月9日-09:00|日本|静岡県牧之原市|明治5年2月|村上正局が静岡県海老江で原油の露頭を発見:相良油田
- 1872年3月9日-09:00|日本|日本郵政|明治5年2月|<発行>(手彫)竜切手を銭の単位に変更した竜銭切手(日本初の目打付切手)
- 1872年3月9日-09:00|日本| ||明治5年2月1日|<施行>戸籍法(壬申戸籍)、国民を華族・士族・卒・神官・僧侶・平民に区分/平民に苗字使用を許す(18710522<明治4年4月4日>公布)
- 1872年3月10日-04:00|ロシア| |||<就任>全ロシア閣僚委員会委員長「パヴェル・ニコラエヴィチ・イグナチェフ」(~18800101)
- 1872年3月10日-09:00|日本| ||明治5年2月2日|<刊行>横浜活版社「毎週新聞」(「横浜毎日新聞」抜粋)
- 1872年3月10日-09:00|日本|石川県|明治5年2月2日|<改称>金沢県→石川県
- 1872年3月10日-09:00|日本|神奈川県横浜市|明治5年2月2日|<設立>横浜公会(後の日本基督公会)(日本最初のプロテスタント教会)
- 1872年3月11日-01:00|ドイツ| |||プロイセン学校監督法が実施される、ドイツの学校制度が確立
- 1872年3月13日-09:00|日本| ||明治5年2月5日|1円金貨の「竜図」を「一圓」に改める
- 1872年3月14日 07:40|日本|島根県浜田市|明治5年2月6日|<明治5年浜田地震>16時40分頃、マグニチュード7.1、震源域は浜田付近の沿岸から日本海沖合にかけて/被害は555人死亡、家屋全壊4527棟、同焼失230棟、同半壊6101棟、同損壊6787棟、土蔵損壊792棟、特に浜田では全町の8割以上が全壊、浜田県邇摩郡で33戸が埋没するなど山崩れ6653箇所、道路、橋梁の破損4441箇所、海岸は川波村から唐鐘にかけて90cm~1.8m隆起し、唐鐘に石見畳ヶ浦の奇勝を生んだ/西側の後生湯から浜田浦にかけていったん1mから50cmほど沈降し、笠柄海岸から東北方面の陸地にかけてふたたび1.5mほど隆起した
- 1872年3月16日 00:00|イギリス| |||サッカーFAカップ、初の決勝戦/初代王者ワンダラーズ FC

1875迄 (3195件)

- 1872年3月16日-09:00|日本| ||明治5年2月8日|<発行>ブック、貌刺屈新聞社「日新真事誌」
- 1872年3月17日-09:00|日本|北海道|明治5年2月9日|<設置>開拓使「魯国(ロシア)語学所」[函館]
- 1872年3月17日-09:00|日本|愛媛県|明治5年2月9日|<改称>松山県→岩鉄県(3月2日開庁)
- 1872年3月18日-01:00|スペイン/キューバ| |||カンボス部隊との合流に成功したスペイン増援部隊、6時間の激戦の末マセオの部隊を撃退
- 1872年3月18日-09:00|日本| ||明治5年2月10日|<死去>貞心(75歳)曹洞宗の尼僧、歌人
- 1872年3月19日-09:00|日本| ||明治5年2月11日|国の医療業務を担当する職制として初めて文部省内に医務課が置かれた
- 1872年3月20日-09:00|日本|静岡県浜松市北区|明治5年2月12日|井伊直憲、宗良親王御社を井伊谷宮と称し創建<宗良親王を祀る>
- 1872年3月21日-09:00|日本| ||明治5年2月13日|<死去>森清子(40歳)歌人、森春濤の妻
- 1872年3月23日-08:00|マレーシア/シンガポール/イギリス| |||<就任>イギリス王領海峡植民地総督「ハリ・セントジョン・オート卿」(2度目~18731102)
- 1872年3月23日-09:00|日本| ||明治5年2月15日|<死去>国学者「玉松操」病没
- 1872年3月23日-09:00|日本| ||明治5年2月15日|土地永代売買解禁
- 1872年3月26日 04:00|アンティグア・バブダ/イギリス| |||レトナはイギリスが併合、アンティグアに組み込まれる
- 1872年3月26日-09:00|日本| ||明治5年2月18日|海陸軍の刑律を頒布
- 1872年3月27日-01:00|スペイン/キューバ| |||マセオの部隊、ロマデルポロで政府軍に奇襲攻撃、大きな被害を与える
- 1872年3月27日-09:00|日本|愛媛県松山市|明治5年2月19日|松山城二の丸炎上、石鐵県庁舎・焰硝蔵など焼失
- 1872年3月28日-09:00|日本|青森県八戸市|明治5年2月20日|<死去>南部信順(59歳)元陸奥八戸藩知藩事
- 1872年3月29日-09:00|日本|毎日新聞|明治5年2月21日|<創刊>東京日日新聞<梶野伝平、西田伝助、落合幾次郎>「毎日新聞」の前身
- 1872年3月30日-09:00|日本|東京都|明治5年2月22日|江戸府庁、淫奔な劇・芝居を禁止
- 1872年3月30日-09:00|日本|長崎県長崎市|明治5年2月22日|石田英吉・野村辰太郎・渡辺剛八・菅野覚兵衛・山本洪堂ら長崎振遠隊解散
- 1872年4月-01:00|アルバニア/トルコ| |||<就任>イシュコラのワリス「セグケット・ハシヤ」(~1873年1月)
- 1872年4月-01:00|リビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国トリポリタニア・ワリス(総督)「セザイル・アリ・レザ・ハシヤ」(2回目~18730606)
- 1872年4月 04:00|セントクリストファー・ネイビス/イギリス| |||<就任>イギリス植民地セントクリストファーズ 大統領「ジェームズ・サミュエル・ベリッソ」(~1873年)
- 1872年4月 04:00|セントクリストファー・ネイビス| |||<就任>ネイビス大統領「チャールズ・モンロー・エルトリッソ」(~1873年5月)
- 1872年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジュリアーノ・ベルツィ」 「ピエトロ・ベルティ」
- 1872年4月1日 04:00|トミカ国/イギリス| |||<就任>イギリス領トミカ大統領代行「ニール・ポーター」(1回目~6.13)
- 1872年4月1日 05:00|コロンビア/パナマ/ブラジル/ペルー| |||<就任>コロンビア合衆国大統領「マヌエル・ムリーヨ・トロ」(2回目~18740401)
- 1872年4月1日-09:00|日本| ||明治5年2月24日|地券渡方規則制定
- 1872年4月2日 06:00|アメリカ| |||<死去>サミュエル・フィンレイ・ブリス・モース/80歳(誕生17910427)モース信号の考案者
- 1872年4月3日 06:00|日本|東京都中央区|明治5年2月26日|<開業>築地精養軒軒行(築地采女町)開店初日に銀座大火で焼失(1873年<再建>⇒精養軒軒行)
- 1872年4月3日 06:00|日本|東京都中央区|明治5年2月26日|<東京銀座明治5年の大火>15時頃、和田倉門内祝田町の旧会津藩邸から出火、隣接の旧岡山藩及び高知藩の旧藩邸を焼き、西紺屋町から銀座に出て一丁目から尾張町二丁目、御堀端は数寄屋橋までなめ、銀座裏は三十間堀へと進み、ついで木挽町一帯から築地、西本願寺裏から南飯田町を半焼し、築地ホール館もあえなく焼滅させ、22時頃に鎮火/被害は各省官邸13か所、官員の邸宅34か所、諸侯藩邸6か所、寺院58か所、町家41か町4879戸、8人死亡
- 1872年4月4日-09:00|日本| ||明治5年2月27日|明治5年太政官布告第59号:式部寮中大舎人番長ヲ置ク
- 1872年4月4日-09:00|日本|滋賀県|明治5年2月27日|<改称>長浜県→犬上県
- 1872年4月5日-09:00|日本| ||明治5年2月28日|明治5年太政官布告第62号:兵部省を廃止して、陸軍省と海軍省を置く;兵学寮は海軍省、軍医寮は陸軍省の所轄となる;陸軍参謀局は陸軍省参謀局となる;陸軍省に会計局が設けられる
- 1872年4月5日-09:00|日本| ||明治5年2月28日|明治5年太政官布告第63号:諸寺院ヲ差許置僧位僧官ヲ廃ス
- 1872年4月6日 00:00|カナダ/オランダ/イギリス| |||<発効>オランダ領ゴールドコースト入植地が、イギリス領ゴールドコーストに組み込まれた(18720217に批准)
- 1872年4月8日-09:00|日本| ||明治5年3月|<発売>渋谷庄三郎が大阪で「渋谷(しぶたに)ビール」/日本人によるビール醸造・販売の元祖
- 1872年4月8日-09:00|日本| ||明治5年3月|女性の富士登山(4~8月)を許可
- 1872年4月8日-09:00|日本|東京都中央区|明治5年3月1日|銀座に煉瓦街を建設する東京府令が出る
- 1872年4月9日-09:00|日本|北海道函館市|明治5年3月2日|兵部省所管運輸船「東京丸」北海道へ技師、機器を輸送中にノカイ沖で座礁、沈没
- 1872年4月10日-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>バクー県知事「トミリー・セメノヴィッチ・スタロセルスキー」(~18760613)
- 1872年4月11日 00:00|イギリス| |||<就航>イギリスのホワイト・スター・ライン客船「アトリアティック」(18711017ハーランド・アント・ウルフで進水)
- 1872年4月14日-09:00|日本|山形県上山市|明治5年3月7日|<死去>松平信宝(56歳)元出羽上山藩主
- 1872年4月15日-09:00|日本| ||明治5年3月8日|5銭銀貨の「竜図」を「五銭」に改める

1875迄 (3195件)

- 1872年4月16日-08:00|中国/イギリス| |||<就任>香港第7代総督「サー・アーサー・エドワード・ヘドレイ」(~18770422)
- 1872年4月16日-01:00|スペイン/キューバ| |||スペイン軍のゲアンタモ作戦, 完全な失敗に終わる
- 1872年4月16日-09:00|日本| ||明治5年3月9日|明治5年太政官布告第86号:親兵を廃し近衛兵をおく
- 1872年4月17日 00:00|ガーナ/オランダ| |||<就任>オランダ領ゴールト=コスト総督「ロベール=ルイ=ト=エズ」(ギニア海岸の王の代理人) (~5. 10)
- 1872年4月17日-09:00|日本| ||明治5年3月10日|<開催>「第1回京都博覧会」(~5月30日)[会場]西本願寺・知恩院・建仁寺[主催]京都博覧会社[入場者]36, 404人
- 1872年4月17日-09:00|日本|東京都文京区|明治5年3月10日|<(~4月29日)[開催地]東京都[会場]湯島聖堂大成殿[主催]文部省博物館>「文部省博覧会(湯島聖堂博覧会)」開催[入場者]192, 878人/東京で開かれた最初の博覧会
- 1872年4月17日-09:00|日本|東京都文京区|明治5年3月10日|旧湯島聖堂の大成殿で開催された日本初の博覧会を機に文部省博物館発足
- 1872年4月19日-09:00|日本| ||明治5年3月12日|<改称>一向宗⇒真宗
- 1872年4月19日-09:00|日本| ||明治5年3月12日|東京・大阪・鎮西・東北の鎮台条例を定める
- 1872年4月20日-09:00|日本| ||明治5年3月13日|<廃止>仮施薬院、<設置>大坂駆働院
- 1872年4月20日-09:00|日本|秋田県|明治5年3月13日|<開庁>秋田県庁[旧久保田城本丸]
- 1872年4月21日 00:00|ガンビア/イギリス| |||<就任>イギリス領西アフリカ植民地ガンビア管理者代行「ヘンリー=ウィリアム=ジョン=ファウラー」(~10. 7)
- 1872年4月21日-09:00|日本| ||明治5年3月14日|明治5年太政官布告第82号:神祇省を改組し民部省社寺掛を併合する形で教部省設置、神祇省が担当した祭祀業務は宮内省式部寮が行うとされた
- 1872年4月22日-09:00|日本| ||明治5年3月15日|旧銅銭96文で100文に通用することを戒め、正確に100文を授受すべきことを通達
- 1872年4月22日-09:00|日本|京都府京都市|明治5年3月15日|<初演>「都をどり」
- 1872年4月24日-09:00|日本| ||明治5年3月17日|<創刊>「日真新事誌」ジョン=B=ブラックほか, 1875年外人による/発行禁止で廃刊
- 1872年4月24日-09:00|日本|三重県|明治5年3月17日|<改称>安濃津県、改称→三重県
- 1872年4月25日-03:00|イェメン/トルコ| |||オスマン帝国がサを再占領
- 1872年4月26日-09:00|日本| ||明治5年3月19日|女相撲禁止
- 1872年4月30日-09:00|日本|東京都港区|明治5年3月23日|<設置>赤坂離宮(紀州徳川家中屋敷が皇室に献上)
- 1872年4月30日-08:00|中国| ||清・同治11年3月23日|<創刊>イギリス人のメイ=兄弟、上海で中国最初の商業新聞「申報」
- 1872年4月30日-08:00|中国| ||清・同治11年3月23日|湘軍が、貴州の苗族を大破/張朝珍、党大五らは投降し、包大五らは殺される
- 1872年5月-08:00|インド/ネパール| |||マハラष्टラ東部でパタック戦争が勃発
- 1872年5月-05:30|インド| |||<就任>ナルシガール国ラジャ「ハンツ=シン」(~1873年3月)
- 1872年5月-02:00|キプロス/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領キプロス地区総督「ムフド=ウ=エイ=パシヤ」(1回目~1873年10月)
- 1872年5月1日 06:00|アメリカ| |||<結成>アメリカ自由共和党(シンシアティ)
- 1872年5月2日-01:00|スペイン| |||スペインで、第3次カリスタ戦争が起こる
- 1872年5月2日-09:00|日本| ||明治5年3月25日|明治5年太政官布告第99号:教部省元元神祇省=移入
- 1872年5月3日-05:30|インド/イギリス| |||<就任>イギリス領インド帝国副王・総督「ストラットンのノースブルック男爵トマス=ジョージ=ハアリントン」(~18760412、インド担当相ソールズベリ侯と対立し辞職)
- 1872年5月3日 06:00|日本|北海道札幌市|明治5年3月26日|<札幌明治5年「御用火事」>札幌の都市建設を進めるため、北海道開拓の実際上の責任者、判官・岩村通俊の命令で起こした放火火事/開拓使庁の職員一同が参加して、ガラス邸と呼ばれていた家の前あたりから、脇本陣(開拓使長官等が来札の時の宿舎)近くの本願寺から薄野あたりにある明治4年の移民の空き小屋を残らず焼いた/この日焼き払われた地域は官庁街を建設する予定の土地だった
- 1872年5月4日-09:00|日本| ||明治5年3月27日|明治5年太政官布告第100号:鉱山心得『鉱物ハ皆政府ノ所有物ニシテ地主ノ私有ニ非ス』
- 1872年5月4日-09:00|日本| ||明治5年3月27日|明治5年太政官布告第98号:神社仏閣の女人禁制を廃止
- 1872年5月5日-09:00|日本|奈良県|明治5年3月28日|<分離編入>旧大和国吉野郡の和歌山県域を(第2次)奈良県へ移管
- 1872年5月6日-09:30|オーストラリア| |||7テレイトに中央郵便局が開設
- 1872年5月6日-09:00|日本| ||明治5年3月29日|太政官令「身体に入れ墨禁止」の布告
- 1872年5月6日-09:00|日本| ||明治5年3月29日|明治5年太政官布告第107号:浦賀港通船改廃止
- 1872年5月7日-09:00|日本|広島県|明治5年4月|<創刊>「広島新聞(第1)」(4号まで広島静真堂, 5号より県庁内承流舎)
- 1872年5月7日-09:00|日本| ||明治5年4月1日|新紙幣発行され、順次政府紙幣との交換が行われた/額面は100円、50円、10円、5円、2円、1円、半円、20銭、10銭の9種類
- 1872年5月7日-09:00|日本|東京都|明治5年4月1日|東京府令「裸体、混浴、春画、性具、刺青厳禁」
- 1872年5月8日-09:00|日本|愛知県|明治5年4月2日|<改称>名古屋県、改称→愛知県
- 1872年5月8日-09:00|日本|国立国会図書館|明治5年4月2日|<設立>書籍館[東京・湯島の昌平覺講堂跡](日本初の公共図書館)
- 1872年5月8日-09:00|日本|東京都|明治5年4月2日|いろは組(町火消)廃止、消防組に改組

1875迄 (3195件)

- 1872年5月9日 03:00|サント・エル島/ミロン島/フランス |||<就任>サント・エル島・ミロン島暫定司令官「Ernest Joseph Nicolas d'Heureux」(2期目~18730518)
- 1872年5月9日-09:00|日本|新潟県|明治5年4月3日|<悌輔騒動>夜、早鐘を合図に現在の巻潟東IC付近に千数百名の一揆勢が集結し、道々周辺の農民を糾合しながら柏崎県庁へ強訴に向かった
- 1872年5月9日-09:00|日本|三重県|明治5年4月3日|<分離編入>紀伊国牟婁郡の東半分・旧伊勢国の和歌山県域を度会県へ移管
- 1872年5月10日-09:00|日本|新潟県|明治5年4月4日|<悌輔騒動>信濃川分水工事に従事していた農民が蜂起
- 1872年5月11日-09:00|日本| ||明治5年4月5日|明治5年太政官布告第110号:宮内省中内膳内舎人ヲ廢シ雜掌ヲ置ク
- 1872年5月11日-09:00|日本|東京都|明治5年4月5日|東京府が女子の断髪禁止令を発布
- 1872年5月12日-08:00|中国| ||清・同治11年4月6日|李文斎率いる苗族の反乱軍が貴州省銭東で清軍に撃破される
- 1872年5月12日-05:00|日本|新潟県|明治5年4月6日|<悌輔騒動>未明、元会津藩士の渡辺悌輔および月岡村安正寺の元住職で元桑名藩兵の月岡帯刀らは村々を強請して約千名の一揆勢を連れ、東本願寺三条別院に集結
- 1872年5月12日 11:00|日本|新潟県|明治5年4月6日|<悌輔騒動>夜、柏崎県側は一揆首謀者の宿舎を急襲し、彼等を捕縛/川崎九郎次1名のみが首謀者として罪を引受け、他の者は釈放された
- 1872年5月13日 04:00|アンティグア・バ・ブー・ター/イギリス/アンギラ/トミニカ国/モントセラト/セントクリストファー・ネイビス/英領ヴァージン諸島| |||<就任>リワード 諸島総督・最高司令官「ベンジヤミン・フリー・キャンベル・パイン卿」(~1873年)
- 1872年5月13日 04:00|アンティグア・バ・ブー・ター/イギリス/アンギラ/トミニカ国/モントセラト/セントクリストファー・ネイビス/英領ヴァージン諸島| |||<制定>リワード 諸島連邦植民地(アンティグア・バ・ブー・ター、トミニカ[19400101まで]、モントセラト、ネイビス、セント・クリストファー、および英領ヴァージン諸島)
- 1872年5月13日-09:00|日本|東京都墨田区|明治5年4月7日|<大相撲>明治5年4月場所[東京本所回向院](~10日間)幕内優勝:(西前頭2)兜山, 6勝0敗2分1預1休
- 1872年5月13日-02:00|日本|新潟県|明治5年4月7日|<悌輔騒動>朝より一揆勢が新潟県庁へ向けて北上/一揆勢の一部は暴徒と化して略奪・放火や打壊しを行い、事態収拾に向かった県庁役人や庄屋を殺害
- 1872年5月14日-09:30|オーストラリア| |||<就任>ニューサウスウェールズ 植民地政府首相「ヘンリー・パークス」無所属(~18750208)
- 1872年5月14日 04:00|日本|新潟県|明治5年4月8日|<悌輔騒動>午後、新潟県側は北上してきた一揆勢に威嚇射撃を行い、突撃しようとした首謀者の1人を射殺/一揆勢は潰走し、首謀者や殺害の下手人はほとんどが数日の内に捕縛された
- 1872年5月15日-09:00|日本| ||明治5年4月9日|明治5年太政官布告第117号:庄屋・名主を廃止して戸長を置く; 明治5年太政官布告第118号:陸軍省中札問司ヲ廢シ裁判所ヲ置キ職員ヲ定ム
- 1872年5月15日-09:00|日本|東京都|明治5年4月9日|東京府、大小区事務扱所を大小区扱所へ改称
- 1872年5月16日-05:30|イット | |||<死去>ビカネル国マハラジャ「サルダール・シン」
- 1872年5月16日-05:30|イット | |||<即位>ビカネル国マハラジャ「ダナカー・シン」(~18870819没)、摂政「チャールズ・ウィリアム・バートン」(~1872年8月)
- 1872年5月16日-08:00|中国| ||清・同治11年4月10日|中国、陝西・甘肅のイスラム教徒らの乱が平定される
- 1872年5月17日 06:00|アメリカ| |||サフランスコにおいての芸術文化の軽薄さ、卑屈さを嘆いた新聞記者らによりホム・ミアンクラブ 創立
- 1872年5月17日-09:00|日本|お茶の水女子大学|明治5年4月11日|<開校>官立東京女学校(初めての女学校)[東京神田](俗に女紅場、あるいは英学校と称せられる)
- 1872年5月18日-12:00|フィジー | |||<就任>ガティ王国(フィジー)総理大臣「ジョージ・オースティン・ウズ」(~18740303)
- 1872年5月18日 00:00|ガーナ/イギリス | |||<就任>イギリス領西アフリカ植民地「ゴルト」=コスト管理責任者代行「チャールズ・スペンサー・サモン」(2回目~11.23)
- 1872年5月20日-09:00|日本| ||明治5年4月14日|明治5年太政官布告第124号:外国人に対する地券の売却・抵当が禁止
- 1872年5月20日-09:00|日本|京都府|明治5年4月14日|<開設>新英学校と、女子に対する手芸の教授施設の女紅場
- 1872年5月20日-09:00|日本|東京都台東区|明治5年4月14日|<開業>精養軒ホテル
- 1872年5月21日-09:00|日本|東京都|明治5年4月15日|玉川上水通船禁止
- 1872年5月21日-09:00|日本|北海道大学|明治5年4月15日|<開校>開拓使仮学校[東京芝増上寺本坊]
- 1872年5月22日-01:00|フランス| |||<初演>ジョルジュ・ビゼー「喜歌劇「ジヤミレー」
- 1872年5月22日 06:00|アメリカ| |||アメリカで大赦令が採択され、旧アメリカ連合指導者の追放解除
- 1872年5月23日-01:00|ベナン | |||<死去>アジヤチエ・イボのフォン王国国王「ミクン」
- 1872年5月26日-01:00|スペイン | |||<就任>スペイン王国首相Francisco Serrano[立憲党](~18720613)
- 1872年5月27日 00:00|イギリス | |||<死去>ヘットフォード公「ウィリアム・ラッセル」
- 1872年5月27日 00:00|イギリス | |||<就任>ヘットフォード公「フランス・チャールズ・ヘイスティングス・ラッセル」先代の又従兄弟(~18910114死去)
- 1872年5月28日-09:00|日本| ||明治5年4月22日|東京-大阪間に電信開通
- 1872年5月30日-09:00|日本| ||明治5年4月24日|日曜休暇制が決められる
- 1872年5月31日-09:00|日本| ||明治5年4月25日|明治5年太政官布告第131号:外国人雇入給料ハ新貨ヲ以テ約定セム; 明治5年太政官布告第132号:宣教使を廃止して教部省に教導職設置(無給の官吏で当初は全ての神官と神道家や僧侶が任命された); 明治5年太政官布告第133号:僧侶の妻帯・肉食・伸髪・法用以外での平服着用が許可される
- 1872年6月-02:00|シリア/アラブ/トルコ | |||<就任>アレクサ・ワリス(総督)「Haci Ali Pasha Kutahyalı」(~1873.5)

1875迄 (3195件)

- 1872年6月-02:00|ブルガリア/トルコ| ||<就任>オスマン帝国ツナ(ドナ)・リス(総督)「アフメト・ハムディ・パシヤ」(~1873年4月)
- 1872年6月-01:00|ナイジェリア/イギリス| ||<就任>ロス植民地暫定管理者「ヘンリー・ウィリアム・ジョン・Fowler」(~12月)
- 1872年6月2日-09:00|日本| ||明治5年4月27日|明治5年太政官布告第136号:音楽歌舞ノ類教部省管轄トス
- 1872年6月2日-08:00|中国/日本| ||明治5年4月27日|三川商会「紅葉ノ賀」Shanghai S. N. Co., Chainalに売却、「N AUTILUS」と改名
- 1872年6月3日-09:30|オーストラリア/イギリス| ||<就任>ニューサウスウェールズ植民地総督「ハークス・ロビンソン」(~18790319)
- 1872年6月3日-01:00|マルタ/イギリス| ||<就任>イギリス直轄植民地マルタ総督「チャールズ・トマス・Van Straubenzee卿」(~18780604)
- 1872年6月3日-01:00|マルタ/イギリス| ||<就任>イギリス領マルタ総督「チャールズ・ヴァン・ストロベーン」(~18780513)
- 1872年6月3日-09:00|日本| ||明治5年4月28日|教部省が三条の教則(第1条:敬神愛国の旨を体すべき事,第2条:天理人道を明らかにすべき事,第3条:皇上を奉載し朝旨を遵守せしむべき事)を布告
- 1872年6月4日-01:00|オランダ| ||<就任>オランダ王国首相「ピーター・フィリップ・ヴァン・ホッテ」(2回目~7.6)
- 1872年6月4日-01:00|ベナン| ||<即位>アジヤチエ・レのフォン王国国王「メソ2世」(~18740626没)
- 1872年6月5日-09:00|日本| ||明治5年4月30日|明治5年太政官布告第140号:神官教部省管轄トス
- 1872年6月6日-09:00|日本|愛知県|明治5年5月|<設立>額田県公立物産会社[半田]
- 1872年6月6日 00:00|カナリヤ諸島/スペイン| ||<就任>スペイン王領カナリヤ諸島市民知事「Eugenio Selles y Angel」(~11.6)
- 1872年6月6日 06:00|アメリカ| ||アメリカ、関税法成立、関税率引き下げ
- 1872年6月6日-09:00|日本|神奈川県横浜市中央区|明治5年5月|<開業>横浜リエン列株(神奈川県)
- 1872年6月6日-09:00|日本|東京都|明治5年5月|<分離編入>東京府(高円寺村・馬橋村・永福寺村・上荻窪村・下荻窪村・久我山村・上高井戸村・下高井戸村・中高井戸村・田端村・成宗村・和泉村・大宮前新田・松庵村・和田村・上井草村・下井草村・天沼村・阿佐ヶ谷村・堀之内村)が神奈川県の管轄となる。入間県のうち後の西多摩郡に属する区域の残部が神奈川県に移管
- 1872年6月6日-09:00|日本|東北大学|明治5年5月|<設置>宮城県立医学所/私立共同社病院を開き附属塾舎を設ける
- 1872年6月6日-09:00|日本|東京都千代田区|明治5年5月1日|三木達・後藤静夫ら私立医学校躋寿館を大手町1丁目に設立
- 1872年6月7日-09:00|日本|大阪府|明治5年5月2日|大阪府、漢方医門弟の取り立てを禁止
- 1872年6月8日-09:00|日本| ||明治5年5月3日|明治5年太政官布告第142号:鼠取蠅取薬売買ヲ禁止ス
- 1872年6月9日-09:00|日本| ||明治5年5月4日|<廃刊>「毎週新聞」
- 1872年6月9日-09:00|日本| ||明治5年5月4日|東京の実業家千葉勝五郎がラムネを製造販売/日本ではじめて製造されたのは1868年
- 1872年6月9日-08:00|中国| ||清・同治11年5月4日|ヤークフ・ベクが、ウムル郷団の徐学功を破る
- 1872年6月10日-09:30|オーストラリア| ||<就任>ビクトリア植民地政府首相「ジェームズ・フランシス」(~18740731)
- 1872年6月10日 06:00|ベリーズ/イギリス| ||<就任>イギリス領ホンジュラス副総督(シヤマイカ総督に従属)「ウィリアム・ウェリントン・ケアンズ」(2回目~1874年)
- 1872年6月10日-09:00|日本| ||明治5年5月5日|<改称>「種痘館」⇒「医学校病院出張所」診察も実施
- 1872年6月10日-09:00|日本| ||明治5年5月5日|食用氷初めて市場に現れる
- 1872年6月11日-01:00|オーストラリア| ||<初演>ヨゼフ・アントン・ブルクナー《大ミサ曲第3番》
- 1872年6月12日-01:00|フランス| ||<初演>シャルル・カミュ・サン・サンズ《歌劇「黄色い王女」》
- 1872年6月12日-09:00|日本| ||明治5年5月7日|<施行>明治5年太政官布告第61号:鉄道略則「運送契約の法規」(2月28日公布);明治5年太政官布告第146号「鉄道略則」全部改正(4日公布)
- 1872年6月12日-09:00|日本| ||明治5年5月7日|<就航>新潟港と佐渡東港を結ぶ新潟丸(わが国最初の鉄製蒸気船)
- 1872年6月12日-09:00|日本|JR東日本東海道本線|明治5年5月7日|<仮開業>官設鉄道[品川-(横濱)]23.8km
- 1872年6月12日-09:00|日本|JR東日本根岸線|明治5年5月7日|<仮開業>官設鉄道[[品川)-(横濱)]23.8km
- 1872年6月13日-01:00|スペイン| ||<就任>スペイン王国閣僚評議会議長「Manuel Ruiz Zorrilla」急進党(~18730211)
- 1872年6月13日 04:00|モントセロ/イギリス| ||<就任>イギリス植民地モントセロ大統領「Neale Porter」(~1883年)
- 1872年6月13日 04:00|トミカ国/イギリス| ||<就任>イギリス領トミカ大統領「アレクサンダー・ウィルソン・モイア」(~1873年)
- 1872年6月16日 05:00|パナマ| ||<就任>パナマ大統領代行「ジャン・メンドーサ」(~8.28)
- 1872年6月20日-09:00|日本|鹿児島県|明治5年5月15日|<分離編入>都城県[始良郡・菱刈郡・桑原郡のうち栗野郷、横川郷]を鹿児島県へ移管;美々津県諸郡[須木郷・野尻郷・小林郷東方村]を都城県に移管
- 1872年6月20日-09:00|日本|東京都中央区|明治5年5月15日|<開店>西洋料理店「築地精養軒」[東京・築地]
- 1872年6月20日-09:00|日本|日本郵政|明治5年5月15日|<開通>東京-高崎間郵便馬車
- 1872年6月22日 06:00|カナダ/イギリス| ||<就任>カナダ総督代行「チャールズ・ヘイスティング・ストイル卿」(~25日)
- 1872年6月22日-09:00|日本| ||明治5年5月17日|特命全権副使大久保利通、伊藤博文再びアメリカへ赴く(寺島宗則はイギリスへ)
- 1872年6月23日-01:00|赤道ギニア/スペイン| ||<就任>フェルナンド・ホー-総督代行「ペドロ・オサ」(~12.5)
- 1872年6月23日-09:00|日本| ||明治5年5月18日|<改称>取締組⇒邏卒
- 1872年6月23日-09:00|日本|香川県高松市|明治5年5月18日|医学所を亀阜学校に合併
- 1872年6月24日-09:00|日本|京都府京都市|明治5年5月19日|<死去>二代吉沢検校、音楽家(地歌三味線、箏曲、胡弓、平曲演奏家、作曲家、『千鳥の曲』作者)(生年1800年)

1875迄 (3195件)

- 1872年6月25日 06:00|カナダ/イギリス| |||<就任>カナダ 総督「ダ`ファリン伯爵フレデリック・ハミルトン=テンプレート`ラックウット」(~18781125)
- 1872年6月26日-09:00|日本|東京都千代田区|明治5年5月21日|<設置>仮「大教院」[麹町紀尾井町]中央講学機関として
- 1872年6月27日-09:00|日本| ||明治5年5月22日|太政官布告第165号:司法省中大少丞ヲ置ク
- 1872年6月27日-09:00|日本|東京都|明治5年5月22日|<分離編入>東京府下の12村(中野村・江古田村・上鷺之宮村・雑色村・本郷村・本郷新田・新井村・上高田村・片山村・下鷺之宮村・上沼袋村・下沼袋村)が神奈川県 の管轄となる
- 1872年6月29日-01:00|チェコ| |||<就任>モラヴィア総督「フィリップ・フライヘル・ウェーバー・フォン・エンホフ」(~18740614)
- 1872年6月29日-09:00|日本| ||明治5年5月24日|太政官布告第167号:官舎払下規則、第舎貸渡規則
- 1872年6月29日-09:00|日本|兵庫県神戸市中央区|明治5年5月24日|<改称>兵庫楠木神社⇒湊川神社/最初唯一の別格官弊社に列格
- 1872年7月1日-02:00|南アフリカ| |||<就任>南アフリカ共和国国家大統領「トマス・フランソワ・バ`カーズ」(~18770412)
- 1872年7月1日-01:00|スペイン/キューバ| |||オリエンテ軍、カリソの下に一体化され攻撃開始/レホン`オン`テ`ヘルバノスの闘いで、マヌエル`デ`カルバル將軍麾下のメセ師団が、オギンからハラガアへ行軍中のスペイン軍4百を殲滅
- 1872年7月1日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||<就任>セントクリア総督代理「Johan August Stakeman」(~9.24)
- 1872年7月1日-09:00|日本|日本郵政|明治5年5月26日|郵便を国内一般に施行
- 1872年7月2日 04:00|セントビンセント/イギリス| |||<就任>イギリス領セントビンセント副総督代行「エドワード`ラホルト」(~18740502)
- 1872年7月3日-01:00|スロベニア/オーストリア| |||<就任>ト`イツ軍スロベニア地方長官代行「ヨハン`ブラウイス」(2度目~11.5)
- 1872年7月4日-01:00|ドイツ| |||イェ`ス会がドイツ帝国で違法となる
- 1872年7月4日-09:00|日本|佐賀県|明治5年5月29日|<改称>伊万里県→(第2次)佐賀県
- 1872年7月4日-09:00|日本|東京都|明治5年5月29日|東京府、町会所廃止
- 1872年7月6日-01:00|オランダ| |||<就任>オランダ 王国首相「ゲリット`デ`フリス」(~11月)
- 1872年7月6日-09:00|日本| ||明治5年6月|この月、高島・三池などで石炭採掘開始
- 1872年7月6日-09:00|日本| ||明治5年6月|フランス女性ラコット、育児院董女学校を建てる
- 1872年7月6日-09:00|日本|鳥取県日野郡|明治5年6月|鳥取県日野郡で納税を巡って農民一揆が発生
- 1872年7月6日-09:00|日本|新潟県新潟市|明治5年6月|石崎政二郎が軽油、鉱油の製造を目的に石崎製油所を設立
- 1872年7月6日-09:00|日本|NIPPON EXPRESSホールディングス|明治5年6月|<設立>三都飛脚仲間、古河市兵衛ら「陸運元会社」
- 1872年7月8日-01:00|スペイン| |||インターナショナル`スペイン連合が分裂し新マト`リード`連盟結成
- 1872年7月10日-01:00|スロベニア/オーストリア| |||<就任>オーストリア領スロベニア大統領「アレクサンダー`ゲラーフ`アウア`スベルク」(~18740319)
- 1872年7月10日-09:00|日本|群馬県富岡市|明治5年6月5日|<開設>群馬県富岡製糸工場(農商務省経営、官営最初の製糸場として絹糸国産発展の端となす)
- 1872年7月10日-09:00|日本|JR東日本東海道本線|明治5年6月5日|<駅新設>官設鉄道[品川-横浜]間に川崎、神奈川
- 1872年7月11日 04:00|トリニダード`トバゴ/イギリス| |||<就任>トリニダード`知事代行「ウィリアム`ヘップ`バーン`レニー」(~18730521)
- 1872年7月11日 05:00|キューバ/スペイン| |||<就任>スペイン植民地キューバ 総督・総司令官代行「フランシスコ`セバ`ジヨス`イ`バル`ル`ス」(~18730418)
- 1872年7月12日-09:00|日本|岡山県|明治5年6月7日|<分離編入>深津県、改称、岡山県より旧鴨方県、生坂県を移管→小田県
- 1872年7月15日-09:00|日本|広島県廿日市市|明治5年6月10日|<開催>「厳島博覧会」(~7月10日)[開催地]広島県[会場]厳島千畳閣大聖院[主催]広島県
- 1872年7月15日-09:00|日本|福岡県太宰府市|明治5年6月10日|太政官布告第174号:太宰府社太宰府神社ト改称
- 1872年7月15日-09:00|日本|読売新聞|明治5年6月10日|<創刊>前嶋密ら「郵便報知新聞」
- 1872年7月16日-09:00|日本|東京都|明治5年6月13日|<死去>海援隊「長岡謙吉」39歳、東京にて病没
- 1872年7月18日 00:00|イギリス| |||イギリス、グラット`ストン内閣により、無記名投票法が制定される
- 1872年7月18日 07:00|メキシコ| |||<死去>メキシコ合衆国大統領「ベニート`ポ`ール`ファリス`ガルシア」(生年1806年)心臓発作で
- 1872年7月18日-09:00|日本| ||明治5年6月13日|東京~横浜間で郵便行囊護送人が添乗し、列車による郵便物の運送を開始
- 1872年7月19日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ナタール特別委員「アンソニー`マスケ`レイウ」(~18730430)
- 1872年7月19日-02:00|フィンランド/ロシア| |||<就任>ロシア領フィンランド 総督代行「エドゥアルド`ゲスタフ`アフ`フォルセル」(~11.19)
- 1872年7月19日 07:00|メキシコ| |||<就任>メキシコ合衆国大統領「セバ`スチャン`マルコス`フランシスコ`デ`パ`ウラ`レルド`デ`テ`ハダ`イ`コラル」(18721130まで暫定~18761128)
- 1872年7月19日-09:00|日本|熊本県|明治5年6月14日|<改称>(第1次)熊本県→白川県
- 1872年7月20日-02:00|ギリシャ| |||<就任>ギリシャ閣僚評議会議長「エ`メイノ`ダ`ス`デ`イミ`テ`リ`デ`リゲ`ル`ガ`ス」(4回目~18740221)
- 1872年7月20日-09:00|日本| ||明治5年6月15日|イギリス人`ジョン`デ`イブ`ラックに対し、駅構内における新聞販売を認可/駅構内売店の最初
- 1872年7月20日-09:00|日本|群馬県前橋市|明治5年6月15日|<移転>群馬県庁[高崎⇒前橋]
- 1872年7月22日 05:00|ペルー| |||<就任>ペルー共和国大統領「トマス`グ`ティ`エ`レス`ロハス(最高首長)」(事実上23日まで~26日)
- 1872年7月26日 05:00|ペルー| |||<就任>ペルー共和国閣僚評議会議長(首相)「ファン`アントニオ`リバ`イロ`エスタ`ダ」(3回目~8.

1875迄 (3195件)

2)

- 1872年7月26日 05:00|ペル| |||<就任>ペル共和国大統領代行「マリアノ・ヘルシア・セウ・アロス」(~8. 2)
- 1872年7月26日 06:00|ホンジュラス| |||<就任>ホンジュラス共和国暫定大統領「カルロス・セオ・アリアス・ロペ」(~18740113)
- 1872年7月26日-09:00|日本|高知県|明治5年6月21日|<死去>山内豊信(山内容堂)(46歳)元土佐藩主、内国事務総裁。脳溢血のため死去
- 1872年7月28日-01:00|フランス| |||フランス「徴兵制」が実施される
- 1872年7月28日-09:00|日本| ||明治5年6月23日|太政官布告第187号:華士族平民身代限規則
- 1872年7月28日-09:00|日本|愛媛県|明治5年6月23日|<改称>宇和島県→神山市
- 1872年7月29日-09:00|日本| ||明治5年6月24日|<購入>「蟠竜丸」⇒北海道開拓使「雷電丸」と改称(1877年日本海軍軍艦「雷電艦」と改称)
- 1872年7月29日-09:00|日本|奈良県磯城郡田原本町|明治5年6月24日|<死去>平野長裕(28歳)元大和田原本藩知藩事
- 1872年7月29日-09:00|日本|北海道小樽市|明治5年6月24日|太政官布告第190号:北海道幌泉海関ヲ廢シ室蘭厚岸ニ海関ヲ設ケ手宮港を小樽と改称
- 1872年7月30日 04:00|プエルトリコ/スペイン| |||<就任>プエルトリコ総司令官兼上席市民知事「Simon de la Torre y Ormazabal」(~11. 5)
- 1872年7月31日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「アフメト・シェイク・ミダット・パシャ」(1期目~10. 19解任)
- 1872年8月-03:00|サウジアラビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国ヒジャーズ総督「ムフメド・レシッド・パシャ」(~1874年7月)
- 1872年8月1日 03:00|ブラジル| |||ブラジル初の国勢調査/ブラジルの人口は9, 930, 478人, うち奴隷は1, 510, 806人
- 1872年8月1日-09:00|日本| ||明治5年6月27日|<点灯>友ヶ島灯台[和歌山市]石造, 初期のものが現存(設計フランス)
- 1872年8月2日 04:00|ガイアナ/イギリス| |||イギリスが、ガイアナを英領ガイアナとして植民地とする
- 1872年8月2日 05:00|ペル| |||<就任>ペル共和国閣僚評議会議長(首相)「ホセ・ミゲル・メデヤ・エレ」(~18730903)
- 1872年8月2日 05:00|ペル| |||<就任>ペル共和国大統領「マヌエル・フスト・バルト・イラウ・アッレ」(~18760802没)
- 1872年8月2日-09:00|日本| ||明治5年6月28日|自葬を禁止し、死者を葬るときは神官か僧侶に依頼するように命じる
- 1872年8月4日-01:00|イタリヤ| |||リミニ会議でインターナショナル・イタリヤ連盟が結成
- 1872年8月4日-09:00|日本|岡山大学|明治5年7月|<改称>医学所→医学教場
- 1872年8月4日-09:00|日本|東京大学|明治5年7月|司法省明法寮から法学校正則科を設立
- 1872年8月4日-09:00|日本| ||明治5年7月1日|<創刊>「峡中新聞」(現・山梨新聞)
- 1872年8月4日-09:00|日本|日本郵政|明治5年7月1日|全国に郵便施行
- 1872年8月7日-09:00|日本| ||明治5年7月4日|政府、すべての土地に地券を交付
- 1872年8月8日 00:00|イギリス| |||<死去>8代リース公「ジョージ・ゴドルフィン・オズボーン」
- 1872年8月8日 00:00|イギリス| |||<就任>9代リース公「ジョージ・ゴドルフィン・オズボーン」8代公の長男(~18951223死去)
- 1872年8月11日-09:00|日本| ||明治5年7月8日|太政官布告第196号:香具師/名目ヲ廢シ商売ハ随意タラム
- 1872年8月12日-08:00|中国| ||清・同治11年7月9日|中国初の官費による留学生がアメリカに旅立つ
- 1872年8月15日-09:00|日本| ||明治5年7月12日|明治天皇が、中国西国巡幸の帰途時に品川~横浜までご乗車/貸切であって増便ではないが、これが事実上初のお召し列車運転
- 1872年8月15日-09:00|日本|北海道根室市|明治5年7月12日|<点灯>納沙布岬灯台(日本最東端の灯台、霧信号所併設、1930年コンクリート造に建替)
- 1872年8月16日-09:00|日本| ||明治5年7月13日|青山・渋谷に神葬地を定める(青山墓地の起こり)
- 1872年8月17日-09:00|日本| ||明治5年7月14日|最初の求人広告が出る(乳母雇い入れの広告)
- 1872年8月17日-09:00|日本|岡山県真庭郡新庄村|明治5年7月14日|<発足>岡山県真庭郡新庄村が誕生
- 1872年8月20日-09:00|日本| ||明治5年7月17日|太政官布告第202号:売薬ハ大学東校ニ於テ取締ルヲ廢ス
- 1872年8月22日-09:30|オーストラリア| |||ポート・アガスタとポート・ダーウインとの間の電信線が37万ポンドの費用をかけて完成
- 1872年8月22日-01:00|セルビア| |||<就任>セルビア公国閣僚評議会議長「ミリヴオ・イェ・ペトロヴィッチ・プラスナヴァツ」(~18730405)
- 1872年8月22日-09:00|日本|愛媛県松山市|明治5年7月19日|<死去>松平定昭(28歳)元予松山藩知藩事
- 1872年8月23日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア・ヘルツェゴビナ総督「ムフメド・ラシッド・パシャ」(2回目~11. 7)
- 1872年8月23日-09:00|日本| ||明治5年7月20日|諸道とも全て伝馬制度を廃止
- 1872年8月23日-09:00|日本|日本郵政|明治5年7月20日|<発行>(手彫)桜切手(1872年)額面:1銭、2銭
- 1872年8月26日-09:00|日本|北海道函館市|明治5年7月23日|福士成豊、函館船場町の自宅に函館気象測量所を設ける。観測器として晴雨計、乾湿器雨量計を使用。わが国初の気象測候所
- 1872年8月28日-09:00|日本| ||明治5年7月25日|衆議院建白規則を制定
- 1872年8月29日-09:00|日本|広島県広島市|明治5年7月26日|<死去>浅野長訓(61歳)元安芸広島藩主
- 1872年8月31日-02:00|南アフリカ| |||<就任>オランダ自由国国家大統領代行「ジャスト・フリート・リヒルト・ル・カウマン」(~10. 4)
- 1872年8月31日-09:00|日本| ||明治5年7月28日|地租改正令発布
- 1872年9月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス「Selanikli Mustafa Necib Pasha」(~1873. 1)
- 1872年9月 06:00|アメリカ| |||マクケンジー-指揮下の第4騎兵隊がコマチ族を虐殺
- 1872年9月1日-09:00|日本|神奈川県横浜市|明治5年7月29日|横浜に高島嘉右衛門のがス製造所完成
- 1872年9月1日-09:00|日本|筑波大学|明治5年7月29日|<開校>日本最初の官立学校「師範学校」[湯島の旧昌平黌跡]

1875迄 (3195件)

]

1872年9月3日-09:00|日本| ||明治5年8月|<発刊>足羽県新聞会社『撮要新聞』第1号(1873.3.第11号で廃刊)
1872年9月3日-09:00|日本|東北大学|明治5年8月|<廃止>宮城県立医学所
1872年9月3日-09:00|日本|名古屋大学|明治5年8月|<廃校>名古屋県仮医学校
1872年9月3日-09:00|日本|日本郵船|明治5年8月|<改名>日本國郵便蒸気船会社「長鯨丸」⇒「萬里丸」
1872年9月3日-09:00|日本| ||明治5年8月1日|<刊行>海軍水路寮、日本最初の海図「陸中国釜石港之図」
1872年9月3日-09:00|日本|九州大学|明治5年8月1日|<廃校>賛生館
1872年9月3日-09:00|日本|国立国会図書館|明治5年8月1日|<設置>文部省「書籍館」[湯島聖堂内博物館に併設](
東京で最初の近代的な公共図書館であるが、当時の閲覧は有料制)
1872年9月4日-09:00|日本| ||明治5年8月2日|<竣工>宮内省内海御召艦「蒼龍丸」(198t)横須賀造船所
1872年9月5日-09:00|日本| ||明治5年8月3日|国民皆学をめざして学制を公布(下等小学4年、上等小学4年)
1872年9月5日-09:00|日本| ||明治5年8月3日|司法省職務定制が定められる
1872年9月5日-09:00|日本|京都大学|明治5年8月3日|<改称>文部省「開成所」⇒「第四大学区第一番中学」
1872年9月5日-09:00|日本|東京大学|明治5年8月3日|<改称>「南校」⇒「第一大学区第一番中学」;「東校」⇒「第一大学区医学校」
1872年9月5日-09:00|日本|立正大学|明治5年8月3日|壇林を廃し東京芝二本榎に宗教院を設立
1872年9月6日-09:00|日本|伊予銀行|明治5年8月4日|<改称>興産社⇒興産会社(1876年)
1872年9月7日-09:00|日本| ||明治5年8月5日|<死去>伏見宮邦家親王(71歳)皇族
1872年9月7日-09:00|日本|茨城県水戸市|明治5年8月5日|<設置>常陸国水戸城に鎮台分営(軍事施設)
1872年9月7日-09:00|日本|東京都|明治5年8月5日|<設置>租税寮内に地租改正局
1872年9月7日-09:00|日本|みずほファイナシャルグループ|明治5年8月5日|<設立>三井組・小野組共同で「三井小野組合銀行」
1872年9月8日-05:30|インド/オーストラリア| ||オーストラリアとインドの間に海底電線が開通
1872年9月10日-12:00|ニュージーランド| |||<就任>ニュージーランド首相「エドワード・ウィリアム・スタッフォード」(3回目~10.11)
1872年9月12日-09:00|日本|東京都|明治5年8月10日|東京府、宮内省会議所設置
1872年9月12日-09:00|日本|日本郵船|明治5年8月10日|廻漕取扱所を解散して日本國郵便蒸気船会社設立
1872年9月12日-08:00|中国| ||清・同治11年8月10日|西寧のイスラム教徒らが、陝西のイスラム教徒らと反乱を起こす
1872年9月13日 00:00|イギリス| |||<ゴルフ>第12回全英オープン選手権優勝:トム・モリス・ジュニア(4回目)(スコットランド/166)
1872年9月14日-09:00|日本| ||明治5年8月12日|貢租米のすべて金納が認められる
1872年9月17日-09:00|日本| ||明治5年8月15日|教育費受益者負担が確定
1872年9月18日-01:00|スウェーデン/ルウェー| |||<死去>ルウェー王「カール4世」兼スウェーデン王「カール15世」46歳(誕生1820年)
1872年9月18日-01:00|スウェーデン/ルウェー| |||<即位>スウェーデン国王「オスカル2世」(~1907.12.08死去78歳)兼ルウェー国王(~1905.10.26退位)
1872年9月19日-09:00|日本| ||明治5年8月17日|<死去>初代本松齋一甫(不明)華道家、生実藩士
1872年9月19日-09:00|日本|長崎県|明治5年8月17日|<移転>佐賀県、沓岐・対馬を移管⇒長崎県
1872年9月20日-01:00|デンマーク| |||デンマーク下院で、連合左翼党が過半数を占める
1872年9月20日-09:00|日本|長崎大学|明治5年8月18日|<改称>長崎医学校⇒第6大学区医学校
1872年9月21日-09:00|日本|東京都|明治5年8月19日|<編入>神奈川県に管轄する12村(中野村・江古田村・上鷺之宮村・雑色村・本郷村・本郷新田・新井村・上高田村・片山村・下鷺之宮村・上沼袋村・下沼袋村)が東京府の管轄に戻る
1872年9月22日-09:00|日本| ||明治5年8月20日|関門海峡に海底電信線が敷設される
1872年9月22日-09:00|日本|長野県諏訪市|明治5年8月20日|長野県諏訪に器械製糸創業
1872年9月24日-01:00|フランス| |||パリで開かれたメートル法制定委員会がメートル原器を制定/地球の大円周の4千万分の1が1m
1872年9月25日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||<就任>セントクリストファー総督「Janus August Garde」(1期目~1876.10.15)
1872年9月25日-09:00|日本|愛媛県宇和島市|明治5年8月23日|<設立>信義社(銀行類似会社、愛媛県北宇和郡佐伯町)
1872年9月25日-09:00|日本|山梨県|明治5年8月23日|<大小切騒動>甲州農民決起
1872年9月28日-09:30|オーストラリア| |||ブリスベンに中央郵便局が開設
1872年9月29日-09:00|日本| ||明治5年8月27日|<設置>司法省「警保寮」、邏卒を移管
1872年9月30日-02:00|ルーマニア/ハンガリー| |||トランシルヴァニアをハンガリーが直接統治(~1918.10.31)
1872年10月-03:00|スーダン/エジプト| |||<就任>エジプト領スーダン総督代行「エドムンド・ド・アラヴィ」(~1873年)
1872年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「フェデリコ・ゴッジ」[フランチェスコ・マルペリ]
1872年10月1日-01:00|フランス| |||<初演>ジョルジュ・ビゼー「劇音楽「アルルの女」」パリのテアトル・ド・ボードゥワイ
1872年10月1日 05:00|パナマ| |||<就任>パナマ大統領代行「ガブリエル・ネラ」(1回目~1873.04.05)
1872年10月1日-09:00|日本| ||明治5年8月29日|太政官布告第244号:官吏犯私罪律改正
1872年10月2日 00:00|イギリス| |||スコットランド・ダンフリース&ガラウェイのカールフリッジ 駅構内の転轍器に連動していない信号の誤現示により、入換作業中の貨物列車に夜行列車が衝突. 死者12人
1872年10月2日-09:00|日本| ||明治5年8月末|街道の伝馬所と助郷を廃止
1872年10月2日-09:00|日本| ||明治5年8月30日|明治政府が農民の職業自由、年貢米の金農、商業兼業を許可
1872年10月2日-09:00|日本|東京都港区|明治5年8月30日|新橋駅構内に西洋食物飲茶店が開業/初の駅売店[キヨク]

1875迄 (3195件)

]

- 1872年10月3日-09:00|日本|東北大学|明治5年9月|私立共立社病院附属塾舎⇒共立病院附属学舎となる(共立学舎と称する)
- 1872年10月3日-09:00|日本|奈良県奈良市|明治5年9月|教部省から興福寺(登大路町)一山の廃寺の指令を受ける
- 1872年10月3日-09:00|日本|日本郵政|明治5年9月1日|<発行>(手彫)桜切手(1872年)額面:半銭、10銭、20銭、30銭
- 1872年10月4日-02:00|南アフリカ| ||<就任>ルンツ 自由国国家大統領代行「委員会(ウィリアム・コリンズ 委員長/フリート・リヒター・シュネー・ジュゲルハルト・ウス・ヨハネス・テュートワ)」(~18730616)
- 1872年10月4日-09:00|日本|茨城県行方市|明治5年9月2日|<死去>新庄直敬(55歳)元常陸麻生藩知藩事
- 1872年10月6日-01:00|ドイツ| ||ドイツで、社会政策学会が設立される
- 1872年10月7日 00:00|ガンビア/イギリス| ||<就任>イギリス領西アフリカ植民地ガンビア管理者代行「ヘンリー・トリー・マイルズ・クーハーン」(1回目~18731002)
- 1872年10月7日 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| ||<就任>サントメ・プリンシペ 総督「Joao Climaco de Carvalho」(~1873.7死去)
- 1872年10月7日-09:00|日本| ||明治5年9月5日|ウヰヰ 市場の禁止
- 1872年10月9日-09:00|日本| ||明治5年9月7日|太政官布告第252号:陸軍元帥服制7定ム;太政官布告第254号:謀殺本属長官律改正
- 1872年10月9日-09:00|日本| ||明治5年9月7日|東京-京都・大阪間に電信開通
- 1872年10月10日-09:00|日本| ||明治5年9月8日|小学教則、中学教則を頒布
- 1872年10月11日-12:00|ニュージーランド| ||<就任>ニュージーランド 首相「ジョージ・マーステン・ウォーターハウス」(~18730303)
- 1872年10月11日-08:00|中国| ||清・同治11年9月10日|清軍が大理府に進攻し、イスラム教徒の馬得重を殺す
- 1872年10月12日-09:00|日本|新潟県|明治5年9月10日|<梯輔騒動>渡辺梯輔、月岡帯刀、川崎九郎次等、捕縛された一揆の首謀者と殺害の下手人等の合わせて7名はいずれも処刑された
- 1872年10月12日-09:00|日本|東京都|明治5年9月10日|<分離編入>神奈川県管轄する20村(高円寺村・馬橋村・永福寺村・上荻窪村・下荻窪村・久我山村・上高井戸村・下高井戸村・中高井戸村・田端村・成宗村・和泉村・大宮前新田・松庵村・和田村・上井草村・下井草村・天沼村・阿佐ヶ谷村・堀之内村)⇒東京府
- 1872年10月14日-09:00|日本|JR東日本東海道本線|明治5年9月12日|<正式開業>官設鉄道[新橋-品川-川崎-鶴見-神奈川(-横浜)]29km/旅客運賃は新橋~横浜上等1円12銭5厘、中等75銭、下等37銭5厘
- 1872年10月15日 00:00|セントヘレナ/イギリス| ||<就任>アセンション島司令官「ジョン・ブレイス=クレイ」(~18740119)
- 1872年10月15日 06:00|カタガタ| ||<成立>カタガタ 太平洋鉄道会社
- 1872年10月15日-09:00|日本| ||明治5年9月13日|太政官布告第262号:文部省中編輯寮ヲ廃シ大中小少督学ヲ置キ
- 1872年10月16日-09:00|日本| ||明治5年9月14日|海軍兵員徴募規則を定める;太政官布告第265号:僧侶苗字ヲ設ケム
- 1872年10月16日-09:00|日本|沖縄県|明治5年9月14日|<発足>琉球王国を鹿児島県の管轄から離し、琉球藩が設置され国王尚泰を琉球藩主とし華族とする
- 1872年10月16日-09:00|日本|北海道|明治5年9月14日|<分割>開拓使の札幌本庁を開庁/その下に函館、宗谷、浦河、根室、樺太の5支庁を置く
- 1872年10月17日-09:00|日本| ||明治5年9月15日|太政官布告第273号:修験道廃止令
- 1872年10月17日-08:00|中国| ||清・同治11年9月16日|清軍が臨安府でイスラム教徒を破る
- 1872年10月18日-02:00|南アフリカ| ||<死去>スール王国国王「ムハンデ」
- 1872年10月18日-02:00|南アフリカ| ||<即位>スール王国国王「セフヨ・カムハンデ」(1期目~18790828)
- 1872年10月18日-09:00|日本| ||明治5年9月16日|<開催>「金沢展覧会」(~10月16日)[開催地]石川県[会場]兼六園内翼新殿[主催]石川県/前田侯の刀剣・金玉・銅錫・陶器・漆器・布帛・木工竹彫・書画を展示
- 1872年10月19日-09:30|オーストラリア| ||ニューサウスウェルズのヒル・エンドで、世界最大級の235キログラムにもなる金塊が発見されルタンの金塊と呼ばれた
- 1872年10月19日-02:00|トルコ| ||<交替>オスマン帝国大宰相「アブドゥル・シェフィク・ミダット・パシャ」進歩思想が強すぎたためスルタンによって罷免⇒「ミュテリム・リシュティ・イ・パシャ」就任(3期目~18730315)
- 1872年10月21日-04:00|モリシャス/イギリス| ||<就任>イギリス植民地モリシャス総督・最高司令官代行「エドワード・ニュートン」(1回目~28日)
- 1872年10月21日-09:00|日本| ||明治5年9月19日|<死去>吉沢検校(65歳)地歌箏曲家
- 1872年10月22日-01:00|ベルギー/ドイツ| ||ベルギーの国際寝台車会社(ワゴン・リ社)オーステンデ-ベルリン間で寝台列車運行開始
- 1872年10月22日-09:00|日本| ||明治5年9月20日|<仮設>開拓使学校[東京府下芝山内]
- 1872年10月23日-09:00|日本| ||明治5年9月21日|三座又は代え檣以外の芝居公認(160年ぶり)
- 1872年10月25日-09:00|日本|福島県郡山市|明治5年9月23日|<死去>松平頼升(41歳)元陸奥守山藩知藩事
- 1872年10月25日-09:00|日本|北海道|明治5年9月23日|<分離編入>青森県松前[渡島国のうち福島郡・津軽郡・檜山郡・爾志郡]を移管→開拓使
- 1872年10月25日-09:00|日本|宮崎県|明治5年9月23日|<分離編入>八代県球磨郡米良地方14村⇒美々津県児湯郡に移管
- 1872年10月25日-08:00|中国| ||清・同治11年9月24日|清軍が肅州のイスラム教徒を破る
- 1872年10月26日-09:00|日本| ||明治5年9月24日|鉄銭の併行通用認める/寛永通寶四文鉄銭8枚=1厘、寛永通寶一文鉄銭16枚=1厘
- 1872年10月27日-09:00|日本| ||明治5年9月25日|太政官布告第289号:北海道江差湊へ海関ヲ設ク

1875迄 (3195件)

1872年10月27日-09:00|日本|石川県|明治5年9月25日|<分離編入>七尾県旧能登国→石川県
1872年10月27日-09:00|日本|富山県|明治5年9月25日|<分割編入>七尾県越中国射水郡を移管→新川県
1872年10月30日-09:00|日本|滋賀県|明治5年9月28日|<編入>犬上県、編入→滋賀県
1872年10月30日-09:00|日本|東京都|明治5年9月28日|<死去>三升亭小勝・2代(落語家)
1872年10月31日-09:00|日本|大阪府大阪市|明治5年9月29日|<廃止>大阪医学校
1872年10月31日-09:00|日本|神奈川県横浜市|明治5年9月29日|高島嘉右衛門・日本ガス社中により横浜の大江橋から馬車道・本町通りにかけて、日本最初のガス灯が点灯される
1872年11月-03:30|イラン| ||イランが財務、戦争、司法等の9省を設置
1872年11月-01:00|オランダ| ||<就任>オランダ 王国首相「アイザック・ワシー・ファン・デル・フト」(2回目~18740827)
1872年11月-01:00|スペイン/キューバ| ||カリスト、ルキン攻略作戦に成功
1872年11月1日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|明治5年10月|<創建>白旗神社(西御門, 旧法華堂) 頼朝を祀る
1872年11月1日-09:00|日本|大阪府大阪市|明治5年10月1日|<初点灯>天保山灯台(木造, 廃灯) 点灯
1872年11月1日-09:00|日本|兵庫県神戸市|明治5年10月1日|<初点灯>和田岬灯台(木造, 1963年廃灯, 2代目が須磨海浜公園に移設保存)
1872年11月2日-09:00|日本| ||明治5年10月2日|太政官布告第295号:(芸娼妓解放令) 人身売買・娼妓・芸妓の年季奉公廃止:太政官布告第297号:古金銀納入証券渡方規則中改正
1872年11月3日-09:00|日本| ||明治5年10月3日|新橋・横浜間鉄道専用電信開設
1872年11月3日-09:00|日本|東京都中央区|明治5年10月3日|東京・新富座が日本初の仮式劇場になる
1872年11月4日-09:30|オーストラリア| ||<就任>タスマニア植民地政府首相「フレデリック・ヘス」(~18730804)
1872年11月4日-09:00|日本| ||明治5年10月4日|太政官布告第298号:府県官宅/地租取立方々定ム
1872年11月4日-09:00|日本|群馬県富岡市|明治5年10月4日|富岡製糸場がフランス製機械を使って操業を開始
1872年11月4日-09:00|日本|東京都千代田区|明治5年10月4日|国史編輯局の事業を継いで、太政官正院に歴史課設置:太政官正院に翻訳局設置
1872年11月5日-01:00|スウェーデン/ノルウェー| ||<就任>ノルウェー地方長官「フリートリッ・リッター・カルネッガー・フォン・リートホルスト」(~18810430)
1872年11月5日-01:00|フランス/イギリス| ||英仏通商条約が締結される
1872年11月5日 04:00|プエルトリコ/スペイン| ||<就任>プエルトリコ総司令官兼上席市民知事「Joaquin Enrile y Hernan」(~18730214)
1872年11月5日 06:00|アメリカ| ||ユリッス・グラントがアメリカ大統領に再選される
1872年11月5日-09:00|日本| ||明治5年10月5日|<死去>巢内式部(55歳) 尊攘運動家、歌人
1872年11月5日-08:00|中国| ||清・同治11年10月5日|貴州の清軍が、新城を攻めてイスラム教徒の金万照を捕らえる
1872年11月7日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| ||<就任>ボスニア・ヘルツェゴビナ総督「ムスタファ・アシム・パシャ」(~18731127)
1872年11月7日-09:00|日本| ||明治5年10月7日|太政官布告第299号:米大小豆雑穀等ヲ以テ油製造ヲ許ス
1872年11月8日-09:00|日本| ||明治5年10月8日|<営業開始>運輸馬車会社[千住~宇都宮]間
1872年11月8日-09:00|日本|神奈川県|明治5年10月8日|<移管>工部省「横須賀造船所・横浜製作所」⇒海軍省
1872年11月9日 06:00|アメリカ| ||米国ボストンで大火、金融街の大部分を含む776棟の建物が焼失、少なくとも20名が亡くなった
1872年11月9日-09:00|日本|東京都千代田区|明治5年10月9日|太政官布告第303号:大蔵省中勸農寮正算司ヲ廃ス
1872年11月10日-01:00|フランス| ||<初演>ジョルジュ・ビゼー「アルの女・組曲第1番」パドル
1872年11月10日-09:00|日本| ||明治5年10月10日|長崎でイワシの油漬缶詰が作られ、北海道開拓使が石狩町に缶詰工場を開設
1872年11月10日-09:00|日本|北海道|明治5年10月10日|太政官布告第304号:北海道土地売賃規則
1872年11月11日 00:00|カリブ諸島/スペイン| ||<就任>スペイン王領カリブ諸島市民知事「Pedro Mariano Ramirez Atenza」(~18730311)
1872年11月12日-09:00|韓国/朝鮮| ||<就任>朝鮮国領議政「洪淳穆」(~18730525)
1872年11月13日-01:00|フランス| ||<コート・モネ、少年時代を過ごしたセヌ川河口の町ル・アーブルで「印象、日の出」(16区「マルモタン・モネ美術館」)を描く
1872年11月13日-09:00|日本| ||明治5年10月13日|太政官布告第307号:勅任官位犯罪条例ヲ改ム
1872年11月13日-09:00|日本|東京都中央区|明治5年10月13日|<開場>守田座[新富町に新築]/外国人用椅子席完備
1872年11月14日-09:00|日本|東京都千代田区|明治5年10月14日|太政官布告第308号:外務省中弁務使記ヲ廃シ公使書記官ヲ置ク
1872年11月15日-09:00|日本|東京都|明治5年10月15日|東京府、営繕会議所附養育院設立
1872年11月17日-09:00|日本|東京都千代田区|明治5年10月17日|文部省教科書編成掛を置き、編集に着手
1872年11月19日-02:00|フィンランド/ロシア| ||<就任>ロシア領フィンランド 総督代行「ヨハン・マウティス・フライヘル・ノルデンスタム」(4回目~18730324)
1872年11月23日 00:00|カナダ/イギリス| ||<就任>イギリス領西アフリカ植民地「コールド・コースト」管理責任者「ロバート・ウィリアム・ハーレー」(~18731002)
1872年11月23日-09:00|日本| ||明治5年10月23日|新聞『新聞雑誌』に日本初の尋ね人広告掲載
1872年11月25日-09:00|日本|東京都千代田区|明治5年10月25日|太政官布告第322号:教部省を文部省に合併
1872年11月27日 04:00|ボリビア| ||<就任>ボリビア共和国大統領代行「ファン・デ・テ・イオス・ホスケイ・ベンチュラ・ファルファン」(~28日)

1875迄 (3195件)

- 1872年11月27日-09:00|日本|岡山県笠岡市|明治5年10月25日|小田県, 県庁を浄心寺から元笠岡代官所跡の新庁舎に移転
- 1872年11月27日-09:00|日本|北海道|明治5年10月27日|太政官布告第323号: 開拓使ニ於テ北海道航海荷物運輸仕法ヲ設ケ
- 1872年11月28日 04:00|ホ^レリ^ア| |||<就任>ホ^レリ^ア共和国大統領「トマス・フランシスコ・リアス・アマトラ」(1回目~18730509)
- 1872年11月28日-09:00|日本| ||明治5年10月28日|太政官布告第325号: 道路掃除ノ条目ヲ定ム
- 1872年11月28日-09:00|日本| ||明治5年10月28日|太政官布告第326号: 外務省中書記生ヲ置ク
- 1872年11月28日-09:00|日本|東京都|明治5年10月28日|営繕会議所を会議所に改める
- 1872年11月28日-09:00|日本|東京都新宿区|明治5年10月28日|内藤新宿動植物試験場(後の新宿御苑)設置
- 1872年11月30日-01:00|フランス| |||<初演>ジュール・エミール・フレデリック・マネ《歌劇「バザンのドン・セザール」》
- 1872年11月30日 00:00|イギリス| |||スコットランドでイングランドとスコットランドが初のサッカー公式国際試合
- 1872年12月-01:00|ナイジェリア/イギリス| |||<就任>ラコス植民地管理者「ジョージ・Berkeley」(~1873. 8)
- 1872年12月1日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ケープ植民地首相「ジョン・チャールズ・メルテ」無党派(~18780205)
- 1872年12月1日-09:00|日本|神奈川県横浜市|明治5年11月|<開設>高島町遊郭(吉原遊郭を移転→1880年永真遊郭に移転)
- 1872年12月1日-09:00|日本|京都府立医科大学|明治5年11月1日|栗田口青蓮院内に仮療病院を設け患者の治療を行うかたわら医学生を教育した
- 1872年12月1日-09:00|日本|東京都|明治5年11月1日|消防組が再び東京府に属することになる
- 1872年12月5日-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国首相「ヨゼフ・アースラー・イ・カニャ・エ・エルネ」(~18740320)
- 1872年12月5日-01:00|赤道ギニア/スペイン| |||<就任>フェルナンド・ホー-総督「イグナシオ・ガルスア・デ・トゲラ・イ・フリエ」(~18741122)
- 1872年12月5日 03:00|大西洋/イギリス| |||15時頃、イギリスの帆船「イ・グラーシア号」が大西洋上で、マストが折れて無人で漂っていた帆船「リネスト号」に出会う。乗組員10人全員消失
- 1872年12月6日-09:00|日本|青森県青森市|明治5年11月6日|青森明治5年下新町の大火「(武士) 火事」午後8時下新町奥崎丹蔵方より出火、729戸焼失
- 1872年12月8日-09:00|日本| ||明治5年11月8日|太政官布告第334号: 総本寺本山ヲ除ク無檀無住の寺院廃止布令
- 1872年12月9日-01:00|ドイツ| |||ドイツで、地方行政再編法案が上院を通過/商業割引銀行が設立される
- 1872年12月9日-09:00|日本| ||明治5年11月9日|太政官布告第337号: 改暦/太陰暦を廃止して太陽暦を採用するとの布告が出された(太陰暦の明治5年12月3日を明治6年1月1日とする) 時間表示が改められる(1日24時間)
- 1872年12月9日-09:00|日本|ふくおかフィナンシャルグループ|明治5年11月9日|<改称>永見松田商社(長崎東浜町326番地) 資本金を8万円に増資⇒立誠会社
- 1872年12月11日 10:00|ハワイ| |||<死去>ハワイ王「カメハメハ5世」
- 1872年12月11日 10:00|ハワイ| |||<即位>ハワイ諸島王国国王「執行省:Ferdinand William Hutchison/Robert Stirling(1期目)/Stephen Henry Phillips」(~18730109)
- 1872年12月12日 06:00|アメリカ| |||<売却>アメリカ海軍カントウケック級スloop「アルバーニ」(3300t); アメリカ海軍ジャワ級フリゲイト「ケリエル」(3954t)
- 1872年12月12日-09:00|日本| ||明治5年11月12日|太政官布告第339号: 大礼服にそれまでの袴などの和服を廃止し洋服を採用する太政官布告
- 1872年12月13日-01:00|ドイツ| |||ドイツの「パウル・ヘンライン」が合成ガスを燃料とするエンジンを用いる飛行船のテスト飛行を行ない時速19kmの速度で飛行
- 1872年12月13日-09:00|日本| ||明治5年11月13日|<死去>6代常磐津小文字太夫(32歳) 浄瑠璃太夫
- 1872年12月13日-09:00|日本| ||明治5年11月13日|司法省、違式かい違条例制定/現代では軽犯罪に当たる程度の罪を、罰金や10~20回の答罰(罪人の身体に力を振るい痛める刑罰)、1~2日の拘留刑などで罰する/疫病や交通事故などを防止するための条文が用意されている/公衆衛生面の注意事項が多い
- 1872年12月14日-09:00|日本| ||明治5年11月14日|太政官布告第341号: 一部金銀貨の直径縮小、一部銀貨の量目増加
- 1872年12月14日-09:00|日本|愛知県刈谷市|明治5年11月14日|<死去>土井利教(26歳) 元三河刈谷藩知藩事
- 1872年12月15日-09:00|日本| ||明治5年11月15日|神武天皇即位の年を紀元とし、即位日の1月29日を祝日とする(1873年10月14日に2月11日に変更)
- 1872年12月15日-09:00|日本| ||明治5年11月15日|太政官布告第349号: 国立銀行条例国立銀行成規
- 1872年12月15日-09:00|日本|香川県高松市|明治5年11月15日|<点灯>鍋島灯台(香川県坂出市, 石造, 初期のものが現存、退息所は四国村に移築保存)
- 1872年12月16日-09:00|日本|長崎県長崎市|明治5年11月16日|高島炭坑で坑夫が暴動
- 1872年12月19日-09:00|日本| ||明治5年11月19日|太政官布告第355号: 古金銀納入証券渡方規則中更正
- 1872年12月20日-09:00|日本|東京都墨田区|明治5年11月20日|<大相撲>明治5年11月場所[東京本所回向院](~10日間) 幕内優勝:(東小結) 兜山, 8勝0敗2休
- 1872年12月23日-09:00|日本| ||明治5年11月23日|女性の相撲見物を許可
- 1872年12月26日 06:00|アメリカ| |||アメリカ軍とアパッチ族、ソルト川峡谷の戦い
- 1872年12月26日-09:00|日本|東京都中央区|明治5年11月26日|茅場町と小網町との間なる鎧の渡しを木橋に改め鎧橋完成(日本橋小網町)
- 1872年12月27日-09:00|日本| ||明治5年11月27日|太政官布告第378号: 監獄則

1875迄 (3195件)

- 1872年12月27日-09:00|日本|愛知県|明治5年11月27日|<編入>額田県→愛知県
- 1872年12月27日-09:00|日本|東京都千代田区|明治5年11月27日|神殿・皇霊殿が完成し、八神は天神地祇と併せて神殿に祀られ、歴代皇霊は賢所から皇霊殿に奉遷された
- 1872年12月28日-09:00|日本| |明治5年11月28日|<改称>税関本局⇒横浜税関(税関賦制改正の為)
- 1872年12月28日-09:00|日本| |明治5年11月28日|全国徴兵に関する詔が出される
- 1872年12月28日-09:00|日本|東京都豊島区|明治5年11月28日|雑司ヶ谷・駒込に神葬地が定められる
- 1872年12月29日-09:00|日本|東京都新宿区|明治5年11月29日|陸軍省御用商人「山城屋和助」公金不正融資事件に
関与し、陸軍省で自害
- 1872年12月31日-09:00|日本| |明治5年12月2日|太政官布達人身売買禁止令
- 1872年12月31日-09:00|日本|大分県|明治5年12月2日|大分県下農民一揆/処罰者は28000名
- 1873年-08:00|マレーシア| |<就任>スガ・イ・ウジ ヨン統治者(ウンダ・ン・ルアク・スガ・イ・ウジ ヨン)「ダトウク・サイト・アブドゥル・ラマン・ビン・アマト・アル・カドリ」(~1881年没)
- 1873年-08:00|インドネシア| |<即位>テリ・スルタン「Sultan Ma'mun Al Rashid Perkasa Alamyah」(~1924年)
- 1873年-07:00|タイ| |<就任>ランハン国主(チャオ)「フムマフィウオン」(~1887年)
- 1873年-07:00|タイ| |<即位>チェンマイ国チェットン朝国王インタウイチャヤノン(~1896年)
- 1873年-06:00|ブータン| |<就任>英領インド保護領ブータン首席大臣「タンテ・イン・ゴト・ウツ」(~1885年)
- 1873年-06:00|ブータン| |<就任>ブータン摂政「キツェツ・ト・ルン・ナムギヤル」(1回目~1877年)
- 1873年-05:30|インド/イギリス| |<就任>サングリ国はイギリス領インド(~18871201)
- 1873年-05:30|インド| |<就任>サングリ国管理者「ウエスト」(~1878年7月)
- 1873年-05:30|インド| |<就任>タルチャー国ラジャ「ラムチャンドラ・ビラハール・ハリチャンドン」(~18911218没)
- 1873年-05:30|インド| |<就任>タスラ国ラジャ「チャイトン・テ・オ・ハンジ」(~18970410没)
- 1873年-05:30|インド| |<就任>ナルシガル国ラジャ「ブラタツ・シン」(~1890年4月没)
- 1873年-05:30|インド| |<就任>バルワニ国統治者(ラ)「ジャシュワント・シン」(2回目~18800815)
- 1873年-04:30|アフガニスタン| |ハダフシャンはアフガニスタンに編入
- 1873年-04:00|UAE| |<死去>ウム・アル・カイワイン首長「Sheikh Ali bin Abdullah Al Mualla」
- 1873年-04:00|UAE| |<就任>アジュマン統治者(ハキム)「Sheikh Rashid ibn Humaid2世 Al Nuaimi」(~1891.4死去)
- 1873年-04:00|オマーン| |<就任>アルサイド王朝首相(ワズール)「サイト・ビン・ムハンマド・アル・ブ・サイディ」(1回目~1888年)
- 1873年-04:00|UAE| |<就任>ウム・アル・カイワイン統治者(ハキム)「Sheikh Ahmad1世 ibn `Abd Allah Al Mu`alla」(~19040613死去)
- 1873年-03:30|イラン| |<就任>ヘルシャ大宰相代行「ミルザ・フサイン・カーン・ムシール・アダラ・サハサル/ルザ・ユスフ・アシュティアーニ/カムラン・ミルザ・ナエフ・イス・サルタ(1878年から)」(~1880年)
- 1873年-03:00|ウガンダ| |<死去>ブニヨロキタラ対立王「Kabigumire」
- 1873年-03:00|ウガンダ| |<就任>ウガンダ王国首相「Muhidi」(~1896年)
- 1873年-03:00|エジプト/エジプト| |<就任>エジプト領スーダン総督「イスマイル・ハシヤ・アル・アイユーブ」(~18770518)
- 1873年-03:00|エリトリア/トルコ| |<就任>オスマン帝国マッサラ総督「レイチェル・ベ・イ・アブ・ロヤン」(~1875年11月)
- 1873年-03:00|イラク/トルコ| |<就任>ハスラのワリス「アフメド・ハシヤ海軍司令官代理」⇒「ハリット・ベ・イ」(~同年)
- 1873年-03:00|イエメン| |<即位>下ヤファ・サルタン「Ali2世 ibn Ahmad al-Afifi」(~1885年)
- 1873年-03:00|ウガンダ| |<即位>ブニヨロキタラ王「Olimi6世 Kabugungu」(同年死去)⇒「Cwa2世 Kabalega」(2期目~18980403)
- 1873年-03:00|エリトリア/エジプト| |<センハイトはエジプトに併合され、後に紅海州の一部となった
- 1873年-03:00|エチオピア| |ムアテはイソトラに従属(~1880年)
- 1873年-02:00|サントヘレナ/イギリス| |<就任>キタンゴニア首長「アブド・アルラマン・サイト・アリ」(~1875年)
- 1873年-01:00|ナイジェリア/イギリス| |<死去>ベニオン湾英国領事「チャールズ・Livingstone」
- 1873年-01:00|ベナン| |<就任>アグウェのウエ国統治者「アタンレ」(~1889年)
- 1873年-01:00|スペイン| |<就任>アンブリアス伯「Luis Maria Fernandez de Cordoba y Perez de Barradas」(~1879年)
- 1873年-01:00|ガボン/フランス| |<就任>ガボン・キニア湾入植地司令官「シャルル・アンリ・ジュール・ハノン・デュ・ハジエ」(~1875年)
- 1873年-01:00|スペイン| |<就任>スペイン領セウラ総督(北アフリカ総司令部総督)「Manuel Keller y Garcia」(~同年)⇒「Fulgencio Gavila y Solá」(~1875年)
- 1873年-01:00|ニジェール| |<就任>マラティ国統治者(サルキン・カツイ)「ハルム・タン・タン・カワ」(~1878年)
- 1873年-01:00|ガボン/フランス| |<オルグはフランス保護領
- 1873年 00:00|セントヘレナ/イギリス| |<就任>イギリス領セントヘレナ第8代総督「Hudson Ralph Janisch」
- 1873年 00:00|モリタニア| |<就任>トラルザ連邦エミール「アリ・テ・イオンボット・ウルト・ムハンマド」(~1886年10月没)
- 1873年 00:00|セカール| |<就任>バウール統治者(ティーン)「ラト・ジョー・ソーン・ラティール・シヨツ」(~1874年)
- 1873年 04:00|アンギラ/イギリス| |<就任>イギリス領アンギラ主任判事「D. S. Lloyd」(~同年)
- 1873年 04:00|トミカ国/イギリス| |<就任>イギリス領トミカ大統領「チャールズ・モンロー・エルトリツ」(~1882年6月)
- 1873年 04:00|プエルトリコ/スペイン| |<就任>ベニクス島市長「Benigno Alvarez」⇒暫定市長「Felix Nieto」⇒市長「Manuel E. Benitez」(~1874年)
- 1873年 04:00|プエルトリコ/スペイン| |<ベニクス島は自治体としてプエルトリコに組み込まれた
- 1873年 10:00|ホリネシア/フランス| |<就任>ホリネシア統治者「Tupua Temauiariri Ha`amananiaha`a Mai」摂政(~1876年)
- 1873年 10:00|ホリネシア/フランス| |<就任>マレバ統治者「Bernardo Teaoiti」摂政(~1881年)

1875迄 (3195件)

- 1873年1月-09:00|日本| ||明治6年|<創刊>週刊「長崎新聞」(本木昌造が松田源五郎、池原日南、西道仙ら)/冊子式で型は半紙の2つ折り表紙とも10枚内外の袋綴り、1部3銭3厘(~18731200廃刊)
- 1873年1月-09:00|日本| ||明治6年|<創刊>「小田県新聞」
- 1873年1月-09:00|日本|埼玉大学|明治6年|<設立>埼玉県「学校改正局」
- 1873年1月-03:00|サウジアラビア| ||<就任>ネジュト 首長「サウド 2世イブン・ファイサル」(2度目~1875年1月)
- 1873年1月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| ||<就任>ダマスカス・ワリス「Mehmed Hallet Pasha」(~1874.9)
- 1873年1月-01:00|アルバニア/トルコ| ||<就任>イシュコラのワリス「フォスフォー・ムスタファ・シドキ・パシャ」(~3月)
- 1873年1月 00:00|セネガル| ||<就任>ファクトロ統治者統治者(アルマニ)「ママトウ・ハール」(2回目~3月)
- 1873年1月 07:00|メキシコ| ||37年以来建設を続けてきたメキシコ=ペラカス間の鉄道開通
- 1873年1月1日-09:30|オーストラリア| ||ウイクトリア教育法施行/無償・義務・世俗教育の確立
- 1873年1月1日-09:00|日本| ||明治6年|<発刊>福澤諭吉著「改暦辨」
- 1873年1月1日-09:00|日本| ||明治6年|国立銀行条例公布
- 1873年1月1日-09:00|日本| ||明治6年|太陰暦を廃止、この日を太陽暦明治6年1月1日とする
- 1873年1月1日-09:00|日本|栃木県|明治6年|<開庁>栃木県初代県庁舎(栃木市)
- 1873年1月1日-01:00|スイス| ||<就任>スイス連邦大統領「ホル・セルソー」Lib(~12.31)
- 1873年1月1日-01:00|ドイツ| ||<就任>プロシヤ王国首相「アルブレヒト・フォン・ローン」(~11.9)
- 1873年1月1日-01:00|ハンガリー| ||ブダペストとペシュトが合併してブダペストとなり、ハンガリー側の首都になる
- 1873年1月1日 08:00|ヒトケアン諸島/イギリス| ||<就任>イギリス領ヒトケアン諸島主任判事「Thursday October Christian 2世」(5期目~18741231)
- 1873年1月2日 00:00|イギリス| ||<死去>9代キヤロウェイ伯「ランドルフ・ステュアート」
- 1873年1月2日 00:00|イギリス| ||<就任>10代キヤロウェイ伯「アラン・フランシス・ネット・ステュアート」(~19010207死去)
- 1873年1月2日-09:00|韓国/朝鮮| ||清・同治11年12月4日|戸布法実施で小民が士族を軽んじることを厳禁
- 1873年1月4日-09:00|日本| ||明治6年|<改称>横浜運上所⇒横浜税関、大阪運上所⇒大阪港税関、兵庫運上所⇒神戸税関、新潟運上所⇒新潟税関、函館運上所⇒函館税関、長崎運上所⇒長崎税関
- 1873年1月4日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第1号「五節ヲ廢シ祝日ヲ定ム」(神武天皇即位日・天長節を祝日とし5節句を廃止)
- 1873年1月7日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第2号「休暇日ヲ定ム」(官庁の年末・年始の休暇決まる)
- 1873年1月7日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| ||<就任>アングラ・ト・エロイス 民政知事「Francisco de Albuquerque Pinto Mesquita e Castro」(~18760412)
- 1873年1月8日-08:00|フィリピン/スペイン| ||<就任>スペイン領フィリピン総督代理「Manuel Mac-Crohon y Blake」(~24日)
- 1873年1月8日 10:00|ハワイ| ||<即位>ハワイ王「ルリロ」(~18740203)
- 1873年1月9日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第4号「全国鎮台配置改定」(鎮台を名古屋・広島に置き6鎮台とする);<改称>鎮西鎮台⇒熊本鎮台
- 1873年1月9日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第5号「新律名例改正並附例」
- 1873年1月9日-09:00|日本|栃木県小山市|明治6年|<改称>「羽川駅」⇒「羽川駅」(明治6年太政官布告第6号)
- 1873年1月9日-01:00|フランス| ||<死去>ルイ・ホレオン/64歳(誕生:18080420)フランスの皇帝ルイ・ホレオン3世
- 1873年1月9日 10:00|ハワイ| ||<即位>ハワイ諸島王国国王「William Charles Lunaliilo」(~1874年死去)
- 1873年1月10日-09:00|日本| ||明治6年|<施行>国民皆兵の徴兵令(明治5年11月28日太政官布告第379号,20歳以上の男子に兵役義務)
- 1873年1月10日-02:00|南アフリカ/イギリス| ||<就任>イギリス領グワタランド 西州副知事「リチャード・スーシー」(~18750803)
- 1873年1月12日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第8号「港内取締規則ヲ定メ港湾海川口等ニ於テ商船税金収入廢止」
- 1873年1月13日-09:00|日本|愛媛県今治市|明治6年|石川県庁を今治へ移転
- 1873年1月13日-04:00|ロシア| ||<初演>ニコライ・アントン・レヴィエフ「イリムスキー=コルコフ《歌劇「プスコフの娘」》
- 1873年1月14日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第11号「第舍貸渡規則中改正」
- 1873年1月14日-09:00|日本| ||明治6年|明治新政府が城郭の廢城令を出す(3分の2の城郭が廢城となる)
- 1873年1月14日-09:00|日本|石川県|明治6年|<移転>石川県庁[⇒金沢](明治6年太政官布告第13号)
- 1873年1月14日-09:00|日本|福井県|明治6年|<合併>足羽県⇒敦賀県
- 1873年1月14日-08:00|中国| ||清・同治11年12月16日|中国初の汽船航運会社で半官半民の輪船招商局が上海に設置される
- 1873年1月15日-09:00|日本| ||明治6年|<設立>保任社(日本における最初の海上保険)
- 1873年1月15日-09:00|日本| ||明治6年|庶民をまどわす梓巫、市子、憑祈禱、狐下げなどの民族信仰を禁止
- 1873年1月15日-09:00|日本|鹿児島県|明治6年|<分離編入>都城県大隅国⇒鹿児島県
- 1873年1月15日-09:00|日本|熊本県|明治6年|<編入>八代県⇒白川県
- 1873年1月15日-09:00|日本|宮城県仙台市|明治6年|<一般開放>西公園(仙台市)
- 1873年1月15日-09:00|日本|宮崎県|明治6年|<合併>美々津県全部・都城県の一部(日向国)→(第1次)宮崎県
- 1873年1月17日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第18号「地所質入書入規則」
- 1873年1月18日-09:00|日本| ||明治6年|<設置>大阪裁判所
- 1873年1月18日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第21号「妻妾ニ非ル婦女分娩ノ兒子ハ私生ト為シ其婦女ノ引受ヲシム」(妻・妾でない女性の児を私生児と称する)布告
- 1873年1月18日 00:00|イギリス| ||<死去>イギリスの作家リットン/69歳(誕生:18030525)「ホッペン最後の日」

1875迄 (3195件)

- 1873年1月19日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第23号「僧侶/位階ヲ廃ス」
- 1873年1月20日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第25号「鳥獸獵免許取締規則」
- 1873年1月20日-04:00|モリスヤス/イギリス| |||<就任>イギリス植民地モリスヤス総督・最高司令官代行「エドワード・ニュートン」(2回目~10.20)
- 1873年1月22日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第26号「比丘尼蓄髮肉食縁付婦俗等随意トス」(尼僧の蓄髮・肉食・婚姻・婦俗の自由が認められる);明治6年太政官布告第27号「華士族平民互ニ養子取組ヲ許ス」(華士族と平民の相互養子縁組許される);明治6年太政官布告第28号「華士族家督相続ノ条規ヲ定ム」
- 1873年1月24日-08:00|フィリピン/スペイン| |||<就任>スペイン領フィリピン総督「フアン・アラミス・テ・ハバル」(~18740317)
- 1873年1月25日-09:00|日本| ||明治6年|<開業>勸工寮機械製糸場
- 1873年1月25日-09:00|日本| ||明治6年|<創刊>「東京仮名書新聞」
- 1873年1月26日-04:00|ロシア| |||<初演>ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー《交響曲第2番ハ短調“小ロシア”Op. 17》
- 1873年1月26日 03:00|ブラジル| |||<死去>アメリ・ド・ホアルネ・ブラジル皇帝ペドロ1世の皇后(生年1812年)
- 1873年1月26日 03:00|ブラジル| |||ブラジルで連邦共和国クラブが結成
- 1873年1月28日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第30号「海軍兵学寮生徒入寮規則中年令改正」
- 1873年1月29日-09:00|日本| ||明治6年|紀元節祝日の始(後に2月11日と改める)
- 1873年1月30日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第31号「僕婢馬車人力車駕籠乗馬遊船等諸税規則」;明治6年太政官布告第33号「囚犯繫獄決放病死等ノ際携帶品処分ヲ定ム」
- 1873年1月31日-09:00|日本|奈良県桜井市|明治6年|<死去>織田長易(50歳)元大和芝村藩知藩事
- 1873年2月-09:00|日本| ||明治6年|<売却>肥後藩「Migoto」⇒三川商会(大阪)、「蓬莱丸」と改名
- 1873年2月-09:00|日本| ||明治6年|安曇郡の臥雲辰致が綿紡機発明
- 1873年2月-09:00|日本| ||明治6年|教導職の全国統括機関「大教院」を増上寺内に移転;各府県単位の統括を行なう中教院が設置され全国に小教院が置かれた
- 1873年2月-09:00|日本| ||明治6年|鉄製汽船「コウマル」(294G/T)セカイ(東京)が建造進水(竣工後、まもなく「電信丸」と改名)
- 1873年2月-09:00|日本|群馬大学|明治6年|<設立>群馬に小学校教員伝習所
- 1873年2月 05:00|ベルギー| |||ベルギーは自国内イタリヤの矽硝石会社を接收,自ら開発に乗り出す
- 1873年2月1日-09:00|日本| ||明治6年|<死去>5代大谷廣次(41歳、4代大谷友右衛門次男、安政2年5代大谷友右衛門⇒明治3年現名)歌舞伎役者
- 1873年2月1日-08:00|中国| ||清・同治12年1月4日|劉錦棠が、甘肅の大通の向陽堡を攻略してイスラム教徒の馬寿、馬進禄らを殺す
- 1873年2月2日-09:00|日本|順天堂大学|明治6年|佐倉順天堂、本郷湯島に病院を開く
- 1873年2月3日-09:00|日本| ||明治6年|<落成>心齋橋(鉄橋)
- 1873年2月5日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第36号「年令計算方ヲ定ム」(年齢計算を満年齢〇年〇月と数えることを定める)
- 1873年2月5日-09:00|日本|東京都|明治6年|東京府が養育院を上野の護国院跡に移転
- 1873年2月6日-09:00|日本| ||明治6年|高島炭坑で再度暴動、400人が暴動、死者2人、脱走30人
- 1873年2月6日 04:00|セントクリストファー・ネビス/イギリス| |||<就任>イギリス植民地セントクリストファース大統領「アレクサンダー・ウィルソン・モア」(~1882年)
- 1873年2月7日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第37号「復讐ヲ嚴禁ス」;明治6年太政官布告第39号「父祖被毆律改正」;明治6年太政官布告第41号「狩衣直垂浄衣等ヲ祭服ニ用ルヲ許ス」
- 1873年2月7日-05:30|インド| |||<死去>トルゴール国支配者(マハラジャ)「ハグワント・シン」
- 1873年2月7日-05:30|インド| |||<即位>トルゴール国支配者(マハラジャ)「ニハル・シン」(~19010720没)、摂政「マハラニ・サハハデガイ・バワ」(~1884年)
- 1873年2月7日-02:00|フィンランド| |||<死去>シエリダン・レ・ファヌ、小説家(生年1814年)
- 1873年2月8日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第43号「犯姦律改正」;明治6年太政官布告第44号「閏刑条内廢為庶人之律改定」
- 1873年2月8日-04:00|ロシア| |||<初演>モリス・ペトロフ・イツチ・ムソルグスキー《歌劇「ボリス・ゴドゥノフ」》
- 1873年2月10日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第46号「銀貨幣量目増ニ付五十錢以下模様改正」(新貨条例改正、竜50・20・10・5錢銀貨発行)
- 1873年2月10日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第47号「硝石輸出ヲ許ス」
- 1873年2月11日-09:00|日本|JR北海道青函航路|明治6年|北海道開拓使庁:弘明丸で青森~函館間と函館~安渡間に青函郵便輸送と同時に一般船客輸送開始
- 1873年2月11日-01:00|スペイン| |||<退位>スペイン国王「アマテオ1世」
- 1873年2月12日-09:00|日本|王子ホールディングス|明治6年|三井組・小野組・島田組の計画による製紙会社の設立許可され「抄紙会社」という
- 1873年2月12日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国首相「Estanislao Figueras」連邦共和党(~18730607)
- 1873年2月12日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン共和国第一共和政初代大統領「Estanislao Figueras」連邦共和派(~6.11)
- 1873年2月12日 06:00|アメリカ| |||アメリカで貨幣鑄造法が可決され銀貨の鑄造が停止
- 1873年2月12日 10:00|ボリネシア| |||<死去>ボラボラ統治者「Te ari`i maeva rua2世」
- 1873年2月12日 10:00|ボリネシア| |||<就任>ボラボラ統治者「Te ari`i maeva rua3世」(~18880319)
- 1873年2月13日-05:30|インド| |||<死去>ジョート・ブル国マハラジャ「タクト・シン」

1875迄 (3195件)

- 1873年2月13日-05:30|インド| ||<即位>ジョージ・ポル国マハラジャ「ジヤンワント・シン2世」(~18951011没)
- 1873年2月14日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第51号「質地引起訴訟濟方」
- 1873年2月14日 03:00|ウルク・アイ| ||<就任>ウルク・アイ東方共和国大統領代理「ホ・エウホ・エ・シヤリ」コロト党(⇒3.1大統領) (~18750115)
- 1873年2月14日 04:00|プエルトリコ/スペイン| ||<就任>プエルトリコ総司令官兼上席市民知事「Juan Martinez Plowes」(~3.25)
- 1873年2月15日-09:00|日本| ||明治6年|<新設>大阪府病院[西本願寺掛所内]
- 1873年2月15日-09:00|日本| ||明治6年|<創刊>《まいにちひらかなしんぶんし》, はじめて扁平活字を使用
- 1873年2月15日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第55号「第舍貸渡規則第四章改正」
- 1873年2月16日-09:00|日本| ||明治6年|<創刊>静岡新聞(週2回・静岡県で最初のもの)
- 1873年2月17日-09:00|日本| ||明治6年|証券印紙初めて発行
- 1873年2月17日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第57号「鳥獸獵免許取締規則第十条中改正」; 明治6年太政官布告第58号「私借官物律改正」
- 1873年2月17日 00:00|シエラレオネ/イギリス| ||<就任>イギリス王領シエラレオネ植民地総督「ロバート・ウィリアム・キート」(~3.17没)
- 1873年2月18日-09:00|日本| ||明治6年|<改称>函館運上所⇒税関
- 1873年2月20日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第61号「混穢/制ヲ廃ス」; 明治6年太政官布告第62号「非職有位/鞞大礼服調製迄通常礼服換用ヲ許ス」; 明治6年太政官布告第64号「皇族大礼服制」; 明治6年太政官布告第65号「絞罪器械改正」
- 1873年2月20日-09:00|日本|愛媛県|明治6年|<合併>岩鉄県、神山村→愛媛県
- 1873年2月20日-09:00|日本|香川県|明治6年|<編入>(第1次)香川県→名東県
- 1873年2月20日 04:00|BES諸島| ||<就任>ホーネル副知事「John George Louis Illidge van Romondt」(~18811020)
- 1873年2月22日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第66号「外務省中代領事ヲ廃ス」
- 1873年2月24日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第68号「布告発令毎二十日間便宜/地ニ掲示シ並ニ従来/高札ヲ取除カシム」<キリスト教解禁>
- 1873年2月25日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第69号「贖罪取贖例改正」; 明治6年太政官布告第71号「徒場ヲ懲役場ト換称」
- 1873年2月28日-01:00|ルウェー| ||ルウェーのアルマウエル・ハンセンが顕微鏡でらい菌発見(ハンセン病)
- 1873年3月-09:00|日本|東北大学|明治6年|<改称>共立学舎⇒共立義塾
- 1873年3月-09:00|日本|三菱商事|明治6年|岩崎弥太郎が三川商会の経営を一任され三菱商会と改称
- 1873年3月-01:00|アルバニア/トルコ| ||<就任>イシュトウのワリス「ギルチユ・アリ・ハシヤ」(~5月)
- 1873年3月-01:00|オランダ/インドネシア| ||オランダはアチ王国に宣戦布告
- 1873年3月-01:00|スペイン/キューバ| ||マセオ、侵攻してきたスペイン軍を迎えうち、これを撃破
- 1873年3月 06:00|アメリカ| ||アメリカでショールズ がQWERT配列のタイプライターが登場
- 1873年3月1日-01:00|オーストリア| ||<初演>ヨハン・シュトラウス2世《喜歌劇「ローマの謝肉祭」》
- 1873年3月2日-08:00|中国| ||清・同治12年2月4日|西寧のイスラム教徒の馬桂源らが降伏し、西寧のイスラム教徒の反乱が平定される
- 1873年3月2日-01:00|フランス| ||<初演>ジヨルジュ・ビゼー《小組曲「子供の遊び」》
- 1873年3月3日-12:00|ニュージーランド| ||<就任>ニュージーランド 首相「ウィリアム・フォックス」(4回目~4.8)
- 1873年3月3日-09:00|日本| ||明治6年|<死去>山県墨僊(88歳) 儒学者、書家
- 1873年3月3日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第080号「諸省府県常額金渡方改正」; 明治6年太政官布告第081号「旧藩々貸附金穀取立法則」; 明治6年太政官布告第083号「雑犯律失火条例」
- 1873年3月3日 06:00|アメリカ| ||アメリカ、植樹土地法制定
- 1873年3月4日-09:30|オーストラリア| ||ニューサウスウェールズ で離婚を認める法案が7度目の提出で可決
- 1873年3月4日-09:00|日本| ||明治6年|福井県で真宗宗徒らがキリスト教反対一揆を起こす
- 1873年3月4日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第084号「官宅私下ケ規則改正」; 明治6年太政官布告第085号「田畑村里近傍ニ於テワナ、ヲシナ等ヲ設ルヲ禁ス」
- 1873年3月4日-05:30|インド| ||<就任>サチン国支配者(ナワブ)「アブドゥル・カテイル・カン」(~18870107)
- 1873年3月4日 06:00|エルサルバドル| ||エルサルバドル・サンサルバドル地震、死者800人
- 1873年3月5日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第087号「奴婢馬車人力車駕籠乗馬遊船等諸税規則中 第三条第一則改正」; 明治6年太政官布告第088号「僧侶身代限規則」
- 1873年3月5日-09:00|日本|栃木県|明治5年4月9日|<区制>栃木県で大小区制の実施
- 1873年3月5日-09:00|日本|福岡教育大学|明治6年|藩校修猷館の跡地に学科取調所を設立
- 1873年3月6日-09:00|日本|福井県|明治6年|福井県で真宗復活、キリスト教排除などを目的とした護法一揆が発生
- 1873年3月7日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第091号「神武天皇御即位日ヲ紀元節ト称ス」; 明治6年太政官布告第095号「窩弓殺傷人律」
- 1873年3月10日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第097号「郵便賃銭/称呼ヲ廃シ郵便税ヲ興シ郵便規則並ニ罰則改定」; 郵便料金の全国一律制度が始まる
- 1873年3月11日-09:00|日本|福井県|明治6年|今立郡で一揆がおこる
- 1873年3月13日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第101号「鉄道犯罪罰例改正」; 明治6年太政官布告第102号「祝寿金廃止」
- 1873年3月13日-09:00|日本| ||明治6年|「第2回京都博覧会」開催(~6月10日) [開催地] 京都府 [会場] 京都御所,

1875迄 (3195件)

- 仙洞御所[主催]京都博覧会社[入場者]43,457人
- 1873年3月13日-09:00|日本|福井県|明治6年|坂井郡で一揆がおこる
- 1873年3月13日 00:00|イギリス| ||イギリスのグラストン首相が、アイルランド大学法案の票決に敗れて辞任するが、少数内閣の樹立が拒否されたために再任される
- 1873年3月14日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第103号「外国人民ト婚姻差許条規ヲ定ム」国際結婚が認められる
- 1873年3月14日-09:00|日本|石川県金沢市|明治6年|尾山神社創建
- 1873年3月14日-09:00|日本|北海道大学|明治6年|開拓使仮学校を組織再編のため閉鎖
- 1873年3月15日-09:00|日本| ||明治6年|<開設>鳥羽郵船:鳥羽-品川航路
- 1873年3月15日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第104号「蚕種原紙売捌規則改正」:明治6年太政官布告第105号「旧藩々貸附金穀取立法則追加」
- 1873年3月15日-09:00|日本|三重県|明治6年|「伊勢山田博覧会」開催(～5月31日)[開催地]三重県[会場]伊勢山田大世古町元御師龍太郎邸[主催]度会県,神宮司庁
- 1873年3月15日-02:00|トルコ| ||<就任>オスマン帝国大宰相「カスィム・アフメット・イサット・パシャ」(1期目～4.15)
- 1873年3月15日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| ||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「ホセ・パブロ・テイスタ・デ・アントラーテ」(2回目～18760522)
- 1873年3月16日-01:00|ナイジェリア| ||<即位>ソコト帝国スルタン「Abubakar2世Atiku na Raba」(～18770328)
- 1873年3月17日-09:00|日本| ||明治6年|<合併>「堂島米会所」、「油相庭会所」⇒「堂島米油相庭会所」
- 1873年3月17日-09:00|日本| ||明治6年|最初の海底電信が馬関海峡に開通
- 1873年3月17日-09:00|日本|東京都|明治6年|東京府,朱引内外各区画変更
- 1873年3月17日 00:00|シエラレオネ/イギリス| ||<死去>イギリス王領シエラレオネ植民地総督「ロバート・ウィリアム・キート」
- 1873年3月17日 00:00|シエラレオネ/イギリス| ||<就任>イギリス王領シエラレオネ植民地総督代行「ロバート・ウィリアム・ハーレー/アレクサンダー・ブラホー」(～8.28)
- 1873年3月18日-09:00|日本| ||明治6年|学制二編を追加発布
- 1873年3月18日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第110号「鳥獸獵免許取締規則改正」:明治6年太政官布告第111号「二罪俱発以重論律例並ニ毆ニ三等親以下尊長律条例」
- 1873年3月19日-09:00|日本| ||明治6年|<移管>文部省所管「博物館・書籍館・小石川薬園」⇒太政官正院博覧会事務局
- 1873年3月20日-09:00|日本|広島県|明治6年|広島県庁,二の丸が兵營となったため,広島小町の国泰寺を仮庁舎として移転
- 1873年3月20日-09:00|日本|福岡県|明治6年|<開催>「大宰府博覧会」(～4.20)[開催地]福岡県[主催]尾崎臻,西高辻信巖,三木隆助
- 1873年3月21日-12:00|ニュージーランド/イギリス| ||<就任>イギリス連邦ニュージーランド総督代行「ジョージ・アルフレッド・アーニー卿」(～6.14)
- 1873年3月21日-09:00|日本|兵庫県丹波篠山市|明治6年|<死去>青山忠敏(40歳)元丹波篠山藩知藩事
- 1873年3月21日 00:00|カリフォルニア諸島/スペイン| ||<就任>スペイン王領カリフォルニア諸島市民知事「Miguel Villalba Hervas」(～10.7)
- 1873年3月22日 04:00|プエルトリコ| ||プエルトリコの奴隷制度は廃止
- 1873年3月22日 13:00|日本|神奈川県横浜市|明治6年|<横浜明治6年「相生町の大火」>22時頃,相生町三丁目南側,手塚敬二郎店(たな:貸家)建具職業水谷岩吉方より出火,同町二丁目,四丁目残らず,一丁目八九分通り焼失/それより高砂町残らず,住吉町四丁目迄,常盤四丁,尾上町四丁,真砂町残らず,港町北側わずか残る.末広町三丁目,四丁目,鳩町通中程迄焼失/翌日4時頃鎮火/当時の横浜市街地の3分の1が失われた/町数にして26,家数で1577戸を焼失
- 1873年3月22日 14:30|日本|北海道函館市|明治6年|<函館明治6年の大火「屋根屋火事」>夜中の23時30分,築島第3大区4小区豊川町一丁目の東の端にある梅川楼に近い,屋根屋稼業の川上新四郎方から出火,炎は火元の豊川町は西の端にある武蔵野楼を残して二ノ橋までの2丁目,3丁目を灰にした上,さらに掘割(導水路)を越えて対岸の汐留町1丁目,2丁目にも燃え移り,地続きの地蔵町4丁目から6丁目まで,龍神町,音羽町,西川町まで延焼/その後,炎は願乗寺川も飛び越えて東川町の願乗寺を焼け落とし,周囲の人家をなめ尽くした/翌日午前4時半鎮火/5人死亡,焼失数は町数で9町,棟数で415棟,戸数(世帯)で1314戸うち同居戸数136戸,土蔵2棟,板蔵18棟,雑蔵20棟,家台16台,神社2棟,寺2棟,消火の際こわした家3棟
- 1873年3月23日-09:00|日本| ||明治6年|<昇格>文部省医務課⇒医務局
- 1873年3月23日-09:00|日本|愛媛県|明治6年|愛媛県庁,松山に開庁,旧神山県大洲支庁廃止,旧神山県庁(宇和島)を愛媛県支庁として開庁
- 1873年3月23日 04:00|プエルトリコ| ||プエルトリコで奴隷制廃止
- 1873年3月23日 06:00|アメリカ| ||E・レミントン・アット・サンズ社がタイプライターを製造開始
- 1873年3月24日-10:00|グアム/北マリアナ諸島/スペイン| ||<就任>マリアナ諸島知事「Eduardo Beaumont y Calafat」(～18750114)
- 1873年3月24日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第113号「陸軍省職制改正」(軍務局は歩兵・騎兵を扱う第二局となり,これとは別に通報・軍部・庶務を扱う第一局新設,会計局を改組し会計事務を掌る第五局が置かれ,参謀局が第六局となる)
- 1873年3月24日 04:00|グアム/フランス| ||<就任>グアム知事代理「Octave Bernard Gilbert-Pierre」(～8.23)

1875迄 (3195件)

- 1873年3月25日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第115号「新旧公債証書発行条例」公布(藩債処分のため)
- 1873年3月25日 04:00|プエルトリコ| ||<就任>プエルトリコ総司令官兼上席市民知事「Rafael Primo de Rivera y Sobre monte」(~18740202)
- 1873年3月30日-09:00|日本| ||明治6年|<発布>明治6年太政官布告第121号「金札引換公債証書発行条例」(官省札回収のため)
- 1873年3月30日-09:00|日本| ||明治6年|砂糖の自由貿易初めて許される(従来は国内産出少なかったため制限されていた)
- 1873年3月31日-09:00|日本| ||明治6年|<死去>講談師初代神田伯山
- 1873年4月-09:00|日本|常陽銀行|明治6年|太田開産会社、茨城に設立
- 1873年4月-09:00|日本|東京学芸大学|明治6年|東京府小学教則講習所設立
- 1873年4月-09:00|日本|東京都台東区|明治6年|柳原鍵吉、浅草で撃剣興行を行う
- 1873年4月-09:00|日本|東京都中央区|明治6年|<開場>「中嶋座」[蛸殻町]
- 1873年4月-09:00|日本|東京都中央区|明治6年|東京京橋に西洋料理精養軒が開業
- 1873年4月-05:30|インド| ||<就任>キルチール国統治者(ラオ・ハートール)「アマル・シン」(~18990328)
- 1873年4月-03:00|スーダン| ||<死去>ダールフル・スルタン国スルタン「ムハンマド 4世アル・フサイン」
- 1873年4月-02:00|ブルガリア/トルコ| ||<就任>オスマン帝国ツナ(ドナウ)・ワリス(総督)「アブドゥルカフマン・ヌレディン・ハシヤ」(~1874年4月)
- 1873年4月-01:00|オランダ/インドネシア| ||アチェのウレバラン(領主)層はスルタン・マムドの下に結束、オランダ軍を撃退
- 1873年4月1日-09:00|日本|長野県|明治6年|筑摩県区制を改め30大区199小区を置く
- 1873年4月1日-09:00|日本|日本郵政|明治6年|<発行>(手彫)桜切手(1873年)額面:4銭
- 1873年4月1日-09:00|日本|日本郵政|明治6年|郵便料金の全国均一制実施/書状2銭、市内1銭
- 1873年4月1日-09:00|日本|三重県志摩市|明治6年|安乗埼灯台(三重県阿児町、木造/1948年(昭和23)コンクリート造に建替、初代の木造灯台は船の科学館(東京都)に移築)点灯
- 1873年4月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「セフティミウス・ベルツツィ」[フランチェスコ・マルクッチ]
- 1873年4月1日-01:00|イタリヤ| ||<初演>ジュゼッペ・フォルトゥーノ・フランチェスコ・ウエルディ《弦楽四重奏曲林短調》
- 1873年4月1日 00:00|イギリス| ||<死去>6代ホープトン伯「ジョン・アレクサンダー・ホープ」
- 1873年4月1日 00:00|イギリス| ||<就任>7代ホープトン伯「ジョン・エドワード・リアン・ルイス・ホープ」先代の息子(⇒19021027兼初代リソリスゴ侯~19080229死去)
- 1873年4月1日 06:00|アメリカ| ||<売却>アメリカ海軍外輪戦艦闘艦「ウァンダー・ベルト」(3360t)商船Three Brothersとなる
- 1873年4月2日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第122号「父祖被毆律改正」
- 1873年4月2日-01:00|オーストリア| ||オーストリアで選挙法が改正され、帝国議会議員の直接選挙が規定される
- 1873年4月3日-09:00|日本|宮城県仙台市|明治6年|<創刊>宮城新聞(仙台における新聞の始め)
- 1873年4月5日-09:00|日本| ||明治6年|文部省「小学教則」中の算術を和洋兼学と改定
- 1873年4月5日-01:00|セルビア| ||<就任>セルビア公国閣僚評議会議長「ヨヴァン・リストイ」(2度目、14日まで代行~11.3)
- 1873年4月5日 05:00|ハナマ| ||<就任>ハナマ大統領代行「ダマソ・A・セルヴェラ」(1回目~5.8)
- 1873年4月8日-12:00|ニュージーランド| ||<就任>ニュージーランド首相「ジュリアス・フォゲル」(1回目~18750706)
- 1873年4月10日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第131号:官吏が公務・外交を妨げる内容を新聞に掲載することを禁止
- 1873年4月10日-09:00|日本|京都大学|明治6年|<改称>第四大学区第一番中学⇒第三大学区第一番中学
- 1873年4月10日-09:00|日本|東京大学|明治6年|<改称>第一大学区第一番中学⇒開成学校
- 1873年4月10日-09:00|日本|長崎大学|明治6年|<改称>第六大学区医学校⇒第五大学区医学校
- 1873年4月10日-01:00|フランス| ||<初演>セザール・オーギュスト・ジャンキヨム＝ユベール・フランク《交響詩「贖罪」
- 1873年4月13日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第132号「改正軍人犯罪律」
- 1873年4月14日-03:00|タンザニア| ||ザンジバルがすべての奴隷貿易を廃止
- 1873年4月15日-09:00|日本|東京都|明治6年|<開催>「東京山下門内博物館博覧会」(~7.31)[開催地]東京都[会場]東京山下門内博物館[主催]内務省博覧会事務局
- 1873年4月15日-02:00|トルコ| ||<就任>オスマン帝国大宰相「シムカアンリ・メフメト・リュシュティイ・ハシヤ」(~18740215)
- 1873年4月17日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第135号「生糸取締規則中改正追加」
- 1873年4月17日-09:00|日本|東京都|明治6年|東京府、町用掛改定
- 1873年4月17日-05:30|インド| ||<就任>サト国統治者(ラージヤ・マハラナ)「フラタプ・シンジ・ハ・ワンシンジ」(~18960110没)
- 1873年4月17日-05:30|インド| ||<就任>チャンバ国ラジャ「シャム・シン」(~19040123)
- 1873年4月18日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第136号「伝信線近傍ニ於テ紙鳶ヲ掲ケルヲ禁ス」(全国電線付近にて凧を飛ばすを禁ずる)
- 1873年4月18日-01:00|オランダ| ||<設立>ネーデルラントス・アメリカンス・ストームファルト・マーツアッペイ(ホーランド・アメリカライン)
- 1873年4月18日 03:00|ブラジル| ||ブラジルでサンパウロ共和党が結成される
- 1873年4月18日 05:00|キューバ/スペイン| ||<就任>スペイン植民地キューバ総督・総司令官「カンティート・ヒェルティン・イ・ジョブ・ストライク」(~11.4)
- 1873年4月21日-09:00|日本|北海道大学|明治6年|<再開校>開拓使仮学校
- 1873年4月21日-03:00|スーダン| ||<即位>ダールフル・スルタン国スルタン「イブラヒム・カラト・コイコ」(~18741025没)
- 1873年4月23日-09:00|日本|京都大学|明治6年|<改称>第三大学区第一番中学⇒開明学校;第四大学区第一番中学⇒大阪開明学校

1875迄 (3195件)

- 1873年4月23日-09:00|日本|東京都墨田区|明治6年|<大相撲>明治6年4月場所[東京本所回向院] (~10日間) 幕内優勝:(東関脇) 雷電, 7勝0敗2預1休/この場所から兜山より改め
- 1873年4月24日-10:00|パプアニューギニア/イギリス| |||ジヨン・モリス-船長(2. 20フエアックス・モリス-提督にちなんでポートモリス-を命名)ハイター島で再びパプアのイギリス領有宣言
- 1873年4月28日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第140号「蚕種取締規則改正」
- 1873年4月28日-09:00|日本|東京都中央区|明治6年|<開場>喜昇座[久松町・浜町川河岸] (→久松座→千歳座→明治座)
- 1873年4月28日-08:00|中国| ||清・同治12年4月2日|清軍が、雲南の雲州を攻めてイスラム教徒の馬遇元らを殺す
- 1873年4月29日-09:00|日本|NTT|明治6年|東京・長崎間、電報取り扱い開始
- 1873年4月30日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ナール特別委員代行「トマス・ミルズ」 (~7. 22)
- 1873年4月30日-01:00|フランス/ベトナム| |||デュビュイがハイに帰着し、仏軍とベトナムのグエン朝軍が交戦
- 1873年4月30日-08:00|中国/日本| ||清・同治12年4月4日|特命全権大使副島種臣、天津において李鴻章と日清条約批准書交換がされて発効
- 1873年5月-09:00|日本|香川県高松市|明治6年|<移転改称>「高松医学所」⇒「仮病院」[高松中/村旧講道館]
- 1873年5月-09:00|日本|香川県高松市|明治6年|<改称>高坂柳軒共立病院(香川県高松市)⇒高松公立病院
- 1873年5月-03:00|イメン/トルコ| |||<就任>オスマン帝国イメン・ウリス(総督)「Ahmed Eyyub Pasha」 (~1875. 4)
- 1873年5月-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バグダットのウリス「ブルリ・ムフタ・ラディフ・パシャ・トル」 (~1875年6月)
- 1873年5月-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>アレクソ・ウリス(総督)「Babanli Ahmed Pasha」 (~1874. 6)
- 1873年5月-01:00|アルバニア/トルコ| |||<就任>イシュコラのウリス「セグケット・パシャ」 (~11. 7)
- 1873年5月 04:00|セントクリストファー・ネビス| |||<就任>ネビス大統領「アレクサンダー・オーガスタス・メルフォート・キャンベル」 (~1876年)
- 1873年5月1日-09:00|日本|日本郵政|明治6年|郵便事業が政府独占に、国内信書の往復を郵便寮に移管して私送を禁止
- 1873年5月1日-01:00|オーストリア| |||<開催>「ウィーン万国博覧会」 (~11. 1) [会場]ウィーン・ブラーテル公園(オーストリア) [入場者]7, 225, 000人 ●「ジームスのアーク灯、電気クッションの試作品」など/日本政府としての公式参加
- 1873年5月1日 06:00|アメリカ| |||アメリカで1セント葉書が作られる
- 1873年5月1日 00:00|イギリス| |||<死去>デヴィッド・リヴィングストン、探検家(生年1813年)
- 1873年5月2日-09:00|日本| ||明治|<移管改称>御召船「春風丸」⇒日本海軍「肇敏丸」(→明治9年2月20日:運送艦→明治10年:練習艦)
- 1873年5月2日-09:00|日本| ||明治6年|太政官職制改正、参議を内閣議官と改称、右院が臨時機関化
- 1873年5月2日-09:00|日本|広島県|明治|広島中島本町より出火。中島本町39戸、天神町北組25戸、材木町3戸、合計67戸焼失
- 1873年5月2日-09:00|日本|福井県|明治6年|<移転>敦賀県庁[⇒仮県庁、今浜村永建寺]
- 1873年5月5日-09:00|日本| ||明治6年|<移管>外務省附属語学所⇒文部省所轄
- 1873年5月5日-09:00|日本|群馬県沼田市|明治6年|<死去>土岐頼之(47歳)元上野沼田藩主
- 1873年5月5日-09:00|日本|東京都千代田区|明治6年|皇居炎上、赤坂離宮を仮皇居とする
- 1873年5月5日-01:00|デンマーク/スウェーデン| |||スウェーデン・デンマークに貨幣同盟成立し、金本位制採用
- 1873年5月6日-09:00|日本|山梨大学|明治6年|<改称>甲府学問所徴典館⇒開智学校
- 1873年5月6日 00:00|イギリス| |||<死去>2代ゼットランド伯「トマス・ダングラス」
- 1873年5月6日 00:00|イギリス| |||<就任>3代ゼットランド伯「ロレンス・ダングラス」(⇒18920822初代ゼットランド侯~19290311死去)
- 1873年5月6日-01:00|ドイツ/ロシア| ||ロシア暦4月24日|ヴイヘルム1世が、アレクサンドル2世を訪問して独露軍事協定を締結
- 1873年5月7日-09:00|日本|高知県|明治6年|高知県、高知城を公園とする
- 1873年5月7日 00:00|イギリス| |||<死去>イギリスの哲学者で経済学者ジョン・ステュアート・ミル/66歳(誕生:18060520)
- 1873年5月7日 05:00|パナマ/アメリカ| |||米国海兵隊がパナマに侵攻
- 1873年5月8日-09:00|日本| ||明治6年|陸海軍武官官等改正により、元帥を廃止する
- 1873年5月8日 05:00|パナマ| |||<就任>パナマ大統領「カプリル・ネイラ」(2回目、10. 1まで代行、その後暫定~11. 14)
- 1873年5月9日-09:00|日本|東京都中央区|明治6年|銀座煉瓦街一部竣工(歩道を赤レンガで舗装)
- 1873年5月9日-01:00|オーストリア| |||ウィーン株式取引所が大混乱となる/1873年世界恐慌が始まる
- 1873年5月9日 04:00|ポルビア| |||<就任>ポルビア共和国大統領「アドルフ・バウリグ・イアン」 (~18740214)
- 1873年5月10日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第155号「受取諸証文印紙貼用心得方規則増加」
- 1873年5月11日-01:00|ドイツ| |||ビスマルクが文化闘争で「5月諸法」を制定し、聖職者の養成・罷免権の国家掌握を定める
- 1873年5月15日-09:00|日本| ||明治6年|<開通>前橋～熊谷間馬車
- 1873年5月15日-09:00|日本| ||明治6年|太政官布告162号:妻の離婚請求が認められる:明治6年太政官布告第163号「人家稠密ノ地ニ於テ牛豚類糞糞ヲ禁ス」:明治6年太政官布告第165号「赤坂仮皇居御近火並ニ非常ノ節号砲施行」
- 1873年5月15日-09:00|日本|京都府|明治6年|三条東洞院に図書館兼書籍販売所である集書院(京都府立図書館の前身)が開設
- 1873年5月15日-09:00|日本|兵庫県|明治6年|<移転>兵庫県庁舎[⇒神戸山手に新築]
- 1873年5月15日-02:00|ルーマニア| |||<死去>アレクサンドル・ヨアン・クザ、元ルーマニア公(生年1820年)
- 1873年5月15日-02:00|トルコ/ドイツ| |||ハインリッヒ・シュリーマンが「プリアモスの黄金」(トロイの黄金)を発見/ハインリッヒ・シュリーマンは、ドイツの考古学者、実業家
- 1873年5月16日-08:00|中国| ||清・同治12年4月20日|清軍が、雲南順寧府でイスラム教徒の馬応江らを殺す

1875迄 (3195件)

1873年5月17日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第167号「地所質入書入規則第十五条増補」
1873年5月18日 03:00|サンピエール島/ミクロン島/フランス| ||<就任>サンピエール島・ミクロン島司令官「Charles Henri Alfred Joubert」(~18760730)
1873年5月20日 06:00|アメリカ| ||米国でリハイ・ストラウスとジェイコブ・デヒスガ、銅製ハットで補強したデニムの作業着の特許を得る
1873年5月21日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| ||<就任>トリニダード 知事「ジェームズ・ロバート・ロンドン」(2期目~18740426)
1873年5月23日-01:00|オーストリア/ハンガリー/ロシア| ||オーストリア・ハンガリーが、ロシアとシェンブレン協定を結ぶ
1873年5月23日 06:00|カナダ| ||カナダで北西部騎馬警察創設法が可決
1873年5月24日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第172号「陸軍省中軍医寮ヲ廃ス」(軍医寮は軍医部に改組、軍医頭は軍医總監に改められた)
1873年5月24日-09:00|日本|静岡県|明治6年|静岡県は駿河国を七大区四十五小区に改む
1873年5月24日-01:00|フランス/アントワープ| ||<就任>フランス共和国第三共和政3代大統領兼アントワープ公国共同大公「パトリスト・マカオン」軍人・王党派(~18790130, 任期途中で辞任)
1873年5月24日-01:00|フランス| ||<就任>フランス第三共和政2代首相「アルベール・ブロイ」王党派(第1次, ~18740522)
1873年5月24日-01:00|フランス/アントワープ| ||<罷免>フランス共和国第三共和政2代大統領兼アントワープ公国共同大公「ルイ・アトル・ティエール」
1873年5月25日-09:00|日本|大阪大学|明治9年|<移管>「種痘館」⇒大阪府病院付属
1873年5月25日 00:00|イギリス| ||北ロンドンのアレクサンドラ・パレスが開館
1873年5月26日-09:00|日本|岡山県|明治6年|<美作騒擾、美作騒擾事件(北条県西西条郡、苫田郡、久米郡、英田郡、勝田郡、真庭郡)>北条県で起きた、大変激しいものとなった。一揆は「元魁」筆保卯太郎を中心に、北条県西西条郡貞永寺村から起こり、苫田郡、久米郡、英田郡、勝田郡、真庭郡へと広がった/死亡者18人
1873年5月27日-09:00|日本| ||明治6年|華族・旧楽人に限られていた神楽・舞楽の伝習、一般庶民にも許される
1873年5月27日-01:00|デンマーク/スウェーデン| ||デンマーク・スウェーデン間に貨幣同盟成立(金本位制採用)
1873年5月27日 05:00|ハマ/イギリス| ||<就任>ハマ植民地総督「ジョン・ホープ・ヘネシー卿」(~18740622)
1873年5月29日-08:00|中国| ||清・同治12年5月4日|清軍がイスラム教徒によるパンゼーの乱を鎮圧
1873年5月30日-09:00|日本| ||明治6年|大阪開商社が蒸気「益丸」の定期航海を始め、日名子太郎に回漕業務を委託
1873年5月30日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第183号:官費留学生の無断民間就職を禁止
1873年5月30日-09:00|日本|岡山県|明治6年|<美作騒擾、美作騒擾事件(北条県西西条郡、苫田郡、久米郡、英田郡、勝田郡、真庭郡)>東部から津山城下への突入を図ったが、県の役人側に負け失敗
1873年5月30日 06:00|アメリカ| ||<売却>アメリカ海軍スループ「ダコタ」(1369t)
1873年5月31日-09:00|日本|第四銀行|明治6年|<設立>第四国立銀行(新潟, 明治7年3月1日開業)
1873年6月-09:30|オーストリア| ||北クィーンズランドのバーマ川で金が発見/ゴールドラッシュが起こり、3年間で1万5,000人のヨーロッパ人と2万人の中国人がやってきた
1873年6月-09:00|日本| ||明治6年|<初演>「髪結新三」、[原・馬文耕、三代目春風亭柳橋、「白子屋政談」を改作、作・二代目河竹新七]
1873年6月-09:00|日本| ||明治6年|<設立>二本松製糸会社
1873年6月-09:00|日本| ||明治6年|この月、前橋製糸所を小野組に払い下げ
1873年6月-09:00|日本|群馬大学|明治6年|<改称>小学校教員伝習所⇒暢発学校
1873年6月 00:00|セネガル| ||<就任>ファトゥマ统治者统治者(アルマニ)「マリク・マドゥ・カム」(~1874年5月)
1873年6月 04:00|英領ヴァージン諸島/イギリス| ||<就任>ヴァージン諸島主席「Richard Mahoney Hickson」(~1879年)
1873年6月1日-09:00|日本| ||明治6年|<施行>生糸製造取締規則(1.30発布):明治6年太政官布告第56号「受取諸証文印紙貼用心得方規則」<借貸売買などの証券には証券印紙を貼付>(2.17公布)
1873年6月1日-09:00|日本| ||明治6年|<創立>横浜生糸改会社(社長三井得右衛門・原善三郎;弁天通6丁目)
1873年6月1日-01:00|フランス/ベトナム| ||フランスがベトナムとの戦争状態に入る
1873年6月1日 00:00|イギリス| ||<死去>イギリスの探検家リビングストン/60歳(誕生:18130319)
1873年6月2日-09:00|日本| ||明治6年|三島億二郎ら長岡会社病院(長岡赤十字病院の前身)設立
1873年6月2日-09:00|日本|岡山県|明治6年|大阪鎮台兵、北条県の暴動を鎮圧
1873年6月3日-09:00|日本|愛知県西尾市|明治6年|<死去>松平乗秩(35歳)元三河西尾藩知藩事
1873年6月4日-07:00|タイ| ||シヤムで国家収入院が創設される
1873年6月4日 06:00|グアテマラ| ||<就任>グアテマラ共和国大統領「フスト・ルフィーノ・バリオス・アウソ」(~18850402)
1873年6月5日-09:00|日本|JR|明治6年|新橋~横浜の往復常乗切手が認可(上等乗客3ヵ月120円. 定期乗車券の始)
1873年6月5日-03:00|タンザニア| ||タンザニアのザンジバル島で、奴隷貿易が全面禁止
1873年6月6日-01:00|リビア/トルコ| ||<就任>オスマン帝国トリポリタニア・クリス(総督)「ハサン・サミ・パシャ」(~1874年11月)
1873年6月6日-01:00|オーストリア/ロシア| ||ロシア暦5月25日|アレクサンドル2世が、フランス・ヨゼフ2世とシェンブレン軍事協定を締結
1873年6月7日-09:00|日本| ||明治6年|<発刊>日刊新聞「愛知新聞」
1873年6月7日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第191号「神社/祭式職制ヲ廢シ神官奉務規則ヲ下付ス」
1873年6月8日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第194号「田畑石高/称ヲ廢シ反別ヲ以テ換用セム」(石高制を廃止し田畑・反別課税制に)
1873年6月8日 00:00|イギリス| ||<死去>4代カトガン伯「ヘンリー・チャールズ・カトガン」

1875迄 (3195件)

- 1873年6月8日 00:00|イギリス| |||<就任>5代カトガン伯「ジョージ・ヘンリー・カトガン」(~19150306死去)
- 1873年6月9日-09:30|オーストラリア/イギリス| |||<就任>南オーストラリア植民地総督「アソニー・マスケレイク」(~18770129)
- 1873年6月9日-09:00|日本| ||明治6年|<開業>金谷善一郎, 外国人向け旅館「金谷カッテージ・イン」(栃木県日光市本町、→日光金谷村)
- 1873年6月9日-09:00|日本| ||明治6年|政府, はじめて会計見込表(歳出入予算表)を発表, 歳計予算制度を確立
- 1873年6月9日-09:00|日本|NTT|明治6年|連名電報制度創始(同文電報のはじめ)
- 1873年6月9日 00:00|イギリス| |||北ロンドンのアレクサンダー・パリスが焼失
- 1873年6月10日-09:00|日本| ||明治6年|<廃止>目安箱
- 1873年6月10日-09:00|日本|新潟県|明治6年|<編入>(第2次) 柏崎県廃止, 蒲原郡の一部を除く全域→新潟県
- 1873年6月10日-01:00|アルジェリア/フランス| |||<就任>フランス領アルジェリア総督「アントワーヌ・ウージェーヌ・アルフレッド・ジャンソン」(~18790315)
- 1873年6月11日-09:00|日本|みずほフィナンシャルグループ|明治6年|<設立>東京に第一国立銀行(三井小野組合銀行を改組; 国立とは国家設立認可のこと, 7. 20開業)
- 1873年6月11日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国首相Francesc Pi i Margall[連邦共和党](~18730718)
- 1873年6月11日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン共和国第一共和政第2代大統領「ピョートル・マルガリト」連邦共和派(~7. 18), 連邦共和国を宣言
- 1873年6月11日-01:00|ドイツ/イラン| |||ベルジャが、ドイツとの友好通商条約に調印
- 1873年6月11日 04:00|アンティグア・バーブーダ/イギリス/アンティグア/トミニカ国/モントセラト/セントクリストファー・ネイビス/英領ヴァージン諸島| |||<就任>リワード 諸島総督・最高司令官「ヘンリー・ターナー・アウグスタイン」卿(~1874年)
- 1873年6月12日-09:00|日本| ||明治6年|山口県大小区制施行, 県内行政区画二一大区, 二六六小区となる
- 1873年6月13日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第205号「外国人訴訟規則」頒布
- 1873年6月13日-09:00|日本|福岡県|明治6年|<10万人の筑前竹槍一揆>(~6月末) 筑前嘉麻郡高倉村の農民たちが、隣接の豊前田川郡猪膝村の米相場場ローカに抗議に押し寄せた/全県下, 1軒に1人の参加といわれる10万人の農民を一揆に立ち上がらせることになる/一揆は筑前全域から隣接する筑後地方へと広がる/一揆勢は自然発生的に東, 西, 南から4つの集団をつくり, 各地で米穀商の店や蔵などを襲い, 打ち壊しや放火をしながら, 県庁のある福岡を目指す/一揆勢は要求として, ①年貢の3年間免除, ②旧藩の復活, ③学校・徴兵・地券発行の廃止, ④藩札の復活, ⑤旧暦の復活などをかかげていた/一揆勢の放火による被災家屋4590軒, 内焼失家屋2247軒, そのほとんどが被災別部落民の家屋だったという
- 1873年6月14日-12:00|ニュージーランド/イギリス| |||<就任>ニュージーランド 総督「ジェームス・ファergusson」卿(~18741203没)
- 1873年6月14日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第210号「海関輸出入荷物取扱条例」
- 1873年6月14日-09:00|日本|静岡県|明治6年|静岡県, 邏卒(巡查) 屯所を設け, 邏卒を置く
- 1873年6月14日-01:00|ドイツ/トルコ| |||ドイツの考古学者シュリマンがトロイの遺跡で財宝を発見
- 1873年6月15日-09:00|日本|愛媛県松山市|明治6年|<初点灯>御雇英人技師の設計により松山沖に釣島灯台を設置(県下最初の灯台)
- 1873年6月15日-09:00|日本|群馬県|明治6年|<合併>(第1次) 群馬県が入間県と合併→熊谷県
- 1873年6月15日-09:00|日本|埼玉県|明治6年|<合併>入間県・(第1次) 群馬県が合併→熊谷県, 武蔵国大里郡熊谷駅に県庁を設置
- 1873年6月15日-09:00|日本|千葉県|明治6年|<合併>印旛郡, 木更津郡が合併→千葉県
- 1873年6月15日-09:00|日本|栃木県|明治6年|<編入>宇都宮県が編入→栃木県
- 1873年6月16日-09:00|日本|福岡県|明治6年|<筑前竹槍一揆>福岡で農民らは「目取り」(米相場の高い低いを山伝いに連絡して, 一儲けしようという連中)の頭のところへ押し掛けた(猪膝の打ちこわし)
- 1873年6月18日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第215号「代人規則」
- 1873年6月20日-09:00|日本|鳥取県|明治6年|<会見血税一揆>一揆は会見郡各地に拡大, 一揆勢は各地の戸長宅などを打ち壊し, 小学校などもその被害に遭った
- 1873年6月21日-09:00|日本|鳥取県|明治6年|<会見血税一揆>日野川河川敷に集結した一揆勢は米子町の県米子支庁に嘆願書を提出, いったん解散/鎮静後には県側による大規模な取締りが行われ, 処分されたのは1万1907人, そのうち1人が終身刑となり, 罰金の総額も2万4817円に上った
- 1873年6月21日-09:00|日本|福岡県|明治6年|<筑前竹槍一揆>福岡で農民らは, 相場師の住む富商宅などを破壊し, 猪膝から大隈へなだれこみ, 穂波郡へ広がり, さらに, 鞍手・宗像・糟屋郡へ一揆の主力が変わり, 当時福岡城内にあった県庁襲撃へと発展
- 1873年6月22日-09:00|日本| ||明治6年|文部省医務局が国政の内務全般を担当する内務省に移管
- 1873年6月25日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第227号「盗賊窩主律例」
- 1873年6月25日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第228号「集議院ヲ廢シ其事務ヲ左院ニ屬ス」; 明治6年太政官布告第229号「左院中議生廢止」
- 1873年6月25日-09:00|日本|福岡県|明治6年|<筑前竹槍一揆>一揆勢鎮圧/一揆勢は散り散りになって帰郷し一揆は収まる
- 1873年6月25日-02:00|フィンランド/ロシア| |||<就任>ロシア領フィンランド 総督代行「ヘルマン・ハルト男爵」(5回目~11. 11)
- 1873年6月27日-09:00|日本| ||明治6年|<改称>内務省「医務局」⇒「第七局」
- 1873年6月27日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第231号「偽造寶貨条例」
- 1873年6月27日-09:00|日本|香川県|明治6年|<西讃竹槍騒動, 西讃農民騒動>名東県豊田郡・三野郡・多度郡・那珂郡・阿野郡・鶴足郡・香川郡の7郡で一揆, 農民たちは焼き打ち, 打毀し, 戸長事務所, 小学校, 戸長宅, 邏卒出張所や民家など計599箇所を破壊, 放火された村の数は約130村, 農民側死者50名, 官軍側死者2名

1875迄 (3195件)

- 1873年6月27日 04:00|ガ イナ/イギリス| |||<就任>イギリス領ギニア総督「エドワード・エヴァート・ラッシュワース」(~18740310)
- 1873年7月-09:00|日本| ||明治6年|<設立>森有礼・福沢諭吉・加藤弘之・西周・中村正直ら「明六社」
- 1873年7月-09:00|日本| ||明治6年|<発行>日刊紙「愛知新聞」(名古屋で)
- 1873年7月-09:00|日本| 筑波大学|明治6年|<改称>「師範学校」⇒「東京師範学校」
- 1873年7月-09:00|日本| 新潟大学|明治6年|新潟町に私立新潟病院が建設され、治療とともに医学生を募集し、西洋医学教育を開始
- 1873年7月-01:00|アルジェリア| |||アルジェリアで土地法制定
- 1873年7月 00:00|サントメ・プリンセ /ポルトガル| |||<死去>サントメ・プリンセ 総督「Joao Climaco de Carvalho」
- 1873年7月 00:00|サントメ・プリンセ /ポルトガル| |||<就任>サントメ・プリンセ 総督「政府評議会」(~10. 28)
- 1873年7月1日-09:00|日本| ||明治6年|工部省勸工寮内に女工伝習所が設けられ、イギリス人女性が洋裁を伝授
- 1873年7月1日-09:00|日本| ||明治6年|菅島燈台付属官舎完成(三重県鳥羽沖、明治村へ移築)
- 1873年7月1日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第206号「改定律例」<磔の刑、晒首などの旧制を廃する>施行(0613頒布)
- 1873年7月1日 06:00|カナダ| |||カナダのプリンスエドワード島が連邦に加入
- 1873年7月2日-09:00|日本| ||明治6年|<囲碁>就任:十五世本因坊秀悦(六段、24歳/坊家初の実子相伝)
- 1873年7月2日-09:00|日本| ||明治6年|<死去>「本因坊秀和」54歳
- 1873年7月2日-09:00|日本| ||明治6年|<創刊>新潟県活版局(開設)「新潟県治報知」
- 1873年7月2日-09:00|日本| 広島県|明治6年|徴兵反対一揆を動因として、御調郡西野村および隣村の豊田郡田野浦村の農民数百人、培根商社分社の屠牛場へ乱入して被差別部落の家屋へ放火、家財を破壊するなどの暴行
- 1873年7月5日-09:00|日本| ||明治6年|<創刊>「長野新報」(現・信濃毎日新聞)
- 1873年7月6日-09:00|日本| 香川県|明治6年|<西讃竹槍騒動、西讃農民騒動>一揆はほぼ鎮圧/逮捕約282名、うち死刑7名、懲役刑50名(または51名)など
- 1873年7月8日-01:00|ドイツ| |||<死去>フランツ・グインターホルター、画家(生年1805年)
- 1873年7月9日-01:00|スペイン| |||スペインのアルコイで、インターナショナル派を中心とした蜂起が起こる
- 1873年7月9日-01:00|ドイツ| |||ドイツで最初の「貨幣法」制定、ドイツで通用しているラントの通貨制度にかわり、帝国通貨制度が導入される(統一的計算基準がマルク)
- 1873年7月10日-09:00|日本| ||明治6年|<廃止>小塚原刑場
- 1873年7月11日-09:00|日本| ||明治6年|<開場>奥田座(春木座)[春木町]
- 1873年7月12日-01:00|スペイン| |||スペインのカタルーニャで、カトリシタの蜂起が起こる
- 1873年7月12日 00:00|カリブ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王領カリブ諸島総司令官「Federico Salcedo y San Román」(~1874年)
- 1873年7月13日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督・最高司令官「ハットソン・ラルフ・ジャンニッシュ」(2期目、12. 11まで代理~18840331)
- 1873年7月15日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第246号「米麦海関無税ヲ以テ海外輸出ヲ許ス」
- 1873年7月16日-09:00|日本| ||明治6年|<死去>近衛忠房、江戸時代の公卿(生年1838年)
- 1873年7月17日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第248号「大蔵省中国債寮ヲ置ク」;明治6年太政官布告第250号「宮内省中内膳司内匠司調度司廃止」
- 1873年7月17日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第251号「府県事務受渡規則」
- 1873年7月18日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第253号「火葬禁止」
- 1873年7月18日-01:00|スペイン| |||<辞任>スペイン共和国第一共和政大統領「ピ・イ・マルカール」
- 1873年7月18日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国首相Nicolas Salmeron[連邦共和党](~18730906代理~18730907)
- 1873年7月18日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン第一共和国大統領「ニコラス・サルメロン」穏健共和派(~9. 7)
- 1873年7月19日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第255号「鎮台条例改定」東京、佐倉、新潟、仙台、青森、名古屋、金沢、大阪、大津、姫路、広島、丸亀、熊本、小倉の14師管を置き、これを6軍管に隷す;明治6年太政官布告第256号「各地方違式加違条例」
- 1873年7月19日-01:00|ドイツ| |||<死去>フェルディナント・ダヴィッド、ヴァイオリニスト・作曲家(生年1810年)
- 1873年7月20日-09:00|日本| ||明治6年|<開通>札幌本道(室蘭街道、→国道36号)
- 1873年7月20日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第260号「官吏受財条例」;明治6年太政官布告第262号「受取諸証文印紙貼用心得方規則二十六条以下増補」
- 1873年7月20日-09:00|日本| 静岡銀行|明治6年|<設立>葦山生産会社[静岡]
- 1873年7月21日-01:00|ルウェー| |||<就任>ルウェー首相「フレデリック・スタン」(~18801011)
- 1873年7月22日-09:30|オーストラリア| |||<就任>南オーストラリア植民地政府首相「アサー・ブライス」(3期目~18750603)
- 1873年7月22日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第263号「第二十八号華土族家督相続ノ儀第一章改正一章追加」;明治6年太政官布告第264号「金札引換公債証書発行条例中改定」
- 1873年7月22日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ナール特別委員「ベンジャミン・フリー・キャンベル・ハイン卿」(2回目~18750401)
- 1873年7月23日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第266号「窃盗条例」
- 1873年7月24日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第267号「名例律再犯加等罪例条例及賊盗律監守盗常人盗条例」;明治6年太政官布告第269号「強盗条例」;明治6年太政官布告第270号「給没贓物条例」
- 1873年7月25日-09:00|日本| ||明治6年|<改称>内務省「第七局」⇒「衛生局」
- 1873年7月25日-09:00|日本| ||明治6年|船越景保ら、水泳道場を開設し、広く一般に宣伝

1875迄 (3195件)

- 1873年7月26日-09:00|日本| ||明治6年|<復興>東京両国の花火大会
1873年7月27日-04:00|ロシア| ||<死去>フォードル・チュチェフ、詩人・外交官(生年1803年)
1873年7月28日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第272号「地租改正条例」(地価の100分の3を地租とし金納になる);明治6年太政官布告第273号「犯姦条例」
1873年7月30日-09:30|オーストラリア/イギリス| ||<就任>ビクトリア植民地総督「ジョージ・ホウエン」(~18790222)
1873年7月30日-09:00|日本| ||明治6年|<創刊>共立社「高知新聞」
1873年7月30日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第274号「居喪犯姦律改正」;明治6年太政官布告第276号「海陸軍刑律第十条第十四条改正並ニ増加」
1873年7月30日-09:00|日本|東京大学|明治6年|工部省工学寮から工学校を設立
1873年8月-09:00|日本|東北大学|明治6年|共立義塾を解散し共立病院附属塾舎として教育を続ける
1873年8月-01:00|ナジエリア/イギリス| ||<就任>ロス植民地管理者代理「チャールズ・キャモン Lees」(1期目~10月)
1873年8月1日-09:00|日本| ||明治6年|官吏に初めて暑中休暇を与える
1873年8月1日-09:00|日本|大阪府|明治6年|<開園>大阪府「住吉公園」(大阪市住之江区浜口東1丁目)
1873年8月1日-09:00|日本|大阪府大阪市|明治6年|<開園>大阪市「天王寺公園」(天王寺区茶臼山町、⇒四天王寺公園、1901年7月10日廃園)
1873年8月1日 03:00|スリナム/オランダ| ||<就任>オランダ領ギアナ総督「コーニス・アスカニス・ファン・システイン」(~18821101)
1873年8月1日 06:00|アメリカ| ||サンフランシスコで循環リヤ式のケーブルカーが開通
1873年8月2日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第279号「詐偽律中偽造斛斗秤尺条例」;明治6年太政官布告第280号「諸公文署名式初条中改正」
1873年8月2日-02:00|ウクライナ/ロシア| ||<就任>ウクライナのロシア総督「Aleksandr Aleksandrovich Kavelin」(~18811204)
1873年8月3日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第281号「大礼佩剣制」;明治6年太政官布告第282号「朝鮮国漂流人取扱規則第二条改正」;明治6年太政官布告第284号「工学校略則廃止」
1873年8月3日 00:00|イギリス| ||イングランドのウイガン・ノース・ウェスタン駅を通過中に、客車が脱線し駅舎・プラットホームに衝突、乗客13人が死亡
1873年8月4日-09:30|オーストラリア| ||<就任>タスマニア植民地政府首相「アルフレッド・ケナー」(~18760720)
1873年8月4日-04:00|ロシア| ||<死去>ヴィクトル・ハルトマン、画家(生年1834年)
1873年8月6日-09:00|日本/アメリカ| ||明治6年|日米郵便交換条約調印
1873年8月8日-01:00|フランス| ||<死去>アントワヌ・シャントルユ、画家(生年1814年)
1873年8月9日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第292号「危害品船積ノ法則ヲ定ム」;明治6年太政官布告第293号「官吏犯罪罪条例」
1873年8月10日-01:00|イタリア| ||<就任>イタリア王国首相(閣僚評議会議長)「マルコ・ミンゲッティ」(3回目~18760325)
1873年8月11日-09:00|日本|茨城県東茨城郡大洗町|明治6年|<死去>松平頼之(16歳)元陸奥守山藩知藩事
1873年8月12日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第296号「文部省中官名廃置及教員ノ等次学位ノ称号等改定」(大学の教師を教授、中学は教諭、小学校は訓導と呼ぶことになる);明治6年太政官布告第298号「訴訟律内越訴条廃止」;明治6年太政官布告第299号「改定律例第二百七十五条改正」
1873年8月12日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第297号「陸軍裁判所中管獄書記二官廃止」
1873年8月12日-05:00|ウズベキスタン/ロシア| ||カラカルパクスタンはロシアに併合
1873年8月13日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第300号「大日本政府電信取扱規則」
1873年8月13日 00:00|北極| ||ユリウス・ハインとカール・グアイブヒットの北極探検隊が、フランチョーゼ・フロントを発見
1873年8月15日-09:00|日本|静岡銀行|明治6年|融通会所(後に融通会社となる)福岡に設立
1873年8月16日-09:00|日本| ||明治6年|<開業>外国人用「横浜グラントホテル」
1873年8月17日-09:00|日本|佐賀県小城市|明治6年|<死去>鍋島直堯(74歳)元肥前小城藩主
1873年8月18日-09:00|日本|東北大学|明治6年|<開設>宮城師範学校[仙台]
1873年8月18日-01:00|ナジエリア/イギリス| ||<就任>ピアラ湾・ベニン湾英国領事「ジョージ・Hartley」(~1877年)
1873年8月20日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第304号「東京第一国立銀行ニ於テ二十円以下五種ノ紙幣発行」布告
1873年8月21日-09:00|日本/ベルギー| ||明治6年|日本とベルギー、マリアルス号事件解決を期に友好通商航海仮条約を締結
1873年8月23日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第306号「動産不動産書入金貸借規則」
1873年8月23日 00:00|イギリス| ||ロンドンでアルバート橋開橋
1873年8月23日 04:00|グアドループ/フランス| ||<就任>グアドループ知事「Marie Gabriel Couturier」(2期目~18790810)
1873年8月24日-05:00|ウズベキスタン/ロシア| ||コラスム(キバ)はアマダリヤ川の右岸にあるすべての領土がロシアに併合されロシア保護領(~1917.11)
1873年8月25日-09:00|日本| ||明治6年|<設立>器械製糸六工社(長野松代)
1873年8月27日-09:00|日本|大谷大学|明治6年|<改称>高倉学寮⇒貫練場
1873年8月28日-09:00|日本|広島県|明治6年|<死去>浅野長厚(31歳)元安芸広島新田藩知藩事
1873年8月28日 00:00|シエラレオネ/イギリス| ||<就任>イギリス王領シエラレオネ植民地総督「ジョージ・パークー」(~18740814)
1873年8月29日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第308号「新貨条例中銅貨幣二銭ノ一種ヲ加ヘ且各種ノ図面改正鑄造」/2銭銅貨制定
1873年8月29日-08:00|中国| ||清・同治12年7月7日|ウイグルの団勇の徐学功らが、沙子山で安集延のイスラム教徒を破る
1873年8月30日-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル| ||<就任>ティモール知事「ヒューゴ・グデア・デ・ラセルダ・カステロ・ブランコ」(1

1875迄(3195件)

期目~18761107)

- 1873年8月31日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第310号「証券印紙/内二十五銭五十銭一円/三種改定」;明治6年太政官布告第311号「官員免職病死等/節賜物規則改定」
- 1873年8月31日-09:00|日本|群馬県安中市|明治6年|<死去>板倉勝股(54歳)元上野安中藩知藩事
- 1873年9月-09:00|日本|静岡銀行|明治6年|<設立>融通会社(静岡県君沢郡三島宿:のちに福寿会社と改称);大場治水社(静岡県君沢郡大場村)
- 1873年9月1日-09:30|オーストラリア| ||南オーストラリア政府は1日8時間労働制を導入。ニューサウスウェールズでは、技術者組合連合が1日8時間労働を勝ち取る
- 1873年9月1日-09:00|日本| ||明治6年|鉱業制度確立の為、明治6年太政官布告第259号「日本坑法」施行(0720発布、鉱山心得の概念を明確にし、試掘、借区開坑などの手続きを具体的に規定)
- 1873年9月1日-09:00|日本| ||明治6年|白洲灯台(福岡県北九州市、木造、1900年(明治33)に石造に建替)点灯
- 1873年9月1日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第230号「飛脚ト称シ貨物運送ヲ業トスル者私ニ営業スルヲ禁ス」<民間の飛脚便禁止>施行(0627公布)
- 1873年9月1日-02:00|南アフリカ| ||<即位>ズール王「ケチュワヨ」(~18790704)南部アフリカ
- 1873年9月2日-09:00|日本| ||明治6年|<死去>八田知紀(75歳)歌人
- 1873年9月3日 00:00|チャリ諸島| ||<就任>イギリス王領ジャージー-島副知事「Samuel Stallard」(~10.13)
- 1873年9月3日 05:00|ベルギー| ||<就任>ベルギー共和国閣僚評議会議長(首相)「ド・イゼル・ビョ・サンチス・ヘ・トラサ」(~18750201)
- 1873年9月5日-09:00|日本| ||明治6年|三池鉱山、官営となる/のち三井へ払い下げ
- 1873年9月5日-08:00|中国| ||清の同治12年7月14日|四川の黔江で、フランス人司祭やキリスト教信者が殺される
- 1873年9月7日-09:00|日本| ||明治6年|<死去>3代山木検校(38歳)箏曲家
- 1873年9月7日-01:00|スペイン| ||<就任>スペイン王国首相「Emilio Castelar」連邦共和党(~18740103)
- 1873年9月7日-01:00|スペイン| ||<就任>スペイン第一共和国大統領「エミリオ・カステラル」統一共和派(~18740103)
- 1873年9月8日-09:00|日本|三井住友フィナンシャルグループ|明治6年|第五国立銀行(大阪)開業免許(12月10日開業、明治9年1月本店を東京へ移す)
- 1873年9月10日-09:00|日本| ||明治6年|<開業>ホンナ「ケラント」ホテル(横浜居留地海岸通り20番地、初代料理長ルイ・ベッキュー)
- 1873年9月10日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第314号「郵便犯罪罰則第二十三条増加」
- 1873年9月11日-09:00|日本| ||明治6年|<死去>六代目坂東三津五郎/28才(安政3年5月坂東三津五郎襲名)
- 1873年9月11日-09:00|日本|静岡県静岡市|明治6年|<死去>松平信賢(66歳)元駿河小島藩主
- 1873年9月13日-09:00|日本| ||明治6年|<併合>宇都宮裁判所⇒栃木裁判所
- 1873年9月15日-09:00|日本| ||明治6年|<完成>菅島燈台付属官舎(フランドルが建設、鳥羽沖、→明治村へ移築)三重県
- 1873年9月15日-09:00|日本| ||明治6年|<死去>3代金原亭馬生(落語家)
- 1873年9月15日-09:00|日本| ||明治6年|<点灯>潮岬灯台(和歌山県串本町、設計フランドル、木造、1878年に石造に改築)
- 1873年9月15日-09:00|日本|JR|明治6年|新橋-横浜間の鉄道に初めて貨車運転開始(従来は客車のみであった)
- 1873年9月16日-01:00|フランス/ドイツ| ||フランスが賠償金の支払いを完了し駐留ドイツ軍が撤退
- 1873年9月16日 00:00|モロッコ| ||<死去>モロッコ・スルタン「ムハンマド4世」
- 1873年9月16日 00:00|モロッコ| ||<即位>モロッコ・スルタン「ハサン1世」(~18940609没)
- 1873年9月17日 00:00|イギリス| ||<死去>4代ハートウィック伯「チャールズ・フィリップ・ヨーク」
- 1873年9月17日 00:00|イギリス| ||就任>5代ハートウィック伯「チャールズ・フィリップ・ヨーク」先代の息子(~18970518死去)
- 1873年9月20日-01:00|イタリア| ||<死去>ジョヴァンニ・バッティスタ・ド・ナティ、天文学者(生年1826年)
- 1873年9月20日-01:00|クアアア| ||<就任>クアアア・スラガ・オニア・ダ・ルマアア王国バン「イヴァン・マジュニッチ」(~18800221)
- 1873年9月20日 06:00|アメリカ| ||1873年世界恐慌がニューヨークに波及し、ニューヨーク株式取引所が閉鎖される
- 1873年9月22日-09:00|日本| ||明治6年|<使用開始>明治政府「豊島ヶ岡御陵」(護国寺隣接地、→豊島岡墓地)<皇族専用>
- 1873年9月22日-09:00|日本| ||明治6年|暴風雨、野毛・石川・中村で倒壊54
- 1873年9月23日-01:00|フランス| ||<死去>ジャン・ジャコルナク、天文学者(生年1823年)
- 1873年9月23日 06:00|カナダ| ||カナダ労働党が結成される
- 1873年9月24日-05:30|インド| ||インドのブネで社会改革運動組織「真理探求協会」が創立
- 1873年9月26日-09:00|日本|山形県東根市|明治6年|<死去>米津政易(45歳)元出羽長瀬藩主
- 1873年9月28日-09:00|日本| ||明治6年|郵便脚夫のヒストル携行が認められる。当時は郵便物に対する認識が薄く、世間では郵便袋の中に必ず多少の金が入っていると思われていた
- 1873年9月28日-01:00|フランス| ||<死去>エミール・ガボリア、小説家(生年1832年)
- 1873年10月-09:00|日本| ||明治6年|<一部竣工>銀座煉瓦街
- 1873年10月-09:00|日本| ||明治6年|<設立>大倉喜八郎「大倉組商会」
- 1873年10月-09:00|日本|慶應義塾|明治6年|<設置>慶應義塾医学所および慶應義塾大阪分校
- 1873年10月-02:00|キプロス/トルコ| ||<就任>オスマン帝国領キプロス地区総督「エサト・ハシヤ」(~12月)
- 1873年10月-01:00|ナイジェリア/イギリス| ||<就任>ラゴス植民地管理者「ジョージ・Cumine Strahan」(~1874.6)
- 1873年10月1日-09:30|オーストラリア| ||ウイクトリア、メルボルン郊外キューで精神病院が設立される
- 1873年10月1日-09:00|日本| ||明治6年|<施行>明治6年太政官布告第239号「人民相互/証書ニハ必ス実印ヲ用ルシム」

1875迄 (3195件)

証券に爪印・花押を用いることを禁止し、名印を押させる (7.5公布)

- 1873年10月1日-09:00|日本|秋田大学|明治6年|<開校>伝習学校
- 1873年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジュゼッペ・フィリッピ」[マリノ・ファットーリ]
- 1873年10月1日 00:00|イギリス| |||<死去>エドウィン・ランドシーア、画家(生年1802年)
- 1873年10月2日 00:00|ガンビア/イギリス| |||<就任>イギリス領西アフリカ植民地ガンビア管理者「コーネリアス・ヘントリックセン・コトライト」(~18750212)
- 1873年10月2日 00:00|ガーナ/イギリス| |||<就任>イギリス領西アフリカ植民地ゴールドコースト管理責任者「ガーネット・ジョセフ・ウォルズリー卿」(~18740304)
- 1873年10月3日-09:00|日本| ||明治6年|<死去>鳥居耀蔵(78歳、生年1796年)元南町奉行・勘定奉行
- 1873年10月3日-09:00|日本| ||明治6年|長崎で日本初の洋式結婚式。英国籍の中国人と日本人の国際結婚
- 1873年10月4日-09:00|日本| ||明治6年|<死去>初代神田伯山(不明)講談師
- 1873年10月4日 00:00|イギリス| |||<ゴルフ>第13回全英オープン選手権優勝:トム・キッド(スコットランド/179)
- 1873年10月6日-01:00|ドイツ| |||<死去>フリート・リヒター、音楽家(生年1785年)
- 1873年10月7日-01:00|アルバニア/トルコ| |||<就任>イシュトウのワリス「アフメド・ラジム・パシャ」(~1874年9月)
- 1873年10月8日-09:00|日本| ||明治6年|<移管>宮内省内海御召艦「蒼龍丸」⇒海軍省所管
- 1873年10月8日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第335号「諸公文署名式中改正」;明治6年太政官布告第337号「清国在留日本人心得方規則」
- 1873年10月9日-09:00|日本| ||明治6年|<運行開始>函館～森間乗合馬車
- 1873年10月9日-09:00|日本|東京大学|明治6年|<開校>開成学校(東京大学の前身)[東京]
- 1873年10月10日-08:00|中国| ||清・同治12年8月19日|イスラム教徒の白彦虎らがハミを占領
- 1873年10月12日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第340号「第三百三十八号棄児養育米/布告但書取消」
- 1873年10月13日 00:00|チャンネル諸島| |||<就任>イギリス王領ゾーンジー諸島副知事「William Sherbrooke Ramsay Norcott」(~18780930)
- 1873年10月14日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第344号「年中祭日祝日/休暇日ヲ定ム(祝祭日を定めて休日制定/元始祭、新年宴会、孝明天皇祭、紀元節、神武天皇祭、神嘗祭、天長節、新嘗祭);明治6年太政官布告第346号「神官賀表書式中改定」
- 1873年10月15日-09:00|日本| ||明治6年|<開抗>相良油田(静岡県相良町)
- 1873年10月17日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第349号「監守自盗条例並犯姦条例」
- 1873年10月18日-01:00|ドイツ| |||<初演>ヨハネス・ブラームス《弦楽四重奏曲第2番イ短調Op. 51-2》
- 1873年10月19日-09:00|日本| ||明治6年|<開園>新潟遊園(→白山公園)[新潟県]
- 1873年10月19日-09:00|日本| ||明治6年|<開園>日本で最初の公園:浅草寺、寛永寺、増上寺、富岡八幡、飛鳥山の5か所
- 1873年10月19日-09:00|日本| ||明治6年|新聞紙条例を廃止し明治6年太政官布告第352号「新聞紙発行条目」公布
- 1873年10月19日-01:00|ベルギー| |||詩人ランボークが、「地獄の季節」を自費出版
- 1873年10月20日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第353号「地方官員及常備金割賦規則改定」
- 1873年10月21日-09:00|日本| ||明治6年|<設置>海軍兵学寮に機関科[生徒を測量・蒸気機関・運用砲術・造船の各科に分科]
- 1873年10月22日-01:00|チュニジア| |||<就任>サイン朝大法官「ハイデル・イン・パシャ」無所属(~18770721)
- 1873年10月22日-01:00|オーストリア/ドイツ/ハンガリー/ロシア| |||ドイツ帝国はロシア帝国、オーストリア・ハンガリー帝国の三つの帝国間で三帝同盟を結ぶ
- 1873年10月23日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第355号「猥褻墓地ヲ設ケ或ハ区域ヲ広ムルヲ禁ス」
- 1873年10月25日-09:00|日本| ||明治6年|<開始>参議・省卿兼任制
- 1873年10月25日-09:00|日本| ||明治6年|<種別変更>軍務官所管軍艦「富士山丸」⇒練習艦
- 1873年10月26日-01:00|オーストリア| |||<初演>ヨーゼフ・アントン・ブルックナー49指揮《交響曲第2番イ短調》
- 1873年10月27日 00:00|カナリア諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王領カナリア諸島市民知事「Juan Quiros de los Rios」(~18740123)
- 1873年10月27日 05:00|キューバ| |||<就任>キューバ共和国暫定大統領「サンタ・ルシア侯爵サルバドール・シスネロス・イ・ベタンクール」(1回目~18750701)
- 1873年10月27日 06:00|アメリカ| |||ジョセフ・グレットン、有刺鉄線生産機械の特許取得
- 1873年10月28日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第357号「神官免職/節賜物規則改正」
- 1873年10月28日-01:00|ドイツ| |||1873年金融恐慌がドイツに波及し、ベルリン証券取引所が空前の大暴落になる
- 1873年10月28日 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| |||<就任>サントメ・プリンシペ 総督「Gregorio Jose Ribeiro」(~18760906)
- 1873年10月28日 19:00|フランス| |||夜、パリの「ル・ペルティエ通り」(9区)にあった、1821年創業の「サル・ル・ペルティエ(11代目オヘア座)」で原因不明の火災が発生し、24時間燃え続けて崩壊
- 1873年10月29日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン王「ヨハン」
- 1873年10月29日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン王「アルフレート」(~19020619死去)
- 1873年10月30日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第360号「地方官員並ニ常備金割賦規則取消」
- 1873年10月31日-01:00|スペイン/アメリカ| |||スペイン、侵略のための武器輸送の疑惑で米船「アーゾニア」号を拿捕し、乗組員を処刑
- 1873年11月-09:00|日本| ||明治|<売却>三瀨県産物会社「扶桑丸」(1869年, Textor & Co., London「C. J. Textor」)

1875迄 (3195件)

- ir James Laing Co., Sunderland建造進水→三瀨県産物会社(福岡)→「扶桑丸」と改名⇒三菱商会(大阪)(1878年、「田子浦丸」と改名)
- 1873年11月-09:00|日本|静岡銀行|明治6年|<設立>資産貸附所、静岡
- 1873年11月-09:00|日本|名古屋大学|明治6年|<設置>医学講習場(西本願寺別院)
- 1873年11月-09:00|日本|福井県|明治6年|<架橋>白川橋(今上郡上鯖江・丹生郡家久村間)
- 1873年11月-09:00|日本|福井大学|明治6年|<創立>小学師範学科
- 1873年11月1日-09:00|日本| ||明治6年|<完成>東京に日本始めての石橋「万世橋」
- 1873年11月1日-09:00|日本| ||明治6年|<設立>「第四銀行」[新潟](18740301開業)現存する最古のナハ-銀行
- 1873年11月2日-01:00|ドイツ| |||<初演>ヨハネ・フランク《ハイドンの主題による変奏曲》
- 1873年11月3日-09:00|日本| ||明治6年|祭日に国旗掲揚の制を定める
- 1873年11月3日-08:00|マレーシア/シンガポール/イギリス| |||<就任>イギリス王領海峡植民地総督代行「エドワード・アーネスト・ハーバート・アンソン」(2回目~4日)
- 1873年11月3日-01:00|セルビア| |||<就任>セルビア公国閣僚評議会議長「ヨヴァン・マリノヴィッチ」(~18741207)
- 1873年11月4日-09:00|日本|東京外国語大学|明治6年|<分離独立>開成学校⇒東京外国語学校
- 1873年11月4日-08:00|マレーシア/シンガポール/イギリス| |||<就任>イギリス王領海峡植民地総督「アントニー・クラーク卿」(~18750510)
- 1873年11月4日 05:00|キューバ/スペイン| |||<就任>スペイン植民地キューバ 総督・総司令官「ホセ・シモン・ラウル・イ・ソレル」(1回目~18740406)
- 1873年11月4日-08:00|中国| ||清・同治12年9月15日|肅州のイスラム教徒の馬四が、左宗棠に降伏
- 1873年11月5日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第362号「出訴期限規則」;明治6年太政官布告第366号「僕婢馬車人力車駕籠乗馬游船等諸税規則中改正」
- 1873年11月7日-09:30|オーストラリア| |||ノース・テリトリー-最初の新聞、『ノース・オーストラリアン』創刊
- 1873年11月7日 06:00|カナダ| |||<交替>カナダ 総理大臣「ジョン・アレクサンダー・マクドナルド 卿」カナダ 太平洋鉄道に関わる汚職が暴露されて辞任⇒「アレクサンダー・マッケンジー」就任(~18781017)
- 1873年11月8日 00:00|イギリス| |||<死去>4代リス・バーン伯「アーネスト・オーガスタス・マレット・グオン」
- 1873年11月8日 00:00|イギリス| |||<就任>5代リス・バーン伯「アーネスト・オーガスタス・マレット・グオン」(~18880331死去)
- 1873年11月8日 06:00|カナダ| |||<市制>カナダ でウイニペグ 市が創設
- 1873年11月9日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第372号「開拓使創立ノ保任社用船旗章ヲ定ム」;明治6年太政官布告第373号「陸軍服制中軍医馬医服制制定」
- 1873年11月9日-01:00|ドイツ| |||<就任>プロシヤ王国首相「オットー・フォン・ビスマルク」(~18900320)
- 1873年11月10日-09:00|日本| ||明治6年|<開催>「筑摩県博覧会(松本博覧会)」(~12.24) [開催地]長野県 [会場]松本城 [主催]松本博覧会社
- 1873年11月10日-09:00|日本| ||明治6年|横浜アマチュア・アスレチック協会を結成し、第1回陸上競技会を開催
- 1873年11月10日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第375号「内務省ヲ置ク」/大久保利通の独裁体制固めに入る
- 1873年11月10日-01:00|スペイン/キューバ| |||マテオの第二師団、マンサニョを攻撃。数千の守備隊を打ち破り、中央広場まで達する
- 1873年11月11日-09:30|オーストラリア| |||ウイクトリア工場法、女性の最大労働時間を8時間に限定
- 1873年11月12日-08:00|中国| ||清・同治12年9月23日|甘肅のイスラム教徒が蜂起するが、まもなく鎮圧される
- 1873年11月13日-09:00|日本| ||明治6年|明治政府が火あぶり・はりつけの刑を廃止
- 1873年11月14日-09:00|日本| ||明治6年|<死去>4代坂東彦三郎(74歳/坂東亀三郎→四代目坂東彦三郎⇒安政3年3月現名)歌舞伎役者
- 1873年11月16日-09:00|日本| ||明治6年|<創建>尾山神社(金沢市)
- 1873年11月16日 05:00|パナマ| |||<就任>パナマ大統領「ゲレゴリー・ミロ」(~18750920)
- 1873年11月17日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第385号「米麦粉海關無税海外輸出ヲ許ス」
- 1873年11月17日-01:00|ハンガリー| |||ハンガリーで、ペスト、ブダ、オブダが合併してブダペストになる
- 1873年11月19日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第389号「郵便ハキ紙並ニ封囊発行規則」
- 1873年11月19日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第390号「工部省中勸工寮ヲ廃シ其事務ヲ製作寮ニ属ス」
- 1873年11月19日-01:00|フランス| |||フランス大統領任期が7年に延長される
- 1873年11月20日-07:00|ベトナム/フランス| ||越南・嗣徳26年|フランス軍(フランス・ガリュヌ大尉)が突如ホイ城を占拠(~18740315)
- 1873年11月21日-08:00|マレーシア| |||<死去>ペリス・ラジャ「サイド・フェイン・イブニ・アル=マルフム・サイド・ハルン・ジヤマルライ」
- 1873年11月21日-08:00|マレーシア| |||<就任>ペリス・ラジャ「サイド・アフマド・イブニ・アル=マルフム・サイド・フサイン・ジヤマルライ」(~18970217没)
- 1873年11月27日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア・ヘルツェゴビナ 総督「アルノト・マフメト・アキフ・パシャ」(2回目~18740406)
- 1873年12月-09:00|日本| ||明治6年|<開園>浜寺公園(大阪府)
- 1873年12月-09:00|日本|岐阜大学|明治6年|<設立>師範研習学校
- 1873年12月-09:00|日本|群馬県|明治6年|<創刊>高崎誠之堂「書抜新聞」(群馬県初の新聞)
- 1873年12月-02:00|キプロス/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領キプロス地区総督「イブラヒム・パシャ」(~1874年2月)
- 1873年12月-01:00|フランス| |||クロード・モネ、ジャコフ・カミーユ・ピサロ、アルフレッド・シスレー、オーギュスト・ルノワールら、「芸術家、画家、彫刻家、版画家その他による匿名協会」を設立

1875迄 (3195件)

- 1873年12月 00:00|イギリス| ||ロンドンでモック 被害が深刻化
- 1873年12月1日-09:00|日本|茨城県結城市|明治6年|<死去>水野勝寛(18歳)元下総結城藩主・知藩事
- 1873年12月1日-09:00|日本|日本郵政|明治6年|<発売>日本初の郵便葉書(2つ折で1枚5厘)と郵便封裏
- 1873年12月3日-09:00|日本| ||明治6年|<大相撲>明治6年12月場所[東京本所回向院](~10日間)幕内優勝:(西前1)鯨の海,7勝2敗1休
- 1873年12月3日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第398号「国立銀行条例成規中紙幣頭ニ可差出報告ノ条第五節第十一節改定」
- 1873年12月4日-09:00|日本| ||明治6年|<移管>海軍省「横浜製鉄所」⇒大蔵省
- 1873年12月4日-09:00|日本| ||明治6年|<創刊>坪井良作「新潟隔日新聞」(翌年4月「新潟毎日新聞」と改題)
- 1873年12月5日-09:00|日本| ||明治6年|<開校>大阪師範学校(官立)
- 1873年12月5日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第403号「徴兵令第三章第九条但書改正」
- 1873年12月5日-09:00|日本|福井県小浜市|明治6年|<死去>酒井忠義(61歳)元若狭小浜藩主・知藩事、京都所司代
- 1873年12月6日-08:00|中国| ||清・同治12年10月17日|ヤークフ・ベックがトルキスタンを支配し、カシュガルのアミール・ムハンマド・ヤクフ・ハンになる
- 1873年12月9日-07:00|日本|東京都|明治6年|<東京神田明治6年東福田町の大火>午前2時ごろ東福田町四番地の古紙卸業・永田善兵衛方から出火、東南の方向に燃え広がった/神田では火元の東福田町を始め橋本町一丁目、豊島町一丁目、元岩井町、神田材木町など800余戸を全焼したが、炎の手は更に日本橋へと延び、馬喰町、亀井町、小伝馬町、横山町などの問屋街をひとなめにし、日本橋の目抜き通りから急速に東南の方向に燃え進んだ/日本橋を灰にした炎は、東は元浜町から富沢町、蛸殻町二丁目、一丁目へ延び、西は鉄砲町から堀江町、小舟町の両河岸を経て小網町一丁目から二、三丁目へと進み、行徳河岸に行き着いてようやく、午前7時に鎮火/日本橋は48町、4952戸が全焼し、神田と合わせ5752戸余が全焼
- 1873年12月9日-01:00|オランダ/インドネシア| ||スマタラ島のアチ王国にオランダ軍が侵攻し、アチ軍と戦闘状態になり激戦の末王都を奪われた
- 1873年12月10日-09:00|日本|東京都|明治6年|東京府、貸座敷(遊郭)渡世規則、娼妓規則、芸妓規則を定める
- 1873年12月10日-09:00|日本|三井住友フィナンシャルグループ|明治6年|<開業>第五国立銀行[大阪]
- 1873年12月11日-01:00|ドイツ| ||<初演>ヨハネス・ブラームス《弦楽四重奏曲第1番ハ短調Op. 51-1》
- 1873年12月12日-09:00|日本|愛知教育大学|明治6年|<開校>愛知県養成学校[名古屋久屋町]
- 1873年12月13日-09:00|日本|山形県上山市|明治6年|<死去>松平信行(84歳)元出羽上山藩主
- 1873年12月14日-02:00|オーストリア/ボヘミア| ||<就任>オーストリア州総督「ホセ・マヌエル・クリスピニアーノ・ダ・フォンカ(統治評議会議長)」(~18740810)
- 1873年12月14日 06:00|アメリカ| ||<死去>ルイ・アガシ、海洋学者・地質学者(生年1807年)
- 1873年12月17日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第411号「明治七年郵便規則及ヒ罰則」
- 1873年12月19日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第412号「新貨条例中新貨幣例目ノ末条刪去及造幣規則第四条改定」
- 1873年12月20日-09:00|日本|京都府宮津市|明治6年|<死去>松平宗秀(65歳)元丹後宮津藩主、寺社奉行・大坂城代・京都所司代・老中
- 1873年12月21日-09:00|日本|茨城県結城市|明治6年|<死去>水野勝進(57歳)元下総結城藩主
- 1873年12月21日-01:00|フランス/ベトナム| ||越南・嗣徳26年|劉永福の率いる黒旗軍がハイを占領しているフランス軍と戦い、フランス軍の指導者が戦死
- 1873年12月22日-09:00|日本|三菱鉱業|明治6年|三菱商会、吉岡銅山(岡山県)を買収、初めて鉱山経営に進出
- 1873年12月23日-09:00|日本| ||明治6年|<死去>蜂屋茂橘(79歳)随筆家
- 1873年12月23日-09:00|日本| ||明治6年|<竣工>日本海軍運輸船「第一利根川船」(横須賀造船所)
- 1873年12月23日-09:00|日本| ||明治6年|前参議江藤新平派の青年士族らが征韓党を結成
- 1873年12月23日-01:00|スペイン| ||<就任>スペイン領アリゾナ総督「Andres Cuadra y Bourman」(~1879年)
- 1873年12月24日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第416号「海軍旗章更正増補」
- 1873年12月24日-09:00|日本|第四銀行|明治6年|<設立>第四国立銀行(新潟;18740301開業)
- 1873年12月24日-01:00|ドイツ| ||<死去>ハイリヒ・ゲスタフ・ホト、美学者(生年1802年)
- 1873年12月24日-09:00|韓国/朝鮮| ||清・同治12年11月5日|閔氏一党による大院君失脚で、第一次大院君政權倒れ高宗国王、親政を表明/驪興閔氏一門による政權奪取、勢道政治=閔氏政權始まる
- 1873年12月25日-09:00|日本| ||明治6年|<設置>機密事項に参与する非常設の官として内閣顧問/島津久光を任命
- 1873年12月25日-09:00|日本| ||明治6年|<設定>屯田兵制度
- 1873年12月25日-09:00|日本| ||明治6年|<設立>旧本荘藩士族の授産団体「洪融社」
- 1873年12月25日-09:00|日本| ||明治6年|<創刊>誠之堂「書抜新聞」(群馬県下最初の新聞)
- 1873年12月25日-09:00|日本| ||明治6年|消防組は東京府の手を離れて、いったん国の司法省警保寮の所管となる
- 1873年12月25日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第421号「神社改正規則更定」
- 1873年12月27日-09:00|日本| ||明治6年|政府が陸海軍資のため家禄に対する税を賦課する家禄税を設け、秩禄奉還の法を定める
- 1873年12月28日-09:00|日本| ||明治6年|明治6年太政官布告第434号「改定律例第七十六条改正」
- 1873年12月28日-09:00|日本| ||明治6年|陸海軍資のため、勅任・奏任の官員に対する俸給に官禄税を設ける
- 1873年12月31日-09:00|韓国/朝鮮| ||清・同治12年11月12日|崔益鉉、大院君を弾劾して済州に配流

1875迄 (3195件)

- 1874年-09:00|日本|花園大学|明治7年|東京に臨濟宗各派・黄檗宗連合による連合総学設置
- 1874年-08:00|マレーシア/イギリス| |||スガイウヅオンを英国保護領として分離 (~1895年)
- 1874年-07:00|タイ| |||<就任>メー・ホン・ソーン国王 (ハルサケティ)「ハヤ・シンガト・ラチャ」 (~1884年)
- 1874年-07:00|タイ| |||<就任>ランナー・シャム高等弁務官「テフ・プ・ラチュン」(1期目 ~1876年)
- 1874年-07:00|タイ| |||<設立>メー・ホン・ソーン
- 1874年-05:30|インド| |||<就任>アスマリク国ラジャ「シヨゲントラ・サマント」 (~18770204没)
- 1874年-05:30|インド| |||<就任>カイラール国統治者 (ターケル)「ウムラ・シン」 (~18910219没)
- 1874年-05:30|インド| |||<就任>カムハルサイン国摂政「マンガット・ラム」イギリス領インド管理下 (~1896年)
- 1874年-05:30|インド| |||<就任>シヨット国統治者 (ラ)「サルブ・シン」 (~1897年没)
- 1874年-05:30|インド| |||<就任>ハラウダ・ハタール・カチャル国統治者 (ターケル)「ラグハール・ダヤル・シン」 (~18851218没)
- 1874年-05:30|インド| |||<就任>ハラハ国ラジャ「ダスタナティ・ビハール・マングラジ・マハト」 (~18810715)
- 1874年-05:30|インド| |||<就任>ヒンドル国ラジャ「フッカー・シン・マルドラーゼ・ジヤカデブ」 (~1877年)
- 1874年-05:30|インド/イギリス| |||カイラール国をイギリス領インドが統治 (~1883年)
- 1874年-03:00|エジプト| |||<死去>ムリ・スルタン国スルタン「モハメド・ビン・サイティ・ハマティ・マカタラ」
- 1874年-03:00|カンタール| |||<就任>ハンタール統治者 (ムトハ・ムトウ)「キシキエ」 (~1902年)
- 1874年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>ハスラのリス「エシュレフ・エフエンディ」 (~1875年)
- 1874年-03:00|エジプト| |||<即位>ハンハオ・スルタン (ファルメ)「モハメド・ビン・アハメド」(2回目)
- 1874年-03:00|エジプト| |||<即位>ムリ・スルタン国スルタン「ジュンバ・ファティマ・ビント・アブデレマネ」(2回目 ~1878年)
- 1874年-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>デリール地区総督「Qasim Pasha」 (~1876年)
- 1874年-01:00|フランス| |||<就任>キース公「ジャン」 (~19400825死去)
- 1874年 00:00|セカール| |||<就任>パウール統治者 (ティーン)「セヤン・シヨ・ガロ・ガナ・フォル」(2回目 ~1890年)
- 1874年 04:00|サン・マルタン| |||<死去>フランス領サンマルタン島市長「Victor Foulquier」
- 1874年 04:00|サン・マルタン| |||<就任>フランス領サンマルタン島市長「Pierre Auguste Beauperthuy」 (~1878年死去)
- 1874年 10:00|ハワイ| |||<死去>ハワイ諸島王国王「William Charles Lunalilo」
- 1874年1月-09:00|日本| ||明治7年|<出版>「西洋童話」今井史山纂輯(清規堂)
- 1874年1月-09:00|日本|福井県|明治7年|海老助橋(福井県足羽郡深谷村・吉田郡海老助村間)架橋
- 1874年1月1日-11:30|ノーフォーク島/オーストラリア| |||<就任>ノーフォーク島主任判事「Fletcher Christian Nobbs」 (~18751231)
- 1874年1月1日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「李裕元」 (~18750526)
- 1874年1月1日-09:00|日本|茨城県水戸市|明治7年|<創設>水戸東武館(北見町2-26;剣道、居合道、なぎなた及び北辰一刀流剣術、新田宮流抜刀術を修練する道場)
- 1874年1月1日-09:00|日本|慶應義塾|明治7年|慶應義塾内に、私立小学校和田塾(のちの慶應義塾幼稚舎)が開塾
- 1874年1月1日-09:00|日本|東京都港区|明治7年|放火され増上寺本堂は全焼
- 1874年1月1日-01:00|スイス| |||<就任>スイス連邦大統領「ヨハン・カール・エマニエル・シェンク」Rad(3期目 ~12. 31)
- 1874年1月1日 05:00|タークス・カイコス諸島/イギリス| |||<就任>タークス・カイコス諸島弁務官「Daniel Thomas Smith」 (~1878年)
- 1874年1月1日 05:00|タークス・カイコス諸島/ジャマイカ| |||タークス・カイコス諸島はジャマイカの一部となる (~19620805)
- 1874年1月2日-01:00|フランス/ベトナム| |||黒旗軍とベトナム抵抗勢力の反撃でフランス軍がハイナムから撤退
- 1874年1月2日 04:00|トミカ共和国| |||<就任>トミカ共和国大統領「イグナシオ・マリア・ゴンスライス・イ・サントイン」 (~21日)
- 1874年1月3日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国首相「Francisco Serrano」立憲党 (~18740226)
- 1874年1月3日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン共和国第一共和政第5代大統領「フランスコ・セラノ」保守共和独裁派 (~12. 30)
- 1874年1月5日-09:00|日本|静岡県沼津市|明治7年|<死去>水野忠寛(68歳)元駿河沼津藩主
- 1874年1月5日-09:00|日本|東京都|明治7年|東京の京橋-新橋間に馬車、人力車専用の道路が完成
- 1874年1月5日-08:00|中国| ||清・同治12年11月17日|<創刊>王韜が香港で「循環日報」
- 1874年1月7日 00:00|カリヤ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王領カリヤ諸島市民知事「Rafael Bethencourt y Mendoza」(3期目 ~2. 21)
- 1874年1月8日-09:30|オーストラリア| |||<就任>クイーンズランド植民地政府首相「アーサー・マカスター」(3期目)
- 1874年1月8日-01:00|ドイツ| |||<創設>国際海上保険連合(IUMI)、ベルリンで
- 1874年1月9日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第1号「内務省中寮司ヲ置ク」;警保寮を司法省から内務省に移管;内務省地理寮が発足(1877年、内務省地理局と改称)、工部省測量司を移管
- 1874年1月9日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第2号「酒造其外取締規則中追加」
- 1874年1月9日 05:00|キューバ/スペイン| |||メヌの闘い/カリストとメオの連合軍は、スペイン軍フェデリコ・イスポンダ大佐の千名三三連隊をせん滅
- 1874年1月10日-09:00|日本|川崎重工|明治7年|<開設>川崎正蔵、東京・琉球間郵便航路
- 1874年1月10日-09:00|日本|兵庫県たつの市|明治7年|<死去>脇坂安宅(66歳)元播磨龍野藩主、寺社奉行・京都所司代・老中
- 1874年1月10日-01:00|ドイツ| |||ドイツ帝国議会選挙で、カリック政党の中央党が躍進
- 1874年1月12日-09:00|日本| ||明治7年|<結成>愛国公党(自由民権政社)(板垣退助・後藤象二郎・副島種臣・江藤新平ら)
- 1874年1月12日-09:00|日本|兵庫県宍粟市|明治7年|<死去>本多忠鄰(64歳)元播磨山崎藩主
- 1874年1月13日 06:00|ホンジュラス| |||<就任>ホンジュラス共和国大統領「ホンチャーノ・レイハ・マトリド」(1回目、18750202まで暫定 ~18760608)

1875迄 (3195件)

- 1874年1月13日-04:00|ロシア| ||ロシア暦1月1日|ロシアで国民皆兵の徴兵制度が施行される
- 1874年1月14日-09:00|日本|東京都三鷹市|明治7年|右大臣岩倉具視、征韓派の高知県士族武市熊吉らに赤坂喰違で襲撃され負傷
- 1874年1月15日-09:00|日本|大分県|明治7年|<設立>大分警察署
- 1874年1月15日-09:00|日本|東京都|明治7年|東京府の警察・消防を管轄する内務省の地方官庁として東京・八重洲町2丁目鍛冶橋内旧津山藩邸に内務省管轄の東京警視廳を設置
- 1874年1月16日-09:00|日本|長崎県長崎市|明治7年|高島炭坑が官営(工部省所管)化
- 1874年1月18日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第5号「船灯規則改正海上衝突予防規則」(船舶が航行する際に灯火を標示することを定めた船灯規則を改正)灯火の標示のほか霧中航海での信号、他の船舶との衝突回避航法なども規定するなど、総合的に海上交通の安全を図ることを目的とした基本法規
- 1874年1月18日-09:00|日本|川崎汽船|明治7年|<開設>川崎正蔵、大有丸を第1船として東京大阪琉球間郵便航路
- 1874年1月18日-01:00|フランス| |||<初演>ウイクトール・アントワーヌ・エドゥアール・ゾラ51《ヴァイオリン協奏曲》
- 1874年1月19日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第6号「地所質入書入規則第九条改正」
- 1874年1月19日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>アセンション島司令官「ジェームズ・ワリアー・イースト」(~18770208)
- 1874年1月20日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第8号「僧尼ノ輩族籍ヲ定ム」
- 1874年1月20日-09:00|日本|神奈川県川崎市|明治7年|<開通>六郷川渡橋
- 1874年1月20日-08:00|マレーシア| |||<即位>ペラ・スルタン「アブドゥッラー・ムハンマド・シャー2世・イブン・ニアル・マルフム・スルタン・ジャアファル・サフィウッディン・ムアッザム・シャー」(~18770330)
- 1874年1月20日-08:00|マレーシア/イギリス| |||ペラはイギリス保護領(~19570831)/デインディンクス準州がペラの属領としてイギリスに割譲される(~19350216)
- 1874年1月20日 06:00|アメリカ| |||アメリカ、議員に遡及賃金を認める法が撤廃される
- 1874年1月22日 04:00|トミカ共和国| |||<就任>トミカ共和国大統領「総司令官:イグナチオ・マリア・ゴンサレス・イ・サンティン/マヌエル・アルタラシア・カヘレス・フェルナンデス」(~4.6)
- 1874年1月22日 06:00|カナダ| |||カナダの総選挙で、与党の自由党が勝利
- 1874年1月23日-09:00|日本| ||明治7年|近衛歩兵第1・第2連隊が組織され、天皇が軍旗を授ける
- 1874年1月25日-09:00|日本|東京都|明治7年|東京府、朱引内小区改定
- 1874年1月25日 05:00|ジャマイカ/イギリス| |||<就任>英領サテティアコ 総督代行「ウィリアム・アレクサンダー・ジョージ・ヤング」(~4.4)
- 1874年1月26日-01:00|スロベニア/オーストリア| |||<就任>オーストリア領スロベニア大統領「クレメンス・ヴァンツェル・ロタル・フリッツ・フォン・メッテルニヒ=ヴァネブル」(3.19まで代行~7.20)
- 1874年1月27日-09:00|日本|東京都|明治7年|消防事務は、東京警視庁安寧課消防掛に属し消防組員は各警察署長の指揮の下に活動することになる
- 1874年1月27日-09:00|日本|東京都中央区|明治7年|築地教会で初の日本人男子の国際結婚
- 1874年1月27日 00:00|イギリス| |||イギリス・スコットランド・フォルカークの分岐点で切り離された先発列車が遅延して発車したのを、信号掛が後発列車の発車と誤認して待避線の貨物列車を発車させ、直後に発車した後発列車が、本線に進入していた貨物列車に衝突。死者16人
- 1874年1月28日-09:00|日本|群馬県沼田市|明治7年|坊新田町妙光寺とともに坊新田小学校も焼失
- 1874年1月28日-09:00|日本|東京都|明治7年|消防組員の服務心得、進退賞罰を規定した「消防章程」が制定され、これによりそれまでの町火消の集団が、近代的な規律の下に活動する消防組になっていく
- 1874年1月28日-09:00|日本|東京都港区|明治7年|<設置>青山御所(後の赤坂迎賓館)
- 1874年1月28日-09:00|日本|広島県広島市|明治7年|広島区広瀬村で大火、100余戸を焼く
- 1874年1月28日-08:00|インドネシア| |||<死去>アチェ王国スルタン「マフムド・シャー」病死
- 1874年1月28日-08:00|インドネシア| |||<即位>アチェ王国国王「ムハンマド・ダウト・シャー」(~19030110)
- 1874年1月29日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第12号「神社改正規則第四条改正」
- 1874年1月30日-09:00|日本|高知大学|明治7年|<設立>「陶冶学舎」[高知県庁(西弘小路)内]
- 1874年1月31日-09:00|日本| ||明治7年|女工採用の始(大蔵省の紙幣寮にて初めて女工を採用)
- 1874年2月-09:00|日本|神奈川県|明治7年|<改称>「横浜共立病院」を県立とする⇒「神奈川県立十全医院」
- 1874年2月-07:00|ベトナム| |||ベトナムで阮朝の対仏妥協に対してチャン・タンらがゲアンで蜂起
- 1874年2月-02:00|キプロス/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領キプロス地区総督「メフメド・ナシフ・パシャ」(~12月)
- 1874年2月1日-09:00|日本| ||明治7年|<創刊>大教院「教会新聞」(月4回刊)
- 1874年2月1日-09:00|日本| ||明治7年|<発行>竜2銭・竜1銭・半銭・1厘銅貨
- 1874年2月1日-09:00|日本|NTT|明治6年|東京~宇都宮間電信線完成/宇都宮電信局(栃木)開局
- 1874年2月1日-09:00|日本|慶應義塾|明治7年|<創刊>慶應義塾出版社「民間雑誌」(主宰福澤諭吉)/不定期刊で翌年6月まで12冊を発行
- 1874年2月1日-09:00|日本|高知県高知市|明治7年|<創業>城西館[上町]
- 1874年2月1日-09:00|日本|佐賀県|明治7年|<佐賀の乱>征韓論を唱える江藤新平を中心とする士族の暴動がおきる
- 1874年2月1日-09:00|日本|佐賀県佐賀市|明治7年|<佐賀の乱>憂国党に属する士族が官金預かり業者である小野組に強引に金談。店員ら逃亡
- 1874年2月2日-09:00|日本| ||明治7年|<創刊>秋田魁新報社「遐邇新聞」(→「秋田魁新報」)
- 1874年2月2日-09:00|日本|東京都|明治7年|<設置>新橋~京橋間馬車鉄道
- 1874年2月2日-09:00|日本|東京都中央区|明治7年|銀座煉瓦街の欧風道路が完成
- 1874年2月2日 04:00|プエルトリコ| |||<就任>プエルトリコ総司令官兼上席市民知事「Jose Laureano Sanz y Posse」(2期

1875迄 (3195件)

目~18751215)

- 1874年2月2日-08:00|中国/イギリス| ||清・同治12年12月16日|カシュガルのヤークフ・ベクが、イギリスと通商条約を締結
- 1874年2月3日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第14号「受取諸証文印紙貼用心得方規則第九条中添正」
- 1874年2月3日-09:00|日本|立教大学|明治7年|<創立>私塾「立教学校」[東京築地]アメリカ聖公会宣教師ウィリアム・主教により
- 1874年2月3日 10:00|ハワイ| ||<死去>ハワイ王「ルリロ」
- 1874年2月3日 10:00|ハワイ| ||<就任>ハワイ諸島王国執行省「Edwin Oscar Hall/Charles Reed Bishop/Robert Stirling/Albert Francis Judd」(~13日)
- 1874年2月5日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第15号:警視庁、羅卒を巡査と改める
- 1874年2月5日 00:00|ガーナ/イギリス| ||西アフリカ(ガーナ)で、イギリス軍がアサン軍を破ってクマシを制圧
- 1874年2月6日-07:00|ベトナム/フランス| ||越仏協定が成立し、フランスがハイなどから撤退を開始
- 1874年2月7日-09:00|日本/アメリカ| ||明治7年|<批准>日米郵便交換条約(4月18日批准書交換, 6月7日布告. 最初の外国郵便条約)
- 1874年2月7日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第16号「捕亡律内徒流人逃条改正」
- 1874年2月7日-09:00|日本|高知大学|明治7年|<開学>高知県「陶治学舎」(県庁舎内⇒後の師範学校)
- 1874年2月7日-09:00|日本|宮城県仙台市青葉区|明治7年|<創建>青葉神社(伊達政宗を祀る)
- 1874年2月8日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第17号「蚕種取締規則第四則中追加」
- 1874年2月8日-09:00|日本|群馬県みどり市|明治7年|<発見>小平鍾乳洞/小さな鍾乳洞
- 1874年2月8日-04:00|ロシア| ||ロシア暦: 1874/1/27|<初演>モテ・スト・ペトロフ「イッチ・ムルグ・スキー」《歌劇「ホリス・ゴト・ウノ」》サンクト・ペテルブルクのマリンスキー劇場
- 1874年2月9日-01:00|フランス| ||<死去>フランス歴史家ジュール・ミシュレ(1798-、76歳)/ライフワークの「フランス史」も終了
- 1874年2月10日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年工部省布達第3号「明治六年第三百号布告電信取扱規則第十八条改正」
- 1874年2月10日 05:00|キューバ/スペイン| ||マセオの率いる進攻部隊、ホセ・アグアでマヌエル・ホルヘ・イゾ將軍の率いる2千の重武装部隊を撃破。グアイマロを奪回
- 1874年2月11日-09:00|日本| ||明治7年|<開設>青森-函館間定期航路(毎月2の日に函館から青森に向い, 4の日に復航)
- 1874年2月13日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第19号「蚕種原紙売捌規則改正」
- 1874年2月13日-01:00|ドイツ| ||<死去>ヨハン・ブルグミュラー/67歳(誕生: 18061204)作曲家/「ピアノ教則本」を著した
- 1874年2月13日 10:00|ハワイ| ||<即位>ハワイ諸島王国国王「デヒット・カラカワ」(~18910120死去)
- 1874年2月14日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年工部省布達第4号「電信規則第二十三条符徴音信改正」
- 1874年2月14日-09:00|日本|香川県丸亀市|明治7年|<死去>京極高朗(77歳)元讃岐丸亀藩主
- 1874年2月14日 04:00|ボリビア| ||<就任>ボリビア共和国大統領「トマス・フランシスコ・フリアス・アムラー」(2回目~18760504)
- 1874年2月15日-02:00|トルコ| ||<就任>オスマン帝国大宰相「ヒセイン・アガニ・パシャ」(~18750426)
- 1874年2月16日-09:00|日本|佐賀県佐賀市|明治7年|<佐賀の乱>佐賀軍、未明より佐賀県庁(佐賀城)を攻撃/佐賀城焼失
- 1874年2月16日 05:00|キューバ/スペイン| ||ラス・グアスマスの闘い/マセオは2百の騎兵と50人の歩兵を率い, 2千の敵陣に突入。スペイン軍は5日間の闘いで死傷者1,037名を出し負傷者と多量の武器を戦場に残したまま敗走/反乱軍もマセオを含め174名が死傷
- 1874年2月17日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第20号「新貨条例中造幣規則第十四条追加」
- 1874年2月17日 00:00|イギリス| ||<辞任>イギリス連合王国第41代首相「ウィリアム・グラッドストーン」
- 1874年2月18日-09:00|日本| ||明治7年|<創業>有隣堂(穴山篤太郎). 殖産興業書出版販売
- 1874年2月18日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第21号「鯨漁船並海川小廻船等船税規則」
- 1874年2月18日-09:00|日本|佐賀県佐賀市|明治7年|<佐賀城の戦い(佐賀城)>夜に左半大隊は佐賀城を脱出。左半大隊は佐賀軍の待ち伏せにあつて大損害(3分の1が死亡)を与えられた。佐賀の乱における政府軍の死者は大部分がこの戦闘におけるもので、佐賀県大属小出光照、中隊長大池鑿二大尉(佐賀の乱での官軍戦死者で最高位の一人)、沢田正武中尉が戦死、敗走中に包囲された津井城郷吉中尉が自刃したほか、山川浩少佐、奥保鞏大尉が重傷、西島助義少尉が捕虜となった。また、この時、憂国党の副島義高は捕虜を殺害しないよう通達を出したが、佐賀城からの脱出時に岩村の命で公金2,000円を携行していた佐賀県権中属の中島脩平に対しては、これを公金横領と看做して処刑。なお、この敗走中、兵卒の谷村計介が単身先行し渡船を調達して部隊を窮地から救った。これにより、左半大隊は久留米に留まっていた右半大隊との合流に成功
- 1874年2月19日-09:00|日本|愛知教育大学|明治7年|<設立>官立愛知師範学校
- 1874年2月19日-09:00|日本|長崎大学|明治7年|<設立>官立長崎師範学校(10月15日開校)
- 1874年2月19日-09:00|日本|新潟大学|明治7年|<設立>官立新潟師範学校
- 1874年2月19日-09:00|日本|広島大学|明治7年|<設立>官立広島師範学校
- 1874年2月20日 00:00|イギリス| ||<就任>イギリス連合王国第42代首相「(初代ビーン・コンス・フィールド伯爵)ベンジャミン・ディズレーリ」保守党(2期目~18800423)
- 1874年2月21日-02:00|ギリシャ| ||<就任>ギリシャ閣僚評議会議長「ディミトリオス・ケオルギウ・ウールカリス」(7回目~18750509)
- 1874年2月21日 00:00|カヤ諸島/スペイン| ||<就任>スペイン王領カヤ諸島市民知事「Mateo Gamundi」(~12.30)
- 1874年2月22日-09:00|日本| ||明治7年|陸軍省第6局を廃し、参謀局を置く

1875迄 (3195件)

- 1874年2月22日-09:00|日本|佐賀県鳥栖市|明治7年|<朝日山の戦い(村田町朝日山)>二日市から原田を経て、田代(鳥栖)に入った野津少将率いる政府軍の本隊は朝日山に向かい、第四大隊と第三砲隊は轟木道から正面へ、第十大隊の半数が山浦から側面に、残る半数が宿村から背後に出て包圍攻撃を行った。佐賀軍も猛烈に反撃したがすぐに弾薬が枯渇したため支えることが出来ず、中原に敗走し、ここでも敗れて隘路である切通で反撃に出た。このとき追撃を担当した第四大隊は分散しており1中隊のみで相対したため苦戦したが、最後にはこれも退け、苔野まで前進したのち中原まで退き、笛吹山から原古賀の佐賀兵を掃討した第十大隊と合流して宿営した。また、夜半には佐賀兵の夜襲も撃退した。これに対し第十一大隊は朝日山の本隊に合流しようと筑後川を渡り、千栗・豆津・江見などで佐賀軍を破ったものの、六田で奇襲を受け、永山貞忠中尉が戦死するなど大損害を出し筑後川を渡り住吉(久留米市安武町)まで退却した。その後夜間再度渡河して千栗に宿営したため、この日の戦力の結集には失敗した
- 1874年2月22日-05:30|インド| |||<就任>ゴト 国ラジャ「ジヤト・ヒンド・シ」(~19221104没)
- 1874年2月23日-09:00|日本|佐賀県|明治7年|<寒津川の戦い(寒津川)>政府軍は第十大隊を前軍とし、第三砲隊が続行、第四大隊を後軍として中原を出発。前夜合流した前山隊が中原の守備に当たった。佐賀軍は寒津村(現:みやき町)に本陣を置き、寒津川沿いで迎撃、中島鼎蔵の指揮の下左右から挟撃し追い込んだが、官軍指揮官の陸軍少将野津鎮雄が弾雨の中抜刀して先頭に立ち兵を励まし戦い、また中原から北山に転戦していた厚東武直少佐の第四大隊が反転して背後を突き、佐賀軍は総崩れとなり敗走。しかし、本隊となった第十大隊第二中隊は中隊長阿部正通大尉が戦死し、代わって指揮を取った児玉源太郎大尉も重傷を負うなど被害が大きく、中原に到着した第十一大隊は一個中隊を割いて増援として差し出した/<田手川の戦い(田手川)>朝日山の陥落を聞いて神埼まで出ていた江藤は寒津でも破れたことを聞くと馬を田手(現:吉野ヶ里町田手)まで走らせて陣頭指揮を執った。江藤は田手川に防御陣を敷き、一部の精鋭を持って背後を突こうとしたが、田手川下流を渡河した青山朗大尉率いる第十大隊第四中隊に逆に背後から攻撃を受け敗退。さらに官軍が追撃したため、佐賀軍は神埼(現:神崎市)を焼き払い境原(現:神崎市千代田町境原)まで退却。勝機を失ったと見た江藤は征韓党を解散し、鹿児島島へ逃れて下野中の西郷隆盛に助力を求めるため戦場を離脱
- 1874年2月23日 00:00|イギリス| |||イギリスのウィングフィールド 少佐が、ラケットとネットとボールとそのルールをセトにした遊びを考案し3年間の特許を取る
- 1874年2月24日-09:00|日本|佐賀県佐賀市|明治7年|<三瀬の戦い(佐賀県三瀬村)>福岡士族による貴族隊六個小隊が飯場村に出撃したが反撃を受け、小隊長幾島徳(安川敬一郎男爵の兄)が戦死するなどし金武まで後退
- 1874年2月24日-09:00|日本|東京都台東区|明治7年|<竣工>浅草橋
- 1874年2月26日-09:00|日本| ||明治7年|<死去>大前田英五郎(82歳) 俠客
- 1874年2月26日-09:00|日本|佐賀県佐賀市|明治7年|<三瀬の戦い(佐賀県三瀬村)>小笠原隊が背振口で佐賀軍を破る
- 1874年2月26日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国閣僚評議会議長「Juan de Zavala」立憲党(~18740903)
- 1874年2月26日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン大統領「フランシスコ・セラノ」
- 1874年2月27日-09:00|日本|佐賀県神崎市|明治7年|<境原の戦い(千代田町境原)>官軍は総攻撃を開始し、第十大隊および第三砲隊が本隊として姉村に、第四大隊を右翼として城原から川久保に、第十一大隊と第十九大隊一個小隊を左翼として蓮池にそれぞれ進軍した。佐賀軍が神埼以南の諸橋梁を破壊していたため、架橋しながら戦う第十大隊は苦戦したが、砲隊の榴散弾が佐賀軍の保塁に命中したのをきっかけに猛進し、また第十一大隊が後方から攻撃したため挟撃の形となり、佐賀軍を敗走させて境原を奪取した。またこの日の夜には佐賀軍は一千人規模の夜襲を敢行したが、蓮池を占領しに向かった第十一大隊が戻り、側面を突いたことで佐賀軍は壊走
- 1874年2月27日-09:00|日本|佐賀県佐賀市|明治7年|<三瀬の戦い(佐賀県三瀬村)>小笠原隊が三瀬も取って佐賀軍を四散させた
- 1874年2月27日 00:00|イギリス| |||<昇格>3代ウエストミンスター侯「ヒュー・ルーパース・グロウナー」⇒初代ウエストミンスター公(~18991222 死去)
- 1874年2月27日 05:00|キューバ/スペイン| |||<死去>カロス・マヌエル・デ・セバステス、キューバの革命家(生年1819年)スペイン軍に殺害される
- 1874年2月27日 05:00|キューバ/スペイン| |||クリスト、百日間にわたる防衛戦ののち敗北
- 1874年2月28日-09:00|日本|佐賀県神崎市|明治7年|<境原の戦い(千代田町境原)>政府軍が佐賀城下に迫ると、このころ東京から戻っていた木原隆忠(島義勇の従弟)と副島義高を使者に降伏と謝罪を申し出たが、官軍は内容が無礼として受理せず、木原を拘留。島義勇は佐賀で討ち死にするつもりであったが、実弟の副島義高らが無理矢理脱出させた
- 1874年3月-09:00|日本|東京農工大学|明治7年|内務省勸業寮内藤新宿出張所(現新宿御苑)内に蚕業試験掛が設けられ蚕業に関する試験・研究及び伝習業務開始
- 1874年3月1日-09:00|日本| ||明治7年|<死去>斎藤墨湖、画家・茶人(103歳、生年1772年)
- 1874年3月1日-09:00|日本|京都府京都市|明治7年|<開催>「第3回京都博覧会」(~6月8日) [開催地]京都府[会場]京都御所・仙洞院[主催]京都博覧会社[入場者]281, 219人
- 1874年3月1日-09:00|日本|佐賀県佐賀市|明治7年|政府軍主力:反乱軍から佐賀県庁(佐賀城)を奪回、佐賀の乱鎮圧される
- 1874年3月1日-09:00|日本|東京都|明治7年|<開催>「東京山下門内博物館博覧会」(~6月10日) [開催地]東京都[会場]東京山下門内博物館[主催]内務省博覧会事務局
- 1874年3月1日-09:00|日本|三重県|明治7年|<開催>「伊勢山田博覧会」(~5月31日) [開催地]三重県[主催]度会県
- 1874年3月1日-09:00|日本|三井物産|明治7年|<設立>井上馨「先収会社」

1875迄 (3195件)

1874年3月2日-09:00|日本|栃木県さくら市|明治7年|<死去>喜連川繩氏(31歳)元下野喜連川藩主
1874年3月3日-12:00|フィジー| ||<就任>ウイティ王国(フィジー)総理大臣「ジョン・ヘイツ・サートン」(~10.10)
1874年3月4日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第26号「受取諸証文印紙貼用心得方規則第九条添正中追加」
1874年3月4日-09:00|日本|山梨大学|明治7年|<改称>開智学校⇒師範講習学校
1874年3月4日 00:00|ガーナ/イギリス| ||<就任>イギリス領西アフリカ植民地「ゴールド・コースト」管理責任者代行「ジェームズ・マクスウェル」(~30日)
1874年3月7日-09:00|日本| ||明治7年|<死去>2代一龍齋貞山(36歳)講談師
1874年3月7日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年陸軍省布達第131号「陸軍徽章アル服帽等売買着用ヲ禁ス」
1874年3月7日-09:00|日本|鹿児島県|明治7年|<佐賀の乱>憂国党の党首・島義勇、鹿児島で捕縛される
1874年3月8日-09:00|日本|東京都|明治7年|東京府、府下大小区画改定、11大区103小区とする
1874年3月8日 06:00|アメリカ| ||<死去>第13代大統領「ミラード・フィルモア」74歳(誕生:18000107)
1874年3月10日 04:00|ガイアナ/イギリス| ||<就任>イギリス領ギアナ総督「ジェームズ・ロバート・ロングデン」(~18770308)
1874年3月11日 04:00|マルティニーク/フランス| ||<就任>フランス領マルティニーク知事代理「Francois Charles Leonce Michaux」(~1875年)
1874年3月11日 06:00|アメリカ| ||ウイコンシン州鉄道運賃規制法が制定される
1874年3月13日-09:00|日本|お茶の水女子大学|明治7年|明治7年文部省布達第9号「東京府下ニ女子師範学校設立」
1874年3月14日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第29号「改定律例第百八条削除」
1874年3月15日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第30号「明治七年日本帝国郵便規則中訂正増補」;明治7年太政官布告第32号「明治七年日本帝国郵便犯罪罰則第三条第四条中改正」
1874年3月15日-07:00|ベトナム/フランス| ||サイゴン条約が調印され、ベトナムがフランス保護国化される
1874年3月15日-05:30|インド| ||<即位>オランダ国マハラジャ「フアラット・シン」(~19300303没)
1874年3月17日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第33号「銅銭海外輸出ヲ許ス」
1874年3月17日-08:00|フィリピン/スペイン| ||<就任>スペイン領フィリピン総督代理「Manuel Blanco Valderrama」(~6.18)
1874年3月17日 06:00|ベリーズ/イギリス| ||<就任>イギリス領ホンジュラス副総督(シヤマカ総督に従属)代行「チャールズ・ハレン・ヒュー・ミッチェル」(2回目~5.15)
1874年3月18日-09:00|日本|宮崎県|明治7年|<死去>秋月種殷(58歳)元日向高鍋藩主・知藩事
1874年3月19日-01:00|スペイン/キューバ| ||スペイン軍は5日間の闘いで死傷者1,037名を出し負傷者と多量の武器を戦場に残したまま敗走。反乱軍もメオを含め174名が死傷
1874年3月20日-09:00|日本| ||明治7年|<改正>「新貨条例」/<発行>新1円銀貨
1874年3月20日-09:00|日本|東京都墨田区|明治7年|<大相撲>明治7年3月場所[東京本所回向院](~10日間)幕内優勝:(東関脇)雷電、7勝0敗2分1休
1874年3月20日-09:00|日本|長野県飯田市|明治7年|<開催>「飯田博覧会」(~4月20日)[開催地]長野県[会場]飯田岩戸社
1874年3月20日-01:00|ハンガリー| ||<就任>ハンガリー王国首相「イシュトヴァン・ヒト・サロファイ・エス・ナターステイ」(~18750302)
1874年3月21日-09:00|日本|群馬県前橋市|明治7年|前橋で大火320戸焼失
1874年3月21日-09:00|日本|東京都中央区|明治7年|<開催>わが国最初の陸上運動会「競闘遊戯会」築地海軍兵学校寮で
1874年3月22日-09:00|日本| ||明治7年|<佐賀の乱>首謀者の一人の山中一郎等、高知県佐賀駅で捕縛
1874年3月23日-09:00|日本| ||明治7年|<佐賀の乱>首謀者の一人の香月経五郎等、林有造等との会談後捕縛
1874年3月23日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第36号「新貨条例中造幣規則十四条追加ヲ第一条追加ニ改正」
1874年3月23日 06:00|アメリカ| ||アイトワ州鉄道運賃規制法が制定される
1874年3月24日-09:00|日本| ||明治7年|<禁止>天皇の写真売買
1874年3月24日-09:00|日本| ||明治7年|<設置>地租改正事務局(内務・大蔵の管轄)
1874年3月24日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第37号「家禄奉還ノ者ハ資金被下方規則第一条第二条中追加」;明治7年太政官布告第038号「神官教導職及僧侶礼服ヲ定ム」
1874年3月24日-09:00|日本|静岡県|明治7年|<竣工>安部川に初めて木橋の安水橋(渡り賃は1人4厘)
1874年3月27日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年文部省布達第11号「東京府下ニ司薬場設立」東京日本橋馬喰町に日本初の国立医薬品試験機関「司薬場」開設
1874年3月27日-01:00|チェコ| ||<初演>ペドジフ・スメタ《歌劇「2人のやもめ」》
1874年3月28日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第39号「家禄引換公債証書発行条例」(秩禄奉還者に営業資金供与のため)布告
1874年3月28日-09:00|日本|群馬県高崎市|明治7年|高崎で大火700戸焼失
1874年3月29日-09:00|日本|高知県安芸郡東洋町|明治7年|<佐賀の乱>江藤新平が高知県甲ノ浦で捕縛される
1874年3月29日-09:00|日本|新潟県|明治7年|<設立>官立新潟外国語学校[新潟県]
1874年3月30日-09:00|日本|群馬県高崎市|明治7年|<解散>「保任社」日本における最初の海上保険会社
1874年3月30日 00:00|ガーナ/イギリス| ||<就任>イギリス領西アフリカ植民地「ゴールド・コースト」管理責任者代行「チャールズ・キヤロン・リス」(1回目~6.25)
1874年3月31日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第41号「明治七年郵便規則第七十七条中追加」
1874年3月31日-09:00|日本| ||明治7年|陸軍省内に軍馬局設置、馬政業務を扱い、軍馬の調教を行った。支部にあたる東京の第一厩と仙台の第二厩を管轄

1875迄 (3195件)

- 1874年3月31日 00:00|イギリス| |||<死去>5代ダウンシャー侯「アーサー・ウィルズ・フランデル・トランプル・サンズ・ローデン・ヒル」
- 1874年3月31日 00:00|イギリス| |||<就任>6代ダウンシャー侯「アーサー・ウィルズ・ジョン・ウェリントン・トランプル・フランデル・ヒル」(~19180529死去)
- 1874年4月-09:00|日本|木村家總本店|明治7年|<移転>木村家/東京・銀座に
- 1874年4月-09:00|日本|東京大学|明治7年|<創設>内務省農事修学場[現在の新宿御苑内]
- 1874年4月-09:00|日本|三菱商事|明治7年|岩崎弥太郎、三菱商会本社を東京に移す
- 1874年4月-09:00|日本|宮城県|明治7年|<区制>宮城県で大区小区施行
- 1874年4月-09:00|日本|山口大学|明治7年|<設立>教員試験所
- 1874年4月-05:30|インド| |||<死去>シッキム王「シケオン・ナムゲル」
- 1874年4月-05:30|インド| |||<即位>シッキム王「トウトブ・ナムゲル」(~19140211、死去)
- 1874年4月-02:00|ブルガリア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国ツナ(ドナウ)・クリス(総督)「メフメト・アシム・パシャ」(~1876年9月)
- 1874年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「フィリッポ・ベルツィ」
- 1874年4月1日-01:00|スイス| |||スイスで連邦憲法の大改正が行われる
- 1874年4月1日 05:00|コロンビア/パナマ/ブラジル/ペルー| |||<就任>コロンビア合衆国大統領「サンティアゴ・ヘルス・イ・マサルバステル・カステイジョ」(~18760401)
- 1874年4月2日-09:00|日本| ||明治7年|<死去>初代桂文枝(56歳、1819年生)落語家
- 1874年4月2日-09:00|日本| ||明治7年|<創刊>「明六雑誌」(明六社)啓蒙雑誌/明六社の機関誌
- 1874年4月2日-05:30|インド| |||<就任>ハルデオ国統治者(ジョーベ)「アニルタ・シン」(~1891年没)
- 1874年4月3日-04:00|セイシェル/イギリス| |||<就任>イギリス領セイシェル長官代行「エドゥアルド・アマント・エヌフ」(~同年)⇒「アーサー・エリバンク・ハブロック」(1回目~1875年)
- 1874年4月4日-09:00|日本| ||明治7年|<設置>台湾蕃地事務局(三条実美により)
- 1874年4月4日 05:00|ジャマイカ/イギリス| |||<就任>英領サンティアゴ総督「ウィリアム・グレイ卿」(~18770310)
- 1874年4月5日-09:00|日本|栃木県|明治7年|<発行>栃木新誌(栃木最初の新聞)
- 1874年4月5日-01:00|オーストリア| |||<初演>ヨハン・シュトラウス2世《喜歌劇「こうもり」》ウィーン劇場
- 1874年4月6日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア・ヘルツェゴビナ総督「イブラヒム・タウ・イッシュ・パシャ」(~18750904)
- 1874年4月6日 04:00|トミニカ共和国| |||<就任>トミニカ共和国大統領「イグナチオ・マリア・ゴンサレス・イ・サンティン」(2回目、9.10~18750412、最高責任者~18760223)
- 1874年4月6日 05:00|キューバ/スペイン| |||<就任>スペイン植民地キューバ総督・総司令官「ハバナ侯爵セルゲイ・イェリス・テ・ラ・コンチャ・イ・イルコ・イェン」(3回目~18750301)
- 1874年4月10日-09:00|日本|高知県|明治7年|<結成>政治結社立志社(板垣退助が、高知に)/自由、福祉を旗印に掲げているが、不平士族の意識の強い構成員だったため、やがて西南戦争に呼応する者を多く出すことになる
- 1874年4月10日 00:00|イギリス| |||<ゴルフ>第14回全英オープン選手権優勝:マンゴ・パーク(スコットランド/159)
- 1874年4月11日-09:00|日本|福島県白河市|明治7年|<死去>阿部正備(52歳)元陸奥白河藩主
- 1874年4月12日-09:00|日本| ||明治7年|<禁止>政府、外国人の銅銭輸出を
- 1874年4月13日-09:00|日本| ||明治7年|<佐賀の乱>江藤新平・島義雄ら13名に死刑判決が下り即日処刑(斬首。江藤・島は斬首のうえ梟首)/その他、136人が懲役、240人が除族、7人が禁固処分
- 1874年4月13日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第43号「改定律例第十六条中附籍ヲ入籍ニ改ム」
- 1874年4月13日-09:00|日本|東京都千代田区|明治7年|<設立>華族集会所(のちの華族会館)
- 1874年4月14日-09:00|日本/ペルー| ||明治7年|<購入>ペルー船「サドキ」(1868年、フランスにて竣工)⇒北海道開拓使、軍艦「北海丸」と改称
- 1874年4月15日-09:00|日本|長野県松本市|明治7年|<開催>「松本博覧会」(~6月3日)[開催地]長野県[会場]松本城天守閣[主催]松本博覧会社
- 1874年4月15日-01:00|フランス| |||フランスで「画家・彫刻家・版画家等の匿名協会展」(通称「第1回印象派展」)が開かれ「印象主義」が誕生
- 1874年4月17日-01:00|フランス| |||フランスの天文学者ジョエル・ユージェヌ・コッジャが彗星C/1874H1(コッジャ彗星)発見
- 1874年4月18日-09:00|日本/アメリカ| ||明治7年|日米郵便交換条約批准交換(18730806調印)
- 1874年4月18日-09:00|日本|京都大学|明治7年|<改称>大阪開明学校⇒大阪外国語学校
- 1874年4月18日-09:00|日本|長崎県長崎市|明治7年|<改称>長崎広運学校⇒長崎外国語学校
- 1874年4月18日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド副卿「アバコン公爵ジェームズ・ハミルトン」(2回目~18761211)
- 1874年4月19日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第44号「金札引換公債証書発行条例中紙幣寮紙幣頭改正」
- 1874年4月20日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第45号「牛馬売買規則第二条改定」
- 1874年4月22日-05:30|インド| |||<就任>ファリドコト国ラジャ「グイラム・シン」(~18980808没)
- 1874年4月23日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第46号「官吏犯公罪条例」
- 1874年4月24日-04:00|ロシア| |||<初演>ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー《歌劇「オプリーチーク(親衛隊)」》
- 1874年4月25日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第47号「家禄引換公債証書発行条例第十六条但書中訂正」
- 1874年4月26日-09:00|日本|新潟県新発田市|明治7年|<死去>溝口直溥(56歳)元越後新発田藩主
- 1874年4月26日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| |||<就任>トリニダード知事代行「ジョン・スコット・マッシュ」(1日目~5.2)
- 1874年4月27日-01:30|日本|静岡県浜松市|明治7年|<浜松明治7年の大火「小野組火事」>7時30分、浜松宿伝馬町の小野組支店より失火、折節西風激しく、宿場中ならび近傍のこらず類焼、11時より南風に変わり、東は馬込村迄

1875迄 (3195件)

延焼し、16時鎮火/同宿家数3202軒のうち、焼失家数1318軒(41%焼失)、その内、蔵が108棟、寺5か所、狂言小屋(芝居小屋)1軒/焼失した町は、東海道筋の目抜き通りで、火元の伝馬町、旅籠町、鍛冶町、後道、平田町、平田村、塩町、大工町、利町、紺屋町、連尺町、神明町、肴町、池町、板屋町、新町、元魚町、大堀新地の18町村/馬込村59軒のうち17軒を焼失

- 1874年4月30日-01:00|ドイツ| |||帝国紙幣の発行に関する法律制定
- 1874年5月-09:00|日本|三越伊勢丹ホールディングス|明治7年|<開業>今井藤七「丸井今井呉服店」(札幌市南一条西一丁目)
- 1874年5月-04:00|フランス| |||<就任>アルサド 王朝摂政「アブドゥル・アジズ・ビン・サイド」(~1875年12月)
- 1874年5月1日-09:00|日本| ||明治7年|<開催>「名古屋博覧会」(~6. 10) [開催地]愛知県[会場]東本願寺名古屋別院[主催]愛知県下博覧会社[入場者]300, 000人
- 1874年5月1日-09:00|日本| ||明治7年|<初点灯>「御前埼灯台」(設計ブランチ、静岡県御前崎市、初期のものが現存するレガ造灯台)
- 1874年5月1日-09:00|日本|福井大学|明治7年|<独立>小学師範学科⇒敦賀県師範学校
- 1874年5月1日 06:00|日本| ||明治7年|<開業>「京品村」(港区芝高輪南町4-10-20)
- 1874年5月2日-09:00|日本| ||明治7年|議員憲法及び議事規則を頒布
- 1874年5月2日 04:00|セントピント/イギリス| |||<就任>イギリス領セントピント副総督代行「オガスタス・フレデリック・ゴア」(1度目~10. 26)
- 1874年5月2日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| |||<就任>トリニダード 知事「ウィリアム・ウェリントン・ケインズ」(~5. 27)
- 1874年5月3日-08:00|中国| ||清・同治13年3月18日|上海のフランス租界の道路拡張案に中国人墓地の破壊が含まれていたため衝突が起こり、死傷者が出る
- 1874年5月5日-09:00|日本| ||明治7年|横須賀村4番地14番舎に海軍兵学寮分校を設置:横須賀校舎1棟及び向山官舎1棟を主船寮より移管、予科生徒20名機関実地修業のため入校
- 1874年5月6日-09:00|日本|三井住友フィナンシャルグループ|明治7年|<改組>三井両替店⇒為替バンク三井組
- 1874年5月6日-08:00|台湾/日本| ||明治7年|<台湾出兵>西郷従道の日本軍が琉球島民殺害の罪を問うために台湾に上陸
- 1874年5月7日-09:00|日本| ||明治7年|<一般開放>「兼六園」(太政官布告に基づいて)公園となる[石川県金沢市、1676作庭]
- 1874年5月7日-09:00|日本| ||明治7年|<死去>6代望月太左衛門(45歳)歌舞伎囃子方
- 1874年5月7日-09:00|日本|沖縄県|明治7年|明治7年太政官布告第50号「琉球藩各地ニ郵便役所及郵便取扱所設置」
- 1874年5月7日-09:00|日本|東京大学|明治7年|<改称>開成学校⇒東京開成学校;第一大学区医学校⇒東京医学校
- 1874年5月8日-07:00|タイ| |||シャムのアヌマジン5世が、枢密院と國務院を設置/ブナーケー族の影響力が抑止される
- 1874年5月9日-09:00|日本|山梨中央銀行|明治7年|<設立>興益社(6. 1開業)
- 1874年5月10日-09:00|日本| ||明治7年|<開催>「木曾福島博覧会」(~8. 25) [開催地]長野県[会場]木曾福島興禅寺[主催]福島博覧会社
- 1874年5月11日-09:00|日本|JR西日本東海道本線|明治7年|<仮開通>官設鉄道[大阪-西ノ宮-三ノ宮-神戸]32. 74km
- 1874年5月11日 06:00|アメリカ| |||<就役>アメリカ海軍スワタラ級スループ「スワタラ」(1900t, ブルックリン海軍工廠)
- 1874年5月12日-09:00|日本| ||明治7年|<設置>左院に国憲編纂掛
- 1874年5月12日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第52号「地所賃入書入規則第十条第十二条改正」;明治7年太政官布告第53号「地租改正条例中第八章追加」
- 1874年5月12日-09:00|日本|茨城県水戸市|明治7年|<遷座>常磐神社(現在地に)
- 1874年5月12日-09:00|日本|熊本大学|明治7年|<開校>熊本県立仮師範学校
- 1874年5月14日-09:00|日本|新潟県村上市|明治7年|<死去>内藤信親(63歳)元越後村上藩主、寺社奉行・大坂城代・京都所司代・老中
- 1874年5月14日 05:00|ハイチ| |||<就任>ハイチ共和国大統領「國務長官評議会:ソール・リオー/ジョセフ・ラモット/ジャン・オクタヴ・イウス・ラモ」(~6. 14)
- 1874年5月14日 06:00|アメリカ| |||「ハーバート」大学とマギル大学で世界初アメリカンフットボール試合行なわれる
- 1874年5月15日-09:00|日本|千葉大学|明治7年|<改名>「千葉小学校」⇒「千葉師範学校」(師範学科・小学科を設置)
- 1874年5月15日 06:00|ベリーズ/イギリス| |||<就任>イギリス領ホンジュラス副総督(ジャマカ総督に従属)「ロバート・ミラー・マンディ」(~1876年)
- 1874年5月17日-09:00|日本| ||明治7年|西郷従道が台湾に向けて出兵/長崎を出港
- 1874年5月19日-09:00|日本| ||明治7年|<廃止>海軍省軍務局
- 1874年5月19日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第54号「民事控訴略則」
- 1874年5月20日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年教部省布達第4号「諸宗寺院中輪番住職廃止本住職ヲ置カム」
- 1874年5月21日-05:30|インド| |||<就任>「バウト」国ラジャ「ヒンター・デー」再興(~1879/1005没)
- 1874年5月22日-09:00|日本|秋田大学|明治7年|<統合>伝習学校、洋学校⇒太平学校
- 1874年5月22日-09:00|日本|石川県|明治7年|<死去>前田慶寧。肺病のため(45歳)元加賀藩主・知藩事
- 1874年5月22日-08:00|台湾/日本| ||明治7年|<台湾出兵>台湾西南部の社寮港に全軍を集結し、西郷の命令によって本格的な制圧を開始
- 1874年5月22日-01:00|フランス| |||<就任>フランス第三共和政第3代首相「エルネスト・クルト・ド・シレ」王党派(第1次~1875/310)
- 1874年5月22日-01:00|イタリア| |||<初演>ジュゼッペ・フォルトゥーニ・フランチェスコ・ヴェルディ《レクイエム》ミラノのサン・マルコ教会
- 1874年5月23日-09:30|オーストラリア| |||1800トンの鉄製の帆船「リヴィエラ」ミラノ号がキング島で難破/79人死亡、生存者は9人のみ

1875迄 (3195件)

- 1874年5月24日-09:00|日本| ||明治7年|<設立>梅本町公会
1874年5月24日 00:00|イギリス| |||<就任>初代コノート=ストラソン公・初代セックス伯「アーサー・ウィリアム・パトリック・アルバート王子」ガイ
クトリア女王の三男(~19420116死去)
1874年5月27日-09:00|日本| ||明治7年|東京・銀座で日本初の紅茶販売
1874年5月27日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| |||<就任>トリニダード 知事代行「ジョン・スコット・フッシュ」(2期目~11.20)
1874年5月29日-09:00|日本| ||明治7年|<死去>小政、侠客(生年1842年)
1874年5月29日-01:00|スイス| |||スイス連邦憲法が修正され、集権化がはかられる
1874年6月-09:00|日本| ||明治7年|<創刊>ウヅマンが日本初の漫画雑誌「絵新聞日本地」(ニッポンチ)
1874年6月-09:00|日本| 岡山大学|明治7年|<創立>温知学校
1874年6月-09:00|日本| 鹿児島県鹿児島市|明治7年|西郷隆盛、鹿児島鶴丸城の跡に私学校を設立
1874年6月-09:00|日本| 埼玉大学|明治7年|<改称開校>学校改正局→埼玉県師範学校
1874年6月-09:00|日本| 奈良県吉野郡吉野町|明治7年|<廃寺>金峯山寺
1874年6月-09:00|日本| 福井県|明治7年|<竣工>春日野新道
1874年6月-01:00|ナジエリヤ/イギリス| |||<就任>ロス植民地管理者代理「ジョン・Shaw」(~9月)
1874年6月 06:00|アメリカ| |||<売却>アメリカ海軍アモエ-サ級クルーザー「ネブアダ」(3850t)
1874年6月1日-09:00|日本| ||明治7年|<開催>「新潟博覧会」(~7.4) [開催地]新潟県 [会場]白山神社 [主催]新潟
県
1874年6月1日-09:00|日本| 大阪府高槻市|明治7年|<死去>永井直輝(48歳)元摂津高槻藩主
1874年6月1日-09:00|日本| JR西日本東海道本線|明治7年|<新設>官設鉄道 [大阪-西ノ宮]間に神崎、[西ノ宮-三ノ
宮]間に住吉駅
1874年6月1日-09:00|日本| 山梨中央銀行|明治7年|<設立>興益社(→第十国立銀行→山梨中央銀行東京支店)
1874年6月1日-05:30|インド/イギリス| |||<正式解散>イギリス東インド会社
1874年6月2日-02:00|フィンランド/ロシア| |||<就任>ロシア領フィンランド 総督代行「ベルナルト男爵インド・レウス」(6回目~10.22)
1874年6月2日 04:00|バミューダ/イギリス| |||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ 総督代理「フィッツ・ロイ・サマセット」(~11.5)
1874年6月3日-09:00|日本| ||明治7年|海軍兵学寮分校(横須賀村4番地向山)機関科を横須賀村に設置、海軍兵
学寮横須賀分校開設爾来、蒸気機関科生徒を実地経験のため半年乃至1年派遣
1874年6月3日-08:00|台湾/日本| ||明治7年|<台湾出兵>牡丹社など事件発生地域を制圧して現地の占領を続け
た(戦死者は12名)/マリアは猖獗をきわめ、561名はそれにより病死
1874年6月4日-09:00|日本| 奈良教育大学|明治7年|<創設>「寧楽書院」(教員伝習所として興福寺内に)
1874年6月5日-09:00|日本| 広島大学|明治7年|私立躰壽館を県の仮医学校とする
1874年6月5日 00:00|アイスランド| |||アイスランドで憲法が公布される
1874年6月5日 10:00|ポルシェ/フランス| |||<就任>フランス領地アニア司令官兼ツエ諸島共和国弁務官「Octave Bernard Gi
lbert-Pierre」(~1876年)
1874年6月6日-09:00|日本| ||明治7年|娼婦の検査制度初めて実施
1874年6月8日-09:00|日本| 島根県松江市|明治7年|島根県雑賀町の大火(約2000戸焼失)
1874年6月8日-09:00|日本| 東京都千代田区|明治7年|<竣工>コライ堂主教館 [神田駿河台]
1874年6月14日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第64号「官林荒蕪地払下規則中第九条削除」
1874年6月14日 05:00|ハイチ| |||<就任>ハイチ共和国大統領「ミカエル・ド・ミンク」(~18760415)
1874年6月15日-09:00|日本| ||明治7年|新橋~横浜間旅客運賃改正し、上等1円・中等60銭・下等30銭に値下げ
1874年6月15日-09:00|日本| 広島県広島市|明治7年|<開校>官立広島外国語学校 [大手町1丁目]
1874年6月16日-09:00|日本| 石川県金沢市|明治7年|<開催>「金沢博覧会」(~7.31) [開催地]石川県 [会場]金沢市兼
六園内東別院 [主催]石川県
1874年6月17日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第65号「家禄引換公債証書発行条例中改正増加」:明
治7年太政官布告第66号「新旧公債証書発行条例中改正増加」
1874年6月18日-09:00|日本| ||明治7年|陸軍参謀局条例を定める(陸軍省参謀局が外局となる)
1874年6月18日-08:00|フィリピン/スペイン| |||<就任>スペイン領フィリピン総督「ホセ・マルカホ」(~18770228)
1874年6月19日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第67号「酒造絞油商船生糸牛馬売買鑑札規則中増加
」
1874年6月20日 06:00|アメリカ| |||アメリカ、紙幣の総額を決定する通貨法制定
1874年6月21日-01:00|スウェーデン| |||<死去>スウェーデンの物理学者オグストロム/59歳(誕生:18140813)
1874年6月22日 05:00|バハマ/イギリス| |||<就任>バハマ植民地総督代行「ジョン・トーマス・エルニュー・デ・マラス」(~12.2)
1874年6月23日-09:00|日本| ||明治7年|北海道屯田兵制度設置
1874年6月23日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年工部省布達第17号「工学寮学課並諸規則第三十五条改正」
1874年6月24日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第69号「改正閏刑律中禁錮ヲ禁獄ニ改ム」
1874年6月25日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第70号「徴兵令第三章常備兵免役概則第五条中増加
」
1874年6月25日 00:00|イギリス| |||<航>イギリスのホワイト・スター・ライン客船「フリタニック」就
1874年6月25日 00:00|カナダ/イギリス| |||<就任>イギリス領西アフリカ植民地コールド=コスト管理責任者代行「ジョージ・クミン・ス
トラハン」(~7.25)
1874年6月26日-08:00|中国/ハルビン| ||清・同治13年5月13日|天津で、清がハルビンとの修好通商航海条約を締結
1874年6月26日-01:00|ベナン| |||<死去>アジヤチエ・イボのフォン王国国王「ムン2世」
1874年6月26日-01:00|チエコ| |||<就任>モラヴィア総督「ルートヴィヒ・フライヘル・ホッソングャー・フォン・チホボルスキ」(~18800318)

1875迄 (3195件)

- 1874年7月-09:00|日本|東京都港区|明治7年|海軍水路寮 麻布台に海軍観象台を設置(日本経緯度原点)
- 1874年7月-09:00|日本|福島県会津若松市|明治7年|会津鶴ヶ城を取壊し
- 1874年7月-03:00|サジ アラビ ア/トルコ| ||<就任>オスマン帝国ビジャーズ 総督「メフメド・リュシュテュー・パシヤ」(~10月没)
- 1874年7月-01:00|北マドニア/トルコ| ||<就任>マナステル・クリス(総督)「ギョルキュ・アリ・サイフ・パシヤ」(1回目~1875年1月)
- 1874年7月 00:00|イギリス/日本| ||明治7年<売却>Lawrie & Co., London「Acantha」(1870年, J. G. Lawrie, Glasgow 建造進水→1873年, Union Steam Navigation Co., Shanghaiの所有)⇒日本政府「東海丸」と改名
- 1874年7月 00:00|イギリス| ||R. forrest「Coomassie」Gibbon, Sunderland, Englandで竣工
- 1874年7月 06:00|アメリカ| ||<売却>アメリカ海軍カスコ級モニター「コーホース」(1175t), 「サンクック」(1175t)
- 1874年7月1日-09:00|日本|広島大学|明治7年<創立>広島県「白島学校」(広島市東白島町)
- 1874年7月1日 06:00|アメリカ| ||フィラデルフィアで初の公立動物園が誕生
- 1874年7月2日-09:00|日本|愛媛県松山市|明治7年<設立>県立松山病院(温泉郡二番町)、医学所付設
- 1874年7月5日-09:00|日本|福岡教育大学|明治7年|大名町に教員伝習所が設置/学科取調所から改称
- 1874年7月6日 00:00|イギリス| ||<死去>11代ダラム伯爵「フォックス・モルラムベイ」
- 1874年7月6日 00:00|イギリス| ||<就任>12代ダラム伯爵「ジョージ・ラムベイ」(~18800720死去)
- 1874年7月7日-09:00|日本| ||明治7年|喰違の変の犯人7名、斬罪
- 1874年7月7日-09:00|日本|高知県|明治7年<移管>愛媛県[沖ノ島、鵜来島、姫島]⇒高知県(明治9年2月幡多郡に編入)
- 1874年7月8日-09:00|日本|大阪府|明治7年<落成>大阪府庁舎[西大組江之子島上之町]
- 1874年7月10日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第73号「華士族分家ノ者ハ平民籍ニ編入ス」
- 1874年7月12日-09:00|日本| ||明治7年<死去>七代目市川海老蔵/42才(七代目市川團十郎の三男)
- 1874年7月12日-09:00|日本|宮城県仙台市|明治7年<死去>伊達慶邦(50歳)元陸奥仙台藩主
- 1874年7月13日-09:00|日本|東京都|明治7年|東京府、道路や車内での頬かぶり・手拭かぶりを禁止
- 1874年7月13日-09:00|日本|山梨県甲府市|明治7年<発売>コフランドから技術指導を受けた甲府の野口正章「三ツ鱗」印ビール
- 1874年7月14日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第76号「地所質入書入規則第十六条増補」
- 1874年7月14日-01:00|デンマーク| ||<就任>デンマーク王国首相「クリスチャン・アント・レアス・フォネスベック」(~18750611)
- 1874年7月15日-09:00|日本|東京都港区|明治7年<開場>「河原崎座」芝新堀に新築(後の新堀座)
- 1874年7月16日-09:00|日本|長野県|明治7年|長野県区制を改め28大区190小区を置く
- 1874年7月17日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年内務省甲布達第19号「官林荒蕪地払下規則中删除」
- 1874年7月18日-09:00|日本| ||明治7年<改称>日本海軍軍艦「一番貯蓄船」⇒練習艦「摂津」
- 1874年7月18日-09:00|日本|横浜銀行|明治7年<改組>「横浜為替会社」⇒「横浜第二国立銀行」設立(7. 20開業免許下付、8. 15開業)
- 1874年7月18日-01:00|フランス| ||<就役>フランス海軍の艦艇「ラ・ガリソニエール」
- 1874年7月20日-09:00|日本|NTT|明治7年|宇都宮~白川間電信線開通(白川電信局開局)
- 1874年7月20日-09:00|日本|新潟県|明治7年|新潟に「川汽船会社」設立、新潟~長岡間に蒸気船就航
- 1874年7月20日-01:00|スロベニア/オーストリア| ||<就任>オーストリア領スロベニア大統領「ボリスラフ・リッター・フォン・グイトマン」(18750601まで代行~18771218)
- 1874年7月20日-01:00|モナコ/フランス| ||<就任>モナコ総督・国務院議長代行「カステレットの騎士レオンス・ジョゼフ・ド・コイエ」(~18750227)
- 1874年7月22日-09:00|日本| ||明治7年|巡査の棍棒を廃し帯剣とする
- 1874年7月22日-02:00|ロシア/ロシア| ||<就任>ロシア及び北西部の地方総督「ピョートル・パブロビッチ・アルベインスキー」(~18800518)
- 1874年7月24日 00:00|ガーナ/イギリス| ||イギリスが西アフリカ(ガーナ)のゴールド・コースト南部を植民地とする
- 1874年7月25日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年文部省布達第21号「小学教員ヲシテ欲スル者ハ小学訓導タルキ証書ヲ授与ス」(小学校教員の検定試験と教員免許状の制度が初めて定められる)
- 1874年7月25日 00:00|ガーナ/イギリス| ||<就任>イギリス領西アフリカ植民地ゴールド・コースト総督・最高司令官「ジョージ・クミン・ストラハン」(~18760407)
- 1874年7月26日-09:00|日本| ||明治7年<領収>北海道開拓使「北海丸」(1422t; 1868年, フランスでベル船ガトキヤ竣工→明治7年、ベル船ガトキヤとして横浜入港→明治7年、船員が脱走し、空船となり日本が接收→明治7年、北海道開拓使がベルから購入「北海丸」と改称)⇒日本政府(8月、三等軍艦)
- 1874年7月26日-09:00|日本|神奈川県横浜市中区|明治7年<開業>高島嘉右衛門、芝居小屋「港座」(横浜住吉町1丁目、瓦斯燈使用・豪華設備)舞台開/中村翫雀一座「近世開港魁」(座主高島嘉右衛門)
- 1874年7月27日-04:00|ロシア| ||<初演>モリス・ペトログ「イッチ・ムルガスキー」《歌劇「ボリス・ゴドゥノフ」》
- 1874年7月28日-09:00|日本|東京都千代田区|明治7年<開館>華族会館[永田町]
- 1874年7月29日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第81号「証券印紙規則改定証券印税規則」
- 1874年7月29日-09:00|日本|高島屋|明治7年<死去>初代飯田新七(72歳)近江商人
- 1874年7月30日-09:00|日本|東京都文京区|明治7年<開設>浅草文庫/徳川幕府の学問所と将軍の紅葉山文庫の書籍を蔵書とした東京湯島の官立図書館書籍館を浅草米倉に移転(和漢書約2600冊)
- 1874年7月30日 00:00|イギリス| ||イギリスで「工場法」「賃金法」が成立
- 1874年7月31日-09:30|オーストラリア| ||<就任>ビクトリア植民地政府首相「ジョージ・カーファート」(~18750807)
- 1874年7月31日-04:00|ロシア/カナダ| ||ロシアからのメソイト教徒の移民の第一陣がケベックに到着
- 1874年8月-09:00|日本| ||明治7年|尾道の廻漕業者竹内隼太、蒸気船による大阪~広島間の航路を開く

1875迄 (3195件)

- 1874年8月-09:00|日本|愛知教育大学|明治7年|愛知県養成学校が法華寺町に移転
1874年8月-09:00|日本|大阪教育大学|明治7年|東本願寺難波別院(南御堂)掛所内に教員伝習所設置
1874年8月-09:00|日本|徳島県徳島市|明治7年|鷲の門を残し徳島城取壊し
1874年8月-01:00|アルゼンチン| ||アルゼンチンで先住民身分法が制定
1874年8月 04:00|ボリビア/刊| ||ボリビアと刊, 国境を南緯24度で確定することで合意
1874年8月1日-09:00|日本| ||明治7年|<施行>「米麦の海外輸出禁止」(5. 29公布)
1874年8月1日-09:00|日本|JR|明治7年|大阪・神戸間中等・下等旅客運賃の賃率を各5厘低減して中等3銭、下等1銭5厘に改訂
1874年8月3日-09:00|日本| ||明治7年|幼児の越後獅子舞の使用が禁止
1874年8月4日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第83号「家禄賞典禄奉還ノ者ハ資金被下規則第九条以下増加」
1874年8月4日-09:00|日本|大阪府|明治7年|<分離編入>摂津国島上郡磯島村を河内国交野郡へ編入
1874年8月5日-09:00|日本|静岡銀行|明治7年|<設立>松代融通(株)[長野]
1874年8月5日-09:00|日本|日本郵政|明治7年|郵便貯金開始
1874年8月7日-09:00|日本|東京都|明治7年|東京警視庁、電信を初めて架設し緊急連絡に活用/本庁と東京府内六大区(後の方面本部)間及び日本橋電信局間に電信回線を架設、技術生14名を工部省電信寮(局)から臨時に借りて運営をはじめた
1874年8月7日-01:00|イタリヤ| ||イタリヤでインターナショナルの蜂起が起こるが、失敗
1874年8月10日-02:00|モザンビーク/ポルトガル| ||<就任>モザンビーク州総督「ホセ・ゲテス・デ・カウアーリョ・イ・メネス」(~18771201)
1874年8月14日 00:00|シエラレオネ/イギリス| ||<就任>イギリス王領シエラレオネ植民地総督代行「ジョージ・フレンチ」(~18750214)
1874年8月15日-09:00|韓国/朝鮮| ||清・同治13年7月4日|独立軍営として武衛所を設置(禁衛大将趙寧夏が武衛都統使を兼任)
1874年8月16日-09:00|日本|山形県|明治7年|酒田県で石代上納・雑税廃止を求める騒動が起こる
1874年8月18日-09:00|日本| ||明治7年|文部省、医制を定める(医師・薬剤師の教育・免許制度、医薬分業を定めた)
1874年8月18日-09:00|日本|東京都|明治7年|浅草雷門・新橋間に二階建馬車が運行(千里軒)
1874年8月19日-09:00|日本| ||明治7年|警察官に警察手帳を公布
1874年8月19日-09:00|日本| ||明治7年|「東」座礁沈没して浮揚修理
1874年8月19日-09:00|日本|広島県廿日市市|明治7年|厳島の官林20町四方, 松1580本焼失(~20日鎮火)
1874年8月21日-09:00|日本| ||明治7年|<明治7年8月台風、九州北部風水害>)暴風は、九州、四国、中国より佐渡までも及んで、殊に九州で激しく、白川県下、風災のために倒潰家屋数およそ三万八千余軒。長州、高瀬、小島、河尻、八代等沿海の浦々にて、溺死人員その数幾百人/長崎構内に碇泊船舶大小二百八十余艘ことごとく沈没、溺死者数わからず/福岡県三潯地域の被害、圧死391人、溺死367人、倒家18902戸、半潰4429戸、流失283戸、寺社半壊270余、学校全潰13校、救助窮民11万5091人
1874年8月21日-01:00|ベルギー| ||<就任>ベルギー内閣長官「ジュール・エドゥアル・フランソワ・ザビエル・マロ」(1回目~18780618)
1874年8月27日-09:00|日本| ||明治7年|<死去>初代哥沢芝金(47歳)うた沢節演奏家
1874年8月27日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第88号「航海公証規則」
1874年8月27日-01:00|オランダ| ||<就任>オランダ王国首相「ヤン・アブラムス・ファン・ヘムスケルク」(1回目~18771103)
1874年8月28日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年工部省布達第21号「電信私線規則」
1874年8月30日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第89号「証券印税規則第五則第九条削去第二則中増加」
1874年9月-09:00|日本|三井金属鉱業|明治7年|三井組が神岡鉱山(岐阜県)の経営権を取得【東洋一の鉱山】
1874年9月-02:00|シリア/アラブ/トルコ| ||<就任>タマサカ・ワリス「Esad Pasha」(~1875. 1)
1874年9月1日-09:30|オーストラリア| ||シドニーで新しい中央郵便局の建物がオープン
1874年9月1日-09:00|日本| ||明治7年|鶴岡・致道館跡に、旧士族の子弟のための苗秀学校が開校
1874年9月1日-09:00|日本|東京都|明治7年|<開設>東京府: 谷中墓地(主に天王寺の敷地を引き継ぎ、→谷中霊園)、青山霊園、雑司が谷霊園、染井墓地(→染井霊園)/日本初の公営墓地
1874年9月3日-01:00|スペイン| ||<就任>スペイン王国閣僚評議会議長「Praxedes Mateo Sagasta」立憲党(~18741231)
1874年9月4日-01:00|フランス| ||<即位>ギーズ公「ジャン」フランス王ルイ・フィリップの曾孫、アンリ・ド・ルアン之又甥(~19400825死去)
1874年9月4日-01:00|スペイン/キューバ| ||カスト, 百日間にわたる防衛戦ののち敗北
1874年9月5日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第93号「旧金銀貨幣価格表ヲ改定シ人民相互ノ取引廃止」(旧金銀貨の一般通用禁止)
1874年9月5日 06:00|アメリカ| ||<売却>アメリカ海軍がコ級モニター「ヤス」(1175t)⇒フィラデルフィアのA. Purvis&Son
1874年9月6日-09:00|日本|熊本県|明治7年|<創刊>白川新聞(熊本県下最初の新聞)
1874年9月7日-09:00|日本|岐阜県中津川市|明治7年|<合併>長野県西筑摩郡[田立村、山口村]⇒山田村
1874年9月7日-09:00|日本|長野県木曾郡南木曾町|明治7年|<合併>筑摩県筑摩郡[与川村、三留野村、柿其村]⇒読書村; 長野県西筑摩郡[田立村、山口村]⇒山田村
1874年9月9日-09:00|日本| ||明治7年|二階建馬車を禁止

1875迄 (3195件)

- 1874年9月10日 00:00|イギリス| ||イギリス・イングランド 東部ノーフォークのソー・セント・アンドリューの単線区間で、電信のミスにより列車同士が正面衝突。死者25人
- 1874年9月12日-01:00|フランス| ||<死去>フランソワ・ピエール・ギヨーム・ギゾー、政治家・歴史家、フランス首相(生年:1787年)
- 1874年9月12日 06:00|アメリカ| ||<売却>アメリカ海軍カゴ級モニター「アンブ・クア」(1175t)⇒ニュー・オーリンズ のNathaniel McKay;「エトラ」(1175t);「クラマ」(1175t);「ユマ」(1175t)⇒ニュー・オーリンズ のTheodore Allen
- 1874年9月12日-09:00|韓国/朝鮮| ||清・同治13年8月2日<統合>武芸庁⇒武衛所
- 1874年9月13日-09:00|日本| ||明治7年<創建>ジェームズ・カーティス・ヘボン、横浜指路教会
- 1874年9月15日-09:00|日本| ふくおかフィナンシャルグループ |明治7年<改組>合資組織「立誠会社」⇒株式組織「立誠会社」
- 1874年9月16日-01:00|ベトナム| ||<即位>アジヤチエ・イェのフォン王国国王「トア2世」(~19080207没)
- 1874年9月17日-09:00|日本| ||明治7年<開校>官立愛知外国語学校[名古屋]
- 1874年9月17日 06:00|アメリカ| ||<就役>アメリカ海軍カゴ級モニター「シャイロ」(1175t, Charles W. McCord)
- 1874年9月19日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第97号「浦高札第五条改正」
- 1874年9月20日-09:00|日本| ||明治7年<結成>小野梓ら「共存同衆」(後に、馬場辰猪・田口卯吉・島田三郎らが参加)
- 1874年9月20日-09:00|日本| ||明治7年<設置>兵学寮内に水雷製造局
- 1874年9月20日-09:00|日本| 新潟県新潟市 |明治7年|中野貫一、新潟県金津で手掘井開坑出油
- 1874年9月22日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第99号「海陸軍刑律中増加」
- 1874年9月24日-09:00|日本| ||明治7年<創刊>朝野新聞(公文通史を改題/主幹成島柳北、論説欄を常設)
- 1874年9月24日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第100号「横浜元為替会社洋銀券発行規則」
- 1874年9月24日-09:00|日本| 東京都中央区 |明治7年<設置>海軍省、築地に兵器製造所(12月、海軍造兵所と改称)
- 1874年9月24日 03:00|アルゼンチン| ||アルゼンチンで、アペリャネダ 大統領の就任に反対する反乱が起こる
- 1874年9月25日-11:00|ニューカドニア/フランス| ||<就任>ニューカドニア知事「Louis Eugene Alleyron」(~18750227)
- 1874年9月25日-09:00|日本| ||明治7年<分類>兵部省所管輸送船「大坂丸」⇒五等軍艦
- 1874年9月30日-09:00|日本| 千葉県 |明治7年<開庁>千葉県庁舎(新築)
- 1874年9月30日-04:00|モリシャス/イギリス| ||<就任>イギリス植民地モリシャス総督・最高司令官代行「エドワード・ニュートン」(3回 目~11.21)
- 1874年10月-09:00|日本| ||明治7年<売却>「Sunderland」(1872年、J. Blumer & Co., 建造進水)⇒日本政府「品川丸」と改名
- 1874年10月-09:00|日本| 香川県高松市 |明治7年<再改称>「高松公立病院」[香川県高松市]⇒「共立病院」
- 1874年10月-09:00|日本| 神戸大学 |明治7年<設置>兵庫県師範伝習所
- 1874年10月-09:00|日本| 山口大学 |明治7年<改称>教員試験所⇒山口県教員養成所
- 1874年10月-08:00|マレーシア/イギリス| ||セランゴールはイギリス保護領(~19570831)
- 1874年10月-03:00|サングアビア/トルコ| ||<就任>オスマン帝国ビジャース 総督「マフメト・タキエ・イン・パシャ」(~1877年10月)
- 1874年10月-02:00|南アフリカ/イギリス| ||グリンアランド・イーストをケープ 植民地に編入
- 1874年10月-01:00|アルバニア/トルコ| ||<就任>イシュトラのワリス「ムスタファ・エシュレフ・パシャ」(~1876年5月)
- 1874年10月 00:00|イギリス/日本| ||明治7年<売却>E. M. De Bussche, London「Yen-tai」(1873年、W. Doxford Sons Ltd., Sunderland建造進水)⇒日本政府「豊島丸」と改名
- 1874年10月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「ガエターノ・シモンチニ」「トメニコ・ファットリ」
- 1874年10月6日-09:00|日本| 東京都台東区 |明治7年<竣工>「厩橋」
- 1874年10月8日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第105号「明治七年日本帝国郵便犯罪罰則第四条改正」
- 1874年10月9日-09:00|日本| 長野県岡谷市 |明治7年<合併>筑摩県諏訪郡[東山田村、西山田村、東堀村]が合併→長地村
- 1874年10月9日-09:00|日本| 長野県諏訪郡下諏訪町 |明治7年<合併>筑摩県諏訪郡[下諏訪町(村格)・友之町(村格)・下原村・久保村・武居村・富部村・高木村]が合併→下諏訪村
- 1874年10月9日-09:00|日本| 長野県茅野市 |明治7年<合併>筑摩県諏訪郡[上原村、横内村、塚原村、矢ヶ崎村]が合併→永明村
- 1874年10月9日-05:30|インド| ||<就任>ラダック 王国支配者(ナワブ)「モハメド・ヒスミラ・カーン」(~18951220没)
- 1874年10月9日 00:00|世界/スイス| ||スイスで行われている第1回万国郵便会議で、万国郵便連合が発足
- 1874年10月10日-12:00|フィジー/イギリス| ||<就任>フィジー 暫定総督「ハーキュリス・ジョージ・ロバート・ロビンソン卿」(~18750901)
- 1874年10月10日-12:00|フィジー/イギリス| ||フィジーがイギリスに主権を譲渡
- 1874年10月10日-09:00|日本| 新潟県 |明治7年|新潟川汽船会社が新潟・三条・長岡間に川蒸気船(魁丸)就航
- 1874年10月10日 00:00|イギリス| ||<死去>3代リンスター公・3代キルデア侯・3代オファリー伯「オーガスタス・フィッツジェラルド」
- 1874年10月10日 00:00|イギリス| ||<就任>4代リンスター公「チャールズ・フィッツジェラルド」(~18870210死去)
- 1874年10月11日-09:00|日本| ||明治7年<死去>二代目春風亭柳枝(落語家)
- 1874年10月11日-09:00|日本| 東京都港区 |明治7年|新橋駅附近で、ホイント故障で機関車と貨車1両が転覆する(初の列車転覆事故)
- 1874年10月11日-09:00|日本| 長崎県 |明治7年<廃止>長崎医学校(学生は東京医学校に転学)
- 1874年10月11日-05:30|インド| ||<就任>アルル国統治者(ラオ・ラジャ)「マンガル・シン」(~18890101)
- 1874年10月12日-01:00|フランス| ||<死去>ギゾー/87歳(誕生:17871004) 歴史家。フランス首相
- 1874年10月12日 03:00|アルゼンチン| ||<就任>アルゼンチン共和国大統領「ニコラス・レミジオ・アウレリオ・アウエラネータ・シルバ」(~188010

1875迄 (3195件)

12) 間接選挙で選出

- 1874年10月13日-09:00|日本| ||明治7年|会計年度改正(来る12月より7月~6月制に移行)
- 1874年10月13日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第107号「株式取引条例」公布
- 1874年10月13日-09:00|日本|長野県諏訪市|明治7年|<合併>筑摩県諏訪郡[大和村、下桑原村、小和田村]が合併→上諏訪村;諏訪郡[上桑原村、赤沼村、飯島村、神戸村]が合併→四賀村
- 1874年10月14日-12:00|フィジー/イギリス| ||<就任>フィジー総督代行「エドワード・レイノールド」行政官(18750901)
- 1874年10月14日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年文部省布達第26号「官費生規則取消」
- 1874年10月14日 03:00|ブラジル| ||パラナ州カンピニャグランデ、ファグンデスで、重税に反対するQuebra-Quiloの反乱が発生。政府は600人の部隊を送りこれを鎮圧
- 1874年10月15日 00:00|カナリヤ諸島/スペイン| ||<就任>スペイン王領カナリヤ諸島総司令官「Jose de Salazar y Real Rodriguez」(~1875年)
- 1874年10月17日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第108号「服忌ハ武家ノ制ヲ用ニ京家ノ制ヲ廢ス」
- 1874年10月17日-09:00|日本|岩手県|明治7年|<合併>水沢県[今泉村・長部村]が合併→気仙村;[高田村・竹駒村]が合併→氷上村;[浜田村・勝木田村]が合併→米崎村;[猪川村・田茂山村]が合併→盛村
- 1874年10月17日-09:00|日本|宮城県|明治7年|<編入>水沢県により下記栗原郡の村の統合が行われる(56村)/小山田村←西村、荻生田村;山田村←北宮沢村、雨生沢村;嵯峨村←宮沢村、小林村;大里村←(栗原)富村、中村;豊岳村←川熊村、桜目村;太沢村←太田村、八沢村、留場村[横須賀];白幡村←刈敷村、沼崎村;玉荻村←荻沢村、照越村;姫郷村←堀口村、八樟村;金田村←川口村、清水目村、嶋体村;王沢村←狐崎村、北沢村;駒崎村←中野村、猿飛来村;鳥谷村←鳥沢村、深谷村、里谷村;賢児村←普賢堂村、赤児村;有馬村←有壁村、片馬合村;大岡村←大林村、福岡村;大堤村←大原木村、小堤村;津久毛村←平形村、岩崎村、小迫村;宮野村←上宮野村、下宮野村、留場村[横須賀を除く];宝来村←芋塚村、泉沢村、嶺崎村、渡丸村;富野村←(二迫)富村、城生野村;沢田村が荒谷村に、清水沢村が清滝村に、長岡村が小野村に、曾根村が柳目村に、大川口村が長崎村に、清水村が真坂村に、桜田村が八幡村に、畑村が金成村に、梨崎村が姉齒村に、菱沼村が栗原村に、成田村が築館村にそれぞれ編入
- 1874年10月17日-09:00|日本|宮城県|明治7年|<編入>水沢県により下記本吉郡の村の統合が行われる(18村);本吉村←志津川村・荒戸浜・清水浜;戸倉村←折立村・水戸辺村・滝ノ浜・長清水浜;横山村←北沢村・南沢村;麻崎村←柳津村・黄牛村;御嶽村←津谷村・馬籠村・山田村;大谷村←岩尻村・平磯村;階上村←波路上村・岩月村・最知村・長磯村;松岩村←松崎村・赤岩村;新月村←新城村・月立村
- 1874年10月17日 00:00|イギリス/日本| ||明治7年|<購入>イギリス鉄製汽船「シナンゾウ」(1191t;1869年、イギリス・グラスゴーで竣工)→日本海軍(翌日艦籍に編入し軍艦「高雄丸」と命名)
- 1874年10月19日-04:00|ロシア| ||<退役>ロシア帝国のスクープレフガート「オスリャービヤ」(18600808オフチンスコエ海軍工廠で進水)
- 1874年10月20日-09:00|日本| ||明治7年|<改称>日本海軍軍艦「北海丸」⇒「浅間」(→明治11年2月7日:練習艦→明治23年8月23日:第三種役務艦→明治24年3月3日:第五種雑役艦→明治29年4月1日:雑役船)
- 1874年10月20日-09:00|日本|青森県下北郡東通村|明治7年|<竣工点火>青森県尻屋崎燈台
- 1874年10月21日-09:00|日本|宮崎県宮崎市|明治7年|<死去>伊東祐相(63歳)元日向飢肥藩主・知藩事
- 1874年10月22日-09:00|日本|長野県諏訪市|明治7年|<合併>筑摩県諏訪郡[有賀村、上野新田村、硯石新田村、文出村、小川村]が合併→豊田村;諏訪郡[神宮寺村、上金子村、中金子村、下金子村、福島村]が合併→中洲村;諏訪郡[北真志野村、南真志野村、大熊村、田辺村、後山新田村、板沢新田村、梶平新田村]が合併→湖南村
- 1874年10月23日-05:30|インド| ||<就任>カムタラジャ王国統治者(王)「ハート・プラヤド」(~1891年12月没)
- 1874年10月25日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第113号「海陸軍刑律中退職/刑名ヲ停官ト改正」
- 1874年10月25日-09:00|日本|長野県岡谷市|明治7年|<合併>筑摩県諏訪郡[小坂村、花岡村]が合併→湊村;諏訪郡[橋原村、鮎沢村、駒沢村、三沢村、新倉村]が合併→川岸村;諏訪郡[岡谷村、小口村、小井川村、今井村、若宮新田村、小梅沢新田村、西堀村]が合併→平野村
- 1874年10月25日-09:00|日本|長野県諏訪郡富士見町|明治7年|<合併>筑摩県諏訪郡[木間村、休戸村、花場新田村、横吹新田村、椽木新田村、若宮新田村、松田新田村、大平新田村、栗生新田村、御射山神戸村]が合併→富士見村;諏訪郡[上蔦木村、下蔦木村、神代村、平岡村、机村、瀬沢村、瀬沢新田村、先能村、木戸口新田村、烏帽子新田村]が合併→落合村
- 1874年10月25日-03:00|スーダン| ||<死去>ダルフール・スルタン国スルタン「イブラヒム・カド・コイコ」
- 1874年10月25日-03:00|スーダン/エジプト| ||<併合>ダルフール⇒エジプト領スーダン(~18831223)
- 1874年10月26日 00:00|ガーナ| ||<即位>アシャンティ王「Regent Kwabena Dwomo」(~同年)⇒「Otumfuo Nana Mensa Bonsu」(~18830308)
- 1874年10月26日 04:00|セントピント/イギリス| ||<就任>イギリス領セントピント副総督「ジョージ・ダントス」(~1880年没)
- 1874年10月27日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第114号「皇族大礼佩剣制」;明治7年太政官布告第115号「株式取引条例第三十五条中地券ノ字删除」
- 1874年10月27日-09:00|日本| ||明治7年|陸軍士官学校条例制定
- 1874年10月29日-09:00|日本|NTT|明治7年|<完成>東京~青森~北海道間電信線(津軽海峡海底線完成)
- 1874年10月30日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年文部省布達第27号「種痘規則」
- 1874年10月30日-05:30|インド| ||<就任>ウダール王国統治者(マハラ)「スジャン・シン」(~18841223没)
- 1874年10月31日-09:00|日本| ||明治7年|<分類>日本海軍練習艦「撰津」⇒四等軍艦
- 1874年10月31日-08:00|中国/日本/台湾| ||清・同治13年9月22日;明治7年|清が日本に50万両の償金を支払う条約に調印/台湾問題解決
- 1874年11月-09:00|日本|愛媛県八幡浜市|明治7年|<創設>「私立八幡浜病院普濟館」[愛媛県]
- 1874年11月-09:00|日本|香川大学|明治7年|<設置>「成章師範学校」

1875迄 (3195件)

- 1874年11月-01:00|リビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国トリポリニア・クリス(総督)「ムスタファ・アム・ハ・シヤ」(2回目~1875年2月)
- 1874年11月1日-09:00|日本|長崎県長崎市|明治7年|<改称>長崎県病院⇒蕃地事務局(兵員)病院
- 1874年11月1日-09:00|日本|奈良県|明治7年|奈良県を10大区に分け1千戸を以て小区とした
- 1874年11月2日-09:00|日本| ||明治7年|東京日々新聞が社説欄を創設
- 1874年11月2日-09:00|日本|読売新聞|明治7年|<創刊>日就社(→読売新聞社)「読売新聞」/発行部数は200部
- 1874年11月2日-03:00|スーダン| |||<創設>スーダン鉄道
- 1874年11月4日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第117号「官吏犯公罪条例」
- 1874年11月5日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第119号「家禄奉還ノ者ハ資金被下規則第一条第二条改定」(秩禄100石以上の者の家禄返還を許し一時賜金交付の旨を布告)
- 1874年11月5日 04:00|バミューダ/イギリス| |||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ総督「ジョン・ハンリー・レフロイ卿」(2期目~1870510)
- 1874年11月6日-09:30|オーストラリア| |||南オーストラリアでゴッドフリー線を越えた入植の拡大を可能にする公有地処分法が成立
- 1874年11月7日-09:00|日本|長野県木曾郡南木曾町|明治7年|<合併>筑摩県筑摩郡[妻籠村・蘭村]⇒吾妻村
- 1874年11月7日-09:00|日本|長野県茅野市|明治7年|<合併>筑摩県諏訪郡[丸山新田村、田沢村、二久保新田村、舟久保新田村、坂室新田村、茅野村、向河原新田村、大河原新田村、下河原新田村、中河原村、安国寺村、新井村、上赤田新田村、下赤田新田村、高部村]⇒宮川村;諏訪郡[金沢村、木舟新田村、大池新田村、大沢新田村、川久保村、青柳新田村]⇒金沢村
- 1874年11月8日-09:00|日本|大分県別府市|明治7年|<焼失>鶴見火男火売神社
- 1874年11月10日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第122号「鳥獣獵規則改定」;明治7年太政官布告第123号「国内廻漕規則施行港内取締規則廢止」;明治7年太政官布告第124号「坑物中将来開発ノ品ヲ引当外国人ヨリ金子借入又ハ約定ヲ禁ス」
- 1874年11月12日-09:00|日本| ||明治7年|文部省、種痘規則を發布
- 1874年11月12日-05:30|インド| |||<就任>クムハルシン国統治者(クマナ・サハブ)「ヒラ・シン」(~19140824没)
- 1874年11月14日-09:00|日本|日本郵船|明治7年|<開設>三菱会社、東京~函館間定期航路
- 1874年11月14日 04:00|アンティグア・バーブーダ/イギリス/アンギラ/トミニカ国/セントクリストファー・ネイビス/英領ヴァージン諸島| |||<就任>リワード 諸島総督・最高司令官「ウィリアム・クリバー・フランチス・ロビンソン」(~1875年)
- 1874年11月15日-09:00|日本| ||明治7年|太政大臣、鳥獣獵規則を改正
- 1874年11月15日-09:00|日本|千葉県銚子市|明治7年|<点灯>犬吠埼灯台(ブラントンが建設/31.3m, 日本第2位の高煉瓦建築)
- 1874年11月16日-09:00|日本|青山学院|明治7年|東京麻布に米国婦人宣教師による女子小学校が設立される
- 1874年11月17日 14:50|日本|東京都中央区|明治7年|<東京京橋明治7年川口町の大火>(~18日)23時50分ごろ、東京府第一大区十六小区川口町の三谷七郎右衛門宅から出火、近隣に延焼し1231戸が焼失
- 1874年11月18日 06:00|アメリカ| |||米国クレーブラントで万国婦人矯風会設立され禁酒運動を開始
- 1874年11月20日-09:00|日本| ||明治7年|<類別>軍務官所管練習艦「富士山丸」三等軍艦(187610, 機関を撤去)
- 1874年11月20日-09:00|日本| ||明治7年|官金出納担当の小野組が破産/政府、官金委託を第一国立銀行へ移す
- 1874年11月20日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| |||<就任>トリニダード 知事「ヘンリー・ターナー・アーヴィング」(1期目~18761208)
- 1874年11月21日-04:00|モリシャス/イギリス| |||<就任>イギリス植民地モリシャス総督・最高司令官「アーサー・パーヴァス・フェイ卿」(~18790404)
- 1874年11月22日-01:00|赤道ギニア/スペイン| |||<就任>フェルナンド・ホー総督代行「ハコホ・パレラ」(~18750122)
- 1874年11月24日-01:00|チェコ| |||<初演>アントン・レオポルト・ドヴォルザーク《歌劇「王様と炭焼き」》
- 1874年11月24日 00:00|イギリス/日本| ||明治7年|<竣工>日本政府灯台巡視船「明治丸」イギリスのグラスゴーにある社ア造船所で(1897年商船学校に移管、1954年除籍)
- 1874年11月25日-09:00|日本|長野県茅野市|明治7年|<合併>筑摩県諏訪郡[山田新田村、中沢村、田道新田村、栗沢村、神之原村、子ノ神新田村、菊沢村、穴山村、北久保新田村]が合併⇒玉川村
- 1874年11月25日 04:00|パラグアイ| |||<就任>パラグアイ共和国大統領「ファン・バウティスタ・ギル・ガルシア・デル・バリオ」(~18770412没)
- 1874年11月25日 06:00|アメリカ| |||<結成>アメリカ、グリーンバック党
- 1874年11月27日-05:30|インド| |||<就任>アールコット国ラジャ「ジョージ・リスト・ゲットフェロー」(~18760412)
- 1874年12月-09:00|日本| ||明治7年|<出版>「学問のすすめ」十二編/著・福澤諭吉
- 1874年12月-09:00|日本| ||明治7年|<竣工>日本海軍運輸船「第二利根川船」(109.3t)横須賀造船所
- 1874年12月-09:00|日本|三菱UFJフィナンシャル・グループ|明治7年|<設立>川崎組[東京]
- 1874年12月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレッポ・クリス(総督)「Hasan Samih Pasha」(~1875.3)
- 1874年12月-02:00|キプロス/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領キプロス地区総督「アジズ・ハシヤ」(1回目~1876年)
- 1874年12月1日-09:00|日本| ||明治7年|<施行>明治7年太政官布告第98号「日本帝国電信条例」(0922公布)、電信業務の政府管掌が確立
- 1874年12月1日-09:00|日本|JR|明治7年|大阪~神戸で貨物営業開始
- 1874年12月2日 05:00|ハマ/イギリス| |||<就任>ハマ植民地総督「ウィリアム・ロビンソン」(1回目~18800618)
- 1874年12月3日-12:00|ニューゼーランド/イギリス| |||<就任>ニューゼーランド 総督「ノーマンビー侯爵ジョージ・オーガスタス・コンスタンティン・イップス」(~18790221)
- 1874年12月3日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第131号「牛馬売買規則第九条追加」

1875迄 (3195件)

- 1874年12月3日-08:00|台湾/日本| ||明治7年|<撤兵>西郷従道ら、台湾から
1874年12月7日-09:00|日本|神奈川県横浜市西区|明治7年|<設置>野毛坂、金星観測所(各国の学者、観測)
1874年12月7日-01:00|セルビア| ||<就任>セルビア公国閣僚評議会議長「アム・チュミツ」(~18750203)
1874年12月7日 06:00|アメリカ| ||ミシシッピ州で人種暴動が起こり、75人以上の黒人が殺害される
1874年12月8日-09:00|日本| ||明治7年|救貧法の恤救規則が制定される
1874年12月8日-09:00|日本|宮城県|明治7年|<開校>官立宮城外国語学校
1874年12月9日-09:00|日本| ||明治7年|<破産>官金出納担当の島田組
1874年12月9日-09:00|日本| ||明治7年|メキシコ観測隊ならびに日本水路寮の海軍中尉吉田重親らが横浜で金星の太陽面経過の観測に成功
1874年12月9日-09:00|日本|東京都港区|明治7年|<設置>麻布台に海軍観象台(日本経緯度原点/東京都)
1874年12月10日-09:00|日本|大分銀行|明治7年|<設立>留恵社(北海部郡臼杵村)
1874年12月11日-09:00|日本|東京都|明治7年|東京市街に初めて石油ランプの街燈点火
1874年12月11日-09:00|日本|広島大学|明治7年|広島県、公立の教員養成学校として白島学校(仮校舍広島東白島町真木直一宅)を開校
1874年12月12日-09:00|日本|埼玉県さいたま市浦和区|明治7年|<設置>浦和公園借楽園(調神社境内)
1874年12月13日-09:00|日本| ||明治7年|双生子・三つ子出生の場合、前産を兄姉と定めることを太政官布告(旧俗では反対に後産が兄姉)
1874年12月15日-09:00|日本| ||明治7年|<死去>2代歌川国輝(45歳)浮世絵師
1874年12月18日-09:00|日本| ||明治7年|東京、名古屋、大阪に歩兵連隊編制
1874年12月18日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第134号「名例律断罪無正条条例」
1874年12月18日-09:00|日本|東京都|明治7年|東京・京橋・銀座・芝金杉橋の街路の両側に85基のガス灯が点火
1874年12月20日-09:00|日本|東京都墨田区|明治7年|<大相撲>明治7年12月場所[東京本所回向院](~10日間)幕内優勝:(西前6)梅ヶ谷, 8勝0敗1分1休
1874年12月22日-09:00|日本| ||明治7年|東京府豊島郡岩淵町、埼玉県北足立郡川口町間の従前の境界を廃し荒川の中央を持って境界とする
1874年12月23日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第135号「明治八年日本帝国郵便規則及罰則」
1874年12月23日-09:00|日本|長崎県長崎市|明治7年|官営の高島炭坑の北溪井坑、南洋井坑が政府から後藤象二郎に払い下げ
1874年12月23日-08:00|中国| ||清・同治13年11月15日|甘肅の河州で、イスラム教徒の閔殿臣らが反乱を起こす
1874年12月24日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第136号「証券印税規則第二則中加除更正」
1874年12月24日-09:00|日本|東京都中央区|明治7年|東京・築地の東京第一長老協会で日本初のクリスマス^oの祝会
1874年12月25日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年太政官布告第137号「証券印税規則第五則中追加」
1874年12月26日-01:00|ルクセンブルグ| ||<就任>ルクセンブルグ政府議長「フェリクス(男爵)フ^oロハウゼン」(~18850223)
1874年12月27日-09:00|日本|愛知県|明治7年|<改称>愛知外国語学校⇒愛知英語学校
1874年12月27日-09:00|日本|京都大学|明治7年|<改称>大阪外国語学校⇒大阪英語学校
1874年12月27日-09:00|日本|東京大学|明治7年|<設立>東京英語学校(東京外国語学校から独立)
1874年12月27日-09:00|日本|長崎県|明治7年|<改称>長崎外国語学校⇒長崎英語学校
1874年12月27日-09:00|日本|新潟県|明治7年|<改称>新潟外国語学校⇒新潟英語学校
1874年12月27日-09:00|日本|広島県|明治7年|<改称>広島外国語学校⇒広島英語学校
1874年12月27日-09:00|日本|宮城県|明治7年|<改称>宮城外国語学校⇒宮城英語学校
1874年12月28日-09:00|日本| ||明治7年|明治7年工部省布達第32号「工学寮学課並諸規則中廃止改正」
1874年12月29日-01:00|スペイン| ||<即位>スペイン国王「アルフォンソ12世」イサベル2世の息子(~18851125死去27歳)
1874年12月29日-01:00|スペイン| ||マトリド^oで、王政復古を目指すマヌエル・パ^oビア将軍が蜂起/スペイン議会は解散し第1共和政が終る
1874年12月30日 00:00|イギリス| ||<死去>4代モントローズ公「ジェームズ・グラハム」
1874年12月30日 00:00|イギリス| ||<就任>5代モントローズ公「ダグラス・グラハム」(~19251210死去)
1874年12月31日-01:00|スペイン| ||<就任>スペイン王国閣僚評議会議長「アントニオ・カンパステル・カスティリヨ」保守党(~18750912)
1875年-13:00|サマ^o/米領サマ^o| ||<即位>サマ^o王「マリエ^o・ラウ^o・パ^o」(1回目)+ヒ^o・ユレ^o・レ^o
1875年-08:00|マレーシア| ||<就任>シ^o・エ^oレ^o 統治者(ヤ^o・テ^o・イ^o・ベ^o・ル^o・ウ^o・ン^o・ム^o・タ^o・シ^o・エ^oレ^o)「テンク^o・アブ^o・ドラ^o・ビ^oン^o・ラ^o・デ^o・イン」(~18841213没)
1875年-08:00|インドネシア| ||<即位>ジ^o・ヤ^oイ^oロ^o・ス^oル^oタン「Dano Baba Hasan」(~1878年)
1875年-08:00|インドネシア| ||<即位>チ^oル^o・ン^o・ク^oス^o・ハ^oン 摂政「Pangeran Jayawikarta」(~1880年)
1875年-07:00|タイ| ||<即位>ラーマン王国ラ^o・ジャ^o「Tuan Jagung/Tengku Abdul Kandis」(~1901年)
1875年-07:00|ラオス/タイ| ||シ^oエン^oク^o・ア^oンはタイに併合
1875年-05:30|インド| ||<就任>ウ^o・ア^o・テ^o・イ^oア 国統治者(ア^o・ム^o・ウ^o・ア^oラ)「ハ^o・ワ^o・ジ^o・ウ^o・ア^oン」(~1930年没)
1875年-05:30|インド| ||<就任>パ^o・テ^o・イ^o 国統治者(テ^o・サイ^o・シュ^oリ)「ヒ^oマ^oツ^oム^o・シ^o・ヨ^oラ^oル^oム^oシ^o」(~1884年)
1875年-05:30|インド| ||<就任>マル^o・ール 国統治者(ラ^oル)「シ^o・シ^o・シ^o 2世ク^oマ^oン^oシ^o」(~1882年没)
1875年-05:30|インド| ||<就任>モ^oハ^o・ール 国統治者(ター^o・ケ^oル)「ウ^o・メ^oン^oシ^o」(~1882年没)
1875年-05:30|インド| ||<就任>ワ^o・ワン 国統治者(タ^oル^o・サー^o・ヒ^oブ)「タ^o・ジ^o・ラ^o・シ^o・ヤ^oント^o・ラ^oム^oシ^o」(~18850505没)
1875年-05:30|インド/イギリス| ||サ^oク^oティ^o国をイギリス領インドが統治(~1892年2月)
1875年-05:30|インド/イギリス| ||ハ^o・ソ^oダ^o 国はイギリスに直接従属(~1900年)

1875迄 (3195件)

- 1875年-05:00|パキスタン| |||<就任>デイル国統治者(カーン)「ラフマト・アッラー・カーン」(~1886年)
- 1875年-04:30|アフガニスタン| |||サル・イ・ブル、シバルガンをアフガニスタンに編入
- 1875年-04:00|セイシェル/イギリス| |||<就任>イギリス領セイシェル長官「チャールズ・スペンサー・サーモン」(~1879年)
- 1875年-04:00|UAE| |||<就任>ハマヤ統治者(ハキム)「Sheikh Sayf ibn `Abd al-Rahman」(~1904年)
- 1875年-03:00|エリトリア/トルコ| |||<就任>エチオピアのメルブ・ミラシユ総督「ウオルテ・ミカエル」(~1879年)
- 1875年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>ハスラのワリス「サント・ウン・ナシル・パシヤ」(~1877年)
- 1875年-03:00|カンダ | |||<就任>ブザヤ統治者(オムカマ)「ムザヤ・ソコカイル」(~1880年頃)
- 1875年-03:00|イエメン| |||<即位>上ヤファ・サルタン「Muhammad ibn `Ali ibn Salih ibn Ahmad Al Harhara」(~18950428)
- 1875年-03:00|カンダ | |||<即位>ト王国国王「Rukidi2世 Isingoma」⇒「Kyebambe3世 Rububi」(1期目)⇒「Nyamuy onjo Kakende」(1期目~1876年)
- 1875年-03:00|イエメン| |||<即位>マリー国サルタン「Ali ibn `Abd Allah Afrar al-Mahri」(~1907年)
- 1875年-02:00|モザンビーク | |||<就任>サンクル首長「アブド・アッラー・ウスフ・イブン・ハサン・ウムクワ・ムントウ」(~1886年)
- 1875年-01:00|ガボン/フランス| |||<就任>ガボン・ギニア湾入植地司令官「フェリックス・アンプ・ロワース・クレマン」(~1876年)
- 1875年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領セウタ総督(北アフリカ総司令部総督)「Pedro Sartorius y Tapia」(~1876年)
- 1875年-01:00|中央アフリカ| |||<即位>ラファイサルタン国サルタン「ラファイ」建国(~19000615没)
- 1875年 00:00|トーゴ | |||<就任>クムデ統治者「ウオル」(~1898年)
- 1875年 00:00|トーゴ | |||<就任>ココツ統治者(ソマ)「ラフィア・ラング・ハナ」(~1882年)
- 1875年 00:00|セネガル | |||<就任>シヨロ帝国統治者(グールバ・シヨロ)「アル・ブ・ウリ・セナブ・ンジエイ」(~18900524)
- 1875年 00:00|セネガル | |||シヨロ帝国はアマドゥ・シヤイ帝国に併合(~1890年)
- 1875年 04:00|バルバドス/グレナダ/セントビンセント/セントルシア/トミニカ国/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス・ウインドワード諸島総督代理「Sanford Freeling」(~同年)⇒「Sir John Pope Hennessy」(~1876年)
- 1875年 04:00|アンティグア・バブーバ/イギリス/アンギラ/トミニカ国/モントセラト/セントクリストファー・ネイビス/英領ヴァージン諸島| |||<就任>リワード諸島総督・最高司令官代行「エドウィン・トナルト・ベインズ」(~2.3)
- 1875年1月-03:00|サジアラビア | |||<死去>ネジュト首長「サド2世イブン・ファイヤル」
- 1875年1月-03:00|サジアラビア | |||<就任>ネジュト首長「アブドゥル・ラーマン・ブン・ファイヤル」(~8月)
- 1875年1月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス「Ahmed Hamdi Pasha」(1期目~1876.4)
- 1875年1月-01:00|北マドニア/トルコ| |||<就任>マステイル・ワリス(総督)「バイタル・メフメト・レフェト・パシヤ」(~6月)
- 1875年1月1日-09:00|日本/アメリカ| ||明治8年|<施行>日米郵便交換条約(18730806調印)外国郵便の取扱実施
- 1875年1月1日-09:00|日本|静岡大学|明治8年|<設立>静岡師範学校
- 1875年1月1日-09:00|日本|日本郵政|明治8年|<改称>「郵便役所・郵便取扱所」⇒「郵便局」
- 1875年1月1日-09:00|日本|日本郵政|明治8年|<発行>(手彫)鳥切手(1875年)額面:12銭、15銭、45銭
- 1875年1月1日-01:00|スイス| |||<就任>スイス連邦大統領「ヨハン・ヤコブ・シェー」Dem(~12.31)
- 1875年1月1日 00:00|イギリス| |||イギリス東インド会社の残務整理が終了。正式に会社の歴史の幕を下ろす(設立は1600)
- 1875年1月1日 08:00|ヒトクアン諸島/イギリス| |||<就任>イギリス領ヒトクアン諸島主任判事「Moses Young」(3期目~18751231)
- 1875年1月2日-09:00|日本| ||明治8年|<改称>「新聞雑誌」→「あけぼの」
- 1875年1月2日-09:00|日本|日本郵政|明治8年|<施行>明治7年太政官布告第90号「郵便為替規則」(18740903公布)、最初は尋常為替(小為替30円以下)を取り扱う
- 1875年1月4日-09:00|日本| ||明治8年|警視庁練兵場で出初め式が行われる
- 1875年1月5日-09:00|日本| ||明治8年|外国郵便業務を横浜・神戸・長崎で開始
- 1875年1月6日-09:00|日本|兵庫県姫路市|明治8年|<死去>建部政醇(81歳)元播磨林田藩主
- 1875年1月8日-09:00|日本| ||明治8年|小学児童の学齢制定(満6歳から14歳まで)、尋常科6年・高等科2年の8年が小学児童と定められる
- 1875年1月8日-09:00|日本|跡見学園女子大学|明治8年|<設立>跡見花蹊「跡見学校」(のちの跡見学園)
- 1875年1月8日-09:00|日本|東京都|明治8年|前年から東京で流行していた天然痘死者が3000人を超える/東京府が天然痘予防規則制定
- 1875年1月8日-09:00|日本|東京都|明治8年|東京府、諸芸人に賦金(営業税、地方税の一種)を課する
- 1875年1月10日-09:00|日本|山梨県南巨摩郡身延町|明治8年|見延山久遠寺本堂他火災焼失
- 1875年1月10日 00:00|ポルトガル | ||ポルトガルで、社会党が創立される
- 1875年1月11日-09:30|オーストラリア/イギリス| |||<就任>西オーストラリア植民地総督「ウィリアム・ロビンソン」(~18771111)
- 1875年1月12日-08:00|中国| ||清・同治13年12月5日|<死去>清の第10代皇帝穆宗帝・同治帝/19歳(誕生:1856)
- 1875年1月13日-09:30|オーストラリア/イギリス| |||<就任>タスマニア植民地総督「フレデリック・ウェルト」(~18800405)
- 1875年1月13日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第2号「日本坑法第八章中坑物税当分廃止」
- 1875年1月13日 00:00|カナリア諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王領カナリア諸島市民知事「Vicente Clavijo y Plo」(~18791207)
- 1875年1月14日-10:00|ガム/北マリアナ諸島/スペイン| |||<就任>マリアナ諸島知事「Manuel Bravo y Barrera」(~18800815)
- 1875年1月14日-01:00|スペイン| |||<再任>アストリアス公(スペイン国王の推定相続人)「イサベル」アルフォンソ12世の姉(~18800914~19310423死去)
- 1875年1月14日-01:00|スペイン| |||スペインで、アルフォンソ12世(18)がマトリートの入り、ブルボン王朝の王政復古が成る

1875迄 (3195件)

- 1875年1月14日 06:00|アメリカ| |||アメリカで正貨再開法制定、正貨支払いの再開が決定され、グリーンバック紙幣削減
- 1875年1月15日-01:00|フランス| |||<開場>フランス「オペラ座(パレ・ガルニエ)」(9区)こけら落とし公演が行われる/設計者ジャール・ガルニエ。材・パロック式建築、折衷様式の建物
- 1875年1月15日 03:00|ウルグアイ| |||<就任>ウルグアイ東方共和国大統領「ペドロ・ロペレー Olivera」PC(2期目~22日)
- 1875年1月17日-02:00|トルコ| |||<営業開始>トルコ・イスタンブール新市街の地下鉄(世界で2番目に古い)
- 1875年1月20日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第4号「証券印税規則第五則第拾条削除」;明治8年太政官布告第6号「民法裁判上負債者失踪後/訴訟成例改正」
- 1875年1月20日-01:00|フランス| |||<死去>フランス「自然主義」絵画の画家ジャン・フランソワ・ミレー(1814-、60歳)/農村に取材し、地道で重苦しい色調、人道的主題を特徴とする/代表作に「晩鐘」・「落穂拾い」(7区「オルセー美術館」)など
- 1875年1月20日 04:00|ドミニカ共和国/ハイチ| |||ドミニカとハイチ、国交関係を樹立。平和友好条約を締結
- 1875年1月21日-01:00|フランス/ベトナム| |||フランスがインドシナ銀行を設立
- 1875年1月22日-01:00|赤道ギニア/スペイン| |||<就任>フェルナンド・ホー総督「デ・イエゴ・サンティステパン・イ・チャモ」(~18770213)
- 1875年1月22日 03:00|ウルグアイ| |||<就任>ウルグアイ東方共和国大統領代理「Pedro Esteban Carve Perez」PC⇒大統領「ペドロ・ロペレー Olivera」PC(3期目~18760310)
- 1875年1月23日-09:30|オーストラリア/イギリス| |||<就任>クイーンズランド植民地総督「ウィリアム・ケアンズ」(~18770314)
- 1875年1月23日-09:00|日本|長野県諏訪郡原村|明治8年|<合併>筑摩県諏訪郡[大久保村、柳沢村、ハツ手新田村、払沢新田村、柏木新田村、菖蒲沢村、中新田村、室内新田村]が合併→原村
- 1875年1月24日-01:00|フランス| |||<初演>シャルル・カミーユ・サンサーンス《交響詩「死の舞踏」Op. 40》
- 1875年1月25日-09:00|日本| ||明治8年|<創業>金原医籍店(のちの金原出版)(医学書輸入)、丸善に次ぐ古い出版社
- 1875年1月26日 00:00|イギリス| |||<死去>イギリスの数学者ケリー/53歳(誕生:18210816)「楕円関数論」を著した
- 1875年1月26日 06:00|アメリカ| |||米国で歯科用電動ドリルが特許化
- 1875年1月28日-09:00|日本|東京都中央区|明治8年|<改称>「守田座」負債問題から⇒「新富座」
- 1875年1月28日-04:00|ロシア| |||<開業>グランド・ホテル・ロフパ(サンクトペテルブルグ)
- 1875年1月29日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第9号「鳥獣獵規則中第十六条削除」
- 1875年1月30日-01:00|フランス| |||フランスの国民議会在、憲法に関するワロン修正案を1票差で可決し、共和政が承認される
- 1875年1月30日 06:00|アメリカ/ハワイ| |||ハワイ王国とアメリカが、互惠通商条約を結ぶ、ハワイ、実質的にアメリカの保護下に置かれる
- 1875年2月-09:00|日本| ||明治8年|<復刊>「長崎新聞」再興/隔日発行で1冊8頁、定価は1部1銭5厘(1か月15銭)
- 1875年2月-09:00|日本|伊予銀行|明治8年|<改称>「種生講」⇒「種生会社」
- 1875年2月-09:00|日本|香川県高松市|明治7年|<竣工>「常磐橋」[高松市街丸亀町通り]長さ3間半・幅5間
- 1875年2月-09:00|日本|岐阜大学|明治8年|<改称>「師範研習学校」⇒「岐阜県師範学校」
- 1875年2月-09:00|日本|京都府京都市|明治8年|<発足>京都司薬場(⇒翌年廃止)
- 1875年2月-09:00|日本|J. フロントリテイナグ|明治8年|大阪の老舗糸びす屋呉服店を買収、糸びす屋いとう呉服店として新町通に開業
- 1875年2月-09:00|日本|NIPPON EXPRESSホールディングス|明治8年|<改称>「陸運元会社」⇒「内国通運会社」
- 1875年2月-05:30|インド| |||<創立>ボンベイ工場主協会
- 1875年2月-01:00|リビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国トリポリリアニア・ワリス(総督)「ムスタファ・シド・キ・パシャ」(~1877年8月)
- 1875年2月 00:00|イギリス| |||木製帆船「Formosa」イギリスScotlandで建造進水
- 1875年2月1日-09:00|日本| ||明治8年|<施行>国内廻漕規則(1874年11月10日公布)
- 1875年2月1日-09:00|日本| ||明治8年|<創刊>大教院「教会新聞」(月4回刊)
- 1875年2月1日 05:00|ベルギー| |||<就任>ベルギー共和国閣僚評議会議長(首相)「ニコラス・モネ・フレイル・コンザレス」(~18760802)
- 1875年2月2日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第10号「家禄賞典禄百石以上/者奉還/節資金被下方規則第二条挿注中改正」
- 1875年2月2日-09:00|日本|お茶の水女子大学|明治8年|<設立>「女子師範学校」[東京]
- 1875年2月3日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第12号「陸軍省中造兵司武庫司廃止」
- 1875年2月3日-09:00|日本/中国|日本郵船|明治8年|三菱商会在、上海-横浜定期航路の運行を開始する(外国航路の始め)/東京丸、新潟丸、高砂丸、金川丸の4隻で、横浜~上海の1週1回の定期航路
- 1875年2月3日-01:00|セルビア| |||<就任>セルビア公国閣僚評議会議長「ダニロ・ステファノヴィッチ」(~8. 31)
- 1875年2月3日 04:00|アンティグア・バブーバ/イギリス/アンギラ/ドミニカ国/セントヘレナ/セントクリストファー・ネイビス/英領ヴァージン諸島| |||<就任>リワード 諸島総督・最高司令官「ジョージ・バーグレー卿」(~1881年)
- 1875年2月4日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第14号「北海道諸産物出港税則並各港船改所規則」(函館その他海関所を「船改所」に改称);明治8年太政官布告第15号「海陸軍刑律法例中増加」;明治8年太政官布告第017号「徴兵令中改正増加」
- 1875年2月4日-09:00|日本|日本郵政|明治8年|<発行>(手彫)桜切手(1875年)額面:半銭、1銭、2銭、4銭、5銭、6銭、10銭、20銭、30銭
- 1875年2月6日-09:00|日本| ||明治8年|森有礼と広瀬阿常が福澤諭吉を証人として初の「契約結婚」
- 1875年2月7日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第20号「外国形日本船輸出入税未納内外貨物回漕規則」
- 1875年2月7日-09:00|日本|大阪府大阪市|明治8年|<坐摩の大火>延焼戸数820余戸
- 1875年2月7日-01:00|フランス| |||<初演>ウイクトール・アントワーヌ・エドゥアール・ラロ《スペイン交響曲》

1875迄 (3195件)

- 1875年2月8日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第21号「明治八年郵便規則第一百五十九条中増加」
1875年2月9日-09:30|オーストリア| ||<就任>ニューサウスウェールズ植民地政府首相「ジョン・ロバートソン」無所属 (~18770321)
1875年2月9日-09:00|日本| ||明治8年|<復帰>太政官正院博覧会事務局所管「博物館・書籍館・小石川菜園」⇒文部省
1875年2月12日 00:00|ガンビア/イギリス| ||<就任>イギリス領西アフリカ植民地ガンビア管理者代行「ヘンリー・トリー・マイルズ・クーハム」(2回目~7.2)
1875年2月13日-09:00|日本| ||明治8年|政府が全国民に姓をつけるように布告する(平民苗字必称義務令)
1875年2月14日 00:00|シエラレオネ/イギリス| ||<就任>イギリス王領シエラレオネ植民地総督「コーネリアス・ヘントリック・コルトライト」(1回目~7.3)
1875年2月15日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年文部省布達第2号「京都府下ニ司薬場ヲ設ケ」
1875年2月15日-09:00|日本| 東京都|明治8年|<開催>「吉原博覧会」(~3.16) [開催地] 東京都 [会場] 江戸町金瓶楼 [主催] 俵屋和助, 泉屋忠兵衛ほか吉原楼主
1875年2月17日-09:00|日本| ||明治8年|<死去>内田九一. 肺結核のため(32歳) 写真家
1875年2月17日-01:00|ドイツ| ||<死去>フリートリヒ・ヴィルヘルム・アルブレヒト・ランダー, 天文学者(生年1799年)
1875年2月18日-09:00|日本| 岐阜大学|明治8年|<改称>「岐阜県師範研習学校」⇒「岐阜県師範学校」
1875年2月18日-09:00|日本| 長野県茅野市|明治8年|<合併>筑摩県諏訪郡[下菅沢新田村, 福沢村, 南大塩村, 塩之目村, 下古田村, 上古田村, 宮原村, 宮原新田村, 中込新田村, 御作田新田村]が合併⇒豊平村; 諏訪郡[中村, 笹原新田村, 須栗平新田村, 堀新田村, 金山新田村, 新居新田村, 山口新田村, 上菅沢新田村, 白井手新田村]が合併⇒湖東村
1875年2月20日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第23号「雑税廃止」; 明治8年太政官布告第24号「絞油税則廃止」; 明治8年太政官布告第26号「酒類税則ヲ定メ酒造取締並ニ税則濁酒醬油シウ麴税共廃止」; 明治8年太政官布告第27号「遊船税ヲ改メ車税規則ヲ定メ僕婢馬車人力車駕籠乗馬遊船諸税規則廃止」(旧幕府諸雑税が廃止され、車税・船税・酒税が定められる)
1875年2月22日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第31号「等外吏ニ準ル者犯罪条例ヲ定ム」; 明治8年太政官布告第32号「蚕種製造組合条例並ニ蚕種製造組合会議局規則ヲ定メ蚕種取締規則廃止」
1875年2月22日-09:00|日本| ||明治8年|立志社(土佐)の呼びかけにより、大阪で全国の政社が会合し愛国社結成
1875年2月22日-01:00|フランス| ||<死去>フランス「自然主義」絵画の画家で風景画を得意としたジャン・バティスト・カミーユ・コロ(1796-、78歳)/夕暮れを好んで描き、安息・清新という特徴をもつ
1875年2月22日 00:00|イギリス| ||<死去>イギリスの地質学者「チャールズ・ライエル」/87歳(誕生:17871114) 地史学を開拓した
1875年2月24日-01:00|フランス| ||フランスで、元老院の組織に関する法律が可決される
1875年2月25日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第33号「鎮台条例中改正」
1875年2月25日-09:00|日本| 奈良県吉野郡吉野町|明治8年|神仏分離令により吉水院廃寺、吉水神社に改称
1875年2月25日-01:00|フランス| ||フランスで、公権力の組織に関する法律が可決される
1875年2月25日 00:00|イギリス| ||<就任>11代マー伯「ウォルター・ヘンリー・アスキン」13代ケー伯(~18880916死去)
1875年2月25日-08:00|中国| ||清・光緒1年1月20日|<即位>清皇帝「徳宗光緒帝」(4歳~19081114) 光緒と改元/西太后が親政
1875年2月27日-11:00|ニュージーランド/フランス| ||<就任>ニュージーランド知事「Leopold Eberhard Ludovic de Pritzbuerg」(~18780411)
1875年2月27日-09:00|日本| 東京都文京区|明治8年|<開園>文部省, 日本初の近代的植物園「小石川植物園」(小石川菜園を改称, 明治10年, 東京大学附属となる)
1875年2月27日-01:00|モナコ/フランス| ||<就任>モナコ総督・国務院議長「シャルル・グイユル・エミール・ド・ボワエ, サント・ザンヌ男爵」(~18840114)
1875年2月27日-01:00|オーストリア| ||<初演>ヨハン・シュトラウス2世《喜歌劇「ウィーンのカーニストロ」》
1875年2月28日-09:00|日本| ||明治8年|貿易銀発行/420万レインに増量
1875年3月-09:00|日本| ||明治8年|<竣工>日本海軍「函容丸」(450t) 横須賀造船所
1875年3月-09:00|日本| ||明治8年|ガス灯が東京の京橋から北へ万世橋, 浅草橋まで点火
1875年3月-09:00|日本| 愛媛県松山市|明治8年|<移転改称>県立松山病院医学所[温泉郡二番町]⇒「収養館」[小唐人町元水野屋敷]
1875年3月-09:00|日本| 大阪府大阪市中央区|明治8年|<発足>官営の医薬品試験機関「大阪司薬場」(舎蜜局跡⇒1887年、大阪衛生試験所)
1875年3月-09:00|日本| NIPPON EXPRESSホールディングス|明治7年|<改称>陸運元会社⇒内国通運会社
1875年3月-09:00|日本| 三井住友フィナンシャルグループ|明治7年|<改称>三井組⇒三井銀行
1875年3月-02:00|シリア/アラブ/トルコ| ||<就任>アレクサンドル・サキズリ「Sakizli Esad Muhlis Pasha」(~1876.6)
1875年3月1日-09:00|日本| 奈良教育大学|明治8年|<改称>伝習所⇒奈良(小学)師範学校
1875年3月1日-03:00|マヨット/フランス| ||<就任>フランス保護領マヨット総監代行「クロード・ミシェル・ジャック・ルイ・フランソワ・フォンテーヌ」(~9.16)
1875年3月1日-01:00|ハンガリー| ||ハンガリーで、保守派の自由党が結成される
1875年3月1日 05:00|キューバ/スペイン| ||<就任>スペイン植民地キューバ総督・総司令官代行「ホセ・マリア・カホ・イ・アルコイ」(~8日)
1875年3月1日 06:00|ニカラガア| ||<就任>ニカラガア共和国大統領「ペドロ・ホセ・キン・チャモロ・アルファロ」(~18790301)
1875年3月1日 06:00|アメリカ| ||アメリカ1875年市民権法成立、公共の場での人種差別禁止

1875迄 (3195件)

- 1875年3月2日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第36号「徴兵令改正中教導職試補増加ノ条削除」
1875年3月2日-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国首相「ヘラパ・ロ・フォン・ウエンハイム」(~10. 21)
1875年3月3日-01:00|フランス| |||<初演>ジヨルジュ・ビゼー《歌劇「カルメン」》オペラ・コミック
1875年3月3日 03:00|仏領ギア/フランス| |||<就任>ギア総督代理「Jacques Eugene Barnabe Ruillier」(~12. 30)
1875年3月4日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第37号「北海道ニ屯田憲兵ヲ設ケ開拓使中准陸軍大佐以下官等ヲ置ケ」
1875年3月4日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第38号「国内回漕規則第十五条中但書追加」
1875年3月7日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第39号「明治八年郵便為替規則第七十五条改定」
1875年3月7日-09:00|日本|長野県諏訪郡富士見町|明治8年|<合併>筑摩県諏訪郡[田端村、先達村、葛窪村、池袋村、高森村、小六新田村]が合併→境村;諏訪郡[乙事村と立沢村]が合併→本郷村
1875年3月7日-09:00|日本|長野県茅野市|明治8年|<合併>筑摩県諏訪郡[中道村、小屋場村、槻木新田村、上場沢新田村、大日影新田村]が合併→泉野村;諏訪郡[柏原村、湯川村、芹ヶ沢村、糸萱村]が合併→北山村;諏訪郡[埴原田新田村、鑄物師屋新田村、北大塩新田村、一本木新田村、塩沢村]が合併→米沢村
1875年3月7日 00:00|イギリス| |||<死去>ジョン・エドワード・グレイ、動物学者(生年1800年)
1875年3月8日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第40号「商船規則第十項廃止」
1875年3月8日 05:00|キューバ/スペイン| |||<就任>スペイン植民地キューバ 総督・総司令官「バルセダ 伯」ラス・ウイラ・テ・イ・テ・ラ・ヘラ」(3回目~18760118)
1875年3月10日-09:00|日本| ||明治8年|奈良の東大寺をはじめ各寺院の実器は内務省管理下に永久保存法を設ける
1875年3月10日-09:00|日本|東京都港区|明治8年|清水誠、東京三田四国町の吉井公別邸に仮工場を設けマッチ製造を開始(黄燐マッチ)
1875年3月10日-01:00|フランス| |||<就任>フランス第三共和政第4代首相「ル・ビユフェ」王党派(第1次~18760223)
1875年3月11日-09:00|日本|島根大学|明治8年|<設立>島根県小学教員伝習所
1875年3月12日-09:00|日本|山口県下関市|明治8年|<死去>毛利元純(44歳) 元長門清末藩主・知藩事
1875年3月12日-05:30|インド| |||<就任>パガル国ラジャ「キヤン・ツン」(~18770723)
1875年3月13日-01:00|フランス| |||フランスの国民議会在陸軍増強法を可決
1875年3月14日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第42号「米海外輸出ヲ許ス」
1875年3月14日-01:00|ドイツ| |||ドイツで中央銀行設立法が制定される
1875年3月15日-09:00|日本|京都府京丹後市|明治8年|<開催>「第4回京都博覧会」(~6. 22) [開催地]京都府[会場]京都御所・仙洞御所・大宮御所[主催]京都博覧会社[入場者]337, 542人
1875年3月15日-09:00|日本|東京都大田区|明治8年|<点灯>羽田灯台(東京都、鉄造、廃灯)
1875年3月15日-09:00|日本|山梨大学|明治8年|<改称>「師範講習学校」⇒「山梨県師範学校」
1875年3月16日-09:00|日本|香川県高松市|明治8年|<一般公開>「栗林公園」[香川県高松市栗林町]
1875年3月17日-01:00|チェコ| |||<死去>フェルディナント・ラフ、ヴァイオリニスト・作曲家(生年1832年)
1875年3月18日-09:00|日本| ||明治8年|正院内に政体取調局を設置、木戸・大久保・板垣・伊藤の4参議が委員となり、3月28日、成案を上奏
1875年3月20日-09:00|日本| ||明治8年|津軽海峡に海底電信敷設/東京-青森間、北海道間の電信線が開通
1875年3月20日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年文部省布達第3号「官立師範学校卒業生派出規則廃止」
1875年3月21日-09:00|日本|三重県松阪市|明治8年|<創建>山室山神社(一本居神社→本居宣長ノ宮)
1875年3月22日-09:00|日本| ||明治8年|<交付>日本海軍運輸船「函容丸」⇒北海道開拓使「函館丸」と改称
1875年3月24日-09:00|日本| ||明治8年|大蔵・内務両省からスタッフを集めて地租改正を一括して扱う専門部局地租改正事務局設置
1875年3月24日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年文部省布達第6号「大阪府下ニ司薬場ヲ設ケ」
1875年3月25日-09:00|日本| ||明治8年|東京-青森間の電信線が開通(仙台-青森間開通による)
1875年3月26日-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>オランダ領東インド 総督「Johan Wilhelm van Lansberge」(~18810412)
1875年3月26日-02:00|エストニア/ロシア| |||<就任>ロシア領エストニア総督「ウイクトル・ペトローヴィチ・ポリワフ」(~18850404)
1875年3月28日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第45号「鯨漁船並ニ海川小回船等船税規則中第三則改定」
1875年3月28日-01:00|ドイツ| |||<死去>アーレンベルク公「エンゲルベルト・アウグスト」
1875年3月28日-01:00|ドイツ| |||<即位>アーレンベルク公「エンゲルベルト・マリア」(~19490115死去)
1875年3月29日-08:00|中国/台湾| ||清・光緒1年2月22日|台湾の獅頭社の高砂族の乱が平定される
1875年3月30日-09:00|日本| ||明治8年|<改称>「博覧会事務局」⇒「博物館」(内務省所属)
1875年3月31日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第47号「蚕種原紙規則中改正」
1875年4月-09:00|日本| ||明治8年|<結成>睦連(寄席芸人統一団体)
1875年4月-09:00|日本| ||明治8年|国産マッチ製造の始まり/清水誠、東京三田四国町の吉井公別邸に仮工場を設け黄燐マッチ製造に着手
1875年4月-09:00|日本|東京都墨田区|明治8年|<大相撲>明治8年4月場所[東京本所回向院](~10日間)幕内優勝:(西前4) 武藏淵, 7勝1敗1分
1875年4月-04:00|ロシア| |||村で南部ロシア労働者同盟が設立
1875年4月-03:00|イェメン/トルコ| |||<就任>オスマン帝国イェメン・ウリス(総督)「Mustafa Asim Pasha」(~1879. 4)
1875年4月-01:00|フランス| |||フランスのガストン・テイヤンデ・イエが、Joseph Croce-Spinelliと Theodore Sivelと共に気球で

1875迄 (3195件)

- 8, 600mの高さに達したが、2人の同僚は酸素不足で死に、テイサデ`イは生き残ったが、聴力を失った
- 1875年4月 06:00|アメリカ| ||アメリカ海軍加コ級水雷艇「ヒーロー」(1175t)ワシントン海軍工廠にて解体
- 1875年4月1日-09:00|日本|熊本県|明治8年|<開催>「熊本博覧会」(~5.30) [開催地]熊本県 [会場]白川県熊本錦山神社 [主催]熊本博覧会社
- 1875年4月1日-09:00|日本|奈良県奈良市|明治8年|<開催>「第1回奈良博覧会」(~6.19) [開催地]奈良県 [会場]東大寺大仏殿 [主催]奈良博覧会社
- 1875年4月1日-05:30|インド/イギリス| |||列国をイギリス領インドが統治(~18951015)
- 1875年4月1日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ナール特別委員代行「カーネット・シヨフ・ウオルス」リ卿」(~9.3)
- 1875年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「パラムテ・マルペリ」ルイジ・パスクアリ
- 1875年4月1日 06:00|アメリカ| |||タイム紙世界初天気予報
- 1875年4月4日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第48号「式部寮中伶人官等改定」
- 1875年4月5日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第49号「国内回漕規則第十五条中港則違犯ノ者科料改定」
- 1875年4月6日-09:00|日本| ||明治8年|台形をしたコンピ`フの缶詰の缶が特許登録される
- 1875年4月6日-09:00|日本|京都府綾部市|明治8年|<死去>谷衛滋(59歳)元丹波山家藩主・知藩事
- 1875年4月6日-01:00|ドイツ| |||<死去>モーゼス・ヘス、思想家(生年1812年)
- 1875年4月10日-09:00|日本| ||明治8年|勲章及び従軍記章の制初めて定められ、勲等を分け八級となす
- 1875年4月10日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第51号「証券印税規則第四則中改正増加」
- 1875年4月10日-05:30|インド| |||「ダヤナト・ワラフティ」によってアリア・サマジ(アリア伝統協会)がボンベイに設立(のちパンジャブに拡大)
- 1875年4月11日-09:00|日本| ||明治8年|<設立>松本良順ら学会東京医学会社
- 1875年4月11日-01:00|ドイツ| |||<死去>ハインリッヒ・シュワベ、天文学者(生年1789年)
- 1875年4月12日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第56号「酒造其外取締規則追加ノ条但書改定」;明治8年太政官布告第57号「酒類税則第三則中改定」
- 1875年4月12日-09:00|日本|広島大学|明治8年|<改称>「白島学校」⇒「広島県公立師範学校」
- 1875年4月12日-01:00|フランス| |||<就航>フランス海軍装甲艦「リシュリュー」(18731203、ツロン造船所で進水)
- 1875年4月14日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第58号「立憲政体ノ詔書」;明治8年太政官布告第59号「元老院大審院ヲ置き式部寮ヲ宮内省ニ附シ左右院ヲ廃シ」行政を担当する太政官・正院、立法を担当する元老院・地方官会議(上下両院に擬制)、司法省裁判所を廃止して大審院(太政官の左右両院を廃止、その下に上等裁判所・地方裁判所)を置く三権分立制の基礎を形作った;正院歴史課を修史局と改称
- 1875年4月14日-06:30|ミャンマー/イギリス| |||<就任>英領下ビルマ主席弁務官「オーガスタス・リバーズ・トンプソン」(18770430まで代行~18780330)
- 1875年4月17日-09:00|日本| ||明治8年|前田健次郎(香雪),「平仮名絵入新聞」創刊、翌年3月より「東京絵入新聞」に改称
- 1875年4月17日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年陸軍省布布達第109号「徴兵令参考第十五条但書刪去」
- 1875年4月19日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第61号「解漁船並ニ海川小回船等船税規則第七則追加」
- 1875年4月19日-05:30|インド| |||<就任>「マダブ・ラオ・タンジャルル卿」(~5.25)
- 1875年4月20日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第62号「造幣規則改定」
- 1875年4月21日 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領マルティニーク知事「Thomas Louis Kirkland Le Normant de Kergrist」(~1877年)
- 1875年4月22日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第64号「海軍旗章中改定」
- 1875年4月23日-09:00|日本| ||明治8年|元老院議員任命 後藤象二郎、陸奥宗光、津田出、吉井友実、由利公正、加藤弘之以下13名 勝海舟は辞退
- 1875年4月24日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第65号「蚕種製造組合条例第十一条第二節ノ但書追加」;明治8年太政官布告第66号「内国船難破及漂流物取扱規則ヲ定メ浦高札ヲ廃シ」
- 1875年4月24日 02:30|日本|岐阜県高山市|明治8年|<飛騨高山明治8年の大火>午前11時30分、高山二之町の商人桐山源兵衛宅の薪小屋の二階から出火、烈しい南風にあおられて周囲に飛び火/特に中心街の一之町三丁目、二之町二丁目、三之町三丁目東側と四丁目西側が猛火をかぶり、一之新町、二之新町、大新町、八幡町、鉄砲町、若達町が焼失。寺内町の高山御坊照蓮寺ほか9か寺、横山八幡社及び小学校2校が焼け、午後6時5分鎮火。破壊消防で7戸が壊され、住家1032戸、土蔵44か所、橋2か所に延焼し灰となった。1人死亡
- 1875年4月25日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第67号「元老院ヲ太政官代中元左院跡ノ置キ」;明治8年太政官第67号の2布告「元老院中正副議長議官正権大少書記官正権大中少書記生ヲ置き官等ヲ定ム」
- 1875年4月25日-08:00|中国| |||<死去>「ダライ・ラマ」12世ティンレー・ギャツォ
- 1875年4月25日-08:00|中国| |||<就任>「チベット」攝政「閣僚会議」(~同年)⇒「第10代クンテ・リング・ラマ・ツツク・ガワン・ペルデン」(~18780212)
- 1875年4月26日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「サスル・アフメト・エサット・パシャ」(2期目~8.26)
- 1875年4月28日-09:00|日本|伊予銀行|明治7年|<設立>栄松社(銀行類似会社、松山)
- 1875年4月28日 00:00|イギリス| |||<就航>イギリスのイマン・ラインの客船「シティ・オブ・ベルリン」(ケート・アント・カンパニーによって建造)(1898年アメリカ政府に徴用され「ミート」と改名、1921年スクラップ)
- 1875年4月30日-09:00|日本| ||明治8年|<廃止>神仏合同布教
- 1875年4月30日-09:00|日本|愛媛県宇和島市|明治8年|愛媛・宇和島須賀通りで大火、105戸焼失

1875迄 (3195件)

- 1875年4月30日-09:00|日本|長崎県|明治8年|<改称>「蕃地事務局(兵員)病院」⇒長崎県管轄「長崎病院」
- 1875年4月30日-01:00|フランス| ||<死去>ジャンフレリック・ワルデック、古物研究家・地図学者・芸術家・探検家(生年1766年)
- 1875年5月-09:00|日本| ||明治8年|<売却>日本國郵便蒸気船「黄龍丸」⇒日本政府
- 1875年5月-09:00|日本|鹿兒島大学|明治8年|<立>小学校授業講習所設
- 1875年5月-09:00|日本|JR|明治8年|神戸工場で国産木材を使って客車・貨車を製造(車輪等は輸入)客車製造の最初
- 1875年5月-05:30|インド| ||デカの農民が高利貸しに対して反乱おこす
- 1875年5月 06:00|アメリカ| ||<売却>アメリカ海軍シヤ級フリゲイト「カリフォルニア」(3954t)
- 1875年5月1日-09:30|オーストラリア| ||ニューサウスウェルズ 芸術院がシトニーに開かれた/18760602, ニューサウスウェルズ・アート・ギャラリーとなり、1880年にはナショナル・アート・ギャラリーと改名
- 1875年5月1日-09:00|日本|慶應義塾|明治8年|<開館>福沢諭吉「三田演説館」
- 1875年5月1日-09:00|日本|JR西日本東海道本線|明治8年|<開業>官設鉄道安治川支線[大阪-安治川]間2.82km
- 1875年5月1日-09:00|日本|日本郵船|明治8年|<改称>「三菱商会」⇒「三菱汽船会社」
- 1875年5月1日-09:00|日本|読売新聞|明治8年|読売新聞、隔日発行から日刊に改める(1枚売り8厘、月ぎめ16銭)
- 1875年5月2日-09:00|日本|ゆうちょ銀行|明治8年|郵便貯金業務が開始される
- 1875年5月3日-09:00|日本| ||明治8年|<解散>大教院/「教会新聞」廃刊
- 1875年5月3日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第69号「国内回漕規則第十六条へ但書追加」
- 1875年5月3日-02:00|トルコ| ||トルコ・デ・イタル地震(M6.7)死者2千人
- 1875年5月4日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第071号「司法省中明法寮廃止」;明治8年太政官布告第073号「判事解部ヲ廢シ判事判事補ヲ置キ官等ヲ定ム」
- 1875年5月4日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第70号「難船救助心得方規則条第二十五項改定」
- 1875年5月7日-09:00|日本| ||明治8年|<払下>日本國郵便蒸気船会社「大有丸」((1869, Miller & Bros., Glasgow「Wilhelmina Emma」Thos. Wingate&Co., Glasgow建造竣工→1870年、廻漕会社(東京)に払下げ→1870年、日本政府(東京)に売却、「大有丸」と改名→1871年、廻漕取扱所(東京)へ移籍)⇒沖縄県(1880年、郵便汽船三菱会社へ移籍)
- 1875年5月7日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第75号「海軍省中造兵司武庫司廃止」
- 1875年5月7日-09:00|日本|茨城県|明治8年|<分割編入>新治県新治郡・筑波郡・河内郡・行方郡・信太郡・鹿島郡、千葉県結城郡・猿島郡・岡田郡・豊田郡・相馬郡の一部・葛飾郡の一部を移管→茨城県
- 1875年5月7日-09:00|日本|埼玉県|明治8年|<分離編入>千葉県葛飾郡の一部を移管→埼玉県
- 1875年5月7日-09:00|日本|千葉県|明治8年|<分割編入>新治県香取郡・匝瑳郡・海上郡を編入→千葉県
- 1875年5月7日-04:00|ロシア/日本| ||明治8年;ロシア暦4月25日|サクト・ヘルブルグで、日本とロシアの間に樺太・千島交換条約が結ばれる/樺太全島がロシア領、千島全島が日本領となり、日露国境が固定される
- 1875年5月9日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第77号「陸軍省中兵学寮廃止」
- 1875年5月9日-02:00|ギリシャ| ||<就任>ギリシャ閣僚評議会議長「チャリオス・スパス・イル・イト」/ストロコピス(1回目~10.27)
- 1875年5月10日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第81号「郵便ハガキ紙改正」;明治8年太政官布告第82号「造幣規則中訂正」
- 1875年5月10日-08:00|マレーシア/シンガポール/イギリス| ||<就任>イギリス王領海峡植民地総督「ウィリアム・フランシス・ド・ラモント・ジャコウ卿」(~18770403)
- 1875年5月10日-05:30|インド/ポルトガル| ||<就任>ポルトガル領インド 総督「ジョアン・ヴァリス・デ・アルメイダ」(~18770724)
- 1875年5月14日-05:30|インド/フランス| ||<就任>フランス領インド 暫定総督「ルイ・ベルナルド・アメリウス・デルリュ」(~7.1)
- 1875年5月17日-09:00|日本| ||明治8年|書籍館の蔵書は文部省の所管には戻ってこなかったため、文部省は改めて省の所蔵する図書を譲渡し、同館は東京書籍館として再度湯島聖堂内に再発足、日本で初めての納本図書館として全ての国内出版物を蔵書に受け入れた
- 1875年5月17日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第86号「国内回漕規則第十七条追加」
- 1875年5月17日 06:00|アメリカ| ||ルイビルのチャールタウン競馬場で、ミス・クラークが第1回ケンタッキー・ダービーを開催
- 1875年5月18日-13:00|サマリア/米領サマリア| ||サマリア王国憲法が公布される
- 1875年5月18日 05:00|コロンビア/ベネズエラ| ||ベネズエラ・コロンビアで地震(M7.0)死者1万6000人
- 1875年5月20日-09:00|日本/韓国/朝鮮| ||明治8年|軍艦「雲揚」が朝鮮近海の水路を測量中、江華島砲台の朝鮮兵から砲撃を受け「雲揚」は応戦して砲台を占領、永宗城を焼き朝鮮兵30余名を倒し帰投
- 1875年5月20日-01:00|フランス/ドイツ/イギリス/アメリカ| ||パリで、米独伊仏がメートル条約調印し、メートル法が国際単位系として認められる
- 1875年5月22日-13:00|サマリア/米領サマリア| ||<就任>サマリア王国首相「アルバート・ハーンズ・スタインバーク」(~18760208首相廃止)
- 1875年5月22日-13:00|サマリア/米領サマリア| ||<即位>サマリア王「マリエア・ラウパ」((2度目~1876年)
- 1875年5月22日-09:00|日本| ||明治8年|中村正直・古川正雄・岸田吟香ら、盲人の保護教導を目的として<楽善会>を組織(のちの東京盲啞学校)
- 1875年5月22日-09:00|日本|金沢大学|明治8年|<設立>石川県女子師範学校(初の地方女子師範学校)
- 1875年5月22日-01:00|ドイツ| ||チューリゲン地方のゴータで、サル派とアイナ派が合同してドイツ社会主義労働党が結成される
- 1875年5月22日-09:00|韓国/朝鮮| ||明治8年|慶尚道・蔚山で民乱
- 1875年5月23日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第89号「火葬禁止/布告廃止」
- 1875年5月24日-09:00|日本| ||明治8年|日本海軍軍艦「高雄丸」運送船と測量船を兼任;兵部省所管軍艦「大坂丸」

1875迄 (3195件)

」輸送船に準ずるものと定められた

- 1875年5月24日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第91号「大審院諸裁判所職制章程」<大審院設置>;明治8年太政官布告第92号「上等裁判所ヲ東京大阪福島長崎ニ置キ其分轄府県ヲ定ム」;明治8年太政官布告第94号「民事控訴略則廃止」
- 1875年5月24日-05:30|インド| |||<創立>インドで「アマト・カーンが、ムハタ・ン・アング・ロ・オリエンタル・カージ」
- 1875年5月25日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第95号「新旧公債証書発行条例改定」
- 1875年5月25日-05:30|インド| |||<即位>ハロウ 国統治者(マラジャ・ゲークワル)「サヤン・ラオ3世・ゲークワル」(~19390206没)、摂政「ジャムナ・バイ・サヒブ・ゲークワル」(~18811228)
- 1875年5月27日-01:00|ドイツ| |||<結成>ドイツ帝国でドイツ社会主義労働者党(全ドイツ労働者党とドイツ社会民主労働者党が合併)
- 1875年5月27日 06:00|アメリカ| |||<就役>アメリカ海軍アレート級砲艦「アレート」(1020t, ション・ローチ&サンズ 造船所)
- 1875年5月29日-09:00|日本|横浜銀行|明治7年|<設立>積小社(小田原銀行の前身)(小田原)
- 1875年5月30日 00:00|イギリス| |||<就航>ホワイト・スター・ラインの客船「ゲルマニック」(ハーランド・アント・ウルフによって建造)(1904年アメリカン・ラインに売却、その後トミニオン・ラインへ再び売却)
- 1875年5月31日-09:00|日本| ||明治8年|太政官札・民部省札・大蔵省免換証券・開拓便見換証券の通用禁止
- 1875年5月31日-01:00|フランス| |||<死去>エリファス・レヴィ、魔術理論家(生年1810年)
- 1875年6月-09:00|日本| ||明治8年|<改称>「河原崎座」→「新堀座」
- 1875年6月-09:00|日本| ||明治8年|<竣工>大坂山道(阿讃国境)2里47間6步
- 1875年6月-09:00|日本| ||明治8年|日本國郵便蒸気船会社:「紀伊國丸」「錫懷丸」「明光丸」「青龍丸」「延年丸」「萬里丸」日本政府に売却;「有功丸」(建造年、建造所不詳)日本政府に売却;「千里丸」(1867年、Jardine Matheson & Co., U. K. 「Lamont」Robert Napier And Sons, Glasgow建造進水→1867年、Shanghai S. N. Co., U. S. に売却、「CH IH-LI」と改名→1871年、廻漕取扱所(東京)に売却、「千里丸」と改名)日本政府に売却;「猶龍丸」(1861年、T. Lane, U. K. 「Undine」Thos. Wingate & Co., Glasgow建造進水→1862年、Douglass Lapraik&Co., HongKongの所有→1868年、加賀藩に売却、「猶龍丸」と改名→1871年、日本政府に移籍→1871年、廻漕取扱所(東京)に移籍)日本政府に売却
- 1875年6月-09:00|日本|駒沢大学|明治8年|<開校>「曹洞宗専門学校」[青松寺獅子窟学寮内]
- 1875年6月-09:00|日本|日本郵船|明治8年|<解散>日本國郵便蒸気汽船会社
- 1875年6月-09:00|日本|福井県|明治8年|<架橋>中角橋(吉田郡舟橋新村・中角村間)
- 1875年6月-02:00|スウェーデン| |||<就任>スウェーデン 最高支配者「ト・ラニ4世」(~18891007没)
- 1875年6月-01:00|北マダニア| |||<就任>マダニア(総督)「ブルサ・マフト・レディフ・ハシヤ」(~9月)
- 1875年6月 00:00|セネガル| |||<就任>フタ・ト・ロ統治者統治者(アルマミ)「ラ・シン・マト・ウ・セリン・タリ」(3回目~11月)
- 1875年6月1日-09:00|日本| ||明治8年|東京・赤坂葵町に、内務省地理寮(国土地理院の前身)量地課東京気象台を設立(中央気象台の前身)内務省測量司ではじめてイギリス式気象観測を開始(当初は1日3回、明治9年から1日8回、19年1月から毎時観測となる)
- 1875年6月1日-09:00|日本|フェリス女学院|明治8年|山手178番に校舎建築・落成「フェリス・セミナリ」と名づける
- 1875年6月2日-09:00|日本| ||明治8年|<創刊>日本初のタブロイド版「東京曙新聞」(「あけぼの」を改称)
- 1875年6月3日-09:30|オーストラリア| |||<就任>南オーストラリア植民地政府首相「ジェームズ・バウコート」(2期目~18760606)
- 1875年6月3日-01:00|フランス| |||<死去>「ロマン主義」音楽の作曲家ジョルジュ・ビゼーがパリ西郊外ブーヴュアル(イヴリーヌ県)で(1838-、37歳)/主な作品に「カルメン」「アルの女」など
- 1875年6月5日-09:00|日本| ||明治8年|気象庁が毎日の定時観測を開始
- 1875年6月6日-05:30|インド| |||<就任>ミラジ 国統治者(オ)「ガングガル・ラオ3世バラ・サヒブ・ハットワラン」(~19360623)
- 1875年6月8日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第102号「金穀貸借請人証人弁償規則改正」
- 1875年6月9日-09:00|日本| ||明治8年|明治政府が九州で唯一の長崎上等裁判所が萬歳町の長崎裁判所を仮庁舎とし開庁
- 1875年6月9日 04:00|ケレタダ/イギリス| |||<就任>ケレタダ 副総督代行「ウィリアム・マッキューエン」(2回目~7.3)
- 1875年6月11日-01:00|デンマーク| |||<就任>デンマーク王国首相「ヤコブ・ブロンヌム・スカベニウス・エストラップ」(~18940807)
- 1875年6月11日 06:00|アメリカ| |||<死去>ジョゼフ・ウインロック、天文学者(生年1826年)
- 1875年6月13日-09:00|日本| ||明治8年|政府より柄崎温泉組に温泉払下げ(武雄温泉)
- 1875年6月13日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第105号「蚕種製造組合条例中蚕種印紙税改正」
- 1875年6月14日-09:00|日本| ||明治8年|<死去>二代目尾上菊次郎/女方四代目市川小團次の相手役
- 1875年6月15日-09:00|日本| ||明治8年|<死去>浮世絵師、三代目鳥居清忠/59歳
- 1875年6月16日-09:00|日本|新潟県長岡市|明治8年|<死去>牧野忠訓(32歳)元越後長岡藩主
- 1875年6月18日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第106号「明治七年第百四号地所買受地券申請/布告改正」
- 1875年6月18日 06:00|アメリカ| |||アメリカ海軍外輪フリゲイト「サナック」(2100t)Seymour Narrowsにて難破
- 1875年6月19日-09:00|日本|東京都|明治8年|東京府下、吹矢などの賭け商売をいっさい禁止
- 1875年6月20日-09:00|日本| ||明治8年|<開園>宮城県「桜ヶ岡公園」(旧仙台藩門閤である伊達安房・古内左近之助・大内逢殿の3邸地、合計5447坪)
- 1875年6月22日-02:00|フィンランド/ロシア| |||<就任>ロシア領フィンランド 総督代行「ヘルムルト男爵インドレウス」(7回目~11.17)
- 1875年6月23日-05:30|インド| |||<就任>マリア 国統治者(タコ・サハブ)「モジ・ムルガアージ」(~19071019没)
- 1875年6月25日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第108号「新貨条例ヲ改刻シ貨幣条例ト改ム」(定位貨幣を補助貨幣に改称);明治8年太政官布告第109号「垂米利加合衆国郵便交換条約書中改定」

1875迄 (3195件)

- 1875年6月25日 03:00|ブラジル | ||<就任>ブラジル帝国閣僚評議会議長(首相)「カンヌ男爵・伯爵・侯爵ルイス・アルベス・デ・リマ・エ・シム」(3回目~18780105)
- 1875年6月28日-09:00|日本 | ||明治8年|明治8年太政官布告第110号「讒謗律」、明治8年太政官布告第111号「新聞紙条目ヲ廢シ新聞紙條例ヲ定ム」(反政府言論を取り締まるため/発行許可制、持主・編集人・印刷人等の法的責任、騒乱煽起・成法誹毀の論説取締りなど)
- 1875年6月28日-02:00|エジプト | ||エジプトのイスマイル・パシャが、外国人の協力で裁判所を設置
- 1875年6月29日-09:00|日本 | ||明治8年|明治8年太政官布告第113号「改定律例第四条増加」
- 1875年6月29日-01:00|オーストリア | ||<死去>オーストリア皇帝「フェルディナント1世」(生年:1793年)
- 1875年6月30日-09:00|日本 | ||明治8年|元老院の議案条令定められる
- 1875年7月-09:00|日本|慶應義塾|明治8年|慶應義塾大阪分校が徳島に移される
- 1875年7月-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ | ||ヘルツェゴビナとボスニアで反乱が起こる(~1877年)
- 1875年7月 04:00|バルバドス/イギリス | ||<就任>イギリス領バルバドス総督兼最高司令官代理「Sanford Freeling」(~11月)
- 1875年7月1日-09:00|日本 | ||明治8年|<開催>「長野博覧会」(~8月19日)[開催地]長野県[会場]善光寺大勧進[主催]長野博覧会会主
- 1875年7月1日-09:00|日本 | ||明治8年|<点灯>菅島灯台(三重県鳥羽市,レンガ造,初期のもの現存、附属官舎(国指定重要文化財)は明治村に移築保存)
- 1875年7月1日-05:30|インド/フランス | ||<就任>フランス領インド 暫定総督「フランソワ・クリストル・ペルカレ・イ・ト・シコワイエ」(~8.23)
- 1875年7月1日 05:00|キューバ | ||<就任>キューバ 共和国暫定大統領「ファン・ハ ウェイスタ・スベトルノ・イ・ゲロビッチ」(~18760329)
- 1875年7月2日-09:00|日本 | ||明治8年|<設置>大阪に上等裁判所
- 1875年7月2日-09:00|日本 | ||明治8年|明治8年太政官布告第114号「地所名称區別/内官有地第二種民有地第三種/条改正」
- 1875年7月2日 00:00|ガンビア/イギリス | ||<就任>イギリス領西アフリカ植民地ガンビア管理者「サミュエル・ロウ」(1回目~3日)
- 1875年7月3日-09:00|日本 | ||明治8年|太政官正院の法制課を法制局に改組設置
- 1875年7月3日 00:00|シエラレオネ/イギリス | ||<就任>イギリス王領シエラ・レオネ植民地総督代行「サミュエル・ロウ」(1回目~1876年7月)
- 1875年7月3日 00:00|ガンビア/イギリス | ||<就任>イギリス領西アフリカ植民地ガンビア管理者代行「ヘンリー・トリー・マイルス・クーパー」(3回目~18770109)
- 1875年7月3日 04:00|ケレタラ/イギリス | ||<就任>ケレタラ 副総督「シリ・クラーク・グラム」(1回目、1876年3月まで代行~1876年4月)
- 1875年7月5日-09:00|日本 | ||明治8年|元老院の開院式が行われる
- 1875年7月6日-12:00|ニュージーランド | ||<就任>ニュージーランド 首相「ダニエル・ホーレン」(~18760215)
- 1875年7月7日-09:00|日本 | ||明治8年|官吏が政務に関する記事を新聞などに掲載することを禁止
- 1875年7月7日-09:00|日本 | ||明治8年|明治8年太政官布告第115号「牛馬売買規則第四条但書改正」
- 1875年7月9日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ | ||ヘルツェゴビナで反トルコ暴動がおこる
- 1875年7月9日 00:00|イギリス | ||イギリスで脱燐精鋳炉が開発される
- 1875年7月11日-09:00|日本 | ||明治8年|出島教会(長崎監督教会)が出島8・9番地(旧オランダ商館内)に建つ/日本人専用として初めての新教教会で日本聖公会最古の教会(1889教会を解体)
- 1875年7月11日-09:00|日本|東芝|明治8年|<設立>田中久重、電信機工場「田中製造所」[東京・新橋]
- 1875年7月12日-09:00|日本|王子ホールディングス|明治8年|抄紙会社(のちの王子製紙)、西洋紙の製造を始める
- 1875年7月16日-01:00|フランス | ||フランスで公権力の諸関係に関する法律が可決され、「1875年憲法」が成立/第三共和政の体系が決まる
- 1875年7月22日-09:00|日本 | ||明治8年|明治8年太政官布告第121号「金穀貸借請人証人弁償規則布告文中削除増加」;明治8年太政官布告第122号「酒類税則第一則中追加」
- 1875年7月22日-05:00|ウズベキスタン/ガザフスタン/キルギス/タジキスタン | ||<即位>コカンド・ハン国ハン「ムハンマド・プラト・ベク・ハン」(~12月)
- 1875年7月22日-05:00|ウズベキスタン/ガザフスタン/キルギス/タジキスタン | ||<廃位>コカンド・ハン国ハン「ムハンマド・フターヤール・ハン」ロシアにより軟禁された
- 1875年7月22日 06:00|アメリカ | ||<除籍>アメリカ海軍レカ級砲艦「ナタスケット」(1129t)
- 1875年7月23日 06:00|アメリカ | ||<死去>アメリカの発明家アイザック・マリット・シンガー-/63歳(誕生18111027)/ミシンを発明した
- 1875年7月25日-09:00|日本 | ||明治8年|<設立>京都府、南禅寺の療病院管轄下「癪狂院」(公立精神病院の初め)
- 1875年7月27日-09:00|日本 | ||明治8年|<開設>横山卓、官許を得て築地合引橋ぎわに水泳道場
- 1875年7月29日-09:00|日本|北海道大学|明治8年|<移転改称>「開拓使仮学校」⇒「札幌学校」[北海道札幌(現:中央区北2西2)]
- 1875年7月30日-09:00|日本 | ||明治8年|明治8年太政官布告第124号「新聞紙条例附則中追加」
- 1875年7月31日 06:00|アメリカ | ||<死去>アメリカ第17代大統領「アンドリュー・ジョンソン」/66歳(誕生18081229)
- 1875年8月-09:00|日本|大阪教育大学|明治8年|<改称>「教員伝習所」⇒「大阪府師範学校」
- 1875年8月-09:00|日本|岐阜大学|明治8年|<設立>岐阜県公立病院附属医学校
- 1875年8月-05:00|ウズベキスタン | ||<即位>コカンド(フェルガナ)ハン「Nasir ad-Din Khan」(1期目~10月)
- 1875年8月-03:00|サウジアラビア | ||<就任>ネジュト 首長「アブドゥッラー3世イブン・ファイサル」(2度目~1887年)
- 1875年8月-03:00|イラク/トルコ | ||<就任>バグダットのワリス「ハッサー・アブドゥルラフマン・ヌレッディン・パシャ」(1回目~1877年4月)
- 1875年8月-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ | ||ボスニアで反トルコ暴動がおこる

1875迄 (3195件)

- 1875年8月 00:00|イギリス| ||イギリスで世界最初の海運同盟カクタ・コンファレンスが成立
- 1875年8月 06:00|アメリカ| ||<売却>アメリカ海軍カスコ級モニター「モトック」(1175t), 「ノース」(1487t)
- 1875年8月1日-09:00|日本| ||明治8年|<点灯>鳥帽子島灯台(福岡県志摩町, 鉄造)
- 1875年8月1日-09:00|日本|大分銀行|明治8年|<設立>「朝陽社」[大分]
- 1875年8月1日 04:00|BES諸島| ||<死去>カガ島副知事「Moses Leverock」
- 1875年8月4日-01:00|デンマーク| ||<死去>ハンス・クリスチャン・アンデルセンがコペンハーゲンの近郊ルキョール家の別荘「ロ・リハッス」で70歳(誕生:18050402) 童話作家
- 1875年8月5日-09:00|日本| ||明治8年|<制定>度量衡取締条例・検査規則等(尺貫法を統一)
- 1875年8月6日 05:00|エクトル| ||<死去>エクトル国大統領「ガブリエル・ガルシア・モロ」暗殺される
- 1875年8月6日 05:00|エクトル| ||<就任>エクトル国暫定大統領「フランスコ・ザビエル・レオン」(~9. 15)
- 1875年8月7日-09:30|オーストラリア| ||<就任>ビクトリア植民地政府首相「ウラム・ベリー」(~10. 20)
- 1875年8月7日-09:00|日本| ||明治8年|<完成>旧見付学校(静岡県磐田市)
- 1875年8月8日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第126号「証券印税規則中追加」
- 1875年8月8日-09:00|日本|古河機械金属|明治8年|<創立>古河機械金属
- 1875年8月9日-09:00|日本| ||明治8年|日本海軍軍艦「第一丁卯艦」ラッコ密猟取締り中に座礁破壊
- 1875年8月10日-09:30|オーストラリア| ||ニューサウスウェールズで新土地法が施行
- 1875年8月11日-09:00|日本|広島大学|明治8年|<開校>小田県公立師範学校
- 1875年8月11日 00:00|イギリス| ||イギリスで、公衆衛生法が制定される
- 1875年8月12日-09:00|日本| ||明治8年|東京芝浜に離宮を設ける(浜離宮)
- 1875年8月12日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第127号「福島上等裁判所ヲ宮城ニ移ス」
- 1875年8月14日-09:00|日本| ||明治8年|人身を質とする借金が禁止
- 1875年8月20日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第129号「蚕種褒賞規則廃止」
- 1875年8月20日-05:30|インド| ||<就任>ヴァラ国統治者(タル・サヒブ)「ウァツインツ・メグラジ」(~1943年没)
- 1875年8月22日-04:00|ロシア/日本| ||明治8年|樺太千島交換条約が批准される/樺太がロシア領、千島全島が日本領となる
- 1875年8月23日-09:00|日本| ||明治8年|<発行>「愛知日報」[名古屋]
- 1875年8月23日-05:30|インド/フランス| ||<就任>フランス領インド 暫定総督「ルイ・デ・メトリウス・テオドール・ネステイ」(1回目~11. 7)
- 1875年8月24日-09:00|日本| ||明治8年|札幌の開拓使女学校開業式挙行、その夜、女生徒達が西洋の音楽に合わせて踊りを行う
- 1875年8月24日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第130号「家禄引換公債証書発行条例ヲ廢シ更ニ二条ヲ定メ外手續ハ新旧公債証書発行条例ニ準拠セム」; 明治8年太政官布告第131号「金札引換公債証書発行条例中改正」
- 1875年8月25日 06:00|アメリカ| ||<売却>アメリカ海軍カスコ級モニター「ニコハ」(1175t) ⇒ ニューヨークの John Roach
- 1875年8月26日-02:00|トルコ| ||<就任>オスマン帝国大宰相「マフムト・ネディム・パシャ」(2期目~18760512)
- 1875年8月26日 00:00|イギリス| ||イギリス人のマシュー・ウェップ 大尉がトバク海峡の単独遊泳に成功
- 1875年8月27日-09:00|日本|佛教大学|明治8年|<改称>「勸学所」⇒「勸学本場」
- 1875年8月28日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第133号「地租改正法各管内一般ニ施行ノ節ハ府県市街地モ地価百分ノ三ニ改正」
- 1875年8月29日-05:30|インド| ||<死去>ジャワラ国統治者(マハラジ・ラナ)「プリガ・イシン」
- 1875年8月29日-05:30|インド| ||<即位>ジャワラ国統治者(マハラジ・ラナ)「サリム・シン」(~18960302)
- 1875年8月30日-09:00|日本|埼玉県|明治8年|<移転>千葉県葛飾郡の一部を編入→埼玉県
- 1875年8月31日-09:00|日本|山形県|明治8年|<改称>(第2次)酒田県、改称→鶴岡県
- 1875年8月31日-01:00|セルビア| ||<就任>セルビア公国閣僚評議会議長「ステファン・ステファン・チュ・ア・ミハイロウイッチ」(1回目~10. 8)
- 1875年9月-09:00|日本|福井県|明治8年|<竣工>敦賀県、舟橋(吉田郡稲多村・舟橋村間)
- 1875年9月-09:00|日本|福井大学|明治8年|<設置>小浜・武生・大野・福井の4か所に小学授業法伝習所
- 1875年9月-09:00|日本|平安女学院大学|明治8年|ミナ・エレン・G・エディ、大阪川口で女学校を始める
- 1875年9月-01:00|北マケドニア/トルコ| ||<就任>マケドニア(総督)「ギュルキュ・アリ・サイフ・パシャ」(2回目~1876年5月)
- 1875年9月1日-12:00|フィジー/イギリス| ||<就任>フィジー植民地総督「アーサー・ハミルトン・ゴートン卿」(1回目~18780626)
- 1875年9月3日-09:00|日本| ||明治8年|<死去>本木昌造(72歳、生年1824年)オランダ 通詞、教育者/日本における活版印刷の先駆者
- 1875年9月3日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第135号「出版条例更定」、罰則制定(発行者が直接届け、著作権確保)
- 1875年9月3日-02:00|南アフリカ/イギリス| ||<就任>イギリス領ナール特別委員「ハリー・アーネスト・ガスコイン・ブルウ卿」(~18800420)
- 1875年9月4日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| ||<就任>ボスニア・ヘルツェゴビナ総督「アハメト・ハムディ・パシャ」(~10. 30)
- 1875年9月5日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第137号「改定律例第二百九十一条削除」
- 1875年9月5日-09:00|日本|香川県|明治8年|<分離>名東県、讃岐国を分けて(第2次)香川県を設置
- 1875年9月7日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第138号「華士族平民家禄賞典禄米額ノ称呼ヲ廢シ金禄ニ改定」(華族・士族への家禄を米から現金支給に変える)
- 1875年9月7日-09:00|日本|北海道大学|明治8年|<開校>札幌学校
- 1875年9月8日-09:00|日本| ||明治8年|警視庁、東京市中五橋を守る水防規則制定し水防組を組織/警視庁管轄下の水防組合員は、日ごろからいかにだに乗るなど水上での活動を生業としており、材木の管理と運搬などに携わった、材木問屋の川並鶯

1875迄 (3195件)

- 1875年9月8日-04:00|ロシア| |||<竣工>ロシア帝国の装甲巡洋艦「ケネラル=アドミラル」
- 1875年9月9日 06:00|アメリカ| |||<売却>アメリカ海軍カコ級モニター「ジョニー」(1175t), 「ワック」(1175t)
- 1875年9月10日 00:00|イギリス| |||<ゴルフ>第15回全英オープン選手権優勝:ウリー・パーク(4回目)(スコットランド/166)
- 1875年9月12日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国閣僚評議会議長「Joaquin Jovellar」保守党(~18751202)
- 1875年9月13日 00:00|イギリス| |||<死去>ハンティントン伯「フランシス・テオフィロス・ヘンリー・ヘイディング」
- 1875年9月13日 00:00|イギリス| |||<就任>ハンティントン伯「フランシス・ハーワー・フランザ・ネット・ヘイディング」(~18850520死去)
- 1875年9月15日-09:00|日本| ||明治8年|<創業>大倉書店(大倉孫兵衛). 絵双紙業および出版業(明治22年, 絵双紙店を廃業, 洋紙店開業, 大正12年9月, 関東大震災に全焼して廃業)
- 1875年9月15日-09:00|日本|日本郵船|明治8年|<払下げ>日本政府「金川丸」(1852年, The Peninsular And Oriental Steam Navigation Co., 「London Madras」Tod & Mcgregor, Glasgow, Scotlaned建造進水→1874年, 日本政府(東京)に売却, 「金川丸」と改名)⇒三菱汽船会社(1878年, 庫船, 後に帆船に改造→1885年, 売却); 「新潟丸」(1855年, Canadian Steam Navigation Co. 「Erie」John Laird, Birkenhead, England建造進水→1856年, Gauthier Freres Compagnie Franco-Americaine (France)に売却, 「BARCELONE」と改名→1858年, Peninsular & Oriental Steam Navigation Co. (London)に売却, 「BEHAR」と改名→1874年, 日本政府に売却, 「新潟丸」と改名), 「兵庫丸」(1874年, A. R. Brown, London「Min」R. Thompson, Junior, Southwick, England建造進水→1874年, 日本政府(東京)に売却, 「兵庫丸」と改名), 「隅田丸」(1874年, R. Thompson, Junior, Southwick, England建造進水), 「社寮丸」(1862年, Wakefield & Co., Liverpool「Shaftesbury」Oswald & Co., Sunderland建造進水→1874年, 日本政府に売却, 「社寮丸」と改名)⇒三菱汽船会社; 「高砂丸」(1860年, The Peninsular And Oriental Steam Navigation Co., 「London Delta」Thames Iron Works & Shipbuilding Co., Blackwall, London建造進水→1874年, 日本政府(東京)に売却, 「高砂丸」と改名), 「東京丸」(1864年, Cornelius Vanderbilt, 「U. S. New York」Jeremiah Simonson & Co., New York建造進水→1865年, Pacific Mail Steamship Co., U. S.に売却→1865年, Atlantic Mail Steamship Co., U. S.に売却→1865年, Atlantic & Pacific Mail Steamship Co., U. S.に売却→1874年, 日本政府に売却, 「東京丸」と改名), 「九州丸」(1862年, Jardine Matheson & Co., U. K. 「VIOLA」Cork, Ireland建造進水→1865年, 薩摩藩(鹿児島)に売却, 「開聞丸」と改名→1867年, Glover & Co., U. K.に売却, 「KIUSIU」と改名→1869年, Jardine Matheson & Co., に売却→1871年, Olyphant & Co., に売却→1874年, 日本政府に売却, 「九州丸」と改名), 「瓊浦丸」(1874年, Sir James Laing Co., 「Sunderland Muriel」Sir James Laing Co., Sunderland建造進水→1874年, 日本政府に売却, 「瓊浦丸」と改名)⇒三菱汽船会社; 「品川丸」「敦賀丸」「東海丸」「豊島丸」「紀伊丸」「青龍丸」⇒三菱汽船会社; 「錫懐丸」⇒三菱汽船会社(1878年, 「芳野丸」と改名); 「有功丸」⇒三菱汽船会社(1877. 2, 帆船に改造, 以後不明); 「猶龍丸」⇒三菱汽船会社(1876年, カナー型帆船に改造, 「淡路島丸」と改名→1888年, 井上仁兵衛(大阪)に売却, 「永楽丸」と改名→1895年, 岸本(大阪)に売却); 「萬里丸」⇒三菱汽船会社(1877. 2, 帆船に改造→1878, 庫船に格下げ); 「明光丸」⇒三菱汽船会社「須磨浦丸」と改名; 「千里丸」⇒三菱汽船会社(1878年, 庫船となる→1890年, 解体); 「黄龍丸」⇒三菱汽船会社(1883年, 遭難); 「延年丸」三菱汽船会社に移籍(後に庫船に格下げ, 売却)
- 1875年9月15日 05:00|エジプト| |||<就任>エジプト国暫定大統領「ホセ・パベル・エギゲル」(~12. 9)
- 1875年9月16日-05:30|イタリヤ| |||<就任>ソビエト国統治者(ソ)「ケシュリン」(~18890701)
- 1875年9月16日-03:00|モロッコ/フランス| |||<就任>フランス保護領モロッコ総監代行「フランソワ・マリー・フェリエ」(~12. 26)
- 1875年9月18日-09:00|日本|日本郵船|明治8年|<改称>三菱汽船会社⇒郵便汽船三菱会社
- 1875年9月19日-09:00|日本|東京都|明治8年|<死去>新門辰五郎(76歳, 生年1800年)町火消、鶯頭、俠客
- 1875年9月20日-09:00|韓国/日本/朝鮮| ||朝鮮・光緒1年8月21日|<江華島事件>雲揚号、江華島で武力挑発(江華島砲撃)を行ない、永宗島に上陸し、抗戦する永宗島守備兵らを射殺(戦死・犠牲者35名/日本軍は戦死者2名/負傷者1名が後に死亡)
- 1875年9月21日 03:55|韓国/日本/朝鮮| ||朝鮮・光緒1年8月22日|<江華島事件>午前12時56分, 第三砲台を砲撃破壊した上で砲撃を止める
- 1875年9月21日 05:40|韓国/日本/朝鮮| ||朝鮮・光緒1年8月22日|<江華島事件>午後02時40分, 第二砲台に上陸し、陣地を焼払う
- 1875年9月22日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第142号「内外史ヲ廢シ更ニ正權大少史ヲ置キ官等ヲ定ム」
- 1875年9月22日-01:15|韓国/日本/朝鮮| ||朝鮮・光緒1年8月23日|<江華島事件>午前07時43分, 第一砲台の島に上陸後8分間の激戦の後、同砲台を占拠
- 1875年9月22日 00:05|韓国/日本/朝鮮| ||朝鮮・光緒1年8月23日|<江華島事件>午前09時07分, 江華島城内に遺棄した大砲等の武器を戦利品として捕獲し、城内を焼き払う
- 1875年9月23日-09:00|日本|日本郵船|明治8年|<下付>解散した日本国郵便蒸気船会社所有船舶18隻⇒郵便汽船三菱会社
- 1875年9月24日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第144号「万国船舶信号法告諭」; 勸業寮事務章程第9条に「発明者へ褒賞の特典を与えその権利を保護する事」, 第10条に「商売品の号標を保護する事」が規定される
- 1875年9月24日-09:00|日本|一橋大学|明治8年|<開校>森有礼に依り、日本最初の洋式商科専門教育「商法講習所」
- 1875年9月25日-09:00|日本| ||明治8年|「第二利根川船」軍艦に指定
- 1875年9月28日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第147号「内務省中図書寮ヲ置ク」
- 1875年9月29日-01:00|ベルギー| |||<死去>ジャン=バティスト=サンジュレ、作曲家・指揮者(生年1812年)
- 1875年9月30日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第148号「建物書入質規則並ニ売買譲渡規則」
- 1875年10月-09:30|オーストラリア| |||シドニー中央郵便局で、最初の郵便葉書が1ペニーで販売される
- 1875年10月-09:00|日本| ||明治8年|<創刊>華族会館の会誌「会館雑誌」
- 1875年10月-09:00|日本|高知大学|明治8年|<改称>「陶冶学舎」⇒「陶冶学校」
- 1875年10月-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>コナクト(フェルガナ)汗「Muhammad Pulad Khan」(~18760203死去)

1875迄 (3195件)

- 1875年10月 06:00|アメリカ| |||アメリカで第2次メキシコ戦争始まる
- 1875年10月1日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領グワラント 西州管理者代行「ジェイク・ダーク・ハリ」(~1875 1117)
- 1875年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ピエトロ・トニニ」「ジューッパ・ジヤコミニ」
- 1875年10月1日 05:00|パナマ| |||<就任>パナマ大統領「ホルヘ・アロンソ・アルバ」(1回目~11日)
- 1875年10月2日-09:00|日本| ||明治8年|<死去>初代歌沢相模(63歳)うた沢節演奏家
- 1875年10月3日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第149号「第百四十号国税府県税布告第二款但書改正」
- 1875年10月5日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第151号「正権大舎人ヲ廢シ更ニ大舎人ヲ置キ官等ヲ定ム」
- 1875年10月6日-09:00|日本| ||明治8年|国沢新九郎、最初の洋画展を開催
- 1875年10月7日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第152号「地租改正条例第七章へ但書追加」
- 1875年10月8日-01:00|セルビア| |||<就任>セルビア公国閣僚評議会議長「リュボ・ミル・カレウイッチ」(~18760506)
- 1875年10月10日-04:00|ロシア| |||<死去>アレクセイ・コンスタンチノヴィッチ・トルストイ、詩人・小説家・劇作家(生年:1817年)
- 1875年10月11日-03:00|エチオピア| |||<死去>ハラル首長国エミール「ムハンマド・イブン・アリ・アブド・アッシュ・シャケル」
- 1875年10月11日-03:00|エチオピア/エジプト| |||<就任>エジプトのハラル総督「ムハンマド・ラウフ・パシャ」(~1878年)
- 1875年10月11日-03:00|エチオピア/エジプト| |||ハラルをエジプトが占領(~1885年)
- 1875年10月12日-09:00|日本| 神戸女学院|明治8年|<開校>神戸に女子寄宿学校、通称「神戸ホーム」
- 1875年10月12日-01:00|フランス| |||<死去>ジャン・バティスト・カホー、彫刻家・画家(生年1827年)
- 1875年10月12日 05:00|パナマ| |||<就任>パナマ大統領「ラファエル・アイズプルー」(1回目、18760101まで暫定~18771231)
- 1875年10月13日-09:00|日本| ||明治8年|大蔵省、会計年度改定(1月~12月→7月~6月)
- 1875年10月15日 04:00|BES諸島| |||<就任>サハ島副知事「Jan Jacob Beaujon Quast」(~18800520死去)
- 1875年10月16日-09:00|日本/アメリカ| 日本郵船|明治8年|<売却>アメリカ船「Oregonian」(1866年、Oregon Steamship Co., U. S. 「Oregonian」Laurence & Faulks, Greenpoint, U. S. 建造進水→1867年、North American Steamship Co., U. S. に売却→1868年、Pacific Mail Steamship Co., U. S. に売却)⇒郵便汽船三菱会社(東京)、「名護屋丸」と改名;アメリカ船「コスタリカ」(1863年、Cornelius Vanderbilt, U. S. 「Costa Rica」William H. Webb, New York 建造進水→1863年、Atlantic & Pacific Mail Steamship Co., U. S. に売却→1864年、Atlantic Mail Steamship Co., U. S. に売却)⇒郵便汽船三菱会社(東京)、「玄海丸」と改名;アメリカ船「Adriatic」(1853年、New York & Australian Navigation Co. のGOLDEN AGEとしてWilliam H. Brown, New Yorkで竣工→1854年、Pacific Mail Steamship Co., U. S. に売却)⇒郵便汽船三菱会社(東京)、「廣島丸」と改名
- 1875年10月16日-09:00|日本/アメリカ| 日本郵船|明治8年|郵便汽船三菱会社がアメリカの太平洋郵船会社の横濱上海線を買収
- 1875年10月16日-01:00|デนมาร์ク/ルウェー/スウェーデン| |||スカンジナビア貨幣同盟が成立/貨幣単位がクローネとなる
- 1875年10月17日-03:00|ソマリア/エジプト| |||キスマユはハリー・フレデリック・マックロップ・パシャの下でエジプトに占領され、フル・イスマイル(ポト・イスマイル)と改名された(~12. 22)
- 1875年10月19日 00:00|イギリス| |||<死去>イギリスの物理学者ヘートストン/73歳(誕生:1802/02)ヘートストン・ブリッジを発明した
- 1875年10月20日-09:30|オーストラリア| |||<就任>ビクトリア植民地政府首相「ジェームス・マカロック」(~18770521)
- 1875年10月20日-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国首相「カルマン・イサ・ホロシエセグ・テイ」(~18900315)
- 1875年10月21日-09:00|日本| ||明治8年|島根県那賀郡で小作暴動
- 1875年10月24日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第158号「府県東京府ヲ除ク官中警部ヲ置キ官等ヲ定ム」(ら卒を巡查と改正)
- 1875年10月25日 06:00|アメリカ/ロシア| |||<初演>ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー《ピアノ協奏曲第1番変ロ短調》ホストン
- 1875年10月27日-09:00|日本| ||明治8年|<改名>日本海軍運輸船「第一利根川船」⇒「第一利根川丸」;「第二利根川船」⇒「第二利根川丸」(→11月17日:練習船→明治13年1月20日:繋泊練習船)
- 1875年10月27日-02:00|ギリシャ| |||<就任>ギリシャ閣僚評議会議長「アレクサンドロス・スピリトノス・コウモントウロス」(5回目~18761 208)
- 1875年10月28日-09:00|日本| ||明治8年|<改称>「水草霊社」[広島]⇒「官祭招魂社」
- 1875年10月30日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア・ヘルツェゴビナ総督「ラウフ・パシャ」(~18760106)
- 1875年10月30日 06:00|アメリカ| |||ニューヨークで神智学協会設立
- 1875年11月-09:00|日本| 青山学院|明治8年|<改称>女子小学校⇒救世学校
- 1875年11月-09:00|日本| 香川大学|明治8年|<改称>「成章師範学校」⇒「香川県師範学校」
- 1875年11月-03:00|エトリア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国マッサラ総督「モハメッド・ラティフ・パシャ」(~1877年)
- 1875年11月-03:00|ソマリア/エジプト| |||エジプト副王イスマイルがソマリアのベルベラを占領
- 1875年11月 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス総督兼最高司令官「John Pope Hennessy卿」(~18761202)
- 1875年11月1日-09:00|日本| ||明治8年|<創刊>仮名垣魯文「仮名読新聞」
- 1875年11月1日-09:00|日本| ||明治8年|<復称>「堂島米油相庭会所」⇒「堂島米会所」
- 1875年11月1日-09:00|日本| 東京海洋大学|明治8年|<設立>郵便汽船三菱会社「三菱商船学校」
- 1875年11月2日-09:00|日本| 香川県|明治8年|<開庁>香川県庁[高松内町旧名東県支庁跡]
- 1875年11月4日-13:00|トンガ| |||<即位>トンガ 初代国王「シヨージ・トウホウ1世(=シヤオシ・トウホウ1世)」(~18930218死去95歳)
- 1875年11月4日-13:00|トンガ| |||イギリス人顧問ヘイカーが起草したトンガ王国の王国憲法が発布

1875迄 (3195件)

- 1875年11月4日-01:00|ドイツ| |||<死去>ローベルト・フォン・モル、法学者(生年1799年)
- 1875年11月5日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第161号「出版条例附録中書式雛形等改正」;明治8年太政官布告第162号「徴兵令改訂」(国民皆兵主義を採用)
- 1875年11月5日 00:00|イギリス/日本| ||明治8年|イギリス公使が、小笠原諸島を事実上日本領として認める
- 1875年11月7日-05:30|インド/フランス| |||<就任>フランス領インド総督「アドルフ・ジョゼフ・アントワーヌ・トリヤール」(~1878年)
- 1875年11月8日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第163号「国内回漕規則ヲ停止シ西洋形日本船各開港場出入規則ヲ定ム」
- 1875年11月8日-09:00|日本|日本郵船|明治8年|<開始>郵便汽船三菱会社:琉球航路
- 1875年11月10日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第165号「煙草税則中刪除改正」;明治8年太政官布告第166号「商船生糸牛馬売買鑑札規則中追加」
- 1875年11月10日-09:00|日本|東京都足立区|明治8年|<編入>明治8年太政官布告第167号「埼玉県下武蔵国足立郡舎人町東京府へ管轄替」
- 1875年11月10日-04:00|ロシア/日本| |||樺太千島交換条約によって日本領となった千島列島(クリル諸島)→千島国[得撫郡、新知郡、占守郡]に分けて編入
- 1875年11月10日 00:00|ポルトガル| |||<設立>リスボン地理学会
- 1875年11月11日-09:00|日本|長崎県五島市|明治8年|<死去>五島盛徳(36歳)肥前福江藩主・知藩事
- 1875年11月12日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第168号「海軍武官及文官服制改定」
- 1875年11月14日-09:00|日本| ||明治8年|明六雑誌、出版への圧力に抗議して自主廃刊
- 1875年11月15日 06:00|アメリカ| |||<就役>アメリカ海軍アト級砲艦「ヒュロン」(1020t, ショーン・ローチ&サンス 造船所)フィラデルフィア海軍工廠にて
- 1875年11月17日-09:00|日本| ||明治8年|<変更>日本海軍運輸船「第二利根川丸」⇒練習船
- 1875年11月17日-09:00|日本| ||明治8年|東京米倉の浅草文庫公開
- 1875年11月17日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ナタール西州管理者「ウィリアム・オーウェン・ラニヨン卿」(~18801015)
- 1875年11月18日-05:30|インド| |||<就任>バタヴィア統治者(ナ)「トウカール・ファン・デル・グロート」(~19130508没)
- 1875年11月18日-01:00|ドイツ| |||<初演>ヨハネス・ブラーム《ピアノ四重奏曲第3番短調Op. 60》
- 1875年11月19日-04:00|ルネオン/フランス| |||<就任>ルネオン知事「Pierre Aristide Faron」(~18790429死去)
- 1875年11月21日-01:00|ドイツ| |||<死去>フリートリヒ・アルベルト・ランゲ、哲学者(生年1828年)
- 1875年11月22日-09:00|日本|岩手県|明治8年|<改称>水沢県が改称→磐井県
- 1875年11月24日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第174号「陸軍武官服制改正」
- 1875年11月24日-09:00|日本|愛知県|明治8年|<死去>徳川義宜(18歳、生年1858年)元尾張藩主
- 1875年11月24日-02:00|エジプト/イギリス| |||イギリスがスエズ運河株式会社をエジプトから買収
- 1875年11月25日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第175号「各省大少丞権官並ニ筆生省掌ヲ置キ官等ヲ定ム」;明治8年太政官布告第176号「元老院中幹事ヲ置ク」;明治8年太政官布告第179号「工部省中當繕寮ヲ置ク」
- 1875年11月27日 00:00|イギリス| |||<死去>イギリスの天文学者リチャード・キリントン/49歳(誕生:18260526)
- 1875年11月28日-09:00|日本|北海道|明治8年|<改称>樺太・千島交換条約により日本領となった中部千島と北千島が、暫定的に「開拓使管下クリル列島」となる
- 1875年11月29日-09:00|日本| ||明治8年|<完成>旧見付学校(磐田市)
- 1875年11月29日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第181号「商船規則中商船記号廃止」
- 1875年11月29日-09:00|日本|お茶の水女子大学|明治8年|<開学>東京女子師範学校
- 1875年11月29日-09:00|日本|同志社大学|明治8年|<創設>新島襄「同志社英学校」[京都寺町丸太町上る]
- 1875年12月-09:00|日本| ||明治8年|<完成>初代の本格的な豊平橋(札幌市)
- 1875年12月-09:00|日本| ||明治8年|<完成>陸沢学校校舎(→移築・藤村記念館)山梨県
- 1875年12月-09:00|日本| ||明治8年|<竣工>日本海軍木造汽船「冲鷹丸」(105t)石川島造船所
- 1875年12月-05:00|ウズベキスタン/カザフスタン/キルギス/タジキスタン| |||<即位>コーカンド・ハン国ハン「ナスリムッディーン」フターヤールの息子(~18760219ロシアにより倒され、タシュケントに追放)
- 1875年12月-02:00|トルコ| |||<就航>オスマン帝国海軍の装甲艦「マステイェ」(18741028イギリスのテムズ造船所で進水)
- 1875年12月-01:00|スペイン| |||英資本によるスペイン最大の鉱山会社リオ・テイント創立
- 1875年12月1日-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>ガリツァ知事「Alfred Jozef Marian Graf Potocki z Podhajec」(~1883.8)
- 1875年12月2日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第182号「宮内省中式部寮ヲ正院ニ属ス」
- 1875年12月2日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国閣僚評議会議長Antonio Canovas del Castillo[保守党](~18790307)
- 1875年12月4日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第184号「回漕貨物取扱条例」
- 1875年12月5日-09:00|日本| ||明治8年|イギリス人ブランクが銀座4丁目(現和光の地)で創刊した「日新真事誌」が265号で廃刊
- 1875年12月6日-01:00|ドイツ| |||北ドイツ・ロイト社の客船トイフェラントはフリスラートに見舞われテムズ川河口付近の砂州に乗り上げた(翌7日リヴァプールから援護のタボートが駆けつけたが、157人の乗客・乗務員が死亡)
- 1875年12月8日-01:00|ドイツ| |||<死去>リッペ侯「レオポルト3世」
- 1875年12月8日-01:00|ドイツ| |||<就任>リッペ侯「ウオルターマル」(~18950320死去)
- 1875年12月9日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第187号「賞典禄課税ニ付華士族禄税則中改正増補」
- 1875年12月9日 05:00|イタリヤ| |||<就任>イタリヤ国大統領「アントニオ・ボレーロ」(~18760908)

1875迄 (3195件)

1875年12月10日-09:00|日本| ||明治8年|<死去>大田垣蓮月(85歳、生年1791年)尼僧、歌人、陶芸家
1875年12月10日-09:00|日本| ||明治8年|山本瑞庵, 毛谷黒龍神社(福井市)が遷座
1875年12月10日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第188号「海軍旗章中御旗皇族旗改正」; 明治8年太
政官布告第192号「海陸軍刑律中改正」
1875年12月10日-09:00|日本|岡山県|明治8年|<合併>小田県→岡山県
1875年12月13日-09:00|韓国/日本/朝鮮| ||明治8年|日本陸戦隊と朝鮮軍が釜山で衝突
1875年12月13日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第193号「鹿児島山口高知三県へ裁判所ヲ置ケ」
1875年12月14日-09:00|日本| ||明治8年|<創刊>字田川文海「浪花新聞」
1875年12月16日-09:00|日本|王子ホールディングス|明治8年|<開業>渋沢栄一、王子抄紙会社
1875年12月16日 04:00|ポルトガル| ||<就任>ポルトガル総督兼総司令官「Segundo de la Portilla y Gutierrez」(1
期目18770624)
1875年12月17日-09:00|韓国/朝鮮| ||<就任>朝鮮国領議政「李最応」(~18820302)
1875年12月19日-09:00|日本| ||明治8年|政府、海面の領有を宣言し、海面借区制を定める
1875年12月20日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第196号「訴訟用紙規則」
1875年12月20日 00:00|イギリス/日本| ||明治8年|<購入>イギリス木製帆船「フォルサ」(1875. 2進水)⇒日本海軍「千早号
」と改名軍艦に指定
1875年12月22日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第197号「明治九年郵便規則罰則及貯金預規則」; 明
治8年太政官布告第198号「磐前県下磐城国郡界改正」; 明治8年太政官布告第199号「建物書入質規則第七条改正」
1875年12月23日-01:00|フランス| ||<死去>ジュール=アンリ=ウエルノト=サン=ジョルジュ、劇作家(生年1799年)
1875年12月24日-09:00|日本| ||明治8年|明治8年太政官布告第200号「文部省中督学局官等改定」
1875年12月24日 00:00|イギリス| ||<死去>5代スタンホッフ伯「フィリップ=ヘンリー=スタンホッフ」
1875年12月24日 00:00|イギリス| ||<就任>6代スタンホッフ伯「アーサー=フィリップ=スタンホッフ」(~19050419死去)
1875年12月25日-09:00|日本| ||明治8年|20時20分、瀬戸内海の周防国(山口県)八島と平群島付近で、日本海軍
輸送船「大坂丸」長崎から東京へ兵器を輸送中に三菱会社「名古屋丸」と衝突、沈没(死者24人)
1875年12月25日-09:00|日本| ||明治8年|<完成>中込学校(長野県佐久市)
1875年12月26日-03:00|マヨット/フランス| ||<就任>フランス保護領マヨット総監「ハトリス=ルイ=ジュール=ヴァントル=トウ=ラ=トゥール=ブル」(
2回目~18780102)
1875年12月27日-09:00|日本| ||明治8年|アメリカ伝道会宣教師キユーリック、週間新聞「七一雑報」発行
1875年12月27日-09:00|日本|愛媛県伊予市|明治8年|伊予郡上灘村で山林大火、死者6名を出す
1875年12月27日-09:00|日本|新潟大学|明治9年|新潟県が教員養成機関として小学講習所を開設
1875年12月30日 03:00|仏領ギニア/フランス| ||<就任>ギニア総督「Jean-Louis Loubere」(2期目~18770715)
1875年12月31日 06:00|アメリカ| ||<売却>アメリカ海軍スloop「マゼト=ニオン」(1341t)Wiggin & Robinsonに; アメリカ海軍ホトマツ
ク級フリゲイト「セント=ローレンス」(1726t)ノフォークのE. Stannardに